

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月28日

【事業年度】 自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日

【会社名】 チャイナ・シェンファ・エナジー・カンパニー・リミテッド  
(中国神華能源股份有限公司)

【代表者の役職氏名】 リン・ウェン  
取締役会会長  
(Ling Wen, Chairman of the Board)

【本店の所在の場所】 中華人民共和国北京市東城区安定門西濱河路22号  
(22 Andingmen, Xibinhe Road, Dongcheng District, Beijing,  
People's Republic of China)

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 小林 穰

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング  
アンダーソン・毛利・友常法律事務所

【電話番号】 (03)6775-1000

【事務連絡者氏名】 弁護士 蔦谷 吉廣  
同 藤本 啓介

【連絡場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング  
アンダーソン・毛利・友常法律事務所

【電話番号】 (03)6775-1000

【縦覧に供する場所】 該当なし

- (注) 1. 本書において別途記載のない限り、本書において記載されている人民元から日本円への換算は、100円 = 5.8906人民元 (1人民元 = 約16.98円に相当 (中国外貨取引センターが公表した2018年6月1日の中心値)) の換算率により行われている。元になる人民元の計数の表示単位 (百万人民元または千人民元) が異なる場合、同じ人民元の計数でも円換算額が異なる場合がある。
2. 本書において別途記載のない限り、本書において記載されている香港ドルから日本円への換算は、1香港ドル = 13.89円 (株式会社三菱UFJ銀行が2018年6月1日に提示した対顧客電信売買相場の仲値) の換算率により行われている。
3. 当社の事業年度は暦年である。
4. 本書において記載されている人民元の計数は、単位未満の数値を原則として四捨五入しているが、合計を計数の総和と合致させるため、ある計数につき適宜切上げまたは切下げの調整を行っている場合がある。ただし、円換算額等このような調整を行っていない計数については、合計は計数の総和と必ずしも一致しない。
5. 本書に含まれる将来予測に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものである。
6. 本書において、別段の記載がある場合を除き、下記の用語は以下の意味を有する。

「関係会社」 香港上場規則に「Associates」として記載される意味を有する。

「グローバル・オフアリング」 香港オフアリングおよび国際オフアリングを意味する。

「国内株式」 中国人および/または中国法人によって引受けられ、かつ人民元で払込まれる、1株当たりの額面金額が1.00人民元の当社の普通株式を意味する。

「国家外為管理局」	中国国家外為管理局を意味する。
「国際財務報告基準」または「IFRS」	国際会計基準審議会の設定した国際財務報告基準を意味する。IFRSには、国際会計基準（以下「IAS」という。）およびその解釈が含まれる。
「国家税務総局」	中国国家税務総局を意味する。
「国家能源集団」または「神華集団」	国家能源投資集団有限責任公司およびその子会社（当社および当社の子会社を除く。）を意味する。
「国家能源集団公司」または「神華集団公司」	神華集団有限責任公司の新社名である国家能源投資集団有限責任公司を意味する。
「国電電力」	国電電力發展股份有限公司を意味する。
「財政部」	中国財政部を意味する。
「支配株主」	香港上場規則における「Controlling Shareholders」を意味し、文脈上別段に要求されない限り、本書では神華集団を意味する。
「准格爾能源」	当社の非完全子会社である神華准格爾能源有限責任公司を意味する。
「省」	省または、文脈上要求される場合には、中国中央政府の直接の監督下にある省と同レベルの自治区または自治体を意味する。本書において、内モンゴル自治区は、「内モンゴル」「内蒙古」または「内モンゴル自治区」という。
「証券監督管理委員会」	中国証券監督管理委員会（China Securities Regulatory Commission）を意味する。
「勝利鉱山」	勝利能源による石炭生産事業を意味する。
「勝利能源」	当社の非完全子会社である、神華北電勝利能源有限公司を意味する。
「神華財務」または「神華財務公司」	神華集団の子会社であり、当社がその出資持分を直接または間接的に保有する神華財務有限責任公司を意味する。
「神東鉱山」	当社の支社の一つである神東煤炭分公司による石炭生産事業を意味する。
「西三局鉱山」	西三局公司による石炭生産事業を意味する。
「中国」	中華人民共和国を意味する。ただし、文脈上別意に解すべき場合を除いて、本書において「中華人民共和国」または「中国」には、香港、マカオおよび台湾を含まない。
「中国会社法」	1993年12月29日の第8回全国人民代表大会における第5期の常任委員会において制定され、2005年10月27日の第10回全国人民代表大会における第18期の常任委員会において改正の採択がなされ、2006年1月1日に施行された中国の会社法（その後の変更、補正および改正を含む。）を意味する。
「中国国電」	中国国電集团有限公司を意味する。
「中国国電集団」	中国国電及びその子会社を意味する。
「中国政府」	すべての行政区域（省、市およびその他地方自治体を含む。）およびその組織を含む、中国の政府を意味する。

「定款」	2004年12月28日に採択された当社の定款（随時改正されたもの。）を意味する。
「当社」、「チャイナ・シェンファ・エナジー・カンパニー・リミテッド」、「中国神華」および「中国神華能源股份有限公司」	中国において2004年11月8日に設立された株式会社であるチャイナ・シェンファ・エナジー・カンパニー・リミテッド（China Shenhua Energy Company Limited（中国語名称：中国神華能源股份有限公司））を意味する。
「当社株式」	国内株式とH株式で構成される、1株当たりの額面金額1.00人民元の当社の株式を意味する。
「当社グループ」	当社およびその子会社を意味する。
「特別規定」	1994年8月4日付で中国国務院により公布された「株式会社による国外株式募集および上場に関する特別規定」（その後の変更、補正および改正を含む。）を意味する。
「取締役」	業務執行取締役、非業務執行取締役および独立非業務執行取締役を含む、当社の取締役を意味する。
「取締役会」	当社の取締役会を意味する。
「必須条款」	1994年8月27日付で、旧中国国務院証券委員会および旧中国经济体制改革に関する国家委員会により公布された、国外（香港を含む。）で上場される中国において設立された会社の定款に規定される必要がある「国外上場される会社定款のための必須条款」（その後の変更、補正および改正を含む。）を意味する。
「米国」	アメリカ合衆国を意味する。
「米ドル」	米国の法定通貨である米国ドルを意味する。
「香港」	中国の香港特別行政区を意味する。
「香港上場規則」	香港証券取引所における証券の上場に関する規則（その後の改正を含む。）を意味する。
「香港ドル」	香港の法定通貨である香港ドルを意味する。
「マカオ」	中国のマカオ特別行政区を意味する。
「リストラクチャリング」	香港証券取引所へのH株式の上場準備のために行われた神華集団の再編を意味する。
「萬利鉞山」	当社の支社の一つである萬利煤炭分公司による石炭生産事業を意味する。
「H株式」または「国外上場外国投資株式」	当社普通株式のうち、1株当たり額面金額1.00人民元の国外上場外国投資株式で、香港ドル建てで引受けられ、かつ、取引され、香港証券取引所における上場認可および取引許可の申請がなされているものを意味する。
「人民元」	中国の法定通貨である人民元を意味する。

## 石炭事業および電力事業に関する専門用語

本書中で使用されている専門用語の定義は以下のとおりである。これらの定義の中には、業界における標準的な定義と一致しないものがある。

石炭事業に関する用語集

「概測石炭資源量」	石炭資源量の一部であり、そのトン数、密度、形状、物理的特性、等級および鉱物含有量が、合理的な水準の確度をもって推定できるものをいい、JORC規定に定義される。
「確定埋蔵量」	精測石炭資源量のうち経済的に採鉱可能な部分である、JORC規定に基づく確定埋蔵量を意味する。確定埋蔵量は、希釈物質および物質が採鉱されたときに生じる可能性のある損失許容量を含み、選炭工場歩留まり率を考慮した後の数値である。実現可能性調査を含む、適切な査定が行われており、かかる査定には現実的に仮定された採鉱上、冶金上、経済上、マーケティング上、法律上、環境上、社会上および政治上の要因による検討および修正を含む。かかる査定は、その報告時点において、採鉱が合理的に正当化され得ることを示す。本書において、確定埋蔵量とは、別段の定めがある場合を除き、販売可能確定埋蔵量を意味する。
「原炭」	採鉱後、選別その他選鉱前の、未加工の鉱物を意味する。
「コークス」	瀝青炭から揮発性の成分を除去したものを意味する。
「コークス用炭」	コークスを作るために使用される石炭を意味し、鉄の還元工程で用いられる。冶金用炭ともいう。
「商業用石炭」	生產品として販売可能な石炭を意味する。様々な割合の原炭および精炭を含む場合がある。
「推定埋蔵量」	概測石炭資源量および（一定状況下において）精測石炭資源量のうち、経済的に採鉱可能な部分である、JORC規定に基づく推定埋蔵量を意味する。推定埋蔵量には、希釈物質および物質が採鉱されたときに生じる可能性のある損失許容量を含む。実現可能性調査を含む、適切な査定が行われており、現実的に仮定された採鉱上、冶金上、経済上、マーケティング上、法律上、環境上、社会上および政治上の要因による検討および修正を含む。かかる査定は、その報告時点において、採鉱が合理的に正当化され得ることを示す。本書において、推定埋蔵量とは、別段の定めがある場合を除き、販売可能推定埋蔵量を意味する。
「精測石炭資源量」	石炭資源量の一部であり、そのトン数、密度、形状、物理的特性、等級および鉱物含有量が、高い水準の確度をもって推定できるものをいい、JORC規定に定義される。
「石炭」	一定程度層状に形成される固形で脆弱な可燃性の炭質岩であり、植物の不完全な分解により組成される。
「石炭層」	一定の区域内における様々な厚みを持った一連の石炭、頁岩その他の鉱物性物質の層を含む地質学的構造を意味する。

「選鉱」	乾燥、浮遊選鉱、重力分離または磁選による原材料の処理を意味する。
「選炭」	選炭または洗炭工場における選鉱作業によって原炭から廃石物質を選別的に除去する工程を意味する。
「鉄道車両」	機関車または貨車を含むあらゆる種類の鉄道用車両を意味する。
「トンキロメートル」	積載量（トン単位）を輸送された距離（キロメートル単位）で乗じた単位を意味する。
「JORC規定」	2004年12月に発効したオーストラリアの鉱物資源量および鉱物埋蔵量の報告に関する規約を意味する。

### 電力事業に関する用語集

「競争入札の対象となる出力」	競争入札に従った元売料金によって販売される電力量を意味する。
「設備容量」	製造業者によって定められた発電機の全負荷時連続定格出力を意味し、通常メガワット（MW）で表示される。
「送電網」	電気の送電システムを意味する。
「総発電量」	一定の期間において発電所が発電する電力の総量を意味し、発電の過程で発電所において消費される電力量を含む。実際の発電量および発電量合計ともいう。
「超過出力」	発電所の年間総出力のうち予定出力を超える電力量を意味する。ただし、競争入札によって販売された電力量を含まない。超過出力については、発電所の所在する地域の送電網会社との間で合意される元売料金が適用される。
「平均実現料金」	一定の期間において、電力の販売によって実現された電力料金の平均を意味する。
「元売料金」	独立した発電事業者が送電網会社に対して電力を販売する価格を意味する。
「予定出力」	1年ごとに決定される目標総発電量に従って、各発電所が中国政府の認可する元売料金で販売する電力量を意味する。予定出力に対する認可元売料金は、超過出力に対する認可元売料金および競争入札の対象となる出力の平均実現料金よりも一般に高い。
「kW」	キロワット、すなわち千ワットを意味する。
「kWh」	キロワットアワーを意味する。電力業界において使用されるエネルギーの標準単位である。1キロワットアワーは、1時間に千ワットを発電する発電機によって発電されるエネルギーの量をいう。
「MW」	メガワット、すなわち千キロワットを意味する。
「MWh」	メガワットアワー、すなわち千キロワットアワーを意味する。

## 第一部【企業情報】

### 第1【本国における法制等の概要】

#### 1【会社制度等の概要】

##### (1)【提出会社の属する国・州等における会社制度】

中国会社法は、1993年12月29日に第8回中国全国人民代表大会により公布され、1994年7月1日に施行された。その後、1999年12月25日、2004年8月28日、2005年10月27日および2013年12月28日に改正された。

以下の記載は、中国会社法、特別規定および必須条款における主な規定の概要である。特別規定は、1994年8月4日、中国国務院において可決され、1994年8月4日に公布および施行された。特別規定は、中国会社法の関連する規定に従って、株式有限会社の国外における株式の募集および上場に関して策定された。必須条款は、証券委員会と国家経済体制改革委員会が共同で1994年8月27日に公布し、国外において上場を予定する株式有限会社の定款に規定する必要がある条項を定めたものである。したがって、必須条款は、当社の定款にも包含されている。本項において「会社」とは、中国会社法に基づいて設立され、国外上場外国投資株式を発行する株式有限会社をいう。

##### (a) 一般

「株式有限会社」とは、中国会社法に基づいて設立され、その登録資本が均一の額面金額の株式に分割されている企業法人を指す。株式有限会社の株主の責任は保有する株式の範囲に限定され、会社の責任は会社が所有する資産の総額に限定される。

会社に再編された国有企業は、運営形態を変更し、資産および負債を体系的に処理および評価し、内部的な経営組織を確立するため、法律および行政規則に規定された条件および要件を遵守しなければならない。

会社は、その業務を法律および職業倫理に従って遂行しなければならない。会社は、他の有限責任会社および株式会社に投資することができる。会社は他の企業に投資することができるが、別途法律により定められない限り、投資する会社の債務に関して単独または連帯の責任が生じるような資本出資を行ってはならない。

##### (b) 設立

会社は、発起設立または募集設立のいずれかの方法により、設立することができる。

会社は、2名以上200名以下の発起人により設立できるが、少なくともその半数は、中国国内に居住していなければならない。国有企業または中国政府が資産の過半を保有している企業から再編され、かつ関連規則に従って、海外投資家に対して株式を発行することが可能な株式有限会社は、募集設立により設立される場合には、特別規定に基づき、発起人を5人未満とすることができ、一旦設立された後、新株式を発行することができる。

発起設立により設立された会社は、その登録資本のすべてが発起人により引受けられる。会社が募集設立により設立される場合、その全株式の35%以上は発起人が引受けなければならない、残りの株式は一般に募集され引受けられる。

会社の登録資本は、所管する工商行政管理局に登録された払込済資本の総額である。証券取引所への株式の上場申請を予定している会社の株主資本総額は、30百万人民元以上でなければならない。

発起人は、発行された株式に関する全額の払込がなされてから30日以内に設立総会を招集し、設立総会開催日の15日前までに、その開催日について、すべての引受人に対して通知を行うかまたは公告を行う。設立総会は、会社の議決権の50%超を表章する株式を所有する引受人の出席をもってのみ開催される。設立総会においては、発起人により提案される定款案の採択ならびに会社の取締役会および監査役会の選任等の事項が議案となる。設立総会において付議されたすべての決議は、出席した引受人の議決権の過半数による承認を必要とする。

取締役会は、設立総会の終了後30日以内に、会社登記所に対して会社の設立登記の申請を行う。所管する工商行政管理局によって登記が認められ、営業許可が発出されることにより、会社は正式に設立されたことになり、法人としての地位を取得する。募集設立の方法により設立された会社は、株式の募集を登録するため中国国務院の証券管理部局に報告書を提出しなければならない。

会社の発起人は個別におよび連帯して、以下の責任を負う。

- (1) 会社が設立できなかった場合に、設立過程において発生した費用および債務を支払う責任
- (2) 会社が設立できなかった場合に、引受人に対して、払込金額およびかかる金額に対する同期間における銀行預金利率での利息を払戻す責任

(3) 会社の設立過程において、発起人の義務不履行の結果として会社が被った損害を賠償する責任

会社が募集設立によって設立される場合、かかる会社の発起人は、中国国務院が1993年4月22日に公布した「株式の発行および取引に関する暫定規則」(本規則は、中国国内における株式の発行および取引ならびにその関連取引のみに適用される。)に従い、その際使用される目論見書の内容の正確性につき連帯責任を負い、当該目論見書に誤解を生じさせ得る記載が含まれないことおよび重要な情報が欠けていないことを確保しなければならない。

(c) 株主資本

株式有限会社は、発起設立の際、会社登記所において登記された発起人全員による引受株式総数を登録資本とする。

会社は、記名式または無記名式のいずれかの株券を発行することができる。ただし、発起人および中国法人に対しては、すべて記名式株券を発行しなければならない、別人名義または代理人名義で登録してはならない。

外国投資家に対して発行され国外で上場される株式は、特別規定および必須条基に基づき、記名式で発行され、額面金額は人民元建てで、かつ、外貨により引受けられるものとされている。

特別規定および必須条基によれば、外国投資家ならびに香港、マカオおよび台湾の各地域内の投資家に対して発行され、国外で上場される株式は、国外上場外国投資株式とされ、また、上記の地域を除く中国国内の投資家に対して発行される株式は、国内株式とされる。

会社は、中国国務院の証券管理部局の認可を得ることにより、国外で株式の募集を行うことができる。特別な手続が中国国務院により具体的に定められる。会社は、特別規定に基づいて、証券監督管理委員会の認可を得た上で、国外上場外国投資株式の発行に関する引受契約において、引受株式数を考慮した上で発行予定国外上場外国投資株式総数の15%までを留保することに同意することができる。

株式の募集価格は、額面金額以上にすることができるが、額面金額を下回ってはならない。

株主による株式の譲渡は、適法に設立された証券取引所または中国国務院が規定するその他の手段を通じて行われなければならない。株主による記名式株式の譲渡は、裏書または法律もしくは行政規則に規定されたその他の方法により行われなければならない。無記名株券は譲受人へ券面を交付することにより譲渡される。

発起人により保有される株式は会社の設立から1年間は譲渡することができない。会社の取締役、監査役およびマネジャーは、保有する会社の株式およびその変更を会社に通知しなければならない。かかる者は、在職中において1年間に、保有する会社株式総数の25%を超える株式を譲渡してはならない。中国会社法には1人の株主が保有することができる会社株式の割合に関する規制はない。しかしながら、株式の発行および取引に関する暫定規則によれば、中国の個人投資家は、国内で発行された上場会社の普通株式について、その発行済株式数の0.5%を超えて保有することはできない。

(d) 資本の増加

会社は、新たに発行された株式が引受けられた後、所管する工商行政管理局において登記変更を行い、公告を行わなければならない。

(e) 株主資本の減少

会社は、中国会社法に規定された以下の手続に従って、その株主資本を減少することができる。

- (1) 会社は、貸借対照表その他の財務書類を作成しなければならない。
- (2) 登録資本の減少は、株主総会において株主により承認されなければならない。
- (3) 会社は、資本減少の承認決議の可決後、10日以内に資本減少につき債権者に通知し、30日以内に新聞紙上で資本減少の公告を行わなければならない。
- (4) 会社の債権者は、法定の期間内に、会社に対して、その債務の弁済または債務の担保のための保証の提供を要求できる。
- (5) 会社は、所管する工商行政管理局に対して、登録資本の減少の登記申請を行わなければならない。

(f) 株式の買戻し

会社は、以下の場合を除き、自己株式を買い戻してはならない。

- (1) 会社の登録資本を減少するため
- (2) 会社株式を保有する他の会社と合併するため

- (3) 会社株式を従業員に報酬として付与するため
- (4) 株主集会において決議された株式の統合または分割に反対する株主から、その保有する会社株式を買取るよう求められたとき

会社が上記(1)ないし(3)のいずれかの目的で自己株式を買い戻すには株主集会の決議を得なければならない。会社は、上記の定めに従って自己株式を買い戻した後、上記(1)の場合は10日以内にかかる株式を償却しなければならない。上記(2)または(4)のいずれかの場合は6ヶ月以内にかかる株式を譲渡または償却しなければならない。

上記(3)の場合に買い戻される自己株式は、会社の発行済株式総数の5%を超えてはならない。株式取得のための資金は会社の税引後利益から充てるものとする。会社が買い戻した株式は1年以内に従業員に譲渡されるものとする。

#### (g) 株式の譲渡

株式の譲渡については、株主は適法に設立された証券取引所においてまたは中国國務院が定める他の方法によりこれを行う。

記名式株式は、株主が株券の裏面に署名を裏書することにより、または適用法令により定められたその他の方法により、譲渡することができる。

発起人に対して発行された株式は、会社の設立後1年間は譲渡することができない。会社の取締役、監査役およびシニアマネジャーは、保有する会社株式およびその変更を会社に通知しなければならない。かかる者は、在職中において1年間に、保有する会社株式総数の25%を超える株式を譲渡してはならない。かかる者が保有する会社株式は、証券取引所に上場され取引が開始された日から1年以内は譲渡できない。かかる者は、保有する会社株式を退職後6ヶ月以内に譲渡することはできない。取締役、監査役およびシニアマネジャーが保有する株式の譲渡に関しては、定款で別途規制されている場合がある。

中国会社法には1人の株主が保有することができる会社株式の割合に関する規制はない。

#### (h) 株主

株主は、会社の定款に定められた権利および義務を有する。会社の定款は、各株主に対し拘束力を有する。

中国会社法に基づく株主の権利には、以下の権利が含まれる。

- (1) 株主総会に自らまたは代理人を任命して出席する権利、および保有株式数に応じて議決権を行使する権利
- (2) 中国会社法および会社の定款に従い、適法に設立された証券取引所において株式を譲渡する権利
- (3) 会社の定款、株主総会議事録および財務会計報告書を閲覧する権利、ならびに会社の業務に関する提案または質問を行う権利
- (4) 株主総会または取締役会において採択された決議が、法律もしくは行政規制に抵触する場合または法的に認められた株主の権利および利益を侵害する場合、かかる決議の可決を阻止するために人民法院において法的手続を開始する権利
- (5) 保有株式数に従って配当を受領する権利
- (6) 株式保有割合に応じて会社の清算に際して残余財産の分配を受ける権利
- (7) 会社の定款に定められたその他の株主の権利

株主の義務には、会社の定款に従う義務、引受けた株式に関する引受金額の支払義務、引受けた株式に関して支払うことに同意した引受金額の範囲内で会社の債務および負債について責任を負う義務、ならびに会社の定款に定められたその他の株主の義務が含まれる。

#### (i) 株主総会

株主総会は、会社の授權機関であり、中国会社法に従いその権限を行使する。

株主総会は、以下の権限を行使する。

- (1) 会社の経営方針および投資計画の決定
- (2) 従業員の代表でない者が取締役および監査役に就任する場合、その選任および解任ならびに報酬に関する事項の決定
- (3) 取締役会の報告の検討および承認
- (4) 監査役会の報告の検討および承認



- (5) 会社の年次予算案および決算の検討および承認
- (6) 利益処分案および損失填補案の検討および承認
- (7) 会社の登録資本の増減の決定
- (8) 会社の社債発行の決定
- (9) 会社の譲渡、分割、組織変更、解散および清算等の事項の決定
- (10) 会社の定款の変更
- (11) 定款に定められたその他の権限

定時株主総会は、毎年1回開催しなければならない。臨時株主総会は、以下のいずれかの事由が発生した場合、発生後2ヶ月以内に開催しなければならない。

- (1) 取締役の員数が中国会社法に定められた員数を下回った場合または会社の定款に定められた員数の3分の2を下回った場合
- (2) 補填されていない会社の損失が会社の払込済株主資本総額の3分の1に達した場合
- (3) 会社の議決権のある発行済株式の10%以上を保有する株主が、単独または共同で臨時株主総会の開催を請求した場合
- (4) 取締役会が必要とみなした場合
- (5) 監査役会により招集の提案がなされた場合
- (6) 定款に定められたその他の場合

株主総会は、取締役会が招集し、取締役会会長が議長を務める。取締役会または取締役代行が株主集会の招集を行うことができないときは、監査役会がこれを招集し、議長を務める。監査役会がかかる株主総会の招集および議事進行を行うことができないときは、単独または共同で10分の1以上の会社株式を保有する株主が自発的にかかる株主総会の招集および議事進行を行うことができる。

株主総会の招集通知は、すべての株主に対し、中国会社法によれば株主総会開催日の20日前までに、特別規定および必須条款によれば株主総会開催日の45日前までに、送付されなければならない。また、総会で審議すべき事項を記載しなければならない。特別規定および必須条款によれば、株主総会に出席しようとする株主は、株主総会開催日の20日前までに、出席する旨の確認書を会社に提出しなければならない。特別規定によれば、会社の定時株主総会においては、会社の議決権の5%以上を保有する株主は同株主総会で審議すべき新たな議案を書面により提案することができ、かかる議案は、株主総会の権限の範囲内であれば、当該株主総会において審議すべき事項に含める必要がある。当社の株式総数の3%以上を単独または共同で保有する株主には、株主総会が開催される10日前までに、年次株主総会で審議するために書面による臨時提案を取締役に提出する権限がある。取締役会がかかる提案を受領してから2日以内にその他の株主に通知し、検討のためかかる提案を株主総会に提出するものとする。臨時提案に記載される事項は、株主総会の権限の範囲内であり、決議にあたって限定されるものとする。

株主総会に出席する株主は、保有する株式1株につき1議決権を有する。

株主総会の決議は、出席（代理人による出席を含む。）した株主の保有する議決権の過半数の賛成により可決される。ただし、会社の合併、分割もしくは解散または定款の変更に関する事項については、出席（代理人による出席を含む。）した株主の保有する議決権の3分の2を超える多数をもって、承認されなければならない。

必須条款によれば、株主資本の増減または社債もしくはディベンチャーの発行および株主が普通決議により必要であると決議したその他の事項については、株主総会に出席した株主の保有する議決権の3分の2を超える多数をもって、承認されなければならない。

株主は、議決権行使の範囲を記載した委任状により、代理人に株主総会に出席することを委任できる。

中国会社法には、株主総会の定足数を構成する株主の数について、特に規定は設けられていない。しかし、特別規定および必須条款においては、議決権の50%に相当する株式を保有する株主からの招集通知に対する書面による回答が開催日の20日前までに受領された場合に、会社は株主総会を開催できるものとされている。かかる50%の基準が満たされない場合、会社は、かかる書面による回答を受領した最終日から5日以内に、議案ならびに開催場所および開催日を公告をもって株主に通知することにより、株主総会を開催することができる。必須条款は、種類株主の権利の修正または廃止の場合には種類株主総会を開催すべき旨を規定しており、その目的においては、国内株式の保有者と国外上場外国投資株式の保有者は、異なる種類の株式の株主とみなされる。

#### (j) 取締役

会社は、5名から19名の構成員からなる取締役会を置くものとする。中国会社法に基づき、各取締役の任期は、3年を超えてはならない。取締役は、再選されれば何期でも連続して取締役の職に就くことができる。

取締役会は、1年に2回以上開催しなければならない。取締役会の招集通知は、すべての取締役に対し、取締役会開催日の10日前に送付されなければならない。取締役会は、臨時取締役会の招集に関し、通知の方法と通知期間について異なった方法を定めることができる。

中国会社法に基づき、取締役会は以下の権限を行使する。

- (1) 株主総会の招集および株主総会への業務報告
- (2) 株主総会においてなされた決議の実行
- (3) 会社の事業計画および投資計画の決定
- (4) 会社の年次予算案および決算の策定
- (5) 会社の利益処分案および損失填補案の策定
- (6) 会社の登録資本の増減および社債発行に関する提案の策定
- (7) 会社の合併、分割、解散または組織変更の計画の準備
- (8) 内部管理体制の決定
- (9) 会社のジェネラル・マネジャーの選任または解任ならびにジェネラル・マネジャーの推薦に基づく副ジェネラル・マネジャーおよび財務責任者の選任または解任、ならびにこれらの報酬の決定
- (10) 会社の基本的管理体制の策定
- (11) 定款に記載されたその他の権限

さらに、必須条款は、取締役会が会社の定款の変更案の策定についても責任を負う旨を規定している。

取締役会は、取締役の過半数が出席しない限り開催することができない。取締役会の決議は、全取締役の過半数の賛成により可決される。

取締役が取締役会に出席できない場合、かかる取締役は、権限の範囲を記載した書面による委任状により、他の取締役を、かかる取締役のために取締役会に出席する代理人として指名することができる。

取締役会の決議が法律、行政規則または会社の定款に違反し、その結果会社が重大な損失を被った場合、決議に参加した取締役は、会社に対し補償を行う責任を負う。ただし、ある取締役がかかる決議の審議が行われた際に明確に反対した旨が証明され、かつ、かかる反対が取締役会議事録に記録された場合、かかる取締役は上記補償責任を負わない。

中国会社法に基づき、以下の者は会社の取締役に就任することができない。

- (1) 民事上の行為能力を有さない者または行為能力を制限されている者
- (2) 汚職、贈収賄、財産権の侵害、横領もしくは社会経済秩序破壊の罪を犯し、刑事処分を受け、その刑の執行完了日から5年以上が経過していない者、または犯罪行為により政治的権利を剥奪され、かかる剥奪の執行完了日から5年以上が経過していない者
- (3) 経営の失敗により破産し清算された会社または企業の元取締役、元工場長または元マネジャーであった者であり、かつ、かかる会社または企業の破産に関し個人的に責任のある者で、かかる会社または企業の破産清算の完了日から3年以上が経過していない者
- (4) 法律違反により営業許可を取消された会社または企業の法律上の代表者であった者であり、かつ、かかる取消しに関し個人的に責任のある者で、かかる営業許可取消日から3年以上が経過していない者
- (5) 支払期限の到来した未払いの負債を有し、その金額が比較的大きい者

ある者が会社の取締役として行為するためのその他の欠格事由は、定款に組み込まれた必須条款に定められている。定款の概要については「第一部-第1-1-(2)提出会社の定款等に規定する制度」を参照のこと。

取締役会は、全取締役の過半数の承認により、取締役会会長を選任する。取締役会会長は、会社の法的代表者であり、特に以下の権限を行使する。

- (1) 株主総会の議長を務めることならびに取締役会を招集し、および議長を務めること
- (2) 取締役会決議の実行状況を調査すること
- (3) 会社の株券および社債に署名すること

特別規定によれば、会社の取締役、監査役、マネジャーおよびその他の役員は信認義務および勤勉に活動する義務を負っている。取締役は忠実にその義務を遂行し、会社の利益を守り、その個人的利益のためにその地位を濫用してはならない。定款に組み込まれた必須条款はかかる義務についてさらに詳述している。定款の概要については「第一部-第1-1-(2)提出会社の定款等に規定する制度」を参照のこと。

### (k) 監査役

会社は、3名以上の監査役からなる監査役会を置く。各監査役の任期は3年間で、再選されれば何期でも連続して監査役の職に就くことができる。

監査役会は、株主の代表者および適切な割合の会社の従業員の代表者を含む。従業員の代表者の割合は、全監査役の3分の1以上でなければならないが、明確な割合は定款で規定される。取締役およびシニアマネジャーのいずれも監査役を兼任することはできない。

監査役会は、以下の権限を行使する。

- (1) 会社の財務状況の検査
- (2) 取締役およびシニアマネジャーの職務に関連する行為の監督ならびに法令、行政規則、定款または株主総会決議に違反した取締役およびシニアマネジャーの解任案の提示
- (3) 会社の利益に悪影響を与える取締役およびマネジャーの行為の是正の要求
- (4) 臨時株主総会の招集の提案ならびに、取締役会が中国会社法に規定される株主総会を招集するおよび議長を務める職務を遂行しない場合の株主総会の招集および議長への就任
- (5) 株主総会の招集の提案
- (6) 中国会社法第152条に従った取締役およびシニアマネジャーに対する訴訟の提起
- (7) 会社の定款に記載されたその他の権限

特別規定によれば、会社の取締役および監査役は信託義務を負っている。彼らは忠実にその義務を遂行し、会社の利益を守り、その個人的利益のためにその地位を濫用してはならない。

### (l) マネジャーおよび役員

会社は、マネジャーを1名置き、当該マネジャーは取締役会により選任または解任される。マネジャーは、取締役会に対し責任を負い、以下の権限を行使することができる。

- (1) 会社の生産、業務および管理の監督ならびに取締役会決議の実行の手配
- (2) 会社の年次事業計画および年次投資計画の実施の手配
- (3) 内部管理体制構築計画の策定
- (4) 会社の基本管理体制の策定
- (5) 会社の内部規則の策定
- (6) 副マネジャーおよび財務責任者の選任または解任の推薦、ならびにその他の管理担当役員（取締役会により選任または解任されることを要する者は除く。）の選任または解任
- (7) 取締役会または会社の定款により付与されたその他の権限

マネジャーは、無議決権代表者として取締役会に出席する。

特別規定および必須条款によれば、会社の上級管理職には、財務責任者、取締役会秘書役および会社の定款に定められたその他の幹部が含まれる。

上記の取締役就任の欠格事由は、マネジャーおよび役員に関しても準用される。

会社の定款は、会社の株主、取締役、監査役、マネジャーおよびその他の幹部に対して拘束力を有する。これらの者は、定款に従い、その権利を行使し、調停の申立てを行い、また、訴訟を提起することができる。会社の上級管理職に関する必須条款の条項は定款に組込まれている。定款の概要については「第一部-第1-1-(2)提出会社の定款等に規定する制度」を参照のこと。

### (m) 取締役、監査役、マネジャーおよびその他の役員の義務

中国会社法に基づき、取締役、監査役、マネジャーおよびその他の役員は、関連法令および会社の定款を遵守し、職務を誠実に遂行し、また、会社の利益を守らなければならない。また、取締役、監査役、マネジャーおよびその他の役員は、会社に対する守秘義務に服し、関連する法律または株主により認められた場合を除き、会社の秘密情報を漏洩してはならない。

取締役、監査役、マネジャーまたはその他の役員が、その職務の遂行において法令または会社の定款に違反し、その結果、会社に損失をもたらした場合、かかる者は、会社に対し個人的に責任を負う。

特別規定および必須条款によれば、取締役、監査役、マネジャーおよびその他の役員は、会社に対して信託義務を負い、職務を忠実に遂行するとともに会社の利益を守らなければならない、その個人的利益のためにその地位を濫用してはならない。

## (n) 財務および会計

会社は、適用のある法律、行政規則および所管する中国国務院財政部の規則に従って、財務会計システムを構築し、各事業年度末において、法律に従って、財務報告書を作成し、監査および確認を受ける。

会社は、定時株主総会開催日の20日前までに、財務書類を会社に備え置き、株主による閲覧に供さなければならない。募集設立により設立された会社は、その財務書類を公表しなければならない。

会社は、当年度の税引後利益を分配する場合、利益の10%を法定利益準備金として差引かなければならない。利益準備金の累積額が会社の登録資本の50%を既已超过している場合は、かかる差引を停止することができる。

会社の法定利益準備金の累積額が前年度の損失を補填するのに十分でない場合には、当年度の利益は、前段落の規定に従い法定利益準備金が差引かれる前に、まずかかる損失の填補に充当される。

会社は、法定利益準備金を税引後利益から差引いた後、株主総会決議により、任意の利益準備金を税引後利益から差引くことができる。会社が損失の填補を行い、利益準備金を差引いた後に残存する利益は、定款に別段の定めがない限り、持株数に応じて株主に分配される。

株主総会、株主集会または取締役会が、損失の補填および利益準備金の差引きが行われる前に、前段落の規定に違反して利益を分配した場合、分配された利益は当社に払戻されなければならない。会社が保有する自己株式について利益を分配することはできない。

会社の資本準備金は、発行時の会社株式の額面超過金および関連政府当局により資本準備金として取扱うことが求められているその他の金額から構成される。

会社の準備金は、以下の目的のために充当される。

- (1) 損失の填補（ただし、資本準備金は会社の損失の補填に使用してはならない。）
- (2) 会社の事業の拡大
- (3) 登録資本の増加（法定利益準備金が登録資本に転換される場合、かかる転換後の法定利益準備金の残額は、増加前の登録資本の25%を下回ってはならない。）

## (o) 会計監査人の選任および退任

特別規定によれば、会社は、その年次報告書を監査させ、その他の財務報告書を検討および検証させるために、中国における資格を有する独立した監査法人を雇用しなければならない。

会計監査人は、ある事業年度の定時株主総会の終結時から翌事業年度の定時株主総会の終結時までを任期として選任される。

会社が会計監査人を解任する場合または契約を終了する場合、特別規定に従い、会社は会計監査人に事前の通知を行わなければならない、会計監査人は株主総会において株主に対して意見表明を行うことができる。会計監査人の選任、解任または契約は、株主総会において株主により決定され、証券監督管理委員会に届出されなければならない。

## (p) 利益分配

特別規定によれば、国外上場外国投資株式の株主に支払われる配当およびその他の分配金は、人民元で宣言および計算され、外貨で支払われなければならない。必須条款に基づき、株主への外貨の支払は受取代理人を通して行われる。

## (q) 定款変更

会社の定款の変更は、会社定款に定められた手続に従って行われなければならない。必須条款に従って定款に組み込まれた規定を変更する場合、証券監督管理委員会および中国国務院の授權を受けた会社の設立を認可する部局の認可を得なければ、変更の効力は生じない。登記事項に関する変更の場合、会社登記所における変更登記を行わなければならない。

## (r) 解散および清算

会社は、支払期限が到来する負債の支払を行うことが不可能であるという理由により、支払不能宣告の申請を行うことができる。人民法院において会社の支払不能が宣告された後、株主、関連当局および関連専門家により構成される清算委員会が結成され、会社の清算を行う。

中国会社法に基づき、会社は、以下の事由のいずれかが発生した場合には、解散される。

- (1) 会社の定款に規定された会社の営業期間の満了または会社の定款に記載された解散事由の発生
- (2) 株主総会における会社の解散決議の可決
- (3) 合併または会社分割により会社を解散しなければならない場合
- (4) 営業許可を取消されたまたは法律に従い廃業もしくは解散が命じられた場合
- (5) 中国会社法第182条に従い、人民法院が解散を決定した場合

会社が上記の(1)、(2)、(4)または(5)のいずれかの事由により解散した場合、15日以内に清算委員会を結成しなければならない。清算委員会の構成員は、株主総会において株主が選任する。

所定の期間内に清算委員会が結成されない場合、会社の債権者は、人民法院に対しその結成を申請することができる。

清算委員会は、その結成から10日以内に会社の債権者に通知を行い、また、60日以内に新聞紙上に公告を掲載する。債権者は、通知受領後30日以内または通知を受領しなかった場合には最初の公告掲載日から45日以内に、清算委員会に対して、債権を届出なければならない。

清算委員会は、清算期間中、以下の権限を行使する。

- (1) 会社の資産の処理ならびに貸借対照表および資産目録の作成
- (2) 債権者への通知の送付または公告の掲載
- (3) 会社の存続する事業の処理および決済
- (4) 未納の税金および清算過程で生じた税金の全額の支払
- (5) 会社の財務上の債権債務の決済
- (6) 負債の返済完了後の会社の残余財産の処理
- (7) 民事訴訟における会社の代表

会社の資産がその負債を返済するために十分である場合には、会社の資産は、清算費用、従業員の給与および労働保険費用、未納の税金ならびに会社の債務の支払に充当される。残余財産がある場合には、会社の株主に、その持株数に応じて分配される。

会社は、清算と無関係な業務に従事してはならない。

清算委員会は、会社の資産がその負債を返済するために十分でないと認識した場合、直ちに人民法院に破産宣告の申請を行わなければならない。

かかる宣告の後、清算委員会は、清算に関するすべての業務を人民法院に移管する。清算委員会は、清算の完了に際して、株主総会または人民法院に対し、検証のため清算報告書を提出する。その後、清算委員会は会社の登記を抹消するため当該報告書を会社登記所に提出し、会社の解散に関する公告を行う。

清算委員会の構成員は、それぞれの職務を、関係する法律に従って誠実に遂行しなければならない。清算委員会の構成員は、会社および債権者に対して、その故意または重大な過失により生じた損害について賠償する責任を負う。

#### (s) 国外上場

会社の株式は、中国國務院の証券規制当局による認可を得た場合にのみ国外で上場することができ、上場は、中国國務院により定められた手続に従って進められなければならない。

特別規定によれば、証券委員会により承認された会社の国外上場外国投資株式および国内株式の発行の計画は、証券監督管理委員会からの認可が得られた後15ヶ月以内に、会社の取締役会によって、別個の発行として実施することができる。

#### (t) 株券の紛失

株主は、中国民事訴訟法に規定された関連規定に従い、記名式株式の株券が盗取され、またはこれを紛失した場合、人民法院に対してかかる株券に関する無効宣告の申請を行うことができる。株主は、かかる宣告を得た後、代替株券の発行を会社に対して申請することができる。必須条款には、H株券の紛失に関する別個の手続が規定され

ており、これは定款に組込まれている。定款の概要については「第一部-第1-1-(2)提出会社の定款等に規定する制度」を参照のこと。

#### (u) 合併および会社分割

会社の合併または分割は、株主総会において決定される。

会社は、吸収合併または合併会社の新設による新設合併のいずれかにより、合併することができる。吸収合併の場合、吸収された会社は、解散する。新設合併の場合、双方の会社が解散する。

会社の合併に際しては合併契約が締結されなければならない。当事会社は、それぞれ貸借対照表および資産目録を作成しなければならない。当事会社は、合併決議後10日以内にそれぞれの債権者に対して通知を行い、また、合併決議後30日以内に新聞紙上に債権者に対する公告を掲載する必要がある。債権者は、書面による通知受領後30日以内または書面による通知を受領しなかった場合には最初の公告掲載日から45日以内に、会社に対して、未払債務の弁済またはこれに代わる保証の提供を要求することができる。合併後の会社は、合併した会社の負債および債務に関して責任を負う。

会社が分割されて2つの会社となる場合、それぞれの資産も分割されなければならない、また別個の会計帳簿が作成されなければならない。

会社の株主が会社の分割を承認した場合、会社はかかる決議の可決日から10日以内にすべての債権者に対して通知を行い、また、かかる決議の可決日から30日以内に新聞紙上に公告を掲載する必要がある。会社分割以前の負債についての連帯責任は、分割に先立って当社と債権者との間で交わされた債務の支払に関する書面による合意に定められている場合を除き、分割後それぞれの会社が負担する。

合併や分割によって会社の登記事項に変更が生じた場合、かかる変更は、適用される法律に従い、登記されなければならない。

#### (2) 【提出会社の定款等に規定する制度】

当社定款は株主総会において株主に承認されており、中国会社法、中国証券法、上場取扱規定、上場会社の株主総会に関する規制見解、上場会社における独立取締役の設置に関する意見、香港で株式上場する株式有限責任会社の定款の追加変更に関する意見書、特別規定、必須条款、上場会社の定款に関する指示、および香港上場規則に従って作成されている。

#### (a) 取締役およびその他の役員

##### 当社株式の割当および発行権限

当社定款には、当社株式の割当および発行を行う権限を取締役に付与する条項はない。

当社資本を増加する場合、株主総会の特別決議による承認を得るための議案を策定する責任を取締役会が負う。かかる増資は、関連する法律および行政規則により定められた手続に従って行われなければならない。

##### 当社または子会社の資産処分権限

取締役会は、株主総会における報告義務を負う。

取締役会は、処分に係る資産の推定価値と、処分の直前4ヶ月間に処分された当社の固定資産の価値との合計が、株主総会において株主に提示された当社の直近の貸借対照表上に示される固定資産の価値の33%を超える場合、株主総会における株主の事前の承認または同意がなければ、当社の固定資産を処分しまたは処分に同意してはならない。

当社による固定資産の処分の有効性は、上記の違反により影響を受けることはない。

当社定款上、固定資産の処分には資産に対する権利の移転に関する行為が含まれるが、固定資産への担保権の設定は含まれない。

取締役会は、法令、当社定款および株主総会において株主により可決された決議に従って職務を遂行する。

##### 報酬および失職に関する補償または支払

当社は、株主総会による事前の承認を得て、各々の取締役および監査役との間でその報酬について規定する書面による契約を締結する。かかる報酬には以下のものが含まれる。

#### (1) 当社の取締役、監査役または上級役員としての業務に関する報酬

- (2) 当社の子会社の取締役、監査役または上級役員としての業務に関する報酬
- (3) 当社および当社の子会社の事務管理に関連して提供する業務に関する報酬
- (4) 失職に対する補償としてなされる支払または退職時の報酬もしくは退職に関連した支払

上記の契約に規定される場合を除き、上記事項について取締役や監査役が自らの利益のために当社に対して訴訟を提起することはできない。

報酬に関する当社と取締役または監査役との間の契約においては、当社が買収された場合に、株主総会の事前承認を条件として、取締役および監査役は失職もしくは退職に対する補償その他の支払を受ける権利を有することが定められなければならない。本項において「当社が買収された場合」とは以下のいずれかの意味を有する。

- (1) ある者からすべての株主に対する買付の申込み
- (2) ある者から、その者が当社定款に定める意味における「支配株主」となることを目的とする買付の申込み（「第一部-第1-1-(2)-(q)詐欺的行為または強迫に関する少数株主の権利」を参照のこと。）

取締役または監査役が上記の事項を遵守しない場合、当該取締役または監査役の受領額は、当該買付の申込みの結果自己の保有する株式を売却した者に帰属する。これらの者に対して総額を按分して支払うために発生する費用は当該取締役または監査役が負担し、その総額から支払ってはならない。

業務を遂行するにあたり、法律、行政規則、省庁規則または定款の規定に違反し、当社に損害を生じさせた取締役、監査役、総裁またはその他の上級管理職は、補償を行う責任を負う。

#### 取締役、監査役およびその他の役員に対する融資

当社は、当社または当社の持株会社の取締役、監査役、総裁もしくはその他の上級役員またはそれらの者の関係者に対して、直接的にも間接的にも、融資の実行または融資に関連した保証の供与を行ってはならない。ただし、以下の場合についてはこの限りではない。

- ・ 当社がその子会社に対して融資または融資の保証を行う場合
- ・ 取締役、監査役、当社の総裁またはその他の上級役員が、当社のために、または株主総会の承認を得た役務提供契約の条件に従いその義務を適正に履行するために、支払ったまたは支払う予定の経費に充当するために、当社が、当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員に対して融資を行い、融資に関連して保証を行い、またはその他の資金の供与を行う場合
- ・ 当社の通常業務に金銭の貸付または保証の供与が含まれる場合に限り、当社は、通常の業務の一環として、通常の条件で、取締役、監査役、総裁もしくはその他の上級役員またはそれらの者の関係者に対して融資または融資の保証を行うことができる。

当社が上記規定に違反して融資を実行した場合、当該融資の条件の如何にかかわらず、借入人は直ちにこれを返済しなければならない。

当社が上記規定に違反して供与した保証は、当社に対してその履行を強制することができない。

ただし、以下の場合を除く。

- (1) 当社または当社の持株会社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員のいずれかの関係者に対して実行された融資に関して保証が供与された場合で、当該融資の貸付人が融資実行時にかかる事情を知らなかった場合
- (2) 当社が提供した担保が既に貸付人により善意の購入者に対して適法に処分されている場合

本項において

- (a) 保証とは、債務者による債務の履行を担保するために提供される約束または財産を含む。
- (b) 下記「義務」の項に記載される関係者の定義は本項に準用される。

#### 当社または当社子会社の株式取得に対する資金援助

当社定款に例外として規定されている場合を除き、当社および当社の子会社は、当社株式を取得しようとし、または取得を申出ている者に対して、方法および時期の如何を問わず、資金援助（以下に定義される。）を行ってはならない。かかる当社株式の取得者には、当社株式を取得した結果、直接的または間接的に何らかの債務負担（以下に定義される。）をすることになる者も含まれる。当社および当社の子会社は、方法および時期の如何を問わず、かかる取得者に対して、かかる取得者が負担する債務の軽減または免除を目的として資金援助を行ってはならない。

ただし、以下の行為は禁止行為とはみなされない。



- ・ 資金援助が当社の利益のために誠実に行われる場合であり、資金援助の主な目的が当社株式の取得のためではなく、または資金援助の付与が当社のより大きな目的の中で偶発的に行われたものである場合における当該資金援助
- ・ 法律に従った配当による当社資産の適法な分配
- ・ 配当による株式の無償割当
- ・ 当社定款に従った当社の登録資本の減少、当社株式の買戻しまたは当社の株主資本構成の再構成
- ・ 金銭の貸付が当社の業務の範囲の一部である場合における、その範囲内での通常の業務としての金銭の貸付（ただし、当社の純資産がこれによって減少しない場合か、あるいは資産がこれにより減少する場合には、当該資金援助が分配可能利益から提供される場合に限る。）
- ・ 当社が従業員持株制度に対して資金を拠出する場合（ただし、当社の純資産がこれにより減少しない場合か、あるいは資産がこれにより減少する場合には、当該資金援助が分配可能利益から提供される場合に限る。）

本項において、

(a)「資金援助」とは以下の事項を含むがこれらに限定されない。

**(1) 贈与**

**(2) 保証（債務者の債務の履行を担保するための保証人による債務の引受けまたは保証人による資産の供与を含む。）または（当社自身の債務不履行に関する補償以外の）補償もしくは権利の免除もしくは放棄**

**(3) 融資の供与もしくは当社の債務が他の者の債務に先立って履行されるべきことを定めるその他の契約の締結、またはかかる融資もしくは契約の当事者の変更もしくは更改もしくはかかる融資もしくは契約に基づく権利の譲渡**

**(4) 当社が債務につき支払不能に陥った場合、当社が純資産を有しなくなった場合、または当社の純資産を著しく減少させることが予想される場合において当社が付与するその他の資金援助**

(b)「債務負担」には、契約もしくは取決め（かかる契約もしくは取決めが執行可能か否か、もしくは債務者のみが債務を負担するものか他者と共同して負担するものかを問わない。）によって債務者の財務状況に変動を生じさせること、その他一切の方法による債務負担を含む。

**当社またはその子会社との契約に関する利害関係の開示**

当社の取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員は、当社との契約、取引もしくは取決めまたは予定された契約、取引もしくは取決め（当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員と当社との間における役務提供契約を除く。）に対して、態様を問わず、直接的または間接的に重大な利害関係を有する場合、かかる契約、取引もしくは取決めまたはそれらの提案が取締役会の承認を要するか否かにかかわらず、当該利害関係の性質および程度を可及的速やかに取締役会に報告する。

利害関係を有する当社の取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員が、当社定款に従い取締役会への報告を行っており、かかる契約、取引または取決めが、当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員が定足数に算定されずかつ決議に参加していない取締役会において承認を受けていない限り、当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員が重大な利害関係を有する契約、取引または取決めは、当社の要請によりこれを取消することができる。ただし、当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員の義務違反を知らずに行われた善意の第三者に対してはこの限りではない。

本項の目的に従って、当社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員は、自己の関係者が利害関係を有する契約、取引または取決めについても、利害関係を有しているものとみなされる。

当社取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員が、当社が今後締結する可能性のあるあらゆる種類の契約、取引または取決めに対して利害関係を有する旨の一般的な通知を、具体的理由を明記した書面にて取締役会に対して行った場合、かかる通知は、本項との関係において、当該通知に記載されている内容に関する利害関係に係る十分な報告とみなされる。ただし、このような一般的な通知が、当社のために当該契約、取引または取決めに締結することを最初に検討する日より前になされていることを条件とする。

**報酬**

上記「報酬および失職に関する補償または支払」の項で言及されているとおり、取締役の報酬については、株主総会決議による承認を受けなければならない。



## 任命、解任および退任

会長およびその他取締役会の構成員の任期は3年とする。取締役の任期が満了し、再選された場合、当該取締役は連続した任期について再任することができる。取締役は、任期満了前に正当な理由なく株主総会において解任されることはない。

取締役の任期満了に伴い、新任取締役が適時に選ばれない場合、法律の規定、行政規則および定款に従って、新任取締役が就任する前は、当初の取締役が取締役としての義務を遂行する。

取締役は株主総会において選任および解任される。取締役の候補者を推薦する旨の書面による通知および候補者が選任を受諾する旨を示した書面による通知が、総会の通知の送付時以降、株主総会の7日前までに当社に送付される必要がある。

取締役会には、会長1名と副会長1名を置く。会長および副会長は、全取締役の過半数の可決をもって選任および解任される。取締役は当社の株式を保有する必要はない。

以下のいずれかに該当する者または状況の場合は、当社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員に就任することができない。

- ・ 行為能力を有しない者または行為能力を制限されている者
- ・ 汚職、贈収賄、財産権の侵害、横領もしくは社会経済的秩序破壊の罪を犯し、そのために処罰を受けた者または政治的権利が剥奪された者で、かかる処罰または剥奪の執行完了後5年以上が経過していない者
- ・ 経営の失敗により破産し清算された会社または企業の元取締役、元工場長または元マネージャーであった者であり、かつかかる会社または企業の破産に関し個人的に責任のある者で、かかる会社または企業の破産および清算の完了日から3年以上が経過していない者
- ・ 法律違反により営業許可を取消された会社または企業の法律上の代表者であった者であり、かつ、かかる取消しに対して個人的に責任のある者で、かかる営業許可取消日から3年以上が経過していない者
- ・ 支払期限の到来した未払いの負債を有し、その金額が比較的大きい者
- ・ 刑法違反により司法機関の犯罪捜査または訴追下にある、当該捜査または訴追が終了していない者
- ・ 法律および行政規則に従い企業の指導者として不適格とされる者
- ・ 自然人以外の者
- ・ 関連政府当局により関連証券規則に違反したとして有罪判決を受けている者で、かかる有罪判決において当該者の詐欺行為または不誠実行為が認定事実として含まれており、その判決日から5年以上が経過していない者
- ・ 証券監督管理委員会から証券市場に参加することを禁じられ、その禁止が解除されていない者
- ・ 当社の株式が上場されている法域の法令に定められる状況が発生した場合

当社定款には、一定の年齢を超えた場合に取締役から退職することが義務付けられる定年退職の規定はない。

すべての取締役は、定款の規定または取締役会により付与される法的権限なく、当社または取締役会を代表して独立して行動してはならない。取締役が独立して行動する場合であって、当該取締役が当社または取締役会を代表して行動していると第三者が合理的に判断する状況においては、かかる取締役はその地位および資格をあらかじめ明らかにしなければならない。

取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員が当社を代表して行う行為の有効性は、善意の第三者との関係において、その任期もしくは選任における不規則性または資格の欠如によって影響を受けない。

## 借入権限

適用のある中国の法令を遵守することを条件として、当社は、資金を調達し借入れる権限を有する。かかる権限には、社債の発行ならびに当社の営業または財産ならびに中国法および行政規則により認められるその他の権利の一部または全部に対する担保権または抵当権の設定が含まれるが、これらに限定されない。当社定款には、(a)当社による社債発行を提案する権限を取締役に付与する条項および(b)社債発行に特別決議による株主総会での株主の承認を要する旨を定める条項を除き、借入れに関する権限を取締役が行使しうる方法についての明確な条項はなく、またかかる権限を変更できる方法について明確な条項はない。

## 義務

法律、行政規則または当社株式を上場している証券取引所により課される義務に加えて、当社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員はそれぞれ、当社から委ねられた職務および権限の行使について各株主に対して以下の義務を負う。

- ・ 当社がその営業許可証に明記された事業範囲を超えないようにすること

- ・ 当社の最善の利益のために誠実に行為すること
- ・ 当社の財産をいかなる名目においても奪取しないこと（当社の利益となる機会の剥奪を含むがこれに限定されない。）
- ・ 株主の個別の権利を剥奪しないこと（分配に対する権利および議決権を含むがこれらに限定されない。ただし、定款に従って株主の承認を受けるために提案された当社の再編に従う場合は除く。）

当社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員はそれぞれ、権限の行使および義務の遂行にあたり、同様の状況において合理的な程度に慎重な者が行うような監督、注意および技能を発揮する義務を負う。

当社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員はそれぞれ、信認の原則に従って権限を行使し、または職務を遂行し、その義務と自己の利益とが相反するような立場に身を置いてはならない。この原則には、以下の義務を遂行することが含まれるが、これらに限られない。

- ・ 当社の最善の利益のために誠実に行為すること
- ・ 自らの権限の範囲内で行為し、かかる権限を超えないこと
- ・ 与えられた裁量権を自ら行使し、他者の支配下で行動することがないようにし、かつ、法律もしくは行政規則で認められる範囲内である場合または株主総会において十分な説明を受けた上で株主が同意した場合を除いて、与えられた裁量権の行使を委任しないこと
- ・ 同種類の株式を保有する株主を平等に取扱い、また異なる種類の株式を保有する株主を公平に取扱うこと
- ・ 当社定款に従う場合または株主総会において十分な説明を受けた上で株主が同意した場合を除いて、当社と契約、取引または取決めを締結しないこと
- ・ 株主総会において十分な説明を受けた上で株主が同意した場合を除いて、当社の財産を自らの利益のために使用しないこと
- ・ 自らの地位を利用して賄賂または法律に反するその他の収入を受取らないことおよび当社の財産をいかなる方法においても奪取しないこと（当社の利益となる機会の剥奪を含むがこれに限定されない。）
- ・ 株主総会において十分な説明を受けた上で株主が同意した場合を除いて、当社の取引に関連して手数料を受取らないこと
- ・ 当社定款を遵守し、自らの義務を忠実に履行し、当社の利益を保護すること、および当社における自らの地位および権限を濫用して私益を追求しないこと
- ・ 株主総会において十分な説明を受けた上で株主が同意した場合を除いて、当社といかなる形においても競合しないこと
- ・ 当社の資金を横領したり他者に貸付いたりしないこと、当社資産を入金する口座を自己または他人の名義で開設しないこと、また当社株主またはその他個人の負債の担保として当社資産を提供しないこと
- ・ 株主総会において情報提供を受けた株主によって許可された場合を除き、その任期中に入手した情報を公開してはならず、また、かかる情報を当社の利益を増大させる目的以外に使用してはならない。ただし、以下の場合に限り、裁判所または他の政府機関に対してかかる情報を開示することができる。

**（ ）法律により開示を強制される場合**

**（ ）公益のために開示が要求される場合**

**（ ）当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員の利益のために開示が要求される場合**

当社の取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員はそれぞれ、以下の者または組織（以下「関係者」という。）に対して、自らが禁止されている行為を行うように指図することはできない。

- (1) 当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員の配偶者または未成年の子供
- (2) 当該取締役、監査役、総裁もしくはその他の上級役員または上記(1)に記載されている者の受託者の資格において行為する者
- (3) 当該取締役、監査役、総裁もしくはその他の上級役員または上記(1)および(2)に記載する者のパートナーの資格で行為する者
- (4) 当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員が、単独でまたは上記(1)、(2)および(3)に記載する者ならびに他の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員と共同で、支配持分を事実上保有する会社
- (5) 上記(4)に記載される支配を受ける会社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員

当社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員の信認義務は、その任期満了により必然的に終了するものではなく、当社の営業上の秘密に関する守秘義務はその任期満了後も存続する。その他の義務の存続期間は、その

者の退任の時期から当該事由の発生時期までの経過時間およびその者と当社の関係が終了した状況に基づいて公正の観点から要求される期間とする。

当社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級役員が当社に対する義務に違反した場合、法律および行政規則に定められている権利および救済手段に加え、当社は以下の権利を有する。

- ・ 当該取締役、監査役、総裁もしくはその他の上級役員に対し、かかる違反に起因して当社が受けた損失に関して賠償を請求する権利
- ・ 当社が当該取締役、監査役、総裁もしくはその他の上級役員または第三者（当該第三者が取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員が当社に対する義務に違反していることを知っていたかまたは知るべきであった場合）との間で締結した契約あるいは取引を解除する権利
- ・ 当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員に対し、その義務違反の結果生じた利益について説明することを要求する権利
- ・ 当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員が受領した金員（手数料を含むがこれに限られない。）を当社に取戻す権利
- ・ 当社に支払われるべきであった金員に関し、当該取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員が受領したかまたは受領することができたであろう利息の支払を要求する権利

当社定款に従い、当社の取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員は、特定の義務違反により生じた債務について、十分な説明を受けた株主が株主総会において同意した場合は、当社定款第58条に定める場合を除き、その免責を受けることができる。

## (b) 定款変更

当社は、法律、行政規則および当社定款の要件に従い、当社の定款を変更することができる。

必須条款の内容に関する当社定款の変更は、中国国務院から授権された会社認可機関および中国国務院証券監督管理機構の認可によって効力が発生する。当社の登記事項に変更が生じる場合、法律に従って変更登記の申請を行わなければならない。

## (c) 既存株式または種類株式の権利の変更

あらゆる種類の株主に対して、株主の資格において付与された権利（以下「種類株主の権利」という。）は、株主総会における株主の特別決議および定款に従って別途招集される当該種類株主の総会における決議によって承認されない限り、変更または廃止できない。

以下の各号に該当する場合は、種類株主の権利の変更または廃止とみなされる。

- (1) 当該種類の株式数の増減または当該種類の株式の議決権、持分権もしくは特権と同等以上の議決権、持分権もしくは特権を有する種類の株式数の増減
- (2) 当該種類の株式の全部もしくは一部の別の種類の株式への交換の実施または別種類の株式の全部もしくは一部の当該種類株式への交換もしくは交換権の創出
- (3) 当該種類の株式に付される未払配当または累積配当に対する権利の廃止または縮小
- (4) 当該種類の株式に付される優先配当権または清算分配金優先受領権の廃止または縮小
- (5) 当該種類の株式に付される転換権、オプション、議決権、譲渡権、先買権または当社証券の取得権の拡大、廃止または縮小
- (6) 当該種類の株式に付される、当社からの支払金を特定の通貨により受領する権利の廃止または縮小
- (7) 当該種類の株式の議決権、持分権または特権と同等以上の議決権、持分権または特権が付される新しい種類の株式の創出
- (8) 当該種類の株式の譲渡もしくは所有に対する制限またはかかる制限の強化
- (9) 当該種類もしくは別種類の当社株式を引受け、または当該種類もしくは別種類の当社株式に転換する権利の付与
- (10) 別種類の当社株式の権利または特権の拡大
- (11) 提案された再編によれば異なる種類の株主間に不均等な負担をもたらすこととなる当社の再編
- (12) 当社定款第9章の規定の変更または廃止

影響を受ける種類の株主は、株主総会における議決権を有するか否かを問わず、上記第(2)号から第(8)号、第(11)号および第(12)号に関する事項について、種類株主総会における議決権を有する。ただし、利害関係を有する株主（以下に定義される。）は、かかる種類株主総会において議決権を有しない。

ある種類の株主による決議は、当該種類の株主の総会において表章される議決権の3分の2以上の賛成をもって可決される。

種類株主総会の招集通知は、株主名簿に当該種類の株式の保有者として登録されているすべての株主に対して、種類株主総会の開催日の45日前までに書面によりなされる。かかる通知には、当該種類株主総会における議事ならびに総会の開催日および場所を記載する。種類株主総会に出席する意思を有する株主は、当該総会の開催日の20日前までに、出席の旨を書面により当社に回答する。

当社は、種類株主総会に出席する意思を有する株主が、当該種類株主総会における議決権のある当該種類株式総数の2分の1以上を表章する場合、当該種類株主総会を開催することができるが、この条件が満たされない場合、当社は、当該種類の株主に対して5日以内に再度公告を行うことにより、当該種類株主総会の議事、開催日および場所を通知する。この場合、当社は、当該公告後に種類株主総会を開催することができる。

種類株主総会の招集通知は、種類株主総会における議決権を有する株主に対してのみ送付すれば足りる。

種類株主総会は、可能な限り株主総会と同様の方法によって運営される。当社定款上の株主総会の運営方法に関する規定は、種類株主総会についても適用される。国内株式の保有者および国外上場外国投資株式の保有者は、異なる種類の株式の保有者とみなされる。

以下のいずれかに該当する場合、種類株主総会における決議のための特則は適用されない。

- (1) 株主総会における株主の特別決議による承認を受け、当社が、個別であると同時にであることを問わず、12ヶ月に1度、国内株式および国外上場外国投資株式を、既存の発行済み国内株式および国外上場外国投資株式のそれぞれ20%を超えない範囲で発行する場合
- (2) 当社設立時の国内株式および国外上場外国投資株式の発行計画が、中国国务院証券監督管理機構による認可を受けた日から15ヶ月以内に実行される場合

当社定款における種類株式の権利の規定において、「利害関係を有する株主」とは以下の株主をいう。

- (1) 当社の全株主を対象とする公開買付または証券取引所における公開取引による当社株式の買戻しの場合には、当社定款に定める意味における「支配株主」
- (2) 相対取引による当社株式の買戻しの場合には、当該取引に係る当社株式の保有者
- (3) 当社の再編の場合は、再編案に基づいて同種類の株主に課せられた義務よりも軽い義務を負う種類株主または再編案において同種類の株主の利害関係とは異なる利害関係を有する種類株主

#### (d) 決議 - 決議に必要な多数

株主総会における決議は、普通決議と特別決議に区分される。

普通決議は、当該総会に出席している株主（代理人を含む。）により表章される議決権の過半数の賛成票により可決される。

特別決議は、当該総会に出席している株主（代理人を含む。）により表章される議決権の3分の2以上の賛成票により可決される。

#### (e) 議決権(投票による採決および投票による採決を要求する権利)

当社普通株式の株主は、株主総会に出席する権利または出席する代理人を指名する権利ならびにかかる株主総会において議決権を行使する権利を有する。株主（代理人を含む。）は株主総会において、保有する議決権付株式の数に応じて議決権を行使することができる。各株式は1議決権を有する。

当社が保有する当社株式には議決権が付されておらず、かかる株式は株主総会において株主により表章される議決権付株式の総数から除外される。

取締役会、独立取締役および該当する条件を満たす株主は、株主に投票を働きかけることができる。

当社の株式が上場される証券取引所の規則の規定によれば投票が特に要求されている。株主総会においては、以下のいずれかの者が（挙手による採決の前後を問わず）投票による採決を要求しない限り、挙手により採決される。

- ・ 総会の議長
- ・ 議決権を行使する権利を有し、本人または代理人が出席している2名以上の株主

- ・ 総会における議決権の付された株式の総数の10%以上を表章し、本人または代理人が出席している1名以上の株主

投票による採決が要求されない限り、挙手により決議が全会一致で可決され、または決議に必要な多数により可決されもしくは可決されなかった旨の議長による宣言および総会議事録上のその旨の記録は、当該決議案に対する賛否の票数または比率の証明がなくともかかる事実の確定的証拠となる。投票による採決の要求は、これを要求した者が撤回できる。

総会議長の選出または延会について投票による採決が要求された場合は、直ちにこれを実施する。その他の件について投票による採決が要求された場合は、議長が指示する時刻にこれを実施し、また投票による採決が要求された議事以外の議事については、投票による採決を留保してこれを進行することができる。投票による採決の結果は、当該投票が要求された総会の決議とみなされる。

総会での投票による採決においては、2議決権以上有する株主（議決権代理人を含む。）は、すべての票を賛否のいずれか一方に投じる必要はない。

挙手によると投票によるとを問わず、賛否同数の場合、挙手による採決が行われまたは投票が要求された総会の議長に1個の追加議決権が付与される。

#### (f) 定時株主総会の要件

取締役会は、毎年1回、直近の会計年度終了後6ヶ月以内に定時株主総会を招集する。

#### (g) 会計および監査

当社は、法律、行政規則および中国国务院の財務規制部局が策定した中国の会計基準に従い、財務会計制度および内部監査体制を確立する。

取締役会は、法律、行政規則および所管する地方政府当局および中央政府当局が公布する通達により作成が義務付けられている、当社が作成する財務報告書を、毎年の定時株主総会において株主に提出する。

当社の財務報告書は、定時株主総会の開催日の20日前までに、当社において株主の縦覧に供される。いずれの株主も、財務報告書の写しを入手する権利を有する。当社の財務書類は、中国の会計基準および規則に従って作成されるほか、国際財務報告基準または当社株式が上場されている海外の会計基準のいずれかに従って作成される。2種類の会計基準に従って作成された財務書類の間に重大な相違がある場合、かかる相違について財務書類の別紙に記載するものとする。当社が税引後利益を分配する場合、かかる2種類の財務書類に表示された金額のうち低い方が適用される。

当社が公表または開示する中間決算または中間財務情報も、中国の会計基準および規則に従って作成および提出されるほか、国際財務報告基準または当社株式が上場されている海外の会計基準のいずれかに従って作成および提出されなければならない。

当社は、各会計年度の終了後4ヶ月以内に中国国务院証券監督管理機構および当社株式が上場されている証券取引所に年間財務会計報告書を提出するものとされている。また当社は、各会計年度の上半期の終了後2ヶ月以内に、中国国务院証券監督管理機構の支所および（当社株式が上場されている証券取引所の関連規制に従って）証券取引所に、中間財務会計報告書を提出するものとされている。さらに当社は、各会計年度の第1四半期および第3四半期の終了後1ヶ月以内に、中国国务院証券監督管理機構の支所および（当社株式が上場されている場合はその証券取引所の関連規制に従って）証券取引所に、四半期財務会計報告書を提出するものとされている。

#### (h) 株主総会の招集通知および総会における議案

株主総会は当社の授權機関であり、その機能および権限は法律に従って行使される。

危機的状況など異例の事態に陥った場合を除き、当社は、取締役、総裁またはその他の上級役員を除くいかなる者との間においても、当社の業務の全部または相当部分の管理運営を委譲する契約を、特別決議による承認を得た上で締結することができる。

株主総会は、定時株主総会と臨時株主総会とに分類される。株主総会は取締役会により招集される。

以下のいずれかの状況が発生した場合、取締役会は、当該状況の発生から2ヶ月以内に臨時株主総会を招集しなければならない。

- ・ 取締役の員数が中国会社法で規定された員数より少なくなった場合または6名を下回った場合
- ・ 当社の未補填損失額が当社の払込済株主資本総額の3分の1に達した場合
- ・ 当社の発行済議決権付株式の10%以上を単独または共同で保有する株主が書面にて臨時株主総会の招集を要求した場合

- ・ 取締役会が必要と判断した場合または、2名以上もしくは2分の1以上の独立取締役もしくは監査役会が臨時株主総会の招集を要求した場合
- ・ 法律、行政規則、省庁規則または定款に定められたその他の事由

独立取締役は臨時株主総会の招集を提案することができる。独立取締役が取締役会に臨時株主総会の招集を提案した場合、取締役会は関連する法律、行政規則および定款の規定に従って、かかる臨時株主総会の招集についての同意または不同意を、かかる提案の受領後10日以内に書面により示すものとする。

取締役会は、臨時株主総会の招集に同意する場合、取締役会での決議可決後5日以内に臨時株主総会の招集通知を発送するものとし、臨時株主総会の招集に同意しない場合は、その理由を説明しこれに関する発表を行うものとする。

監査役会は臨時株主総会の招集を提案することができる。監査役会が取締役会に臨時株主総会の招集を提案する場合は書面によるものとする。取締役会は、関連する法律、行政規則および定款の規定に従って、かかる臨時株主総会の招集についての同意または不同意を、かかる提案の受領後10日以内に書面により示すものとする。

取締役会は、臨時株主総会の招集に同意する場合、取締役会での決議可決後5日以内に臨時株主総会の招集通知を発送するものとする。かかる通知の内容が当初の提案から変更される場合は監査役会の承認が必要とされる。

取締役会は、臨時株主総会の招集に同意しない場合またはかかる提案の受領後10日以内に回答しない場合、臨時株主総会を招集する義務を果たすことができないまたはかかる義務の履行を怠っているとみなされ、その場合は監査役会が自ら臨時株主総会を招集し議長を務めるものとする。

株主が臨時株主総会または種類株主総会の招集を要求する場合は、以下の手続に従う。

- (1) かかる株主総会において議決権付株式の10%以上を単独または共同で保有する複数の株主は、同一の形式および内容の書面を取締役会に提出して臨時株主総会または種類株主総会の招集を要求し、かかる株主総会での議案を示すことができる。取締役会は、かかる書面による要求を受領した後、可能な限り早く臨時株主総会または種類株主総会を招集するものとする。上記記載の保有株式数は、かかる書面による要求が株主から提出された日付で計算される。
- (2) 取締役会が上記記載の書面による要求を受領した後30日以内に株主総会招集通知を発送しない場合、かかる要求を行った株主は、取締役会がかかる書面による要求を受領した後4ヶ月以内に自ら株主総会を招集することができる。その場合の株主総会の招集手続は、取締役会による株主総会の招集手続と可能な限り同じとする。

上記記載の要求による株主総会の招集が実現せず、株主が自ら株主総会を招集および開催する場合、合理的な範囲で発生した費用は当社が負担し、当社から義務を履行しなかった取締役に支払うべき金銭の額から控除される。

監査役会または株主により招集される株主総会は、書面により取締役会に通知される。また、当社の所在地を管轄する中国國務院証券監督管理機構の該当支所および該当する証券取引所への関連する提出手続も、記録のために完全に行われるものとする。

株主総会の招集を行う株主は、かかる株主総会に関する通知またはその結果を発表する場合、当社の所在地を管轄する中国國務院証券監督管理機構の該当支所および該当する証券取引所に、関連する補足資料を提出するものとする。

当社が株主総会を招集するときは、開催日の45日前までに、株主名簿に記載されている株主全員に対し、議案ならびに総会の開催日および場所を記載した書面による株主総会招集通知が送付される。総会に出席する意思を有する株主は、開催日の20日前までに、書面により当社に出席の旨を回答しなければならない。

取締役会、取締役、監査役会および当社株式の3%以上を単独または共同で保有する株主は、株主総会で当社に提案を行うことができる。

当社株式の3%以上を単独または共同で保有する株主は、株主総会の招集の10日より前に招集者に対して書面により追加提案を行うことができる。招集者は、追加提案の受領後2日以内に株主総会の追加通知を発送して追加提案の内容を発表し、これを株主総会に諮るものとする。

前段落に定められた場合を除き、招集者は、株主総会通知の発送後、株主総会通知に記載された提案を変更することまたは追加提案を行うことはできない。

株主総会通知に記載されていない提案または定款第74条の規定を満たさない提案は投票が行われず、したがって決議されない。

臨時株主総会においては、臨時株主総会の招集通知に記載されていない事項について決定してはならない。

当社は、株主総会の開催日の20日前までに株主から受領した書面による回答に基づき、総会に出席する意思を有する株主の議決権付株式数を算定する。総会に出席する意思を有する株主の議決権付株式数が、当社の議決権付株式総数の2分の1以上の場合、当社は総会を開催することができる。この条件が満たされない場合、当社は、株主に対して5日以内に再度公告を行うことにより、当該総会の議事、開催日および場所を通知する。この場合、当社は、当該公告後に当該株主総会を開催できる。

株主総会の招集通知は、以下の要件を満たしていなければならない。

- ・ 書面によること
- ・ 総会の場所、所要時間および開催日時を明記すること
- ・ 総会に出席する資格を有する株主の登録日を記載すること
- ・ 総会に関する連絡担当者の氏名および電話番号を明記すること
- ・ 総会の議案を明記すること
- ・ 提案された議案について、株主が十分な情報に基づいて判断できるよう、必要な情報提供および説明を行うこと。前記の一般原則を制限するものではないが、当社と他社との合併、当社株式の買戻し、当社株主資本の再構成またはその他の方法による当社の再編に関する議案を提出する場合は、提案する取引の条件の詳細を、契約案（もしあれば）の写しとともに提出しなければならない、かつ当該議案の理由および効果を適切に説明しなければならない。
- ・ 提案された取引における取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員の重要な利害関係の性質および範囲（もしあれば）を開示すること。また当該取引が株主としての取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員に及ぼす影響が同種類の株主の利害関係に及ぼす影響と異なる場合は、取締役、監査役、総裁またはその他の上級役員に及ぼす影響を開示すること
- ・ 総会において提出される特別決議案の全文を記載すること
- ・ すべての株主が株主総会に出席できること、および総会に出席し議決権を行使することのできる株主は、自らに代わり総会に出席し議決権を行使する1名以上の代理人を指名する権利を有し、かつ代理人は株主である必要がないことを明示すること
- ・ 当該総会に関する議決権行使委任状の提出時刻および提出場所を明示すること

株主総会の招集通知は、株主（総会において議決権を行使する権利を有するか否かを問わない。）に対し、手交によりまたは株主名簿に記載されている株主の住所宛てに料金前払郵便により送付されなければならない。国内株式の保有者については、総会の招集通知は、公告によりこれを行うことができる。国外上場外国投資株式の保有者に対しては、株主総会の招集通知は、当社株式上場地の証券監督管理規定および上場規則に従って、定款の第237条に規定されるその他の方法によっても発送しまたは送達される。

公告は、総会の開催日の45日前から50日前の間に、中国国務院証券監督管理機構が指定する1紙以上の新聞上において行う。公告後は、国内株式の保有者は株主総会の招集通知を受領したとみなされる。総会の招集通知が、これを受領する権利を有する者に対して、偶発的要因のために送付されずまたは当該者により受領されなかった場合でも、総会における手続は無効にならない。

以下の事項は、株主総会において普通決議により決議される。

- ・ 取締役会および監査役会の業務報告
- ・ 取締役会が作成した利益処分案および損失処理案
- ・ 取締役会および監査役会の構成員の解任、報酬およびその支払方法
- ・ 当社の年次暫定予算案および確定予算、貸借対照表、損益計算書およびその他の財務書類
- ・ 当社の年次報告書
- ・ 法律、行政規則または当社定款により特別決議による可決を要求される事項以外の事項

以下の事項は、株主総会において特別決議により可決される。

- ・ 株式資本の増資または減資ならびにあらゆる種類の株式、ワラントおよびその他これらに準ずる証券の発行
- ・ 当社自己株式の買受け
- ・ 当社の社債の発行
- ・ 当社の分割、合併、解散および清算
- ・ 当社定款の変更
- ・ 当社による重要な資産の取得もしくは処分、または最後に監査された当社の総資産の30%を超える金額につき、期間1年以内の担保の提供
- ・ 株式報酬の計画
- ・ 法律、行政規則または定款に基づき、当社に重大な影響を及ぼすと考えられ特別決議に諮るべきことが株主総会の普通決議により承認されたその他の事項

#### (i) 株式譲渡



当社の全額払込済のH株式は、定款に従って自由に譲渡可能である。香港証券取引所に上場しているH株式につき、定款に定められる要件を満たさない限り、取締役会は理由を説明することなく譲渡文書の受領を拒否することができる。

株主名簿の各部分の修正または改訂は、株主名簿が管理されている場所の法律に従い行われる。

株主総会開催日前30日間または当社の配当分配のための基準日前5日間は、株式譲渡による株主名簿の変更を行うことができない。

#### (j) 当社自己株式買受けに関する当社の権能

当社定款に従い、当社は登録株主資本を減少させることができる。

当社は当社定款に定める手続に従い、かつ関連政府当局の承認を条件として、以下の場合に発行済株式の買戻しを行うことができる。

- ・ 当社資本の減少のための株式消却
- ・ 当社株式を所有する他社との合併
- ・ 従業員に報酬として分配された場合
- ・ 合併または分割に関する株主総会決議に反対する株主からの要求に基づき当社が買戻す場合
- ・ その他法律および行政規則によって許容される場合

当社は関連政府当局の承認を受けて以下のいずれかの方法により株式を買戻すことができる。

- ・ 当社のすべての株主に対するその持分に応じた株式の買戻しの申出
- ・ 証券取引所における公開取引による株式の買戻し
- ・ 相対取引による株式の買戻し
- ・ 中国國務院証券監督管理機構により承認されたその他の方法

相対取引により当社株式を買戻す場合、当社定款に従い株主の事前の承認を得なければならない。当社は、同様の方法により株主の事前承認を得ることによって、締結した契約に基づく当社の権利を解除し、変更しまたは放棄することができる。

当社株式を買戻すための契約は、当社株式の買戻義務を負担する契約または買戻権を取得する契約を含むが、これらに限られない。当社株式の買戻契約に基づく当社の権利を譲渡することはできない。

当社が、定款第28条第1項、第2項および第3項に定められる状況において当社株式を取得する場合、株主総会決議によらなければならない。当社が第28条に従い当社株式を取得した後、第1項に定められる状況に該当する場合、取得株式は取得日から10日以内に消却され、第2項および第4項に定められる状況に該当する場合、取得株式は6ヶ月以内に譲渡または消却されるものとする。

当社が第28条第3項に従い当社株式を取得した後、取得株式は当社の発行済株式総数の5%を超えてはならず、取得に要した資金は当社の税引後利益から控除される。取得株式は1年以内に従業員に譲渡される。当社登録株主資本は、消却された当社株式の額面総額分減少する。

当社が会社清算手続中でない限り、当社は当社発行済株式の買戻しに関連し、以下の事項を遵守しなければならない。

- ・ 当社が額面金額で当社株式を買戻す場合、その支払は当社の帳簿上の分配可能剰余金またはかかる目的上新規発行される株式の手取金からなされなければならない。
- ・ 当社が額面金額に割増金を付した額で当社株式を買戻す場合、その支払は、額面金額分の支払については当社の帳簿上の分配可能剰余金またはかかる目的上新規発行される株式の手取金からなされるものとする。額面金額を超過する部分についての支払は、以下のとおりとする。( )買戻される当社株式が額面金額で発行されていた場合には、かかる支払は当社の帳簿上の分配可能剰余金からなされるものとする。( )買戻される当社株式が額面金額を超過する価額で発行されていた場合には、かかる支払は当社の帳簿上の分配可能剰余金またはかかる目的上新規発行される株式の手取金からなされるものとするが、新規発行株式の手取金から支払われる金額は買戻された当社株式につき、当社が発行時に受領した額面超過金総額を上回ってはならず、またその時点における当社の株式払込剰余金勘定(新規発行株式の額面超過金を含む。)の金額を上回ってはならない。
- ・ 当社による( )当社株式の買戻権取得のための支払、( )当社株式の買戻契約の変更に基づく支払および( )当社株式の買戻契約に基づく当社の債務の免除に関する支払は、当社の分配可能利益からなされるものとする。



- ・ 当社の登録株主資本が関連条項に従って消却済株式の額面総額分減じられた後、買戻された当社株式の額面金額部分の支払のために当社分配可能利益から控除された金額は、当社の株式払込剰余金勘定に振り替えられる。

#### (k) 当社子会社が当社株式を保有する権限

当社定款に、当社子会社による当社株式の保有を禁ずる条項はない。

#### (l) 配当およびその他の利益分配方法

当社は配当を現金または株式により分配することができる。

当社の利益配当政策の基本原則は、(1) 当社は、投資家に対して還元することを重視し、株主に帰属する純利益の一定の割合を、毎年株主に対して配当し、当社は、利益を分配する場合、適宜の手段により少数株主の意見を聴取しなければならない。(2) 当社の利益配当政策は、一貫性があり、かつ安定的なものでなければならず、同時に当社の長期的な利益、株主全体の利益および当社の持続可能な発展を考慮に入れたものでなければならない。(3) 当社は現金によって利益配当を行うことを優先事項とする。

当社の利益配当政策は以下のとおり定められている。

- ・ 利益配当の形式：当社は、現金、株式または現金および株式を組み合わせる形式で利益を配当することができる。業績が好調な場合には、当社は中間配当を分配することができる。
- ・ 現金配当の状況および割合：当社の通常の営業に重大な悪影響を及ぼしうる特別な状況がない限り、当社の当期利益および未分配利益がプラスであれば、取締役会の決定するところにより、現金で利益配当が行われるものとする。現金配当の形で分配される利益は、株主に帰属する純利益の35%を下回ってはならない。
- ・ 当社が配当に代えて株式を発行できる条件：当社が健全な経営状態にあり、取締役会が、当社の株価が当社の資本の規模を反映しておらず配当に代えて株式を発行することが株主全体の利益になると考える場合、現金配当に関する上記の条件が満たされている限り、配当に代えて株式を発行する旨の提案を行うことができる。

国内株式保有者に対する当社の配当およびその他の支払は、人民元で計算のうえ宣言され、支払われる。外国投資株式保有者に対するかかる支払は、人民元で計算のうえ宣言され、当該外国投資株式が上場されている地域の現地通貨によって支払われる（かかる株式が2ヶ所以上で上場されている場合には、取締役会が定める主要な上場場所の現地通貨による。）。

当社は、H株式の保有者のために受取代理人を任命する。かかるH株式の保有者のために任命された受取代理人は、当社が宣言した配当およびかかる株主に支払われるその他すべての金員を、かかる保有者に代わって受領する。H株式の保有者のために任命された受取代理人は、香港受託者政令に基づく信託会社として登録された会社とする。

H株式の保有者に支払われるべきものとして宣言された配当が、配当を支払うべき日から6年経過しても請求されない場合、当該配当は失効し、当社に返還される。

#### (m) 代理人

当社の総会に出席しかつ議決権を行使できる株主は、自らに代わって出席しかつ議決権を行使する代理人として、1名以上の者（株主であるか否かを問わない。）を指名する権利を有し、指名された代理人は、以下の権利を有するものとする。

- ・ 株主と同等の総会における発言権
- ・ 投票による採決を要求しまたは共同で投票による採決を要求する権利
- ・ 挙手または投票により議決権を行使する権利。ただし、2名以上の代理人を指名した株主の議決権代理人は、投票によってのみ議決権を行使できるものとする。

代理人を指名する議決権委任状は、指名者または書面により正式に権限を付与された指名者の代理人の署名を付した書面によるものとし、指名者が法人である場合は、社印を押捺するか取締役または適法に授權された代理人が署名を行うものとする。代理人を指名する議決権委任状および公証人による認証を受けた指名権委任状またはその他の授權書の謄本（指名者に代わって指名権委任状またはその他授權書を受けた者が議決権委任状に署名した場合は、代理人が決議を行う総会の開催時刻または決議案の承認の予定時刻の24時間以上前に、当社所在地、または当該目的のために総会の招集通知に指定されたその他の場所に届出るものとする。

指名者が法人である場合、当該法人の法律上の代表者、または当該法人の取締役会もしくはその他の経営機関の決議により代理人として行為する権限を付与された者は、指名者の代理人として当社の株主総会に出席することができる。

総会に出席して議決権を行使する代理人を当社の株主が指名するための書式として、取締役から株主に対して発行される書式は、株主が自らの意思に基づいて、代理人に対して、総会で決議される議案に対する賛否の指示ができるものでなければならない。当該書式には、株主からの明示的な指示がなければ、代理人が適当であると思料するとおりに賛否の意思を表示できる旨を記載しなければならない。

議決権委任状の条件に従って付与された議決権は、指名者の事前の死亡もしくは能力の喪失にかかわらず、または代理権もしくは代理権の授権権限の取消しにかかわらず、または代理権が与えられた株式の譲渡にかかわらず、有効であるものとする。ただし、当社がかかる代理権が行使される総会の開会に先立ち、上記の死亡、能力喪失、代理権の取消または株式の譲渡について書面による通知を当社所在地において受領していない場合に限る。

#### (n) 株式払込請求および失権手続

当社定款に、株式払込請求および失権手続に係る条項はない。

#### (o) 株主の権利（株主名簿閲覧の権利を含む。）

当社の普通株式の株主は以下の権利を享受する。

- ・ 保有株式数に応じて配当その他分配を受領する権利
- ・ 株主総会の申出、招集、議長への就任、出席、出席する代理人の指名、または株主総会における投票を行う権利
- ・ 当社の事業運営に関し監督管理する権利、および提案または質問を提起する権利
- ・ 法律、行政規則および当社定款の条項に従い株式を譲渡、贈与または質入れする権利
- ・ 以下の権利を含む、当社定款の条項に従い関連情報を入手する権利：( )費用を支払うことによって、当社定款の写しを取得する権利および( )合理的な範囲の金額を支払うことにより、以下の書類を閲覧し複写する権利：(a)株主名簿の全部、(b)当社の取締役、監査役、総裁、その他上級役員各人の個人情報（(1)現在の氏名および通称ならびに過去の氏名および通称(2)主たる住所(居住地)(3)国籍(4)主たる職業その他非常勤での職業(5)身分証明書類およびその番号を含む。）、(c)当社の株式資本の状況に関する報告書、(d)直近の会計年度末以降当社が買戻した株式の種類毎の数、額面総額、株式総数、最高支払価格および最低支払価格ならびにかかる目的で当社が支払った総額を示す書類、(e)株主総会議事録、(f)半期報告書および年次報告書、(g)所管する工商行政管理局または他の関係当局に対して既に提出した直近の年度の申請書の様式、(h)特別決議、(i)社債券の控え、(j)取締役会の決議結果、(k)監査役会の決議結果ならびに(l)財務会計報告書
- ・ 当社が解散または清算された場合、所有する株式数に応じて当社の残余財産の分配に参加する権利
- ・ 当社の合併または分割に関する株主総会決議に反対する株主は、その保有する株式を当社が買取るよう要求することができる。
- ・ 法律、行政規則、省庁規則および当社定款により付与されたその他の権利

#### (p) 株主総会および別個の種類総会の定足数

当社は、株主総会の開催日の20日前までに受領した、総会に出席する意思を表す通知を送付した株主の議決権付株式数が、当社の議決権付株式総数の2分の1以上となった場合に株主総会を開催することができ、かかる要件を満たさない場合には、総会の開催日の15日前から20日前までの間に総会の詳細を公告することにより、株主総会を開催することができる。

当社は、種類株主総会の開催日の20日前までに受領した総会に出席する意思を表す通知を送付した株主の議決権付株式数が、当該種類の議決権付株式総数の2分の1以上となった場合に、種類株主総会を開催することができ、かかる要件を満たさない場合には、総会の開催日の15日前から20日前までの間に総会の詳細を公告することにより、種類株主総会を開催することができる。

#### (q) 詐欺的行為または強迫に関する少数株主の権利

法律もしくは行政規則により課される義務または当社株式が上場している証券取引所により要求される義務に加えて、支配株主は、当社の株主全員または一部の利益を侵害する方法により下記の事項に関する議決権を行使してはならない。

- ・ 取締役または監査役を当社の最善の利益のために誠実に行動する義務から免除すること
- ・ 方法の如何を問わず、取締役または監査役が（本人または他者の利益のために）当社資産（当社にとって利益となる機会を含むがこれに限らない。）を奪取することを承認すること

- ・ 取締役または監査役が(本人または他者の利益のために)他の株主の個別の権利を剥奪することを承認すること。かかる権利には分配の権利および議決権を含むがこれに限られない。ただし当社定款に従って株主総会の承認を受けるために提出された再編案に基づく場合を除く。

上記において、「支配株主」とは以下の条件のいずれか1つを満たす者を意味する。

- ・ 単独でまたは他者と共同で取締役の過半数を選任する権利を有する者
- ・ 単独でまたは他者と共同で当社の議決権の30%以上を行使する権限またはかかる行使を支配する権限を有する者
- ・ 単独でまたは他者と共同で当社の発行済株式の30%以上を所有する者
- ・ 単独でまたは他者と共同でその他の方法で当社を事実上支配する者

上記「第一部-第1-1-(2)-(c)既存株式または種類株式の権利の変更」の項目をあわせて参照のこと。

## (r) 清算手続

当社は、以下のいずれかの事由が発生した場合、解散し、清算される。

- ・ 株主総会において解散決議が可決された場合
- ・ 当社の合併または分割に伴い解散が必要となった場合
- ・ 営業許可が取消された場合、当社は法律に従い閉鎖または解散を命じられる。

当社の事業経営に深刻な困難が生じた場合、または当社の存続により株主の利益が著しく侵されこれを解決する方法がない場合、当社の議決権付株式の10%超を保有する株主は、人民法院に当社の解散を要求することができる。

取締役会が当社による支払不能宣言以外の理由によりその清算を提案する場合、当該提案を審議するために招集する株主総会の通知には、当社の業務を精査した結果、取締役会は、当社が清算開始から12ヶ月以内にその負債を全額弁済できると判断している旨を記載しなければならない。

当社の清算決議が株主総会により可決された時点で、取締役会のすべての職務および権限は停止する。

清算委員会は、株主総会の指示に従い、少なくとも毎年1回は株主総会に対し、同委員会の収支、当社の事業および清算の進捗状況について報告し、清算終了に際し株主総会に対し最終報告を提出すべく行為する。

## (s) 当社および当社株主にとって重要なその他の条項

### 総則

当社は存続期限の定めのない株式有限会社である。

当社定款の発効日より、当社定款は、当社の組織および活動ならびに当社と各株主の間の権利および義務、さらに株主間の権利および義務を規律する法的拘束力を有する文書となる。

当社は他の有限責任会社または株式有限会社に投資することができる。投資先に対する当社の責任は当該投資先への拠出額に限定される。

中国国務院より授権された会社認可機関の承認により、当社は、その事業上および経営上の必要性に応じて、持株会社としての権能を果たすことができる。

当社はその業務上および開発上の必要性から、当社定款の関係条項に基づき、増資を承認することができる。

当社は以下の方法により増資することができる。

- ・ 株式公募
- ・ 公募に該当しない株式募集
- ・ 当社既存株主に対する株式の無償分配
- ・ 当社の準備金の株式資本への転換
- ・ 法律および行政規則に定められた、また中国国務院証券監督管理機構により認可されたその他の方法

新株式発行による当社の増資は、当社定款の条項に従って承認された後、関連する法律および行政規則に定める手続に従って行われる。

法律および行政規則に別段の定めがある場合を除き、当社の株式は、一切の負担に服することなく、自由に譲渡可能である。

当社はその登録株式資本を減少させる場合には、貸借対照表および資産目録を作成しなければならない。当社は、当社の債権者に対して、当社が減資を決議した日から10日以内に通知し、かつ、かかる決議日から30日以内にかかる旨を新聞紙上で公告する。債権者は当社から通知を受領後30日以内に（かかる通知を受領しなかった債権者の場合、公告掲載日から45日以内に）、当社に対し債務の弁済またはかかる債務に相応の保証の提供を請求する権利を有する。当社の登録資本金は、減資後も法定最低額を下回ってはならない。

当社の普通株式の株主は、以下の義務を負うものとする。

- ・ 法律、行政規則および当社定款を遵守すること
- ・ 引受株式数および引受けの方法に応じて払込金を支払うこと
- ・ 法令に別段の定めがない限り、保有する株式を当社に返還しないこと
- ・ 普通株式の株主は、当社または他の株主の利益を侵害するためにその権利を悪用してはならず、当社の債権者の利益を侵害するために当社の法人としての独立性および株主の有限責任を悪用してはならない。株主がその権利を悪用し当社または他の株主に損害を生じさせた場合、かかる株主は法律に基づき補償する責任を負う。株主が当社の法人としての独立性および株主の有限責任を悪用しまたその責任を回避し、当社の債権者の利益を著しく侵害した場合、かかる株主は当社の負債について連帯責任を負う。
- ・ 法律、行政規則および当社定款によって課されるその他のこと

株主は当社の株式引受時に当該株式の引受人が合意した場合を除いて、株式資本にさらに拠出する義務を負わない。

#### 取締役会秘書役

取締役会秘書役は、必要な専門知識および経験を有する自然人とし、取締役会により指名される。取締役会秘書役の主な責務は、以下の事項を含むが、これらに限られない。

- ・ 当社の書類および記録の完備を確実にすること
- ・ 取締役会および株主総会のための文書の整理および作成につき責任を有すること、会議の議事録を作成すること、ならびに会議方針が法的手続に従ったものであることを確実にすること
- ・ 株主名簿が適切に管理されていることを確実にすること、ならびに当社の記録および書類を入手する資格を有する者が適時にそれらの書類および記録を入手できることを確実にすること
- ・ 情報開示を取りまとめ、調整する責任を有すること、当社の情報開示が適時に、正確に、適法に、誠実におよび完全になされていることを確実にすること、ならびに投資家との関係を調整し、当社の透明性を高めること
- ・ 当社が関連する法律および当社株式が上場している証券取引所の上場規則を遵守するように助力すること

#### 監査役会

当社は監査役会を有するものとする。当社の取締役、当社の総裁、および当社の上級管理職は、監査役を兼務してはならない。監査役会は、3名の監査役から構成されるものとする。監査役会の構成員のうち、1名が会長を務める。各監査役の任期は3年とし、再選および再任により更新することができる。監査役会の会長の選任または解任は、監査役会構成員の3分の2以上の賛成により決定される。監査役会の決定は3分の2以上の監査役の賛成による。監査役会の会長は監査役会の機能および権限をとりまとめの上、行使する。

監査役会は、株主の代表者2名ならびに当社職員および従業員の代表者1名によって構成される。株主の代表者は株主総会において選任および解任される。当社職員、従業員の代表者は、当社職員、従業員によって民主的な手続によって選任および解任される。

監査役会は、株主総会に対して報告義務を有し、法律に従って以下の権限を行使する。

- ・ 取締役会が作成した当社の定期報告書を検討し、書面により意見を述べる。
- ・ 当社の財務状態を調査する。
- ・ 取締役、総裁およびその他の上級管理職による業務遂行を監視し、法律、行政規則、当社定款または株主総会決議に違反した取締役、総裁およびその他の上級管理職の解任を提案する。
- ・ 当社の取締役、総裁およびその他の上級管理職の行為により当社の利益の侵害がある場合、かかる者に行為を正すよう要請する。
- ・ 取締役会が株主総会に提出する財務書類、事業報告および利益処分案等の財務情報を検討し、検討中にそれらについて疑義が生じた場合、当社を代表して公認会計士または実務を積んでいる監査人を確保し補佐する。

- ・ 臨時株主総会の開催を提案し、取締役会が中国会社法に基づく株主総会を招集し議長を務める義務を履行しない場合、株主総会を招集し議長を務める。
- ・ 当社を代表して取締役と交渉する、または中国会社法第152条に基づき取締役、総裁およびその他の上級管理職に対して訴訟を提起する。
- ・ 株主総会において提案を行う。
- ・ 当社の経営に異常事態が発生した場合、調査を行う。
- ・ 当社の定款に明示されたその他の権限を行使する。

監査役は取締役会に出席し、取締役会でなされた提案について質問または提言する。

#### 当社の総裁

当社は、1名の総裁を有するものとし、取締役会がこれを任命および解任する。総裁の各任期は3年とし、連続した任期について再任することができる。当社の総裁は、取締役会に対して報告義務を有し、以下の権限を行使する。

- ・ 当社の運営および経営の責任者となり、取締役会の決議の実施を計画する。
- ・ 当社の毎年の経営計画および投資計画の実施を計画する。
- ・ 当社の内部経営組織確立案を作成する。
- ・ 当社の基本的経営体制を立案する。
- ・ 当社の基本規定および規則を策定する。
- ・ 副総裁および最高財務責任者の任命または解任を提案する。
- ・ 取締役会による任命または解任が要求される者以外の経営陣の任命または解任を行う。
- ・ 当社の従業員の給料、福利厚生および賞罰に関する制度を立案する。
- ・ 当社の従業員の雇用および解雇について決定する。
- ・ 臨時取締役会の招集を提案する。
- ・ 会社が他の企業に対する投資または他の者に対する保証をしない限り、前年度の当社の監査済純資産価額の5%を超えない額の契約、取引および取決めにに関する意思決定を行う。
- ・ 当社定款または取締役会により付与されたその他の権限を行使する。

当社の総裁は、取締役会に出席しなければならないが、取締役でない総裁は、同取締役会において議決権を有しない。

当社の総裁は、誠実かつ勤勉に、法律、行政規則および当社定款に従って、その職務を遂行し、権限を行使しなければならない。

#### (t) 取締役会

取締役会は、株主総会に対して責任を負い、以下の各号の権限を行使する。

- (1) 株主総会の招集につき責任を負い、株主総会に自らの業務について報告する。
- (2) 株主総会における決議を実施する。
- (3) 当社の事業計画および投資計画を決定する。
- (4) 当社定款第106条および「中国神華能源股份有限公司の取締役会規則および手続」に別段の定めがある場合を除き、前年度の当社の監査済純資産価額の30%を超えない額の契約、取引および取決めにに関する意思決定を行う。
- (5) 当社の年次予算案および決算を編成する。
- (6) 当社の利益処分案および損失填補案を策定する。
- (7) 当社の登録資本の増減に関する案ならびに当社の社債またはその他の債券の発行および上場に係る案を策定する。
- (8) 当社による大規模な買収および株式の買戻しの計画ならびに当社の合併、会社分割、解散または組織変更に係る計画を策定する。

- (9) 株主総会の権限の範囲内で、当社の外部投資、資産の購入または処分、資産の担保、外部保証、資産管理の委託および関連当事者間取引ならびにその他の事項について決定する。
- (10) 当社の内部管理体制の確立を決定する。
- (11) 当社の総裁および取締役会秘書役の選任または解任および総裁の提言に基づく他の上級役員の選任または解任、ならびにそれらの者の報酬、褒賞および懲罰を決定する。
- (12) 当社の基本的経営体制を策定する。
- (13) 当社定款の変更に係る案を策定する。
- (14) 当社の情報開示を管理する。
- (15) 当社の監査を実行する会計事務所の任命もしくは変更を株主総会に提案する。
- (16) 総裁の執務状況の報告を聴取し、その執務状況につき監督する。
- (17) 法令および当社株式が上場している証券取引所の上場規則ならびに株主総会により付与されるその他の権限を行使する。

関連する法律、行政規則および定款に定められる場合を除き、取締役会が本項に記載された上記の事項を決定する場合、関連する提案の可決には全取締役の過半数の承認が必要である。ただし、当社の登録株式資本の増減計画に関する提案、社債の発行計画、当社の合併、分割および解散の計画ならびに定款変更については全取締役の3分の2以上の承認が必要である。

組織再編および開発の指示、主要な目標ならびに当社の優先的運営管理等の重要な事項に関する意思決定を行う際、取締役会は党組または党委員会に助言を求めるものとする。取締役会が当社の経営陣を選任するときは、党組または党委員会は、取締役会または総裁が指名した経営陣の候補者につき検討し所見を述べるか取締役会および/または総裁の候補者を推薦するものとする。

取締役会は、少なくとも毎年4回以上開催されるものとし、取締役会会長により招集されるものとする。すべての取締役および監査役に対して、取締役会開催日の10日前までに開催の通知がなされなければならない。議案の内容を問わず、会長、副会長、取締役会の3分の1超の構成員、過半数の独立非業務執行取締役、監査役会、総裁または議決権の10分の1超を表章する株主による要請があれば、臨時取締役会を開催することができる。

取締役会は、取締役会の過半数が出席する場合に限り開催される。各取締役は1議決権を有する。ある決議に対する賛成票と反対票が同数である場合、取締役会会長が決定権を有するものとする。

#### 取締役会議長

**取締役会議長は、会社が他の企業に対する投資または他の者に対する保証を行わない限り、前年度の当社の監査済純資産価額の10%を超えない額の契約、取引および取決めにに関して意思決定を行う権限を有する。**

#### 会計および監査

##### 監査人の選任

当社は、当社の年次財務書類を監査し、当社の他の財務報告書を調査する、中国および香港の関連規則に基づいて資格を有する独立の監査人を選任しなければならない。当初の監査人は、第1回定時株主総会より前の当社の設立総会において、選任することができ、そのように選任された監査人は、第1回定時株主総会の終了時まで在任しなければならない。設立総会において前述の権限が行使されなかった場合には、取締役会がこれを行行使しなければならない。

当社が選任する監査人は、選任された定時株主総会の終了時から次の定時株主総会の終了時まで在任する。任期は満了後に更新することができる。

株主総会が招集される前に、監査人につき偶発的に欠員が生じた場合、取締役会はこれを補充することができるが、かかる状況が存続する期間中、存続または継続している事務所がある場合には、かかる事務所が行為を継続することができる。

株主は株主総会において、当社と会計事務所との間の契約の規定にかかわらず、当該会計事務所をその任期満了前に普通決議によって解任することができる。ただし、かかる解任による損害（もしあれば）につき会計事務所による賠償請求権を妨げない。

公認会計事務所の報酬またはかかる公認会計事務所が報酬を受ける方法は、株主総会において株主により決定される。取締役会により選任された公認会計事務所の報酬は、取締役会により決定される。

## 会計事務所の変更および解任

当社による公認会計事務所の選任、解任または不再任は、株主総会において株主により決議される。株主総会において、公認会計事務所の偶発的な欠員を補充するために、在任中の会計事務所以外の公認会計事務所を選任する決議、偶発的な欠員を補充するため取締役会が選任した退任後の会計事務所を再任する決議または任期満了前に会計事務所を解任する決議が提案される場合には、以下の規定が適用される。

- ・ 総会通知が株主に付与される前に、提案の写しが、選任もしくは退任が提案されている会計事務所または退任した会計事務所に送付されなければならない（ここで退任とは、解任、辞任および退職を含む。）。
- ・ 退任する会計事務所が書面による表明をなし、当社に対しておかざる表明を株主に対して通知するよう要求した場合には、当社は、かかる表明の受領が遅すぎない限り、（ ）株主に付与される決議通知の中に表明がなされた事実を記載し、かつ（ ）かかる表明の写しを通知に添付して、これを当社定款に規定される方法により株主に送付する。
- ・ 当社が前項に記載する方法により会計事務所の表明を送付しなかった場合、当該会計事務所は、当該表明を株主総会において読み上げることを要求し、さらに不服を申し立てることができる。
- ・ 退任する公認会計事務所は、（ ）その所定の任期が満了するはずであった株主総会、（ ）その解任により発生した欠員を補充する提案がなされる株主総会および（ ）その解任について招集された株主総会に出席する権利を有し、これらの株主総会に係る一切の通知その他の通信文書を受領し、かかる株主総会において当社の元会計事務所としてのその役割に関する事項につき発言する権利を有する。

## 会計事務所の辞任

公認会計事務所がその職務を辞任する場合には、当社の側に不適切な事由が存在したか否かにつき株主総会に対して明確にしなければならない。

公認会計事務所は、当社の法律上の所在地において辞任通知を提出することにより辞任することができ、その効力は提出日またはかかる通知に記載されているそれ以降の日に発生する。かかる通知には以下のいずれかの事項が記載される。

- (1) 辞任に関して当社の株主または債権者に通知すべきと考える事由が存在しない旨の記述
- (2) 辞任に関して当社の株主または債権者に通知すべきと考える事由に関する記述

上記の通知が提出された場合、当社はかかる通知の受領後14日以内に当該通知の写しを関連政府当局に送付する。かかる通知に、上記(2)に従った記述が含まれている場合、かかる記述の写しは、当社の登記上の本社において株主の縦覧に供される。また、当社は、かかる記述の写しを料金前払郵便でH株式の各株主の株主名簿上の登録住所に宛てて送付する。

会計事務所の辞任通知に、当社の株主もしくは債権者に通知すべき事由の記述が含まれている場合、公認会計事務所は、取締役会に対し、辞任に関する事由を説明することを目的として臨時株主総会を招集することを要求できる。

## (u) 紛争解決

当社定款に基づき、または中国会社法もしくは当社の業務に係るその他の関連する法律および行政規則により付与された権利または課された義務に基づき、H株式の保有者と当社との間、H株式の保有者と当社の取締役、監査役、総裁もしくはその他の上級役員との間、またはH株式の保有者と国内株式の保有者との間で発生した紛争もしくは請求は、関係当事者により仲裁に付される。

申立人は、その仲裁を、中国国際経済貿易仲裁委員会において、その規則に従い実施するか、または香港国際仲裁センターにおいてその証券仲裁規則に従い実施するかを選択することができる。申立人が紛争または請求を仲裁に付した場合、被申立人は申立人が選択した仲裁機関に従わなければならない。

申立人が香港国際仲裁センターにおける仲裁を選択した場合、その紛争または請求に係るいずれの当事者も、香港国際仲裁センターの証券仲裁規則に従い深センで審理を行うよう申請することができる。

紛争または権利の請求が仲裁に付される場合、法律および行政規則に別段の定めがない限り、中国法が適用される。

紛争または権利の請求が仲裁に付される場合には、その請求または紛争の全部が仲裁に付されなければならない、紛争もしくは請求を発生させた同一の事実に基づく請求原因を有し、またはかかる紛争もしくは請求の解決のために参加が必要とされるすべての当事者は、かかる当事者が当社または当社の株主、取締役、監査役、総裁もしくはその他の上級役員である限り、その仲裁に従うものとする。株主の身元に係る紛争および株主名簿に関する紛争は仲裁に付託する必要はない。

仲裁機関の判断は、最終的かつ確定的であり全当事者を拘束する。



## 2【外国為替管理制度】

中国の法定通貨は人民元であり、外国為替管理の対象となっており、外国為替に自由に交換することができない。中国人民銀行の権限下にある国家外為管理局は、外国為替管理規則の執行を含む、外国為替に関連する一切の事項を管理する機能を付与されている。

1993年12月31日以前においては、外貨管理に割当方式が採用されていた。外貨を必要とする企業は、中国人民銀行またはその他の指定銀行を通じて人民元を外貨に交換する前に、国家外為管理局の地方事務局より割当を取得することを求められた。かかる交換は、国家外為管理局が毎日指定する公式レートに基づき行われることを要した。人民元は、スワップ・センターにおいても外貨に交換することができた。スワップ・センターにおいて用いられた交換レートは、主として外貨の需要および供給ならびに中国の企業による人民元の要求により決定された。スワップ・センターにおける外貨の売買を希望する企業はいずれも、最初に国家外為管理局の承認を取得しなければならなかった。

1993年12月28日、中国国務院の権限下にある中国人民銀行は、1994年1月1日発効の外貨管理システムの追加的改正に関する中国人民銀行の通知（以下「本件通知」という。）を公表した。本件通知において、外国為替の割当方式の廃止、經常勘定項目における人民元の条件付交換の実施、銀行による外国為替の決済および支払システムの確立、ならびに人民元の公式交換レートおよびスワップ・センターの人民元の市場交換レートの統一を発表した。1994年3月26日、中国人民銀行は、外国為替決済、売却および支払管理暫定規則（以下「本件暫定規則」という。）を公表した。本件暫定規則は、中国の企業、経済組織および社会組織による外国為替の売買を規制する詳細な規定を定めている。

1994年1月1日より、人民元についての従来の二重為替相場制は廃止され、需要および供給により決定される管理変動相場制となった。中国人民銀行は、毎日、人民元対米ドルの為替レートを設定し、公表する。この為替レートは、前日の銀行間外国為替市場における人民元および米ドルの取引価格を参照して決定される。また、中国人民銀行は、国際外国為替市場の交換レートを参照して、他の主要通貨に対する人民元の交換レートを公表する。外国為替取引において、指定外国為替銀行は、中国人民銀行が公表した交換レートに従い、一定の範囲内で適用交換レートを自由に決定することができる。

1996年1月29日、中国国務院は、1996年4月1日発効の新しい中国外国為替管理規則（以下「外国為替管理規則」という。）を公布した。外国為替管理規則は、すべての国際的支払および移転を經常勘定項目および資本勘定項目に分類する。經常勘定項目の大部分は、資本勘定項目とは異なり、もはや国家外為管理局の承認を得る必要がない。外国為替管理規則は、その後、1997年1月14日および2008年8月1日に改正された。これら2回の直近の改正により、中国は国際的な經常勘定の支払および移転に制限を課さないことが明確にされた。

1996年6月20日、中国人民銀行は、1996年7月1日発効の外国為替決済、売却および支払管理規則（以下「決済規則」という。）を公表した。決済規則は、本件暫定規則に優先し、經常勘定項目に関する外国為替の交換について残存する規制は廃止された。ただし、資本勘定項目に関する外国為替取引については、継続して既存の制限が適用される。決済規則に基づいて、中国人民銀行は、外資系企業による銀行での外国為替決済および売却の実施宣言（以下「本件宣言」という。）を行った。本件宣言は、外資系企業に対して、その必要性に基づいて、經常勘定における外国為替の受領および支払のための外国為替決済口座ならびに指定外国為替銀行での資本勘定における外国為替の受領および支払のための特別口座を開設することを許可した。

1998年10月25日、中国人民銀行および国家外為管理局は、1998年12月1日発効の外国為替スワップ事業中止に関する通知を公表した。これに従って、外資系企業を対象とした中国における外国為替スワップ事業はすべて中止され、外資系企業による外国為替取引は、外国為替の決済および売却のための銀行制度の下で行われることとなった。

中国人民銀行は、中国が、2005年7月21日から一連の通貨を参照して規制および管理された市場の需給に基づく変動為替相場制を導入する旨発表した。人民元の為替相場は、もはや米ドルのみに固定されなくなる。中国人民銀行は、銀行間外国為替市場で取引された人民元に対する米ドル等の外貨の終値を、各取引日の市場終了後に発表し、それを翌取引日の対人民元取引の主要パリティとする予定である。2016年6月15日付で、国家外為管理局は、資本項目の人民元転の改革及び規範化に関する政策についての通知を公布した。本通知の発効以後、中国国内の組織、中国資本または外国資本の企業（ただし金融機関を除く。）は、各自の裁量において各自の対外債務につき人民元転の手続を行うことができる。国家外為管理局は、中国国内の機関による資本項目に基づく外国為替収入の裁量決済に関する政策を統一し、外国為替当局による不正の事後的監視および調査をさらに強化した。

強制決済システムは外国為替管理規則の直近の改正により廃止された。中国企業（外資系企業を含む。）の經常勘定取引から生じたすべての外貨収入は、会社自身により留保または関連規則に従って外国為替の決済または販売業務を行う金融機関に売却することができる。領土外で組織が行った借入れまたは債券および株式の発行による外国為替収入（例えば、当社が海外における株式売却により受領した外国為替収入）もまた、外国為替決済または販売業務を行う金融機関に対する売却を要求されないが、外国為替業務を行う金融機関の外国為替口座に預託されることがある。

經常勘定項目に関する取引のため外国為替を必要とする中国企業（外資系企業を含む。）は、国家外為管理局の承認を得ることなく、有効な受領および証明により、外国為替業務を行う金融機関において外国為替口座からの支払を行うことができる。株主に対する利益配当のために外国為替を必要とする外資系企業および規則に基づき株主



に対して外国為替による配当を行うことが要求される中国企業（当社を含む。）は、利益配当に関する取締役会の決議により、その外国為替口座からの支払、または外国為替業務を行う金融機関における交換および支払を行うことができる。

資本勘定項目に関する外国為替の交換は、直接投資および資本抛出と同様に、中国国務院の国家外為管理局における登録手続の対象となり、また、関連する国家規則により定められている場合には、登録手続を行う前に、関連部門の事前承認の取得の申請をするかまたは記録のための報告を完了していなければならない。

H株式の保有者に対する配当は、人民元建てで宣言されるが、香港ドル建てで支払わなければならない。

### 3【課税上の取扱い】

#### (1) 株主に対する課税

以下は、グローバル・オファリングに関連してH株式を購入し、これを資本資産として保有する投資家が当該H株式を保有することによる、中国および香港における一定の課税上の取扱いについての概要である。この概要は、H株式を保有することによる重要な課税上の取扱いをすべて網羅することを企図するものではなく、また特定の投資家の個々の状況を考慮するものではない。この概要は、本書作成日現在効力を有する中国および香港の税法に基づいており、今後変更される（または解釈が変更される）可能性があり、かかる変更は遡及的な効果を有することがある。

ここでの議論は、所得税、キャピタルゲイン課税、印紙税および遺産税以外の香港または中国の課税制度について取扱うものではない。投資家になろうとする者は、H株式の保有および処分による中国、香港およびその他の課税上の取扱いについて、各自の税務顧問に相談されたい。

##### (a) 配当に対する課税

###### 中国における課税

###### 個人投資家

1980年中国個人所得税法（1993年10月31日改正・1994年1月1日施行、1999年8月30日および2005年10月27日改正・2006年1月1日施行、2007年6月29日および2007年12月29日改正・2008年3月1日施行ならびに2011年6月30日最終改正・2011年9月1日施行）に基づき、中国の企業により支払われる配当は、一律20%の税率で賦課される中国源泉所得税の課税対象となる。中国に居住していない外国人については、中国における企業から受領した配当は、適用される租税条約により減額されるか、中国国務院の税務当局によって特別に免除されない限り、20%の源泉所得税の課税対象となる。国家税務総局が発行した国税函（2011年第348号）に従い、当社はH株式の個人株主への配当に対する個人所得税を源泉徴収し、支払わなければならない。H株式の個人株主は、自身が居住する国と中国との間で署名された課税協定または中国本土および香港（マカオ）との間の課税方式の規定に従って、関連する税制優遇措置を受ける権利を有する。H株式の個人株主が香港もしくはマカオの居住者である場合または中国と配当に対する税率を10%とすることに合意している国の居住者である場合は、当社は個人所得税を税率10%で源泉徴収すべきものとされる。H株式の個人株主が中国と税率を10%未満とすることに合意している国の居住者である場合は、当社は、課税協定の下で非居住者が納税に関する待遇を享受するための要件を定めた基準（国家税務総局通達第60号[2015]）に従って、関連する合意された税制優遇措置を申請する。H株式の個人株主が中国と10%超20%未満の税率で合意している国の居住者である場合は、当社は実際に合意した税率で個人所得税を支払わなければならない。H株式の個人株主が中国といかなる租税条約も締結していない国の居住者である場合または中国と合意した税率が20%またはそれ以上である場合は、当社は20%の税率で個人所得税を支払わなければならない。

###### 法人投資家

2007年3月16日付で公布され、2008年1月1日付で施行され、2017年2月24日に改正された中華人民共和国企業所得税法（以下「所得税法」という。）、中国国務院により公布され、2008年1月1日付で施行された中華人民共和国企業所得税法实施条例（以下「实施条例」という。）ならびに2008年11月6日付で公布された、国外非居住者企業であるH株の保有者に対して中国居住者企業が支払った配当に対する企業所得税の源泉徴収に関する問題に係る国家税務総局の通知に従って、中国居住者企業は、国外非居住者企業であるH株の保有者に2008年度またはそれ以降に配当を行う場合は、定率10%の企業所得税を源泉徴収するものとする。配当を受取った後、非居住者企業株主は、関連課税条約（協定）のもとで優遇を受けるために、管轄税務当局に申請書を提出することができる。

###### 租税条約

中国における居住者ではなく、中国との間に二重課税の防止に関する租税条約を締結している国に居住している投資家は、中国企業が当該投資家に支払う配当につき課税される源泉所得税の軽減を受けることができる場合があ

る。中国は現在、オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、日本、マレーシア、オランダ、シンガポール、英国および米国を含む多くの国々と二重課税の防止に関する租税条約を締結している。かかる二重課税の防止に関する租税条約に基づいて中国の課税当局により課税される源泉徴収の税率は一般に軽減されている。

## 香港における課税

香港内国歳入庁の現在の慣行に基づき、当社により支払われる配当は、香港においては課税されない。

### (b) キャピタルゲインに対する課税

#### 中国における課税

##### 個人投資家

中国個人所得税法（その後の改正を含む。）および中国個人所得税法施行規定によれば、株式持分の売却により実現された所得は、20%の税率で所得税の課税対象となる。財政部は、中国個人所得税法施行規定に基づいて中国企業の株式の売却により実現された所得に対する個人所得税の課税のための詳細な実施措置を策定する権限を付与されている。しかしながら、今日までかかる実施措置は財政部により公布されておらず、株式の売却により実現した所得に対する個人所得税の課税はなされていない。個人所得税の課税のための詳細な実施措置が策定されれば、関連する二重課税の防止に関する租税条約に従って個人所得税が減額または免除されない限り、外国人には中国個人所得税法（その後の改正を含む。）に従ってキャピタルゲインにより実現された所得に対して、税率20%の個人所得税が課せられる。ただし、中国の課税当局は、H株式上場企業の株式の売却により実現された所得に対して個人所得税を課したことはない。

##### 法人投資家

所得税法および実施条例によると、中国企業の国外株式に関して、中国国内に恒久的施設を持っていない企業から受領するキャピタルゲインには、10%の税率が課せられる。2009年1月9日付で国家税務総局により公布された、非居住会社の所得税に対する源泉徴収の管理に関する経過措置によると、株式譲渡取引における両当事者が非居住会社であり、かかる取引が中国の領土外で行われた場合には、収入を得る非居住会社が、譲渡された株式の中国企業またはその代理人の所在地にある管轄税務当局に税金を支払うものとする。上記の中国企業は、非居住会社からの税徴収に関して税務当局を補佐するものとする。

#### 香港における課税

H株式等の財産の売却によるキャピタルゲインは、香港においては課税されない。香港において取引、専門的職業または事業を営む個人が財産を売却することによって生ずる取引利益は、当該取引、専門的職業または事業によりかかる利益が香港において発生した場合、香港所得税の課税対象となる。香港事業所得税は、現在、法人に対しては16.5%、個人に対しては最大15%の税率で課されている。香港証券取引所におけるH株式の売却による利益は、香港において発生したものとみなされる。したがって、香港において取引、専門的職業または事業を営む個人によって実現されたH株式売却による取引利益については、香港所得税の納税義務が発生する。

### (c) 印紙税

#### 中国における印紙税

中国の株式公開企業の株式譲渡に課される中国印紙税は、1988年10月1日に施行され、2011年1月8日に改正された印紙税に関する中国暫定規則により、中国人以外の投資家による中国国外でのH株式の取得および処分については適用されない。印紙税に関する中国暫定規則には、中国印紙税は、中国国内において作成または受領され、中国において法的拘束力を有し、かつ中国の法律の保護を受ける文書に対してのみ課税される旨が規定されている。

#### 香港における印紙税

香港印紙税は、現在、1,000香港ドルまでは1,000香港ドルにつき1.00香港ドルの税率で、H株式の対価または価値の高さに応じて課税され、H株式の購入者についてはその購入の都度、また売却者についてはその売却の都度、課税される。（すなわち、H株式に関する典型的な売買取引では、1,000香港ドルまでの場合合計2.00香港ドルが課税される。）さらに、現在は5.00香港ドルの固定印紙税が、H株式の譲渡に関する一切の証書に対して課税されている。

当該売却のいずれかの当事者が、香港の居住者ではなくかつ要求される印紙税を支払っていない場合、かかる未払いの印紙税は、譲渡証書（もしあれば）に対して課税され、譲受人がかかる印紙税の納税義務を負うことになる。

## (d) 遺産税

### 中国における遺産税

中国法に基づき、H株式を保有する非中国国民には遺産税が課されない。

## (2) 中国による当社に対する課税

### (a) 法人所得税

2008年1月1日までは、中国法人所得税暫定規定により、中国において設立された株式有限会社を含む法人（外商投資企業を除く。）につき生産および事業から生じた利益およびその他の利益に対して33%の税率（ただし、法令上に規定された租税減免などの特別措置の適用を受ける場合がある。）で法人所得税が課税されることが規定されている。

2007年3月16日付で公布され、2008年1月1日付で施行され、2017年2月24日に改正された中国の新しい所得税法および中国国務院により2007年11月28日付で公布され、2008年1月1日付で施行された施行規則においては、ほとんどの中国企業および外国企業に対し、共通して25%の所得税が課される。

### (b) 付加価値税

1993年12月13日付で公布され、1994年1月1日付で施行され、直近で2017年11月19日に中国国務院により改正された付加価値税に関する中国暫定規則に従って、商品の販売、加工もしくは修理および交換に関する役務の提供、役務、無形資産または不動産および／または中国国内において輸入商品の販売を行う企業は、付加価値税を課され、それを支払うものとする。付加価値税の税率は、取り扱う商品または役務に応じて17%、11%または6%とする。商品を輸出する納税者は、中国国務院が特別に指定する場合を除き、税率は0%とする。

### (c) 上海・香港ストック・コネクトおよび深セン・香港ストック・コネクトを通じた香港証券取引所上場の株式に投資する投資家

上海・香港ストック・コネクトの実験プログラムに関する課税政策に係る通知（財税[2014]第81号）および深セン・香港ストック・コネクトの実験プログラムに関する課税政策に係る通知（財税[2016]第127号）に従って、(1) 上海・香港ストック・コネクトを通じた香港証券取引所に上場されている株式への投資の差額による中国本土に居住する個人投資家の所得は、2014年11月17日から2017年11月16日まで個人所得税を一時的に免除され、深セン・香港ストック・コネクトを通じた香港証券取引所に上場されている株式への投資の差額による中国本土に居住する個人投資家の所得は、2016年12月5日から2019年12月4日まで個人所得税を一時的に免除されるものとする。(2) 上海・香港ストック・コネクトまたは深セン・香港ストック・コネクトを通じた、当社のH株式への投資の差額による中国本土に居住する法人投資家の所得は、総所得に含められ、法人所得税の対象となるものとする。(3) 上海・香港ストック・コネクトまたは深セン・香港ストック・コネクトを通じた当社のH株式への投資により、中国本土に居住する個人投資家および中国本土に居住する株式投資ファンドが受け取る配当金および交付金は、20%の税率で当社が個人所得税を控除する。(4) 上海・香港ストック・コネクトまたは深セン・香港ストック・コネクトを通じた、当社のH株式への投資の配当金および交付金からの中国本土に居住する法人投資家の所得は、総所得に含められ、法人所得税の対象となるものとする。当社は、中国本土に居住する法人投資家の配当金および交付金の所得税を控除しないものとする。

2017年11月17日に施行された、上海・香港ストック・コネクトに対する関連個人所得税政策実施継続の通知（財税[2017]第78号）に従い、2017年11月17日から2019年12月4日まで上海・香港ストック・コネクトでの投資により、中国本土に居住する個人投資家が香港証券取引所に上場している株式の取引で得た売買差益は個人所得税が引き続き一時的に免除される。

## (3) 日本における課税

「第一部-第8-2-(7)日本における課税」を参照のこと。

#### 4【法律意見】

当社の中国における法律顧問であるKing & Wood Mallesonsにより、大要下記の趣旨の法律意見書が関東財務局長宛てに提出されている。

- ( ) 当社は、中国法に基づく株式会社として適法に設立され、かつ有効に存続している。当社は独立した法人としての地位を有する。
- ( ) 本書を関東財務局長に提出することについて、当社による適法な授権がなされている。当社の取締役会会長であるリン・ウェンに対して、当社を代表して本書およびその訂正報告書を作成しこれらを提出するため、委任状を作成することにつき、適法な授権がなされている。
- ( ) 本書に含まれる中国の法令に関するすべての記述は、すべての重要な点において真実かつ正確である。

## 第2【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## 連結経営指標等（注1）

（単位：別段の記載がない限り百万人民元）

（下段の括弧内の数値は別段の記載がない限り単位：百万円）（注2）

回次	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
決算年月	2013年12月	2014年12月	2015年12月	2016年12月	2017年12月
売上高	289,230 (4,911,125)	253,081 (4,297,315)	177,069 (3,006,632)	183,127 (3,109,496)	248,746 (4,223,707)
営業利益 <sup>(注3)</sup>	72,072 (1,223,783)	64,722 (1,098,980)	37,657 (639,416)	46,444 (788,619)	75,499 (1,281,973)
当社株主に帰属する当期純利益	45,706 (776,088)	39,301 (667,331)	17,649 (299,680)	24,910 (422,972)	47,795 (811,559)
当社株主に帰属する資本	280,113 (4,756,319)	300,698 (5,105,852)	298,068 (5,061,195)	316,975 (5,382,236)	305,541 (5,188,086)
総資産	525,326 (8,920,035)	550,872 (9,353,807)	559,791 (9,505,251)	576,729 (9,792,858)	571,602 (9,705,802)
基本的1株当たり利益 （人民元 / 下段は円） <sup>(注4)</sup>	2.298 (39.02)	1.976 (33.55)	0.887 (15.06)	1.252 (21.26)	2.403 (40.80)
自己資本比率（％）	53.3％	54.6％	53.2％	55.0％	53.5％
自己資本利益率（％） <sup>(注5)</sup>	16.3％	13.1％	5.9％	7.9％	15.6％
営業活動による 正味キャッシュ・フロー	54,288 (921,810)	69,069 (1,172,792)	55,406 (940,794)	81,883 (1,390,373)	95,152 (1,615,681)
投資活動に使用された 正味キャッシュ・フロー	47,773 ( 811,186)	43,736 ( 742,637)	26,123 ( 443,569)	64,654 ( 1,097,825)	13,363 (226,904)
財務活動に使用された 正味キャッシュ・フロー	19,796 ( 336,136)	27,707 ( 470,465)	23,157 ( 393,206)	18,490 ( 313,960)	77,621 ( 1,318,005)
現金および現金同等物期末残高	38,332 (650,877)	35,962 (610,635)	42,323 (718,645)	41,188 (699,372)	71,872 (1,220,387)

注：（1） この表は主要な連結経営指標を示している。この財務情報は国際財務報告基準（IFRS）に従って作成された財務諸表から抜粋されたものである。

（2） 日本円は、1人民元 = 16.98円（中国外貨取引センターが公表した2018年6月1日の中心値を基に計算した換算レート）で換算されている。

（3） 営業利益は、売上高から売上原価、販売費、一般管理費および減損損失を減じて算出した額である。

（4） 基本的1株当たり利益は、株式数の加重平均で当社株主に帰属する当期純利益を除いて算出している。なお、潜在株式は存在しないため、基本的1株当たり利益と希薄化後基本的1株当たり利益に差異はない。

（5） 自己資本利益率は、当社株主に帰属する当期純利益を当社株主に帰属する資本で除して算出している。

## 2【沿革】

当社は、2004年11月8日に中国会社法に基づく株式有限会社として設立された。当社が設立される以前、当社の事業の運営は、当社の支配株主である神華集团公司によって行われていた。

神華集团公司の前身である華能煤炭公司是、1985年に神東鉱山の開発のために設立された。1989年に神東鉱山における石炭生産が開始されるとともに、包神鉄道における鉄道事業が開始された。神華集团公司は、1995年に、中国国务院の承認により完全国有企業として設立された。1996年に神朔鉄道が開通し、1997年には大准鉄道が開通した。1998年には、准格爾能源ならびに神華集団金烽煤炭有限責任公司および萬利鉱山が神華集团公司に吸収された。1999年、神華集团公司は西三局鉱山を吸収し、また、神華集团公司の完全所有子会社である国華電力が当社の電力事業の運営および開発のために設立された。2001年には当社の朔黄鉄道が開通し、2002年に当社の黄驊港が開港したことにより、当社の石炭生産、鉄道および港湾を統合したネットワークの初期開発が完了した。2004年、当社は、勝利鉱山における事業の開発を開始した。

2005年6月15日、当社は香港証券取引所の主要市場にH株式を上場した。

2007年10月9日、当社は上海証券取引所にA株式を上場した。

2017年11月22日、神華集团公司は国家能源投資集団有限責任公司（国家能源集团公司）に社名を変更し、事業認可の変更の工商登記を完了した。詳細については、2017年11月28日付の当社のA株式に関する通知および2017年11月27日付の当社のH株式に関する通知を参照のこと。

### 3【事業の内容】

#### (1) 概要

##### ・当社の主要な事業および事業モデルの説明ならびに当事業年度における業界の状況

当社は2004年11月に北京にて設立され、2005年6月に香港証券取引所、2007年10月に上海証券取引所に上場した。当社グループは主として、石炭および電力の生産と販売、鉄道、港湾および海上輸送ならびに石炭由来オレフィン事業に従事している。

販売に関して、当社グループは中国国内および世界において最大の上場石炭会社であり、2017年度の石炭販売量は443.8百万トン、商業用石炭の生産量は295.4百万トンに達した。当社は、神東鉱山、准格爾鉱山、勝利鉱山および宝日希勒鉱山等の上質な石炭資源を有している。2017年12月31日時点で、当社は23.70十億トンの石炭資源、中国基準による15.19十億トンの実収炭量、JORC規定による8.55十億トンの販売可能石炭埋蔵量を保有していた。当社グループは、大規模かつ大容量のクリーン石炭火力発電機を管理および運営しており、当社グループが管理および運営している発電機の設備容量は2017年度末までに57,855MW、2017年度中の総発送電量は246.25十億kWhに達した。当社グループは、西山西、北陝西および南内モンゴルの主要な石炭生産基地の周辺における集中輸送鉄道網および、中国西部から中国東部への主要な石炭輸送ルートである「神朔 - 朔黄線」を管理および運営しており、全長約2,155キロメートルの鉄道を管理および運営していた。2017年度における自社所有の鉄道の輸送売上高は273.0十億トンキロメートルに達した。当社グループはまた、黄驊港など（合計で年間約270百万トンの船舶輸送能力を有する）多数の港湾および埠頭を管理および運営し、積荷容量約2.2百万トンの自社船舶で構成される海上輸送チームおよび年間約0.6百万トンの稼働および生産能力の石炭由来オレフィン事業を運営する。採炭および生産の安全に関する当社の技術は、世界市場における第一線の地位を磐石にし、クリーン石炭火力発電および重荷鉄道輸送に関する当社の技術は、国内市場における第一線の地位を磐石にした。当社は、インドネシア、オーストラリアおよびその他の国々における火力発電所、炭鉱およびその他のプロジェクトを所有または運営する。

当事業年度において、当社グループの主要な事業の範囲に大きな変更はなかった。

当社が事業運営する業界の状況については、年次報告書の「取締役会の報告」の章を参照のこと。

##### ・当事業年度における当社の主要な資産の重要な変動についての説明

2017年度中に、当社グループの主要な資産の変動はなかった。

2017年12月31日付で、当社グループの総資産は571,602百万人民元となり、昨年度末に比べて0.9%減少した。当社株主に帰属する資本は305,541百万人民元となり、昨年度末に比べて3.6%減少した。当社グループの総オフショア資産（香港、マカオおよび台湾を含む。）は24,888百万人民元となり、総資産の4.4%を占め、それらは主に香港および中国で発行された米ドル建て債券ならびにオーストラリアおよびインドネシアの炭鉱および発電に関する資産であった。

##### ・当事業年度における核となる競争力の分析

当社グループの核となる競争力は主として以下のとおりである。

（ ）**独自の経営手法と収益モデル**：当社グループは、その結果として運営費用の低下および競争力の向上につながる、垂直統合された事業モデルを採用し、石炭を基盤とする産業チェーンの各段階で営業利益の達成につながる自社の輸送および販売のネットワークを活用する。

2017年度において、産業に対して国家的な調整および抑制の政策が積極的に実施され、一元化された運営の強みを十分に発展させることによって、当社は市場シェアを継続的に増加させ、事業間の際立った相乗効果を実現し、全体的な競争力を継続的に強化したことで、経営成績の飛躍的な向上がもたらされた。

（ ）**石炭埋蔵量**：当社グループは高品質で豊かな石炭資源プールを有しているが、これは現代的で高品質かつ高効率な採鉱に適している。2017年度末現在、当社グループが保有および管理する石炭採掘権に基づく残留石炭資源は、中国基準では23.70十億トンとなり、実収炭量は15.19十億トンであった。JORC規定による販売可能石炭埋蔵量は、8.55十億トンであった。当社グループの石炭埋蔵量は、中国の上場石炭企業の中でも随一である。

（ ）**基盤事業および先進的なビジネスコンセプトに重点を置く経営陣**：当社の経営陣は、業界についての広範囲の知識と豊富なマネジメント経験を有しており、当社の企業価値の向上を特に重視し、当社の主要な事業に重点を置いて事業を運営し、エネルギー部門におけるクリーンな発電および利用に継続的に注力している。

2017年度において、当社は、当社のクリーンエネルギー発展戦略の実行を常に推進する。

（ ）**工業技術および革新能力**：中国神華は工業技術および革新能力を継続的に強化する。当社の石炭の採掘および生産安全性における当社の技術は、国際市場での主導的地位を不動のものにしており、クリーンな石炭火力発電および重荷鉄道輸送に関する技術は、国内市場での主導的地位を不動のものにしている。技術および資源の一

体化した事業モデルならびに科学的な意思決定、システマティックな管理、研究開発および成果物の転用から成る技術革新由来の開発モデルを基本的に構築している。

2017年度において、当社は超低排出への転換、オンライン化鉱山の建設およびその他の工業技術の向上に注力した。当事業年度中に、当社グループは543件の特許権を取得し、うち126件は発明特許権であった。

「第一部-第6-1 財務書類-連結財務諸表注記」の「1. 主要な事業及び組織-主要な事業」および同「6. セグメント及びその他の情報」も参照のこと。

## (2) 石炭事業

2017年度中における下流での石炭の市場需要の拡大の傾向に対応して、当社は、適法な生産を計画し、高度な技術による安全な炭鉱の生産容量の拡大を加速した。当事業年度中の商業用石炭の生産は295.4百万トンで前年比1.9%の増加であり、そのうち神東炭鉱の生産量は前年比5.6%の増加を記録し、新たに建設された郭家湾炭鉱および青龍寺炭鉱の生産量は7.0百万トンであった。

当社は、市場戦略を柔軟に調整し、主要な顧客との戦略的協力を強化し、新たな地域市場を積極的に開拓することで当社の市場シェアを維持した。加えて、自社所有港における海上輸送石炭の販売量の最大化を目標として、当社は、収益を増加させるため「中継基地」および「準定期船」等の事業モデルを促進することに注力し、外部調達した石炭の組織化を強化し、効率ならびに石炭セグメントおよび輸送セグメントの収益の向上を後押しした。2017年度における石炭の販売量は443.8百万トンとなり、前年比で12.4%増加し、そのうち海上輸送石炭の販売量は258.2百万トンで、前年比で14.0%の増加となり、過去最高値を記録した。

「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」- 当報告期間の主な経営成績-( ) 事業セグメント別の業績-1. 石炭セグメント」も参照のこと。

## (3) 電力事業

国家的な電力消費による莫大な需要および火力発電の好況による好機を掴み、当社は、発電量を増加させるために発電ユニットの信頼性の向上を継続した。2017年度において総発電量は262.9十億kWhとなり、総発送電量は246.3十億kWhに達し、それぞれ前年比11.4%と11.6%の増加となった。

電力セグメントは電気市場調査の評価システムをさらに完成させ、電力の販売量および価格のみならずリスクおよびリターンのバランスを調整し、市場の電力需要を捕捉し確保するべく大口電力需給者に直接電力供給するため、国内外の市場を積極的に拡大した。2017年度において、石炭火力発電ユニットの平均稼働時間は4,683時間であり、中国国内における石炭火力発電機<sup>(1)</sup>の平均稼働時間を405時間上回った。市場化され取引された電力は69.1十億kWhであり、前年比52.3%の増加であった。

(1) 2017年度の中国国内における石炭火力発電機の平均稼働時間は4,278時間であった。

「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」- 当報告期間の主な経営成績-( ) 事業セグメント別の業績-2. 電力セグメント」も参照のこと。

## (4) 鉄道事業

当社は、輸送効率を効果的に向上させるために、輸送資源を科学的に編成し、川上と川下間の結び付きおよび管理を強化した。当社はまた、10,000トンの車両および新しい機関車の経路を増やし、資源および貨物の流れを積極的に調整することで輸送能力を継続的に向上させ、高次元での統合的な運転を効果的に確保した。2017年度において、当社は自社所有鉄道の輸送量273.0十億トンキロメートル、前年比11.6%の増加を達成し、過去最高値を記録した。海上輸送量は80.4十億トン海里であり、前年比27.6%の増加であった。

輸送セグメントは、市場の拡大に努め、「巨視的なロジスティクス」の理想的な発展を達成した。2017年度において、非石炭鉄道輸送量は26.1百万トンであり、前年比34.3%の増加であった。外部顧客に提供された鉄道輸送サービスの輸送量は29.4十億トンキロメートル、前年比34.9%の増加となり、5,615百万人民元、前年比34.5%の収益増加となった。

「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」- 当報告期間の主な経営成績-( ) 事業セグメント別の業績-3. 鉄道セグメント」も参照のこと。

## (5) 港湾事業

「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」- 当報告期間の主な経営成績-( ) 事業セグメント別の業績-4. 港湾セグメント」を参照のこと。

## (6) 海運事業



「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析- . 当報告期間の主な経営成績-  
( ) 事業セグメント別の業績-5. 海運セグメント」を参照のこと。

## (7) 石炭化学事業

当社は、収益を拡大するために、引き続き生産計画を最適化し、生産効率を高め、主要な設備の「フル稼働で長時間の安全、安定かつ最適な稼働」を達成し、収益向上のため販売経路を積極的に拡大した。2017年度中に、石炭由来オレフィン製品の販売量は633.4千トンに達し、前年比10.2%の増加となった。

「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析- . 当報告期間の主な経営成績-  
( ) 事業セグメント別の業績-6. 石炭化学セグメント」を参照のこと。

## 4【関係会社の状況】

## (1) 親会社

2017年12月31日現在、国家能源集団公司在社の株式資本の73.06%を保有しており、当社の親会社である。  
「第一部-第5-1 株式等の状況-(5)大株主の状況」を参照のこと。

(注) 神華集团公司は、社名を国家能源集团公司に変更した。

## (2) 子会社および関係会社

当社の子会社は、中国において設立されている非上場会社である。2017年12月31日現在における当社の主な子会社の詳細は以下のとおりである。

名称	所在地	登録資本の 明細	主要な事業	当社による 保有割合(%)
神華銷售集團有限責任公司	北京市東城区	1,889 百万人民币	石炭の取引	100
神皖能源有限責任公司	安徽省合肥市	4,696 百万人民币	発電および電力の販売	51
神華神東煤炭集團有限責任公司	内モンゴル自治区 鄂爾多斯市	4,989 百万人民币	石炭の取引 総合サービスの提供	100
神華准格爾能源有限責任公司	内モンゴル自治区 鄂爾多斯市	7,102 百万人民币	石炭の採鉱および開発 発電および電力の販売	58
神華宝日希勒能源有限責任公司	内モンゴル自治区 呼倫貝爾市	1,169 百万人民币	石炭の採鉱および開発	57
神華北電勝利能源有限責任公司	内モンゴル自治区 錫林浩特市	2,720 百万人民币	石炭の採鉱および開発	63
陝西国華錦界有限責任公司	陝西省榆林市	2,278 百万人民币	発電および電力の販売 石炭の採鉱および開発	70
神華国華国際電力股份有限責任公司	北京市朝陽区	4,010 百万人民币	発電および電力の販売	70
神華神東電力有限責任公司	陝西省榆林市	3,024 百万人民币	発電および電力の販売	100
広東国華粵電台山有限責任公司	広東省台山市	4,670 百万人民币	発電および電力の販売	80
浙江国華浙能発電有限責任公司	浙江省寧海県	3,255 百万人民币	発電および電力の販売	60
綏中発電有限責任公司(注)	遼寧省葫蘆島市	4,029 百万人民币	発電および電力の販売	65
河北国華滄東発電有限責任公司	河北省滄州市	1,834 百万人民币	発電および電力の販売	51
定洲発電(注)	河北省保定市	1,561 百万人民币	発電および電力の販売	41
国華太倉発電有限責任公司 (注)	江蘇省太倉市	2,000 百万人民币	発電および電力の販売	50

神華四川能源有限責任公司	四川省成都市	2,152 百万人民币	発電および電力の販売 石炭の取引	51
神華（福建）有限責任公司	福建省福州市	2,551 百万人民币	発電および電力の販売	100
朔黄鉄路発展有限責任公司	北京市海淀区	5,880 百万人民币	輸送サービスの提供	53
神華准池鉄路有限責任公司	山西省朔州市	4,710 百万人民币	輸送サービスの提供	85
神華黄驊港務有限責任公司	河北省滄州市	6,790 百万人民币	港湾サービスの提供	70
神華中海航運有限責任公司	上海市浦東区	5,180 百万人民币	輸送サービスの提供	51
神華包頭煤化工有限責任公司	内モンゴル自治区 包頭市	5,132 百万人民币	石炭化学製品	100
神華鉄路貨車運輸有限責任公司	北京市東城区	4,803 百万人民币	輸送サービスの提供	100
神華財務有限責任公司	北京市東城区	5,000 百万人民币	金融サービスの提供	100
中国神華海外発展投資有限責任 公司	香港	5,252百万 香港ドル	投資会社	100
シェンファ・オーストラリア・ ホールディング・ピーティーワイ・ リミテッド	オーストラリア ニューサウス ウェールズ州 シドニー市	400百万 豪ドル	石炭の採鉱および開発 発電および電力の販売	100
シェンファ・ウォーターマ ーク・コール・ピーティーワイ・ リミテッド	オーストラリア ニューサウス ウェールズ州	350百万 豪ドル	石炭の採鉱および開発 発電および電力の販売	100
ピーティー・ジーエイチ・イー エムエム・インドネシア	インドネシア 南スマトラ州	63百万 米ドル	石炭の採鉱および開発 発電および電力の販売	70
神華包神鉄路集団有限公司	内モンゴル自治区 包頭市	10,000 百万人民币	輸送サービスの提供	100
神華（天津）融資租賃有限公司	天津市滨海新区	1,765 百万人民币	金融サービスの提供	100
神華准能資源総合開発有限公司	内モンゴル自治区 准格爾旗	1,200 百万人民币	低品位炭資源の 総合的利用	100
徐州発電公司	浙江省徐州市	1,790 百万人民币	発電および電力の販売	100
舟山発電公司	浙江省舟山市	804 百万人民币	発電および電力の販売	51

注：（ ）当社が保有する15%の株式に加え、当社の子会社が綏中電力有限責任会社の株式を50%保有した。

（ ）当社は、取締役会の過半数の役員を選任する権利により、定洲発電の支配権を獲得した。詳細は第一部-第6-1  
財務書類-連結財務諸表注記4.1に記載されている。

（ ）当社は、50%超の議決権によって、国華太倉発電有限責任会社の支配権を有している。

当社グループによる関係会社に対する持分は、当社グループの2017年度の財政状態または経営成績にとって、個別にも全体としても重要性を有していない。当社グループの関係会社は、中国において設立されている非上場会社である。2017年12月31日現在における当社グループの主な関係会社の詳細は以下のとおりである。

名称	所在地	登録資本の明細 (百万人民元)	主要な事業	当社による保有割合 (%)
蒙西華中鐵路股份有限公司	北京市豊台区	1,000	輸送サービスの提供	10(注)
神東天隆集団有限責任公司	内モンゴル自治区 神木県	272	石炭の生産および販売	20
浙江浙能嘉華発電有限責任公司	浙江省杭州市	3,422	発電および電力の販売	20
四川広安発電有限責任公司	四川省広安市	1,786	発電および電力の販売	20
国華(河北)新能源有限責任公司	河北省張家口市	1,507	発電および電力の販売	25
天津遠華海運有限責任公司	天津市	360	輸送サービスの提供	44
内蒙古億利化学工業有限公司	内モンゴル自治区 鄂爾多斯市	1,139	化学製品の製造および販売	25

注：当該会社の定款に従って、当社の取締役11名のうち1名を選任する権限を有するため、当社グループは、蒙西華中鐵路股份有限公司に対して大きな影響力を発動することができる。

## 5【従業員の状況】

2017年12月31日現在、当社は89,057名の従業員を有し、臨時社員は雇用していない。下表は、当社の従業員数をその職務別に示したものである。

職務	従業員数（人）
経営および補修	55,168
経営管理	13,653
財務	1,772
研究開発	2,380
テクニカルサポート	11,708
販売およびマーケティング	933
その他	3,443
合計	89,057

当社の従業員の2017年度における平均年間給与（賞与を含む。）は、1人当たり157,516人民元であった。

## 第3【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」を参照のこと。

### 2【生産、受注及び販売の状況】

「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 - ( ) - 1. 売上高及び原価」の「(3) 主要事業セグメント」、「(5) 主要得意先」および「(6) 主要仕入先」を参照のこと。

上記の他、「第一部-第2-3 事業の内容」および「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」も参照のこと。

### 3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

2018年において、中国政府は、持続的かつ健全な経済的および社会的発展を推進するべく、安定した業績を維持しつつ発展を追及する一般原則および新しい発展哲学に引き続きコミットし、質の高い発展の必要条件を満たし、供給側の構造改革を引き続き主な課題とみなし、安定的な発展を維持するために協働し、構造調整を行い、生活水準を向上させ、リスクに備える。持続的かつ全体的に安定したプラスの経済成長は石炭の安定的な需要に好ましい環境を創出し、国家的な電力需要は引き続き上昇傾向を維持するであろう。

当社は、市況および業績の堅実な分析に基づいて通年の事業目標を以下のとおり定める。商業用石炭の生産は290百万トン、石炭販売量は430百万トン、発送電量は248.6十億kWh、売上高は249.3十億人民元、売上原価は168.4十億人民元、販売費および一般管理費ならびに財務費用純額は13.8十億人民元を見込む。

中国神華は、生産、輸送およびマーケティングの組織化を最適化し、運営および発展の質を向上させ、当社自身を世界的な競争力を有する世界一流のエネルギー会社に育て上げるべく努力する。優先事項は以下を含む。

**生産、輸送およびマーケティングの組織化を最適化し、シナジー能力を強化する。**第一に、当社は、新しい炭鉱での生産を開始し、より速くフル稼働状態に到達するため、生産の組織化を最適化する。当社は、宝日希炭鉱および哈爾烏素露天炭鉱の土壌浄化を加速させるべく積極的に努力し、安定した生産量を持つ炭鉱に戻す。当社は、市場シェアを拡大し営業利益を担保するため、一番の収益性を有する海上輸送石炭の販売量を確実に把握し、高品質な石炭および高付加価値の特別な石炭の販売量を増加させる。当社は、石炭セグメントが安定した収益を生み出すことを担保するために、石炭契約に基づく出荷において好業績を達成し、3年間の長期協業契約の仕組みの構築を積極的に模索する。加えて、当社の効率性および収益を向上させるために、石炭の外注に適した組織を作る。第二に、当社は生産性を向上させるために、発電所の標準化および細やかな管理を強化する。電力システムの刷新についての研究を深め、マーケティングを強化し、より直接的な電力供給および電力の市場取引に努め、発電機の稼働時間について業界内第一線の地位を確実にすべく、熱供給市場を精力的に開拓する。第三に、当社は一万トンの鉄道の稼働効率を担保するべく、全力を尽くして輸送回転率の管理を引き続き最適化し、効率的に鉄道輸送容量および港湾ハンドリング能力を向上させるべく、循環鉄道および準定期船の稼働メカニズムを最適化する。当社は、「マクロ視点物流」事業の推進、物流事業の情報プラットフォーム構築の強化、第三者の石炭輸送量のさらなる増加、逆向き輸送および非石炭素材輸送の市場拡大を続け、結果として輸送事業による収益を押し上げる。

**プロジェクト投資を厳しくチェックし、質の高い発展を実現する。**投資プロジェクトに関して、当社は、投資プロジェクトが安全かつ安定した稼働を実現し、排出基準を満たし、一旦稼働した後は予想収益をもたらすという目標を達成すべく努めつつ、厳格かつ緻密な経営を実行し、プロジェクト評価、調査および意思決定メカニズムを完成させ、重要な投資プロジェクトの経済的利益の評価および調査責任の追跡調査を強化し、投資プロジェクトのリスク抑制を向上させる。当社はライフサイクル全般の投資および収益の分析に基づいた好ましい投資収益予測をもって投資とプロジェクトの建設を堅実に展開する。当社は黄大鉄路および廬江発電所を含むプロジェクトの建設を積極的に推進し、高水準のインドネシアの爪哇7号石炭発電所(2×1,050MW)を推進し、国際化を進めるべく一帯一路構想における建設の機会を掴む。

**コスト抑制を強化し、稼働効率を向上させる。**第一に、当社は、コスト抑制の責任評価メカニズムを完成させ、収益分配に対してより高いインセンティブを供与し、コストベンチマーキングと事業との相乗効果を強固にし、自社生産石炭の単位生産コストの増加を抑制し、発電事業および輸送事業の抑制可能なコストを削減する。第二に、当社は既存の資産を最大限に活用し、技術・人材・資本・原料および設備を含む資産の事業セグメント間の相乗効果を強化し、資産を再生させ、資産の収益性をさらに向上させる。

**安全性、環境保護およびイノベーションを強化し、事業基盤を強固にする。**当社は、固有の安全システムを継続的に最適化し、リスク防止と安全な生産の管理のみならず安全性および責任の評価を強化し、潜在リスクの特定の

実施を深め、主要な分野、重要な過程および苦手な分野の管理に注力することで、安全な生産において世界第一級の地位を維持する。

環境に起因する事故を防止するために、当社は、省エネルギーおよび環境保護のための標準化された管理システム制定の歩調を速め、環境保護の責任をより厳格に果たし、各事業セグメントの環境保護への取組みを強化する。石炭火力発電ユニットの「超低排出」リノベーションに関連して、当社は2018年において合計約2,600MWとなる発電機10機のリノベーションを完了する予定である。二酸化炭素排出量削減のための管理システムの構築を進展させ、人的資源を強化し、カーボン・アセットの管理を改善し、業界のベンチマークとなるよう努める。

当社は、当社の発展に合致したシステムおよびメカニズムを構築し、革新能力を向上させ、科学的研究への更なる投資を継続し、主要なプロジェクトの発展に注力し、研究の発展ならびに安全で環境に優しく合理的な石炭資源の開発のための技術の向上を促進し、才能ある技術者の採用および育成により一層注力し、技術革新に関する高次元の意思決定諮問機関およびエネルギー技術の専門家によるチームを設置し、洗練された企業に育てるために「インターネット+」販売、「インターネット+」物流およびその他のプラットフォームの構築を促進し、発展の推進力を強化する。

**継続的に改革を推進し、発展へのより強い原動力を獲得する。**当社は、すべての株主の利益の最大化を保証するために、当社の発展の原動力を強化するべく、積極的かつ堅実な方法で重要な資産の取引を行い、合併会社の設立を推進し、法令を遵守した運営を保証し、当社の事業モデルをさらに最適化し、総合的な強みを発展させ、川上および川下のセグメント（石炭、電力、輸送および石炭化学の各セグメントを含む。）間の相乗的な運営の質を高める。

2018年において、当社は創業精神に忠実に、当社の使命を心に強く抱き続け、進化を追求し、努力を惜しまず、当社のすべての事業において安全かつ効率的で持続可能な発展の推進を強化し、投資家に対して更なる価値を創出する。

未来の事項に関する見解は、本有価証券報告書の提出日現在のものである。

上記の他、「第一部-第2-3事業の内容-(1)概要」、「第一部-第3-7財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」、「当社の将来の発展に関する説明及び分析」の「( ) 中国神華の成長戦略」および同「(V) 直面している主要なリスク」も参照のこと。

## 4【事業等のリスク】

**当社の事業ならびに中国の石炭および電力産業に関するリスク**

**当社の事業および経営成績は、石炭市場の影響を受けることおよび石炭価格の変動に左右されやすいこと**

当社の収益の大部分は石炭販売から生じていることから、当社の事業および経営成績は、国内外における石炭の需要のみならず当社の石炭の販売価格にも大きく左右される。国内外の石炭市場における価格は、これらの市場における需要と供給の変動の影響を受けるものであり、当社は、この価格を基準として当社の石炭価格を決定する。

当社の石炭販売の大半は中国国内市場におけるものである。国内市場における石炭価格は、国内市場における需要と供給の変動により直接の影響を受けるものであり、また海外市場における石炭価格の変動の影響も一定程度受ける。国内石炭価格の大幅な下落は、当社の事業、経営成績および財政状態に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

海外市場における石炭価格もまた変動し、特に世界経済の状況、石炭および石炭関連製品の世界規模または地域的な需給状況、他のエネルギー原料との競争、異常気象ならびに海外市場における投機的な石炭取引を含む、当社が制御することができない多くの要因の影響を受ける。大幅な石炭需要の低下または供給過剰は、石炭輸出による当社の収益に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。また、かかる下落が国内の石炭市場における石炭価格にも影響を及ぼす限りにおいて、国内の石炭販売による収益にも悪影響を及ぼす可能性がある。

**当社の経営は、中国政府による広範な規制に服していること**

当社の経営は、石炭探査権および採鉱権の付与ならびに更新、生産許可の付与、国有鉄道網における石炭輸送量の割当、石炭輸出割当および許可、電力料金の規制などに関して中国政府の広範囲にわたる規制の影響を受ける。上記の規制および新たな規制に関連するコンプライアンス上の経費、負担および要件は、当社の経営に重大な影響を及ぼす可能性がある。

さらに、当社の経営成績が、将来における政府の規制および方針の変更によって重大な悪影響を受けないとの保証はない。特に、当社の電力事業においては、当社の料金が将来的に値下げされる場合、料金を引き上げることができない場合または元売料金の設定方法が変更された場合には、当社電力事業の収益および利益に悪影響を及ぼす可能性がある。

**当社の収益性および成長の見通しは、競争力のある価格で経済的に望ましい埋蔵石炭の確保および開発に成功する当社の能力に依存すること**

当社の石炭埋蔵量は、当社による石炭の生産とともに減少する。当社が現在の生産水準を長期にわたって維持または上昇させることができるかどうかは、新たな埋蔵石炭の獲得、新たな炭鉱プロジェクトの開発および既存の採鉱事業の拡大に依存している。当社が計画している開発および拡大プロジェクトが経済的に採鉱可能な石炭埋蔵量の増大をもたらす保証はなく、また新たな鉱山の開発が継続的に成功する保証はない。

中国において新たな炭鉱を取得するためには、中国政府による認可が必要である。当社は、石炭埋蔵量を拡大するために、政府の様々な許可を取得しなければならない。政府の方針が転換された場合や、かかる中国政府からの許認可の取得が遅延したり不可能となった場合、当社の開発および買収計画に重大な修正が必要となり、当社の収益性および成長見通しに重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

**中国における石炭および電力産業の競争が激化し、当社が効果的に競合することができない場合、当社の事業およびその見通しに悪影響を及ぼす可能性があること**

石炭産業における競争は、特に価格、生産能力、石炭の品質および特性、輸送能力および輸送コスト、配合能力ならびにブランドなど、多くの要因に基づいている。当社の石炭事業は、他の国内外の大規模な採炭企業との間で国内外の市場において競合している。

当社の電力事業は、国内市場において他の中国の電力会社と競合している。当社が競争状況を勝ち抜くことができない場合、当社の成長の機会は限定され、収益および収益性の面で悪影響を被る可能性がある。元売料金の競争入札による設定は、国内電力会社間の価格競争をさらに激化させ、当社の電力事業の業績に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。



石炭埋蔵量およびその他のデータは推定値であるため、不正確である可能性があり、当社の実際の生産量、収益および設備投資は当社の推定値と大幅に異なる可能性があること

当社の生産計画および設備投資計画の基礎となる石炭埋蔵量のデータは推定値であることから、不正確である可能性があり、当社の実際の生産実績とは大幅に異なる可能性がある。埋蔵量の推定には、当社が制御できない多くの要因、仮定および変数など、推定作業に特有の不確実性が伴う。実際の当社の埋蔵量、生産率および石炭の特性は、これらの推定値と異なる可能性がある。

石炭価格、生産コスト、石炭輸送コストまたは各種回収率の変動により、結果的に当社の推定された埋蔵量が修正される可能性がある。かかる修正により当社の1または複数の主要な炭鉱における確定埋蔵量および推定埋蔵量が大幅に減少した場合、当社の経営成績、財政状態および成長見通しに悪影響を及ぼす可能性がある。

当社の炭鉱または中国国内のその他の炭鉱における事故が、当社の石炭事業に重大な悪影響を及ぼす可能性があること

これまでにも当社の炭鉱において事故が発生したことがあり、当社は、将来において事故が起きないことを保証することはできない。当社の炭鉱における事故の発生は、当社事業経営の大きな混乱、財政上の損失、当社の評判の低下、訴訟および他の補償請求ならびに補償額の支払、罰金、刑罰ならびに強制的な生産停止をもたらす可能性がある。

近年中国政府は安全基準の強化を進めており、将来事故が起きた場合には、さらに厳しい規制が課される可能性がある。当社は、かかる規制を遵守するために相当な財源およびその他の資源を充当しなければならない可能性がある。

当社の主要な投資計画が計画どおりに達成されない可能性があり、当初予算を上回る可能性があり、また、目的としていた経済的成果または商業的実用化を達成できない可能性があること

当社の設備投資計画は、規制許認可、十分な資金調達の可能性、自然条件、燃料供給および技術的または人的資源など、当社が制御できない様々な要因によって、延期されたり悪影響を受ける可能性がある。

また当社は、主な設備投資計画に関してすべて中国政府の認可を取得しなければならない。当社は、当社のすべての計画が認可されること、またはかかる認可を遅滞なく取得することについて保証することはできない。当社の将来における石炭および電力事業の開発計画の商業的実用化はこれらの計画に大きく依存することから、これらの計画のうちのいずれかが認可されない場合または適時に認可されない場合、当社の将来の収益性および財政状態に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

当社の財務実績および経営成績は、当社の負債により重大な悪影響を受ける可能性があること

当社は借入金への依存度が高い。当社は、設備投資の一部を短期および長期借入金による資金調達に依存しており、将来においても依存し続けるものと予想される。

当社の事業環境の変化または金利もしくは為替の変動により、または当社のキャッシュ・フローおよび資本の源泉が債務の弁済に充当するのに十分でない場合、当社は重大な財務上および事業上のリスクに直面することになる。当社は資産の売却、追加の資本の増加または当社の債務の再構成もしくは借換えを強いられる可能性があり、またそれらの方法が成功せず、または十分な改善策にはならない可能性がある。当社が債務を弁済できない場合、債務につき当社が支払う金利の上昇および債権者による当社に対する法的措置を含む制裁が課され、さらには当社が倒産する可能性もある。

確実かつ十分な石炭輸送量を確保できない場合や輸送量が不足する場合、当社の生産量または顧客への石炭供給能力が低下することになり、当社の石炭収入が減少する可能性があること

一定の期間一部の鉄道について、当社独自の輸送網では当社の石炭輸送の需要をすべて充足することができないため、当社の石炭の一部は国有鉄道網および当社の所有でない港を通じて輸送されている。現在、国有鉄道網および中国における当社の所有でない港は、国内における石炭輸送の需要を十分に充たすことはできない。当社が国有鉄道網や当社の所有でない港を通じて十分な輸送量、鉄道車両または港湾施設を確保するに際して、しばしば遅延が生じ、それによって当社顧客への石炭の納入が遅延したことがある。将来において、当社が輸送量を十分に確保でき、当社顧客への納入に遅延が生じないとの保証はない。

当社の石炭事業および電力事業は、運営上のリスクおよび自然災害により悪影響を受ける可能性があり、当社が加入している保険の範囲は限られているため、損失を被る可能性があること

石炭の採掘ならびにその輸送および販売を含む当社の石炭事業は、当社が制御することのできない大きなリスクおよび危険にさらされており、当社の石炭生産および輸送量に悪影響を及ぼし、納入遅延、重大な事業中断、人身傷害および物的損害または環境損害をもたらす可能性がある。これらのリスクには、採掘坑の崩壊、ガス漏れまたはガス爆発、火災および洪水等の地下における採掘リスクに加えて、自然災害（地震等）、異常気象（水路に沈殿物の堆積をもたらす暴風雨等）、給水量の不足、整備上または技術上の突発的な問題、主要な設備の欠損、石炭品質の地質学的変化、石炭層の厚さならびに石炭鉱床を覆っているまたは囲んでいる岩石および土壌の量ならびに特性が含まれる。発電所の運営についても大きなリスクを伴い、かかるリスクには、設備性能の欠損または不良、予定外の点検の必要性、設備の不適切な設置または操作、環境災害、労働災害および自然災害が含まれる。

これらの事態の発生および結果は、当社の保険契約では十分に保障されず、または一切保障されない可能性がある。当社は、当社の認識している中国の鉱業業界におけるプラクティスに従い、財産、設備および在庫の一部に対する火災保険、貸倒保険その他の損害保険に加入している。また、当社は、当社の施設または発電所および当社の事業に関する車両に関連する事故に起因する身体傷害または環境被害に対する事業中断保険および第三者責任賠償保険に加入している。輸送業務に関しては、当社は黄驊港の運搬車に対する損害保険および車両保険に加入している。加えて、当社は、関連規則の要求に応じて、労災保険、医療保険、第三者責任賠償保険および雇用保険に加入している。そして、当社は、当社が稼働させているすべての発電所に対して、損害保険、利益保険、施設賠償責任保険、労災保険および第三者責任賠償保険といった保険に加入している。当社は、当社のニーズおよび中国の保険業界におけるプラクティスに従って、自己のリスク・ポートフォリオを引き続き検討および評価し、当社の保険に必要なかつ適切な修正を加える。

当社の営業活動は、現在または将来の環境規制により重大な悪影響を被る可能性があること

当社の石炭事業および電力事業はガス、廃水および固体廃棄物の排出を伴う。中国政府は現在、環境に関する法令の実施の強化ならびにより厳格な環境基準の適用を推進している。環境規制の遵守に必要な当社の経費は近年増加しており、将来において予算計上される支出額では不足し、追加の資金をこれに割り当てる必要が生じる可能性がある。しかしながら当社グループの経営陣は、環境保護に関する負担は財務諸表に計上されているものを除き、当社グループの現在の財務状況に重大な悪影響を及ぼしうるものはないと考えている。当社が現在または将来の環境に関する法令の遵守を怠った場合、罰金の支払または是正処置を求められ、そのいずれも当社の経営成績および財務状況に重大な悪影響を及ぼす可能性がある。

神華集団が当社の支配株主となるが、神華集団の利益が当社の他の株主の利益と異なる可能性があること

神華集団は当社の支配株主であり、当社の他の株主の同意なしに当社の取締役会の全員を選任することができる。したがって、神華集団は当社に対する以下の行為が可能な立場にある。

- ・ 当社の諸方針、経営および業務の統制
- ・ 中国の適用法令、規則および当社の定款に基づく配当の支払時期および支払額の決定
- ・ 中国の適用法令、規則および当社の定款に基づく当社の定款の部分改訂の承認
- ・ 神華集団に対する補償の実行を含む大部分の企業活動の結果に関する判断および少数株主の承認を得ない当社の企業取引の実施（ただし、当社株式が上場する取引所の適用規制に従う。）

神華集団の利益と当社の少数株主の一部または全部の利益が相反することがある。神華集団は、自己の経営および事業成長のための資金確保の重要な手段として、当社から受領する配当に依拠する可能性がある。当社は、支配株主である神華集団が常に、当社の少数株主の利益となるよう決議に投票することを保証できない。

ウォーターマーク探査地区での探鉱に係る業務に関するリスク

- (1) シェンファ・ウォーターマーク・コール・ピーティーフワイ・リミテッドによるオーストラリアでの探鉱は、オーストラリアの関連法規に則って行われなければならない。探鉱権を取得するために必要な関連許可が下りないか、不利な条件においてのみ許可が下りる可能性がある。

- (2) 実際の探鉱結果とニューサウスウェールズ州政府が発行した入札書類との間に不一致があるリスクがある。
- (3) ニューサウスウェールズ州政府が提供した入札書類によると、ウォーターマーク探査地区においては石油およびガスの探査許可も得ることができ、探鉱活動に不利な影響がある可能性がある。
- (4) シェンファ・ウォーターマーク・コール・ピーティーワイ・リミテッドがウォーターマーク探査地区で探鉱権を得られるかどうかは、シェンファ・ウォーターマーク・コール・ピーティーワイ・リミテッドの開発提案書がオーストラリアの関連法規を満たすものであるかどうかによる。
- (5) 探鉱およびその後起こりうる探鉱の過程で、シェンファ・ウォーターマーク・コール・ピーティーワイ・リミテッドは、オーストラリアの法環境、商環境、自然環境および社会環境の変化などの予測不可能な事象の影響にさらされる可能性がある。したがって、シェンファ・ウォーターマーク・コール・ピーティーワイ・リミテッドがウォーターマーク探査地区での探鉱およびその後起こりうる探鉱活動に関して望むような成果を得られるかどうかについては、不明確である。

当社の事業等のリスクについては、「第一部-第2-3事業の内容-(1)概要-」当事業年度における核となる競争力の分析」、「第一部-第3-7財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析-」当社の将来の発展に関する説明及び分析-( )中国神華の成長戦略」および「第一部-第6-1財務書類-連結財務諸表注記-37.2金融リスク管理の目的及び方針」を参照のこと。

上記の他、「第一部-第3-7財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析-」当社の将来の発展に関する説明及び分析」の「( )業界の競争及び発展動向」および「(V)直面している主要なリスク」も参照のこと。

## 5【経営上の重要な契約等】

## 重要な関連取引

## ( ) 日常業務における関連取引

当社の関連取引に関する上海証券取引所のガイドラインに規定する要件に従って、当社の監査委員会は、上場会社の関連取引の抑制および日常管理の職責を果たすものとする。当社は、最高財務責任者の直接の監督の下に、関連取引の管理を担当する関連取引チームを擁し、関連取引の管理において、当社、子会社および支社の責任を厳密に線引きする業務プロセスを確立した。本チームはまた、包括契約の条件に従って行われた関連取引を保証するため、当社の子会社および支社の定期検査、報告システムおよび説明責任システムを確立した。

当事業年度末において、当社が締結した継続的関連取引は以下を含む。

## 1. 当社グループと国家エネルギー集団との非免除継続的関連取引

信頼のおける、品質が保証された原料およびサービスを調達し、経営リスクとコストを低減させるために、関連取引は当社にとって有益であり、当社が支配している神華財務会社が当社グループおよび国家エネルギー集団傘下の企業に対する金融サービスの提供を可能にすることで、当社は、内部的な資金調達基盤および資本管理基盤としての機能を十分に活用し、さらにリスクを抑制し収益を増加させた。

## A . 石炭相互供給契約

当社は2016年3月24日付で、神華集团公司との石炭相互供給契約を締結した。石炭相互供給契約は2017年1月1日に発効し、2019年12月31日に失効する。石炭相互供給契約に従って、当社グループおよび国家エネルギー集団は様々な種類の石炭を相互に販売および供給する。

石炭相互供給契約の下での供給価格は、1トンあたり人民元の製品単価に実際の重量を乗じた価格である。石炭の単価は、独立した第三者が提示したものよりも取引条件が不利であってはならず、その時点の市場価格および市況ならびに以下の点を参照した両当事者の対等な交渉を経て決定されるものとする。

- (1) 中国の産業政策のみならず中国国内における産業および市場の状況
- (2) 石炭購入価格を提示する国家発展改革委員会が公表した特別ガイドライン（もしあれば）
- (3) 中国国内の地域の石炭取引所または市場における最新の石炭取引価格、すなわち同一または近隣の地域における通常の市況および通常の取引条件に基づいて独立した第三者に提示されるか独立した第三者が提示したものと同等の石炭価格、地域の現物石炭価格については、(i)中国国内において中国煤炭運銷協会が作成した中国煤炭市場網（[www.cctd.com.cn](http://www.cctd.com.cn)）のウェブサイトで公表される環渤海地域もしくはその近郊の省における地域の石炭取引所または市場の現物価格指数、(ii)各石炭産業のウェブサイトで公表される地域の大規模石炭企業の販売価格（もしあれば）または(iii)同等の質、量および所在地である数社の見積価格（もしあれば）を一般的に参照している。神華集団（当社グループを含む、）が中国において最大かつ最も先進的な技術を有する石炭企業であること、また、1または複数の他社の関連する見積価格が取得される場合は、当社はかかる見積価格を入手し、その中で最も好ましい価格を採用するものとする。
- (4) 石炭の質（別の石炭火力発電ユニットが要求する石炭の推定発熱量を含む、）
- (5) 石炭の量
- (6) 輸送費

## B . 製品およびサービス相互供給契約

当社は2016年3月24日付で、神華集团公司と製品およびサービス相互供給契約を締結した。製品およびサービス相互供給契約は2017年1月1日に発効し、2019年12月31日に失効する。製品およびサービス相互供給契約に従って、当社グループおよび国家能源集団は様々な種類の製品およびサービスを相互に販売および提供する。

製品およびサービス相互供給契約の下で提供される製品およびサービスの価格は、一般的な原則および以下の項目に従って決定されるものとする。

- (a) 政府指定価格および政府指導価格：特定の製品またはサービスに政府指定価格が適用可能な場合はいつでも、かかる製品またはサービスは適用可能な政府指定価格にて提供されるものとする。政府指導の料金基準が有効である場合は、価格は政府指導価格の範囲内で決定される。
- (b) 入札価格および落札価格：適用ある法令の下で入札および落札の手続が必要である場合は、入札および落札の手続に従って価格が最終的に決定される。
- (c) 市場価格：通常の業務の過程で通常の取引条件に従って独立した第三者が提供する同等または類似の製品もしくはサービスの価格を参照して決定される。経営陣は、本契約の下での製品またはサービスの取引の価格を決定するにあたっては、少なくとも2つの同一期間内における独立した第三者との比較可能な取引を検討するべきである。
- (d) 協定価格：合理的な実費に対して合理的な利益率を付加して決定される。経営陣は、本契約の下で製品またはサービスの取引の合理的な利益率を決定するにあたっては、少なくとも2つの同一期間内における独立した第三者との比較可能な取引を検討するべきである。

上記に加えて、特定の種類の製品またはサービスに関しては、特定の価格決定方針が以下のとおり採用される。

- (a) 鉄道輸送：国家發展改革委員会またはその他の関連所轄官庁が指定した価格
- (b) 建設：適用ある法令の下で入札および落札の手続が必要である場合は、入札および落札手続に従って価格が最終的に決定され、適用ある法令の下で入札および落札の手続が不要である場合は市場価格
- (c) 石油製品：政府指導価格
- (d) 代替発電：国家發展改革委員会またはその他の関連所轄官庁が指定した価格
- (e) ハードウェアおよびソフトウェア設備ならびに関連サービス：市場価格（入札および落札価格を含む。）
- (f) 化学製品：市場価格
- (g) 生産設備および予備部品、オフィス用品：市場価格
- (h) 入札サービス：国家發展改革委員会が指定した価格
- (i) 技術コンサルティングサービス：約10%の利益率を付加した協定価格
- (j) 情報テクノロジーサービス：当事者は予算の範囲内でサービス価格につき交渉および合意し、情報テクノロジー産業の市場慣習、実際の基準および市場価格を参照し、当社の情報技術整備の実態を考慮しつつ、整備価格、価格決定メカニズムおよび料金基準について、関連する国および産業の規定に従って、価格検討資格を有する専門機関が予算を検討する。
- (k) ロジスティクスならびにサポートサービスおよびトレーニングサービス：協定価格（費用に約5%の利益率を付加）
- (l) 社会保障および年金管理サービスならびに従業員データ記録サービス：協定価格（費用に約5%の利益率を付加）
- (m) 国家能源集团公司の本部に対する様々な日常事務サービス（金融マネジメントおよびサービスを除く。）：協定価格（費用に約5%の利益率を付加）

### C. 金融サービス契約

当社は2016年3月24日付で、神華集团公司と金融サービス契約を締結した。金融サービス契約は2017年1月1日から発効し、2019年12月31日に失効する。金融サービス契約に従って、当社は神華財務公司を通じて国家能源集団に関連する金融サービスを提供した。

金融サービス契約の価格決定方針は、以下のとおりである。

- (1) 神華集団の当初加盟企業が神華財務会社の預金に付す利率は、中国人民銀行の関連規定に従い、中国人民銀行が定期的に公表するベンチマーク預金利率（もしあれば）および同種の預金に対して神華集団の当初加盟企業に対して主要な商業銀行が指定する利率を参照して、通常取引条件に基づいて決定される。
- (2) 神華財務会社が神華集団の当初加盟企業に貸し付けた融資の利率は、中国人民銀行の関連規定に従い、中国人民銀行が定期的に公表するベンチマーク貸付利率（もしあれば）および同種の融資に対して神華集団の当初加盟企業に対して主要な商業銀行が指定する利率を参照して、通常取引条件に基づいて決定される。
- (3) 神華財務会社が神華集団の当初加盟企業に対する金融サービス提供に際して課すサービス料金は、中国人民銀行または銀行業監督管理委員会が決定する料金レートに従って決定され、かかる固定料金レートが適用不可である場合には、サービス料金は神華集団の当初加盟企業に対して提供される比較可能なサービスに対して主要な商業銀行が課す料金レートを参照して、通常取引条件に基づいて決定される。

## 2. 当社グループおよびその他の当事者との非免除継続的関連取引

### D. 当社と太原鉄路局との輸送サービス包括契約

太原鉄路局は、香港上場規則の下で当社の重要な子会社である朔黄鉄路発展会社の10%以上の株式を保有する実質株主である大秦鉄路股份有限公司の親会社である。したがって、太原鉄路局は、香港上場規則の下で当社の関連当事者であり、輸送サービス包括契約およびそれに従ってなされた取引は、香港上場規則の下で当社の継続的関連取引に該当する。

当社グループへの石炭輸送サービスを確保するため、当社は2016年3月24日付で太原鉄路局と輸送サービス包括契約を締結した。輸送サービス包括契約は2017年1月1日に発効し、2019年12月31日に失効する。

新しい輸送サービス包括契約の下で、サービスの価格は実行契約の中で合意されるが、一般的な原則および下記の規定に従って決定されるものとする。

- (1) 政府指定価格および政府指導価格：特定のサービスに政府指定価格が適用可能な場合はいつでも、かかるサービスは適用可能な政府指定価格にて提供されるものとする。政府指導の料金基準が有効である場合は、価格は政府指導価格の範囲内で決定される。
- (2) 入札価格および落札価格：適用ある法令の下で入札および落札の手続が必要である場合は、入札および落札の手続に従って価格が最終的に決定される。
- (3) 市場価格：通常取引条件および以下の原則に従って決定されるものとする。通常の業務の過程で通常取引条件に従って、独立した第三者が提供する同一もしくは類似のサービスの価格。経営陣は、本契約の下での取引価格が市場価格であるかを決定するにあたっては、少なくとも2つの同一期間内における独立した第三者との比較可能な取引を検討するべきである。
- (4) 協定価格：合理的な費用に対して合理的な利益率を付加して決定される。経営陣は、本契約の下での取引の合理的な利益率を決定するにあたっては、少なくとも2つの同一期間内における独立した第三者との比較可能な取引を検討するべきである。

上記に加えて、特定の種類のサービスに関して、特定の価格決定方針が以下のように採用される。

- (1) 太原鉄路局集団が当社グループに提供する輸送および関連するサービス：中国国家発展改革委員会またはその他の関連政府機関が指定した価格
- (2) 当社グループが太原鉄路局集団に提供する所有する全車両の貸出およびその他の関連するサービス：中国国家発展改革委員会またはその他の関連政府機関が指定した価格
- (3) 当社グループが太原鉄路局集団に提供する鉄道車両メンテナンスおよびその他の関連するサービス：前年または本年に太原鉄路局集団が第三者と合意した単価に基づいて当事者が交渉し合意した価格

上記AないしCの契約は、上海上場規則の下では日常的関連取引であるが、香港上場規則の下では、上記AないしDの契約は継続的関連取引に該当する。

### 3. 非免除継続的関連取引の履行および監査意見

当事業年度中の上記AないしDの契約の履行状況は、以下の表に記載されている。当事業年度中の当社グループから国家能源集団への製品の販売およびサービスの提供のための関連取引の総額は13,006百万人民元となり、当事業年度中の当社グループの営業収益の5.2%を占めた。

契約 番号	契約の名称	当社グループから関連当事者への 製品およびサービスの提供 ならびにその他の流入			当社グループによる関連当事者からの 製品およびサービスの購入 ならびにその他の流出		
		現行の 取引上限額	当事業年度中の 取引総額	同種の取引に 占める割合	現行の 取引上限額	当事業年度中の 取引総額	同種の取引に 占める割合
		(百万人民元)	(百万人民元)	(%)	(百万人民元)	(百万人民元)	(%)
A	石炭相互供給契約	11,300	6,257	4.2	9,400	8,048	16.1
B	製品およびサービス相互 供給契約	11,800	6,749	-	8,800	2,327	-
	内訳(1) 製品		6,466	7.5		1,425	0.3
	(2) サービス		283	2.3		902	3.7
D	輸送サービス包括契約	1,700	10	0.2	11,600	4,195	29.3

契約 番号	契約の名称	関連取引の項目	現行の取引上限額 (百万人民元)	当事業年度中の取引総額 (百万人民元)
C	金融サービス契約	(1) 神華集団の当初加盟企業に対する保証の金融サービス（履行保証およびクォータシェアリング等の金融企業の事業範囲内での保証事業を含む。）に関連する総額	4,290	0
		(2) 手形引受けおよび割引サービスの年間取引総額	10,400	54
		(3) 神華集団の当初加盟企業が預け入れた預金（未払利息を含む。）の最高日次残高	52,000	21,621
		(4) 神華集団の当初加盟企業に供与した融資、消費と信、パイアーズ・クレジットおよびファイナンス・リース（未払利息を含む。）の最高日次残高	26,000	15,151
		(5) 神華集団の当初加盟企業およびその子会社が神華財務会社を通じて当社およびその子会社に提供した委託貸付金（未払利息を含む。）の最高日次残高	13,000	3,654
		(6) 神華集団およびその関連会社の当初加盟企業に提供された相談、代理業務、決済、振替、投資、ファイナンス・リース、信用状、オンライン・バンキング、委託貸付金、保証、手形引受けおよびその他の金融サービスの年間手数料合計	182	37

上記の継続的関連取引は当社の通常の業務の過程で行われ、独立取締役および独立株主による検討および承認の手続きのみならず開示要件にも厳格に従った。

当社の独立非業務執行取締役は、上記AないしDの契約に基づいてなされた取引を確認し、当社の取締役会に以下の意見を述べることを確認した。

- (1) これらの取引は、当社グループの通常の業務の範囲内で締結された。
- (2) これらの取引は、通常の取引条件またはそれよりも良好な条件に従って行われた。
- (3) これらの取引は、公正かつ合理的な条件で取引を規定する合意に従って行われ、全体として当社の株主の利益に適うものであった。

当社の国際監査人であるデロイト・トウシュ・トーマツは、上記AないしDの契約に基づいてなされた取引を確認し、上記の継続的関連取引に関して以下のいかなる事項も認識していなかった旨を述べた意見書を取締役会に発行した。

- (1) 当社の取締役会の承認を得ていなかったこと
- (2) すべての重要な局面において、当社グループの価格決定方針に従っていなかったこと



(3) すべての重要な局面において、かかる取引を規定する関連する契約に従って締結しなかったこと

(4) 2017年12月31日に終了した事業年度における取引総額が、継続的関連取引に関する当社の通知において開示されている年間支払限度額を超えたこと

23種類の関連当事者間取引は、IFRSに従って当社が作成した第一部-第6-1財務書類-財務諸表注記41に開示されている。香港上場規則に従って、(ii)、(xix)、(xx)および(x)に基づく当社グループの関連会社からの石炭購入に関連する取引を除き、注記41で開示されるその他すべての関連当事者間取引は、香港上場規則の下で関連取引に該当し、香港上場規則第14A章に従って開示が要求された。上記の関連取引または継続的関連取引の開示に関連して、当社は、香港上場規則第14A章の開示要件を遵守している。

#### 4. グループ会社の合併で生じた2017年度の新たな日常関連取引

2017年8月28日付で国务院国有資産監督管理委員会より受領した「中国国電集团公司および神華集団有限責任公司の組織再編成に関する通知」（国資発改革[2017]146号）に従って、神華集団公司が国家能源投資集団有限責任公司と改称後、中国国電の吸収により中国国電集団と合併する（以下「グループ会社の合併」という。）、当事業年度末時点で、グループ会社の合併は実行中であり、未完了である。

上海上場規則および「関連取引に関する上海証券取引所のガイドライン」に従って、2017年8月28日から、中国国電集団は当社の関連当事者とみなされる。2017年8月28日から2017年12月31日の間、グループ会社の合併の結果として、石炭の購入および販売に関する取引ならびに国電集団への供給およびサービスを含む当社グループの日常取引は、上海上場規則の下で新たに加わった当社の日常関連取引に該当する。関連取引は以下のとおりである。

2017年度中に間で新たに加わった 当社グループと中国国電集団との日 常関連取引	当事業年度における当社グループか ら関連当事者に対する製品 およびサービスの提供ならびに その他流入取引総額 (単位：百万人民元)	当事業年度における当社グループに よる関連当事者からの製品 およびサービスの購入ならびに その他流出取引総額 (単位：百万人民元)
1. 相互石炭供給	3,224	25
2. 相互サービス供給	21	79

新たに加わった石炭の日常関連取引総額、生じた供給およびサービスならびに当社と国家能源集団との間の石炭、供給およびサービスの取引総額は、石炭相互供給契約ならびに製品およびサービス相互供給契約に定めるとおり、2017年度における当社の取引上限額を超えなかった。当社の独立取締役は、上記の取引は当社グループの通常の業務の過程で実行され、通常の取引条件またはそれより良い条件で実行されたとの見解である。これらの取引は公正かつ合理的であり、全体として当社の株主の利益となる。

#### 5. 2018年度および2019年度の取引上限額修正の提案

2018年3月1日に、当社の第4期第9回取締役会は、「石炭相互供給契約」および「製品およびサービス相互供給契約」に基づく2018年度および2019年度の取引上限額の修正を提案した「一部の日常関連取引の2018年度および2019年度における取引上限額の修正に関する決議」を審議ののち承認した。これらは、2018年4月27日に、当社の2018年度第1回臨時株主総会において承認された。詳細については、当社の2018年3月1日付のH株式公告および2018年3月2日付のA株式公告を参照のこと。

#### ( ) 資産または株式の取得および処分に関する関連取引

該当あり ☐ 該当なし ☒

#### ( ) 共同对外投资に関する重要な関連取引



当社の第3期第23回取締役会における承認をもって、当社および神華新能源有限責任公司（以下「神華新能源」という。）は、両者が合併で登録資本500百万人民元の神華国華江蘇售電有限責任公司（以下「江蘇售電」という。）を設立したことに従って、2017年1月19日付で神華国華江蘇售電有限責任公司の共同設立についての投資契約を締結した。当社は江蘇售電の株式の65%にあたる325百万人民元を拠出し、神華新能源は江蘇售電の株式の35%にあたる175百万人民元を拠出した。詳細については、2017年1月19日付の当社のH株式公告および2017年1月20日付の当社のA株式公告を参照のこと。当事業年度末現在、江蘇售電は設立され、当社および神華新能源が拠出した資本割合に変動はなかった。江蘇售電は当社の被支配子会社であり、当社の連結財務諸表において連結されている。

当社の第4期第6回取締役会における承認をもって、当社および国電電力は2017年8月28日付で「国電電力発展股份有限公司および中国神華能源股份有限公司のジョイント・ベンチャー包括契約」を締結した。当社の第4期第9回取締役会における承認をもって、当社および国電電力は2018年3月1日付で「資産再編による合併会社設立に関する国電電力発展股份有限公司と中国神華能源股份有限公司の間の契約」を締結した。合併会社設立に関するかかる取引は、2018年4月27日に、当社の2018年度第1回臨時株主総会において承認された。詳細については、2018年3月1日付の当社のH株式公告および2018年3月2日付の当社のA株式公告を参照のこと。

## ( ) 関連当事者間の債務および負債

(単位：百万人民元)

関連当事者	関係性	関連当事者に提供された資金			関連当事者から当社グループに提供された資金		
		期首残高	発生額	期末残高	期首残高	発生額	期末残高
神華集团公司 およびその子会社	支配株主 およびその子会社	0	0	0	4,824	(3,450)	1,374
その他の関連当事者	その他	700	(209)	491	0	0	0
合計		700	(209)	491	4,824	(3,450)	1,374
関連当事者間の債務および負債の理由		上記の関連債務および負債は主に、当社グループが銀行を通じて当社の子会社の関係会社に委託貸付金を提供していた事実に起因し、当社グループは、神華集団から長期および短期の融資を借り入れ、関連する要件に従って内部決定手続を行った。					
関連当事者間の債務および負債の返済		現在、上記の委託貸付金および借入金の元金および利息は、返済計画に従って通常の方法で返済されている。					
関連当事者間の債務および負債に 関連する保証		該当なし。					
当社の経営成績および財務状態に与える関連 当事者間の債務および負債の影響		上記の委託貸付金および借入は、当社の関連プロジェクト計画および生産活動の正常な開始に有益であり、当社の経営成績および財務状態に重大な影響を及ぼすものではない。					

## 重要な契約およびその履行

## ( ) 信託、契約および賃貸借

該当あり ☒ 該当なし

当事業年度において、当社は、当社の事業の全部または重要な一部に関するいかなる経営管理契約も締結しなかった。

## ( ) 保証

(単位：百万人民元)

1.当社から社外当事者に提供された保証（子会社に提供された保証を除く。）													
保証提供者	保証提供者と上場会社の関係	保証対象者	保証提供総額	保証提供日（契約締結日）	保証の開始日	保証の失効日	保証の種類	履行の了/未了	保証が支払期日を過ぎて いるか	支払期日が過ぎた 保証総額	念書の有無	保証の提供が 関連当事者の 利益を目的と するか	関係
神宝能源 公司	支配 子会社	呼倫貝爾 兩伊鐵路 有限責任 公司	103.03	2008年 8月30日	2008年 8月30日	2029年 8月29日	連帯保証	未了	否	0	なし	否	なし
神東煤炭 公司	完全所有 子会社	榆林朱蓋 塔煤炭 集運有限 責任公司	40.17	2017年 6月13日	2017年 6月13日	2019年 6月12日	連帯保証	未了	否	0	なし	否	なし
当事業年度中に提供された保証総額（子会社に提供された保証を除く。）													34.94
当事業年度末における保証残高総額 (A)（子会社に提供された保証を除く。）													143.20
2.当社および子会社から子会社の利益のために提供された保証													
当事業年度中に子会社の利益のために提供された保証総額													(864.95)
当事業年度末における当社の子会社の利益のために提供された保証残高総額 (B)													10,167.68
3.保証総額（当社の子会社の利益のための保証を含む。）													
保証総額 (A + B)													10,310.88
中国企業会計準則の下での当事業年度末時点における当社の株主に帰属する純資産に占める保証総額の割合 (%)													3.42
以下を含む：													
株主、実質支配者およびそれらの関連当事者の利益のために提供された保証額 (C)													0
70%を超えるギアリングレシオで当事者の利益のために直接または間接に提供された保証額 (D)													10,047.34
純資産の50%を超える保証総額の割合 (E)													0
上記3保証の合計額(C + D + E)													10,047.34
未払債務の保証に関する潜在的な連帯保証債務の詳細													下記を参照のこと
保証の詳細													下記を参照のこと

注：当事業年度末における保証総額のうち子会社が外部当事者に提供した保証の残高は、子会社の外部保証額に当社が保有する子会社の自己資本比率を乗じたものに等しい。

当事業年度末において、当社グループが提供した保証の残高総額は、以下を含む10,310.88百万人民元であった。

- 当事業年度末において、当社が株式の56.61%を保有する子会社である神宝能源会社が外部当事者の利益のために提供した保証は以下のとおりであった。2011年の当社による神宝能源会社の取得に先立って、また呼倫貝爾兩伊鐵路有限責任会社が新たに敷設する伊敏と伊爾施を結ぶ共同鉄道プロジェクトのための人民元建てのシンジケートローンに関する保証契約に従って、2008年に神宝能源会社は保証会社の1つとして、呼倫貝爾兩伊鐵路有限責任公司（以下「兩伊鐵路公司」といい、神宝能源会社が株式の14.22%を保有する。）に対してシンジケートローンのための連帯保証を提供した。保証される主要な債務は、2008年から2027年まで（かかる期間が満了する時点で債務が満期であるか否かを問わず）の、最高残高207.47百万人民元の貸付人に支払われるべき債務であった。上記のシンジケートローンは2011年から2026年の間に割賦弁済される予定である。保証契約は、保証人が負担する債務の保証期間を、ローン支払日から最終ローン支払日以降2年まで（2029年）で計算すると規定する。

経営悪化により両伊鉄路会社が借入金の利息を遅滞なく支払うことができなかったため、両伊鉄路会社の株主総会で決議されたとおり、同社の株主（神宝能源会社を含む。）は両伊鉄路会社に追加資本を注入した。神宝能源会社は両伊鉄路会社に対して、累計額11.82百万人民元を資本注入した。

当事業年度末において、神宝能源会社は、持株割合に応じて、両伊鉄路会社を代理して借入金の元本総額19.62百万人民元を返済した。神宝能源会社は既に両伊鉄路会社の株式持分14.22%に相当する減損引当金を全額計上し、代理で返済した。神宝能源会社は、その他の株主とともに、両伊鉄路会社の事業運営の改善を要求し続ける。2017年12月31日現在、両伊鉄路会社のギアリングレシオは119%であった。

- (2) 当事業年度末において、当社の完全所有子会社である神東煤炭会社が社外当事者に提供した保証は以下のとおりである。2017年6月13日付で締結した最高保証額についての保証契約に定められるとおり、神東煤炭会社が保証会社の1つとして、ファシリティ契約の下での債務のために、株式割合に基づいて、榆林朱蓋塔煤炭集運有限責任公司（うち神東煤炭会社が株式の33%を保有）に対して連帯保証を提供した。保証された主要な与信枠は2017年から2019年の最高残高400百万人民元の債権者に起因する債務であった。上記の保証は2016年10月28日に開催された当社の第3期第19回取締役会において承認された。

2017年12月31日現在、榆林朱蓋塔煤炭集運有限責任公司の実際引出額は121.72百万人民元であり、ギアリングレシオは48%であった。

- (3) 当事業年度末において、当社が子会社の利益のために提供した保証額の詳細は以下のとおりである。2013年12月23日付で、当社の取締役会は当社による包頭煤化工公司の取得を承認し、当社が神華集团公司に代わって包頭煤化工公司の利益のために、国家開発銀行が貸し付けた350百万米ドル建て融資（2018年8月に契約終了）の保証を提供することとなった。

2017年12月31日現在、米ドル建て融資の保証残高は34.19百万米ドル（約223.37百万人民元に相当）であり、包頭煤化工公司のギアリングレシオは33%であった。

- (4) 当事業年度末において、主として、当社の完全所有子会社である神華国際（香港）有限公司がその完全所有子会社である中国神華海外資本有限公司に1.5十億米ドルの債券の発行に対する保証を提供したことおよび当社が間接的に51%の株式を保有する神華福能発電有限責任公司がその支配子会社2社に保証を提供したことにより、当社の連結報告書における子会社間の保証の総額が約9,944.30百万人民元となった。

独立取締役の意見に関する詳細については、年次報告書と併せて開示されている関連する報告書を参照のこと。

## 6【研究開発活動】

### 変化を受容するための技術革新の使命

中国神華は、独立した技術革新能力を高めるために技術革新の方法を最適化し、知的財産を保護し、技術革新のプラットフォームおよび技術革新の人材チームの構築を進めるために研究開発への投資を増やし、当社の中核的競争力を育てるための技術革新チェーン、産業チェーンおよび市場需要の有機的な結合を推進する。

持続可能な開発目標 (SDGs)	行動
産業、革新および社会基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第13次5カ年計画」期間中の国家的な主要研究開発プロジェクトに関する上位の企業の中で中心的な役割を果たした。</li> <li>・90の会社レベルの技術革新プロジェクトが承認をもって創設された。</li> <li>・126件の発明特許を含む、543件の特許が取得された。</li> </ul>

### 管理システムの技術革新

当社は、意思決定レベルでは科学技術委員会および専門家諮問委員会、経営レベルでは科学技術発展部門、研究開発レベルでは国の機関、直接管理する機関および関連する事業体により管理される機関を含む3段階の科学研究機関に加えて業界、大学および研究機関の提携による基盤ならびに実践レベルでは末端の事業体からなる、包括的な技術革新システムを確立した。

### 科学研究の人材育成

当社は、人材チームの育成を強化し、研究開発への投資を増やし、企業の科学研究能力の向上を促進することで技術分野における人材の多層的な基盤を確立した。2017年度において、当社の研究開発に投入された経費は606百万人民元であった。当社は、環境に配慮した採炭、石炭火力発電所の超低排出、石炭化学および重輸送鉄道における重要な技術上の躍進を追求した。

中国工程院の学者	2
上級以上の専門資格を有する技術者	4,164
「百千万人材プロジェクト」の専門家	4

### 科学研究における躍進

中国神華は、国家および業界的な革新プロジェクトを積極的に引き受け、業界標準の確立に率先して参画した。当社は、業界および企業の発展に由来する技術的課題に取り組むべく、技術革新の成果の商業化を加速させた。

2017年度において、中国神華は、科学的および技術的な革新において目覚ましい業績を挙げた。

- ・26の技術的な業績に対して、地方、政府またはそれ以上の賞を受賞した。
- ・当社が策定に参画した「海水冷却に関する水質の要件ならびに分析および検査方法第1章：カルシウムおよびマグネシウムイオンの測定」(GB/T 33584.1-2017)を含む6つの国家基準が公布および施行された。

事例研究：「炭鉱の長距離斜坑におけるシールド建設の主要な技術についての研究および実演」プロジェクトは、国家による調査をもって無事に認証された。

炭鉱の長距離斜坑におけるシールド建設プロジェクトが直面する、追加の採掘深度、途切れのない傾斜、高水圧や水の氾濫、複雑な地層の状態等の課題を鑑みて、当社は、シールド建設の選別およびマッチング、掘削、地下解体、デジタルリモートモニタリング、好ましくない地理的条件の特殊な取り扱いおよびチューブ構造の採炭の影響等の重要かつ主要な技術について調査し、課題を乗り越え、大規模な最新式炭鉱の建設において模範的かつ指導的な役割を担う。中国における斜坑炭鉱建設の新たなモデルを創造しつつ、神華新街鉱区プロジェクトおよび神東補連塔斜坑炭鉱新補助プロジェクトに基づき中国におけるシールド建設を採用した第一号の斜坑炭鉱実演プロジェクトを設立した。

当社は知的財産保護に重きを置き、全方位的な知的財産の創出、保護、管理および申請のための手腕を向上させた。2017年度において、当社は、235件の発明特許を含む720件の特許申請を行い、126件の発明特許を含む543件の新たな特許を取得した。

#### 科学および技術の情報交換および協働

当社は、持続可能なエネルギー開発政策の策定にあたって技術的支援を提供するために、クリーンエネルギー技術についての国際的な学术交流の範囲を引き続き拡大した。2017年12月、会長であるリン・ウェン氏および学者であるリ・ニャンジ氏が編集長を務めるクリーンエネルギー誌が刊行された。オックスフォード大学出版局およびサイエンス・プレスそれぞれが、国外および国内における出版社として指定された。

上記の他、「第一部-第3-7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析-」．当報告期間の主な経営成績-( ) 主要な事業に関する分析-3. 研究開発投資」も参照のこと。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### ・経営成績に関する説明及び分析

2017年度において、供給側の構造改革は目覚ましい成果を達成した。中国国内の石炭市場では、需給関係及び季節の変化に応じて価格が高水準で変動し、需給が逼迫した。中国神華は、この好機を捕え、石炭生産を効果的に体系化するとともに石炭購入量の増加に努め、生産、輸送及び販売の連携強化を行った。生産と輸送の連携強化の一方、電力市場ではマーケティング施策を強化することで、石炭、電力及び輸送セグメントの取引量を拡大させた。また、品質及び効率性向上とコスト管理システムの最適化に取り組むことで、中国神華の経営成績は大幅に向上した。

当社グループの純利益は57,138百万人民元(2016年度:31,970百万人民元)で前年比78.8%増となり、当社株主に帰属する純利益は47,795百万人民元(2016年度:24,910百万人民元)、基本的1株当たり利益は2.403人民元(2016年度:1.252人民元)で前年比91.9%増となった。

		2017年度実績	2017年度目標 (修正後)	達成率 (%)	2016年度実績	増減率 (%)
商業用石炭生産量	100百万トン	2.954	2.78	106.3	2.898	1.9
石炭販売量	100百万トン	4.438	3.96	112.1	3.949	12.4
総送電量	十億kWh	246.25	229.0	107.5	220.57	11.6
売上高	100百万人民元	2,487.46	2,215	112.3	1,831.27	35.8
売上原価	100百万人民元	1,604.60	1,499	107.0	1,248.43	28.5
販売費及び一般管理費、財務費用(純額)	100百万人民元	132.79	147	90.3	140.58	(5.5)
自社生産石炭の単位当たり生産原価の増減	/	前年比 1.6%減	前年比横ばい	/	前年比 11.0%減	/

注:第4期会合第5回取締役会の承認を得て、当社は産業政策に従い、市場環境及び当社の事業の状況に基づき、2017年度の事業目標を修正した。

2017年度における当社グループの主要な財務指標は、以下の通りである。

		2017年度	2016年度	増減率
当報告期間末現在の総資産利益率	%	10.0	5.5	4.5パーセント・ポイント増
当報告期間末現在の純資産利益率	%	15.6	7.9	7.7パーセント・ポイント増
EBITDA	百万人民元	101,310	70,762	43.2%増
		2017年12月31日 現在	2016年12月31日 現在	増減率
株主に帰属する1株当たり資本	1株当たり人民元	15.36	15.94	3.6%減
ギアリングレシオ	%	33.7	33.2	0.5パーセント・ポイント増
負債総資本比率	%	20.4	22.0	1.6パーセント・ポイント減

注:上記指標の計算については、年次報告書の「定義」の項目(訳者注:原文の項目)を参照のこと。

## ・当報告期間の主な経営成績

### ( ) 主要な事業に関する分析

連結純損益及び連結キャッシュ・フロー計算書の主要な項目に関する増減分析

単位:百万人民元

	2017年度	2016年度	増減率 (%)
売上高	248,746	183,127	35.8
売上原価	(160,460)	(124,843)	28.5
一般管理費	(9,456)	(8,423)	12.3
その他の利得及び損失	(1,880)	(3,078)	(38.9)
その他の収益	894	1,379	(35.2)
その他の費用	(1,262)	(1,511)	(16.5)
受取利息	1,205	723	66.7
財務費用	(4,416)	(5,748)	(23.2)
関連会社の純利益に対する持分	534	237	125.3
法人所得税	(16,155)	(9,283)	74.0
営業活動による正味キャッシュ・フロー	95,152	81,883	16.2
うち、神華財務公司 <sup>注</sup> の営業活動による(に使用された)正味キャッシュ・フロー <sup>注</sup>	7,221	(10,681)	(167.6)
神華財務公司の影響を除く、営業活動による正味キャッシュ・フロー	87,931	92,564	(5.0)
投資活動による(に使用された)正味キャッシュ・フロー	13,363	(64,654)	(120.7)
財務活動に使用された正味キャッシュ・フロー	(77,621)	(18,490)	319.8

注:神華財務公司是、預金及び貸出等の金融サービスを当社グループ以外の企業に提供しているため、当該項目は、預金及び貸出、並びに当該事業から生じた利息、報酬及び手数料に係るキャッシュ・フローである。



## 1. 売上高及び原価

### (1) 売上高に影響を与える要因

当社グループの2017年度の売上高は、前年比35.8%増となった。この主な増減理由は、以下の通りである。

マクロ経済が安定的にプラス成長を示す中、石炭市場では需給が逼迫し高水準で価格が変動したことによる。2017年度の当社グループの石炭販売量は443.8百万トン(2016年度:394.9百万トン)となり、前年比12.4%増となった。また、石炭の平均販売価格は1トン当たり425人民元(税抜)(2016年度:1トン当たり317人民元)となり、前年比34.1%上昇した。

社会の総電力消費量の増加、水力発電による供給低迷、及び当社グループのマーケティング努力の強化により、2017年度の当社グループの送電量が246.25十億kWh(2016年度:220.57十億kWh)に達し、前年比11.6%増となったことによる。

石炭販売量の増加により、2017年度の当社グループ所有の鉄道輸送量が273.0十億トンkm(2016年度:244.6十億トンkm)となり、前年比11.6%増となったことによる。

ポリオレフィン製品の販売量の増加及び販売価格の上昇による。

主な経営指標	単位	2017年度	2016年度	増減率 (2017年度対 2016年度) (%)	2015年度
( )石炭					
1. 商業用石炭生産量	百万トン	295.4	289.8	1.9	280.9
2. 石炭販売量	百万トン	443.8	394.9	12.4	370.5
うち、自社生産石炭	百万トン	301.0	285.5	5.4	289.3
購入石炭	百万トン	142.8	109.4	30.5	81.2
( )電力					
1. 総発電量	十億kWh	262.87	236.04	11.4	225.79
2. 総送電量	十億kWh	246.25	220.57	11.6	210.45
( )石炭化学					
1. ポリエチレン販売量	千トン	324.6	292.6	10.9	319.2
2. ポリプロピレン販売量	千トン	308.8	282.1	9.5	312.9
( )輸送					
1. 自社所有鉄道の輸送量	十億トンkm	273.0	244.6	11.6	200.1
2. 海上輸送による石炭販売量	百万トン	258.2	226.4	14.0	203.8
うち、黄驊港	百万トン	184.1	158.6	16.1	111.6
神華天津石炭埠頭	百万トン	43.7	39.5	10.6	40.3
3. 船積量	百万トン	93.0	79.2	17.4	79.8
4. 海上輸送量	十億トン海里	80.4	63.0	27.6	64.1

## (2) 原価の分析

単位:百万人民元

原価の内訳項目	当期金額	当期の 売上原価に 対する割合 (%)	前期金額	前期 売上原価に 対する割合 (%)	前期金額に対す る当期金額の増 減率 (%)
石炭購入高	49,950	31.1	26,286	21.1	90.0
原材料費、燃料費及び電力料	19,523	12.2	16,405	13.1	19.0
労務費	13,842	8.6	12,661	10.1	9.3
減価償却費及び償却費	21,576	13.5	21,744	17.4	(0.8)
維持修繕費	9,938	6.2	9,509	7.6	4.5
輸送費	14,326	8.9	10,172	8.2	40.8
税金及び賦課金	9,640	6.0	6,922	5.6	39.3
その他	21,665	13.5	21,144	16.9	2.5
売上原価合計	160,460	100.0	124,843	100.0	28.5

2017年度の当社グループの売上原価は前年比28.5%増となった。この内訳は次の通りである。

購入石炭の売上原価が前年比90.0%増となった。これは主に、石炭の調達価格の前年比での上昇、及び市場の需給に応じた当社グループの購入石炭の販売量の拡大による。

原材料費、燃料費及び電力料が前年比19.0%増となった。これは主に、石炭価格が上昇した結果、電力セグメントの石炭原価が増加したことによる。

労務費が前年比9.3%増となった。これは主に、業績連動型賃金の引当額が、業績連動型賃金の算定基礎である当社グループの実際の経営成績の向上により増加したことによる。

輸送費とは、外部の鉄道、高速道路、船舶輸送の経由や、外部の港湾の利用等から生じた費用である。2017年度の輸送費が前年比40.8%増となった。これは主に、石炭販売量の増加に伴い当社グループの国営鉄道経由の輸送量が前年比で増加したことによる。

税金及び賦課金が前年比39.3%増となった。これは主に、石炭の販売価格の上昇により資源税及び関連賦課金が増加したことによる。

単位:百万人民元

事業セグメント別売上原価 (連結会社間取引消去前)				
事業 セグメント	原価の項目	2017年度	2016年度	増減 (%)
石炭	石炭購入高、自社生産石炭の生産原価(原材料費及び電力料、労務費、維持修繕費、減価償却費及び償却費並びにその他の費用)、輸送費、その他の営業費用、並びに税金及び賦課金	143,461	109,404	31.1
電力	原材料費、燃料費及び電力料、労務費、維持修繕費、減価償却費及び償却費、その他の原価、その他の営業費用、並びに税金及び賦課金	68,388	53,939	26.8
鉄道	内部輸送業務に係る原価(原材料費、燃料費及び電力料、労務費、維持修繕費、減価償却及び償却費、外部輸送費、並びにその他の費用)、外部輸送費、その他の営業費用、並びに税金及び賦課金	18,632	17,350	7.4
港湾	内部輸送業務に係る原価(原材料費、燃料費及び電力料、労務費、維持修繕費、減価償却費及び償却費、並びにその他の費用)、外部輸送費、その他の営業費用、並びに税金及び賦課金	2,880	2,523	14.1
海運	内部輸送業務に係る原価(原材料費、燃料費及び電力料、労務費、維持修繕費、減価償却費及び償却費、外部輸送費、並びにその他の費用)、外部輸送費、並びに税金及び賦課金	2,472	1,707	44.8
石炭化学	原材料費、燃料費及び電力料、労務費、維持修繕費、減価償却費及び償却費、その他の費用、その他の営業費用、並びに税金及び賦課金	4,968	4,330	14.7

## (3) 主要事業セグメント

当社グループの主要な事業モデルは、石炭の生産 石炭の輸送(鉄道、港湾及び海運) 石炭の使用(電力及び石炭化学)という一体化した石炭産業チェーンであるため、各セグメント間で業務上の取引が生じる。以下の事業セグメント別の売上高及び売上原価は、各セグメントの連結会社間取引消去前のデータである。

単位:百万人民元

2017年度の主要事業セグメント (連結会社間取引消去前)						
事業 セグメント	売上高	売上原価	売上 総利益率 (%)	売上高の 前年比増/減 率(%)	売上原価の 前年比増/減 率(%)	売上総利益率の前年比 増/減
石炭	195,918	143,461	26.8	49.1	31.1	10.1パーセント・ポイント増
電力	79,511	68,388	14.0	13.8	26.8	8.8パーセント・ポイント減
鉄道	37,586	18,632	50.4	12.1	7.4	2.1パーセント・ポイント増
港湾	5,717	2,880	49.6	13.4	14.1	0.3パーセント・ポイント減
海運	3,247	2,472	23.9	53.7	44.8	4.7パーセント・ポイント増
石炭化学	5,681	4,968	12.6	17.6	14.7	2.2パーセント・ポイント増

当社グループの石炭、電力、輸送及び石炭化学セグメントに帰属する営業利益の割合(連結会社間取引消去前)は、それぞれ2016年度の36%、25%、38%及び1%から、2017年度は61%、10%、28%及び1%に変化した。この大幅な変化は主に、石炭販売量の増加と石炭価格の上昇により石炭セグメントの利益が増加したこと、及び電力セグメントの利益が減少したことによる。

## (4) 生産量及び販売量の分析

主要製品	生産量	販売量	在庫	生産量の 前年比 増/減率 (%)	販売量の 前年比 増/減率 (%)	在庫の 期首残高比 増/減率 (%)
石炭	295.4百万トン	443.8百万トン	24.7百万トン	1.9	12.4	(16.0)
電力	262.87十億kWh	246.25十億kWh	/	11.4	11.6	/

## (5) 主要得意先

番号	得意先上位5社	2017年度	
		売上高	売上高に対する割合
		百万人民元	%
1	第1位	13,658	5.5
2	第2位	8,717	3.5
3	第3位	6,478	2.6
4	第4位	3,853	1.5
5	第5位	3,701	1.5
合計		36,407	14.6

## (6) 主要仕入先

2017年度における当社の仕入先上位5社からの調達額合計は20,012百万人民元であり、当事業年度の調達額合計の15.7%を占めている。

## 2. 連結純損益計算書のその他の項目

- (1) 一般管理費：2017年度は前年比12.3%増となった。これは主に、業績連動型賃金の引当額が、業績連動型賃金の算定基礎である当社グループの実際の経営成績の向上により増加したことによる。
- (2) その他の利得及び損失：2017年度のその他の損失は前年比38.9%減となった。これは主に、委託理財商品利得の増加、無形固定資産の処分利得の増加及び固定資産の処分損の減少による。
- (3) その他の収益：2017年度は前年比35.2%減となった。これは主に、鉄道セグメントに対する政府補助金の減少による。
- (4) その他の費用：2017年度は前年比16.5%減となった。これは主に、第三者への寄付金の減少による。
- (5) 受取利息：2017年度は前年比66.7%増となった。これは主に、外部の金融機関に対する平均預金残高が前年比で増加したことによる。
- (6) 財務費用：2017年度は前年比23.2%減となった。これは主に為替差益の増加による。
- (7) 関連会社の純利益に対する持分：2017年度は前年比125.3%増となった。これは主に、関連会社である石炭会社に対する投資収益が増加したことによる。
- (8) 法人所得税：2017年度は前年比74.0%増となった。これは主に税引前利益の大幅な増加による。2017年度の法人所得税の平均税率は22.0%(2016年度:22.5%)で、0.5パーセント・ポイント低下した。これは主に、石炭セグメント(優遇税率が適用される)の利益の割合が上昇し、電力及び輸送セグメント(相対的に優遇度の劣る税率が適用される)の利益の割合が低下したことによる。

## 3. 研究開発投資

費用処理した当報告期間の研究開発費	341百万人民元
資産計上した当報告期間の研究開発支出	522百万人民元

研究開発支出合計	863百万人民元
資産計上した研究開発支出の割合(%)	60.5%
売上高に対する研究開発支出合計額の割合(%)	0.3%
当社の研究開発員数(名)	2,380名
当社の総従業員数に対する研究開発員数の割合(%)	2.7%

2017年度の研究開発投資は、前年比50.1%増となった(2016年度:575百万人民元)。これは主に、インテリジェント・マイニングと機械化採掘の技術上・設備上の集約化、高地用総合採掘、燃焼後石炭灰の包括利用、オンライン化鉱山の主要設備、石炭火力発電所から排出される煙道ガスに含まれる汚染物質除去技術の集約化及び関連申請、並びに重牽引鉄道の技術及び設備の開発による。

#### 4. キャッシュ・フロー

当社グループは、株主利益最大化の実現を目的とした資本管理方針を策定するとともに、継続的事業運営を確実にするための前提として良好な資本構造の維持及び資本コストの削減を行っている。また、当社の方針に従い、インフラストラクチャー、合併及び買収、並びにその他のプロジェクトに資金を投資している。

(1) 営業活動による正味キャッシュ・フロー：2017年度は前年比16.2%増となった。このうち、神華財務会社の営業活動による正味キャッシュ・フローは7,221百万人民元(2016年度:営業活動に使用された正味キャッシュ・フロー10,681百万人民元)で、前年比の増減率は167.6%となった。これは主に、神華財務公司における預金の増加による。神華財務公司の影響を除く、当社グループの営業活動による正味キャッシュ・フローは、前年比5.0%減となった。これは主に、前事業年度末では受取手形の満期の集中及び売掛金の減少により相対的に多額のキャッシュ・インフローが流入していたことによる。また、当報告期間では資源税等の税金の支払額が増加したことによる。

(2) 投資活動による/(に使用された)正味キャッシュ・フロー:2017年度の投資活動による正味キャッシュ・フローは13,363百万人民元(2016年度:投資活動に使用された64,654百万人民元)であり、前年比の増減率は120.7%となった。これは主に、当報告期間に委託理財商品の満期が到来したことによる。

(3) 財務活動に使用された正味キャッシュ・フロー：2017年度は前年比319.8%増となった。これは主に、当報告期間に特別配当が行われたことによる。

#### ( ) 主要事業以外から生じた利益の重要な増減に関する説明

該当あり

☐

該当なし

## ( ) 資産及び負債の分析

## 1. 資産及び負債

単位: 百万人民元

勘定科目	当事業年度末 現在の金額	当事業年度末 現在の総資産 に対する割合 (%)	前事業年度末 現在の金額	前事業年度末 現在の総資産 に対する割合 (%)	増減率 (%)	主な増減理由
建設仮勘定	39,054	6.8	35,220	6.1	10.9	電力及び鉄道技術プロジェクトに対する投資の増加
探査及び評価資産	998	0.2	2,344	0.4	(57.4)	オーストラリアにおけるウォーターマーク・コール・プロジェクトの黒色土の探査地域のうち約100平方キロメートルに対する探査許可の返還
関連会社に対する持分	9,513	1.7	5,142	0.9	85.0	鉄道会社に対する出資
売却可能投資	854	0.1	1,800	0.3	(52.6)	出資の増加により共同支配企業となった鉄道会社に対する投資を関連会社に対する持分に分類
その他の流動資産	33,466	5.9	36,749	6.4	(8.9)	神華財務会社が実行した長期貸出金の減少
棚卸資産	11,647	2.0	13,341	2.3	(12.7)	石炭の在庫及び埋蔵量の減少
売掛金及び受取手形	19,455	3.4	20,573	3.6	(5.4)	回収管理の強化による売掛金残高の減少
前払費用及びその他の流動資産	20,452	3.6	48,792	8.5	(58.1)	委託理財商品の残高の減少
拘束性預金	7,348	1.3	6,141	1.1	19.7	銀行引受手形に対する保証金残高の増加
当初預入期間が3ヶ月超の定期預金	1,870	0.3	3,428	0.6	(45.4)	定期預金の満期到来
現金及び現金同等物	71,872	12.6	41,188	7.1	74.5	石炭及び輸送セグメントの営業活動によるキャッシュ・フローの増加、委託理財商品の満期到来及び神華財務公司における預金の増加
短期借入金	15,785	2.8	11,811	2.0	33.6	電力セグメントの短期借入金の増加
未払費用及びその他の債務	51,995	9.1	41,361	7.2	25.7	神華財務公司の預金残高の増加
1年内償還予定中期社債	4,995	0.9	19,989	3.5	(75.0)	中期社債の期限到来による償還
1年内償還予定社債	3,267	0.6	0	0.0	N/A	米ドル建社債のうち1年以内に期限が到来する部分
未払法人所得税	5,604	1.0	3,465	0.6	61.7	石炭及び鉄道セグメントの未払法人所得税の増加
長期借入金	64,321	11.3	58,462	10.1	10.0	電力セグメントの長期借入の増加
中期社債	0	0.0	4,985	0.9	(100.0)	1年以内に期限が到来する中期社債を1年内償還予定中期社債に振替
社債	6,485	1.1	10,331	1.8	(37.2)	米ドル建社債のうち1年以内に期限が到来する部分を1年内償還予定社債に振替
当社株主に帰属する資本	305,541	53.5	316,975	55.0	(3.6)	当社が当報告期間に特別配当を実施

## 2. 主要資産に対する制限

当社グループの主要資産のうち、押収又は差し押さえを受けているものはない。当報告期間末現在、当社グループの拘束資産の残高は9,272百万人民元であった。これは主に、神華財務公司の中国人民銀行への法定預金準備額4,825百万人民元で構成されている。その他の拘束資産は主に、銀行引受手形に対する保証金並びに銀行借入の担保に供している無形資産及び固定資産であった。

単位:百万人民元

資産の種類	当報告期間末現在の額面金額	制限
拘束性預金	7,348	預金準備金及び各種保証金
受取手形	388	発行支払手形に対する担保
固定資産	644	銀行借入金に対する担保
無形資産	892	銀行借入金に対する担保
合計	9,272	-

## ( ) 事業セグメント別の業績

### 1. 石炭セグメント

#### (1) 生産、事業及び建設

当社グループが生産販売した石炭製品の大部分は発電用石炭であった。2017年度の下流部門では、マクロ経済の安定的かつプラスの成長、天候及びその他の要因を受けて、強い需要を維持した。生産に関する法令を遵守した上で、当社グループは、高品質の炭鉱生産能力を強化するとともに購入石炭を最大限活用することにより、均衡の取れた効率的な石炭生産を実現し、市場に対する十分な供給を確実に実行した。安全かつ効率的な鉱山建設の促進に加え、生産安全性を確保すべく炭鉱における基本的管理を強化した。また、品質及び効率性向上のための取組みの促進、発電用石炭の発熱量の向上に加え、高付加価値の特殊石炭の生産量の拡大を実施した。さらに、当社グループは、技術革新を促進し、情報技術・採掘技術の開発及び適用を加速させたことで、生産効率や単位当たり生産量、単位当たり坑道延先の水準は引き続き向上した。2018年第1四半期に、世界初となる高さ8.8メートルの高屋根付の採掘切羽の試運転を開始した。

当事業年度の当社グループの商業用石炭の生産量は295.4百万トン(2016年度:289.8百万トン)で、前年比1.9%増となった。これは主に、神東鉱山及び勝利鉱山の生産量の増加による。掘進距離は合計335千メートル(2016年度:380千メートル)となり、前年比11.8%減となった。

土地取得の進捗の遅れ及び剝土作業の遅延の影響を受け、哈爾烏素の露天掘り鉱山の商業用石炭の生産量は17.0百万トンとなり、前年比38.0%減となった。中国北東部における冬季の石炭需要を満たすために、宝日希勒の露天掘り鉱山では石炭生産に注力した結果、商業用石炭の生産量は25.3百万トンを達成し、前年比1.2%増となった。これまで当社グループは、政府及び関連当事者の支援を受けて上記2箇所の鉱山の剝土作業に精力的に取り組むことで、石炭生産への影響を軽減している。

年間3.0百万トンの設計生産能力を有する青龍寺鉱山では、2017年7月に操業を開始した。新街台格廟鉱山の北部については探査認可を取得したが、南部に対する探査認可は申請中である。当該鉱山に係る計画全体は2017年度に承認済みである。

2017年度の当社グループの石炭の生産量及び販売量合計は以下の通りである。

石炭の種類	生産量 (百万トン)	販売量 (百万トン)	売上高 (百万人民元)	売上原価 (百万人民元)	売上総利益 (百万人民元)
発電用石炭	295.4	442.6	187,347	130,671	56,676
その他	0	1.2	1,496	1,495	1
合計	295.4	443.8	188,843	132,166	56,677

石炭製品は非常に多岐にわたり、自社生産石炭製品の中には購入石炭と併せて輸送・販売しているものもあるため、当社グループは、石炭の売上高、売上原価及び売上総利益を石炭の調達先(自社生産石炭及び購入石炭)別に表示することはできない。

2017年度の当社の探査費用(実現可能性の調査に関する結論が確定するまでに発生した、石炭資源の探査及び評価に関連した費用)は、約48百万人民元(2016年度:25百万人民元)であった。これは主に、オーストラリアのウォーターマーク・コール・プロジェクトの関連費用である。当社の鉱山開発及び探査に係る資本的支出は、約3,332百万人民元(2016年度:4,551百万人民元)であった。これは主に、新街台格廟鉱山の開発費、神東鉱山、准格爾鉱山及び宝日希勒鉱山等の石炭採掘に関連する支出、採掘権に係る対価の支払、並びに固定資産の取得による。

当社グループは、鉄道による集荷・輸送チャンネルを独自に運行している。これらのチャンネルは、自社所有の主要鉱山周辺に集中的に配備されており、これにより炭鉱での石炭輸送が可能となっている。自社所有鉄道の運行に関する詳細については、本節の「鉄道セグメント」を参照のこと。

## (2) 石炭の販売

当社グループが販売する石炭は主に自社生産石炭である。顧客ニーズを満たし、鉄道輸送を十分に活用するために、当社グループは、自社所有鉱山周辺及び鉄道沿線地域の第三者からも石炭を購入するほか、異なる種類及び等級の石炭製品を生産し、外部顧客に販売している。また、当社グループは、専門分業化を行っている。生産会社が石炭の生産に責任を負い、神華銷售集団が主に石炭の販売に対する責任を負っている。顧客は、電力、冶金、化学及び建設資材等、様々な業種にわたっている。

当社グループは、2017年度に海上輸送による石炭販売を最大化する目標を設定した。自社所有港と鉄道物流システムを活用して、石炭の調達源、配分及び輸送の適切な手配を行うとともにマーケティング活動を実施し、柔軟な価格設定方針と事業戦略を実行した。また「輸送基地」や「準定期便運航スケジュール」の事業モデルを推進することで、安定的かつ高効率の一体経営を実現した。さらに、市場の動向に適合し、新たな地域市場や発電用石炭以外の市場を開拓すると同時に、購入石炭の調達パターンを多様化させ、購入石炭の調達源を強化した。当事業年度の石炭販売量は443.8百万トン(2016年度:394.9百万トン)に達し、前年比12.4%増となった。国内市場における石炭販売量は436.4百万トンとなり、同期間における石炭の国内販売量(3,367百万トン<sup>1)</sup>)の13.0%を占めた。当事業年度の海上輸送による石炭販売量は258.2百万トン(2016年度:226.4百万トン)に達し、前年比14.0%増となった。黄驊港及び神華天津石炭埠頭の海上輸送による石炭販売量は、当社グループの海上輸送による石炭販売量合計の88.2%(2016年度:87.5%)を占め、前年比0.7パーセント・ポイント増加した。このような販売が鉄道及び港湾セグメントの収益改善の推進力となり、一体経営による利益最大化を実現した。

当社グループは、当社グループが開発した神華石炭交易網(<https://www.e-shenhua.com>)経由の石炭の販売チャンネルを拡大し、管理の効率性を向上させた。2017年度の神華石炭交易網を経由した当社グループの石炭販売量は、199.0百万トンであった。

2017年度では国内の石炭需要は引き続き回復した。市場の需給は逼迫し、石炭価格は高水準で変動した。当社グループの2017年度の石炭加重平均価格は1トン当たり425人民元(税抜)(2016年度:1トン当たり317人民元)となり、前年比34.1%増となった

当社グループは、2018年度も2017年度と同様に、自社生産石炭に関する長期的な価格交渉の仕組みを維持する予定である。

2018年度期首に、当社グループは、優良電力会社6社との3ヵ年(2019-2021年)長期価格交渉契約に署名した。これらの会社は、当社グループと長期にわたり連携しており、年間石炭販売量、価格決定及び価格調整に関する合意を締結することで、石炭の



販売量及び価格の安定化を高めている。当該契約に従い、当社グループは、「基準価格(5,500kcalの発電用石炭、1トン当たり535人民元(税込スポットFOB価格)) + 変動価格」という価格決定の仕組みを適用する予定である。

<sup>1</sup> 出典：中国石炭輸送販売協会

### 販売地域別

	2017年度			2016年度			増減	
	販売量	販売量合計に占める割合	価格	販売量	販売量合計に占める割合	価格	販売量	価格
	百万トン	%	1トン当たり 人民元	百万トン	%	1トン当たり 人民元	%	%
・国内販売	436.4	98.3	426	386.2	97.8	317	13.0	34.4
( ) 自社生産石炭及び購入石炭	416.3	93.8	426	374.4	94.8	316	11.2	34.8
1. 鉄道輸送	160.3	36.1	310	151.3	38.3	229	5.9	35.4
2. 海上輸送	256.0	57.7	498	223.1	56.5	376	14.7	32.4
( ) 国内トレーディング石炭販売	19.4	4.4	427	11.6	2.9	339	67.2	26.0
( ) 輸入石炭販売	0.7	0.1	591	0.2	0.1	415	250.0	42.4
・輸出販売	2.2	0.5	447	3.3	0.8	407	(33.3)	9.8
・海外販売	5.2	1.2	382	5.4	1.4	276	(3.7)	38.4
1. イーエムエム・インドネシア	1.7	0.4	108	1.8	0.5	97	(5.6)	11.3
2. 再輸出取引	3.5	0.8	518	3.6	0.9	367	(2.8)	41.1
販売量合計/平均価格	443.8	100.0	425	394.9	100.0	317	12.4	34.1

注：本報告書における石炭の販売価格はすべて税抜である。

2017年の当社の国内得意先上位5社に対する販売量は63.9百万トンで、国内販売量合計の14.6%を占めた。特に、最大得意先に対する販売量は18.2百万トンであり、国内販売量の4.2%を占めた。石炭の国内得意先上位5社は、主に石炭会社、電力会社及び石炭トレーディング会社である。

### 内部及び外部顧客別

	2017年度			2016年度			価格の変動
	販売量	割合	価格	販売量	割合	価格	
	百万トン	%	1トン当たり 人民元	百万トン	%	1トン当たり 人民元	%
外部顧客に対する販売	344.7	77.7	436	305.5	77.4	321	35.8
内部の電力セグメントに対する販売	94.7	21.3	390	85.4	21.6	308	26.6
内部の石炭化学セグメントに対する販売	4.4	1.0	359	4.0	1.0	237	51.5
石炭販売量合計/平均価格	443.8	100.0	425	394.9	100.0	317	34.1

当社は、内部の電力セグメント及び石炭化学セグメント並びに外部顧客に対する販売について、長期的な交渉の仕組みに基づく統一した価格決定方針を採用している。

### (3) 生産の安全性

2017年度に当社グループは生産安全性を確保するための様々な取組みを実施した結果、当期間に重大な又はより深刻な安全性に関わる事故の発生はなかった。当社グループは、生産安全性に関わる全レベルの主体の責任の明確化や、評価及び懲罰の体制強化、安全性管理に対する監査の実施を通じて、安全責任制の仕組みを推進した。また、生産安全性に係る管理体制を向上させ、リスク管理システムの構築を進めた。さらに、潜在リスクの識別に関するより厳格な基準の設定と隠れた危険性に対する検査や管理の強化に加え、重大災害防止技術の開発を行い、主要技術の研究に積極的に取り組むことにより、安全性を保

証する裏付けの強化を行った。2017年度の当社グループの炭鉱における百万トン当たりの死亡率は0.003であり、当社は世界有数の地位を維持した。

石炭生産の安全性確保に関する取組みは、当社グループの2017年度のCSRレポートに詳述している。

#### (4) 環境保護

2017年度において、当社グループの鉱区の環境安全性の水準は引き続き向上した。当社グループは、石炭の生産過程で発生する排ガス、排水及び石炭脈石を削減するための環境に優しい採掘技術を推進した。地表陥没の防止・管理で大きな進展があったため、大柳塔炭鉱では、中国初となる陥没土壌及び水の保全並びに環境ガバナンスを対象とした技術実証地区が設けられた。生態系に配慮した開発投資の増加や再生地区の拡大により、「准格爾鉱山公園」は国家鉱山公園となる資格を得た。当事業年度に重大な又はより深刻な環境安全性に関わる事故の発生はなかった。

当事業年度に当社グループは、土壌及び水の保全並びに環境整備に合計322百万人民元、省エネルギー及び環境保護プロジェクトに合計620百万人民元を投資した。鉱山廃水の排出量は81.1百万トンとなり、規定に沿った污水处理費用を支払った。2017年度末現在の「未払埋戻費用」の残高は2,745百万人民元であり、環境に配慮した建設のための強固な財務的裏付けとなっている。

当社の環境保護に対する取組みは、当社グループの2017年度のCSRレポートに詳述している。

#### (5) 石炭資源

2017年12月31日現在における中国基準による当社グループの石炭資源は237.0億トンであり、2016年度末現在から1.3%減少した。実収炭量は151.9億トンであり、2016年度末現在から1.6%減少した。JORC規定による当社グループの販売可能石炭埋蔵量は85.5億トンであり、2016年度末現在から3.4%減少した。

単位:100百万トン

鉱山名	石炭資源 (中国基準による)	可採石炭埋蔵量 (中国基準による)	販売可能石炭埋蔵量 (JORC規定による)
神東鉱山	162.3	93.8	49.7
准格爾鉱山	39.6	31.7	21.2
勝利鉱山	20.4	14.0	2.3
宝日希勒鉱山	14.2	12.0	12.3
包頭鉱山(注)	0.5	0.4	-
合計	237.0	151.9	85.5

注:2017年12月31日現在のJORC規定による包頭鉱山の販売可能石炭埋蔵量は、4,962千トンであった。

当社の主要鉱山で生産された商業用石炭の特徴は、以下の通りである。

番号	鉱山	石炭の主な種類	主な商業用石炭製品の 発熱量(kcal/kg)	硫黄含有量(%)	石炭灰含有量 (平均)(%)
1	神東鉱山	長焰炭/不粘炭	5,200-5,800	0.2-0.5	5-15
2	准格爾鉱山	長焰炭	4,300-4,900	0.4-0.8	22-28
3	勝利鉱山	褐炭	3,000-3,200	0.5-0.8	19-22
4	宝日希勒鉱山	褐炭	3,400-3,600	0.2-0.3	13-15
5	包頭鉱山	不粘炭	3,800-4,800	0.4-0.6	10-20

注:上記の各鉱山から生産された主な商業用石炭製品の発熱量、硫黄含有量及び石炭灰含有量は、地質条件及び生産過程により、各鉱山から生産された商業用石炭製品の特徴及び当社が販売した商業用石炭製品の特徴と一致しない可能性がある。

## (6) 業績

### 当社グループの石炭セグメントの業績(連結会社間取引消去前)

		2017年度	2016年度	増減率(%)	主な増減理由
売上高	百万人民元	195,918	131,357	49.1	石炭の販売価格の上昇及び販売量の増加
売上原価	百万人民元	143,461	109,404	31.1	自社生産石炭販売量の増加、前年比での購入石炭の販売量の増加及び調達価格の上昇による購入石炭原価の大幅な増加、石炭販売量の増加に伴う関連輸送費の増加
売上総利益率	%	26.8	16.7	10.1パーセント・ポイント増	
営業利益	百万人民元	46,051	17,017	170.6	
営業利益率	%	23.5	13.0	10.5パーセント・ポイント増	

### 当社グループの石炭セグメントの売上高及び売上総利益率(連結会社間取引消去前)

2017年度					2016年度			
	売上高 (百万人民元)	売上原価 (百万人民元)	売上総利益 (百万人民元)	売上 総利益率 (%)	売上高 (百万人民元)	売上原価 (百万人民元)	売上総利益 (百万人民元)	売上 総利益率 (%)
国内	185,846	129,627	56,219	30.3	122,486	97,487	24,999	20.4
輸出及び海外	2,997	2,539	458	15.3	2,844	2,317	527	18.5
合計	188,843	132,166	56,677	30.0	125,330	99,804	25,526	20.4

自社生産石炭の単位当たり生産原価

単位:1トン当たり人民元

	2017年度	2016年度	増減率 (%)	主な増減理由
自社生産石炭の単位当たり生産原価	107.9	109.6	(1.6)	
原材料費、燃料費及び電力料	17.9	18.3	(2.2)	生産体制の最適化による掘進距離の短縮及び必要な付帯設備の減少による原材料及び予備部品の消費量の減少
労務費	18.8	17.6	6.8	2017年度の石炭セグメントの売上高の大幅な増加による従業員の業績連動型賃金の増加
修繕維持費	8.9	8.7	2.3	
減価償却費及び償却費	19.5	21.9	(11.0)	当事業年度の一部の長期資産及び長期繰延費用の減価償却又は償却引当の完了による減価償却費及び償却費の減少
その他の原価	42.8	43.1	(0.7)	

その他の原価は、以下の3つから構成されている。

- (1)生産直接費(剥土及び選炭加工費、採掘技術費用が含まれる。)、60%を占める。
- (2)生産間接費、20%を占める。
- (3)土地取得及び地表陥没に係る補償金、環境保護費、税金等、20%を占める。

第三者から購入した石炭原価

当社の第三者から購入した石炭には、自社所有鉱山及び鉄道の周辺地域から購入した石炭、国内取引による石炭、輸入石炭及び再輸出石炭が含まれる。

2017年度における第三者から購入した石炭の販売量は、前年比30.5%増の142.8百万トン(2016年度:109.4百万トン)となり、石炭販売量合計に対する割合は、2016年度の27.7%から2017年度には32.2%に上昇した。当事業年度の第三者から購入した石炭原価は、49,950百万人民元(2016年度:26,286百万人民元)で、前年比90.0%増となった。この増加は主に、石炭の調達価格の上昇、及び石炭市場の需給に応じて当社が第三者からの購入石炭の販売量を増加させたことによるものである。

## 2. 電力セグメント

### (1) 生産及び事業

2017年度では、中国社会全体の電力総消費量の前年比増加及び水力発電による供給低迷により、全国の火力発電量は前年比増となった。マーケティング活動の一層の強化及び発電装置の操業安全性の向上により、当社グループの発電量は、前年比11.4%増の262.87十億kWh(2016年度:236.04十億kWh)を実現した。総送電量は、前年比11.6%増の246.25十億kWh(2016年度:220.57十億kWh)となり、同期間の中国社会全体の電力総消費量(6,307.7十億kWh<sup>1</sup>)の3.9%を占めている。市場主導型の安定的な電力取引の促進と、当社グループ内外の直接供給市場の積極的な開拓により、江蘇省や山東省等に所在する電力販売会社の事業は徐々に進展した。当事業年度における当社グループの市場主導型の電力取引は約69.10十億kWhとなり、総送電量の28.1%を占めている。

<sup>1</sup> 出典：国家能源局

### (2) 電力量及び電力価格

#### 発電種別

電力の種類	総発電量(十億kWh)			総送電量(十億kWh)			電力価格(1mWh当たり人民元)		
	2017度	2016年度	増減率 (%)	2017度	2016年度	増減率 (%)	2017度	2016年度	増減率 (%)
石炭火力発電	256.86	229.73	11.8	240.39	214.42	12.1	306	301	1.7
風力発電	0.02	0.03	(33.3)	0.02	0.03	(33.3)	599	596	0.5
水力発電	0.70	0.67	4.5	0.69	0.65	6.2	214	223	(4.0)
ガス火力発電	5.29	5.61	(5.7)	5.15	5.47	(5.9)	571	537	6.3
合計	262.87	236.04	11.4	246.25	220.57	11.6	312	307	1.6

## 所在地別

所在地/電力の種類	総発電量 (十億kWh)			総送電量 (十億kWh)			電力価格 (1mWh当たり人民元)		
	2017年度	2016年度	前年比(%)	2017年度	2016年度	前年比(%)	2017年度	2016年度	前年比(%)
<b>国内合計/加重平均</b>	261.29	234.40	11.5	244.87	219.14	11.7	311	306	1.6
<b>河北</b>	34.83	33.99	2.5	32.67	31.84	2.6	309	300	3.0
石炭火力発電	34.83	33.99	2.5	32.67	31.84	2.6	309	300	3.0
<b>江蘇</b>	24.17	23.87	1.3	23.06	22.74	1.4	319	313	1.9
石炭火力発電	24.17	23.87	1.3	23.06	22.74	1.4	319	313	1.9
<b>浙江</b>	28.08	25.84	8.7	26.60	24.42	8.9	367	360	1.9
石炭火力発電	26.37	24.24	8.8	24.93	22.86	9.1	352	343	2.6
天然ガス火力発電	1.71	1.60	6.9	1.67	1.56	7.1	587	608	(3.5)
<b>内モンゴル</b>	21.34	20.95	1.9	19.20	18.88	1.7	212	209	1.4
石炭火力発電	21.34	20.95	1.9	19.20	18.88	1.7	212	209	1.4
<b>広東</b>	23.79	20.85	14.1	22.21	19.39	14.5	363	376	(3.5)
石炭火力発電	23.77	20.82	14.2	22.19	19.36	14.6	363	375	(3.2)
風力発電	0.02	0.03	(33.3)	0.02	0.03	(33.3)	599	596	0.5
<b>陝西</b>	25.40	24.25	4.7	23.18	22.11	4.8	260	252	3.2
石炭火力発電	25.40	24.25	4.7	23.18	22.11	4.8	260	252	3.2
<b>安徽</b>	22.79	21.48	6.1	21.78	20.45	6.5	305	299	2.0
石炭火力発電	22.79	21.48	6.1	21.78	20.45	6.5	305	299	2.0
<b>遼寧</b>	18.13	16.41	10.5	17.03	15.37	10.8	299	300	(0.3)
石炭火力発電	18.13	16.41	10.5	17.03	15.37	10.8	299	300	(0.3)
<b>福建</b>	13.40	10.51	27.5	12.80	9.98	28.3	328	280	17.1
石炭火力発電	13.40	10.51	27.5	12.80	9.98	28.3	328	280	17.1
<b>新疆</b>	4.79	4.16	15.1	4.39	3.82	14.9	194	197	(1.5)
石炭火力発電	4.79	4.16	15.1	4.39	3.82	14.9	194	197	(1.5)
<b>天津</b>	5.15	5.29	(2.6)	4.81	4.96	(3.0)	360	331	8.8
石炭火力発電	5.15	5.29	(2.6)	4.81	4.96	(3.0)	360	331	8.8
<b>河南</b>	5.94	4.44	33.8	5.62	4.18	34.4	305	307	(0.7)
石炭火力発電	5.94	4.44	33.8	5.62	4.18	34.4	305	307	(0.7)
<b>四川</b>	3.12	3.06	2.0	2.87	2.82	1.8	348	340	2.4
石炭火力発電	2.42	2.39	1.3	2.18	2.17	0.5	390	375	4.0
水力発電	0.70	0.67	4.5	0.69	0.65	6.2	214	223	(4.0)
<b>寧夏</b>	4.68	3.42	36.8	4.21	3.06	37.6	226	205	10.2
石炭火力発電	4.68	3.42	36.8	4.21	3.06	37.6	226	205	10.2
<b>重慶</b>	4.91	5.71	(14.0)	4.70	5.45	(13.8)	348	343	1.5
石炭火力発電	4.91	5.71	(14.0)	4.70	5.45	(13.8)	348	343	1.5
<b>北京</b>	3.58	4.01	(10.7)	3.48	3.91	(11.0)	563	509	10.6
天然ガス火力発電	3.58	4.01	(10.7)	3.48	3.91	(11.0)	563	509	10.6
<b>山西</b>	4.55	3.39	34.2	4.25	3.16	34.5	229	239	(4.2)
石炭火力発電	4.55	3.39	34.2	4.25	3.16	34.5	229	239	(4.2)
<b>山東</b>	10.78	2.56	321.1	10.26	2.41	325.7	318	294	8.2
石炭火力発電	10.78	2.56	321.1	10.26	2.41	325.7	318	294	8.2
<b>広西</b>	1.86	0.21	785.7	1.75	0.19	821.1	345	328	5.2
石炭火力発電	1.86	0.21	785.7	1.75	0.19	821.1	345	328	5.2
<b>海外合計</b>									
<b>/加重平均</b>	1.58	1.64	(3.7)	1.38	1.43	(3.5)	477	476	0.2
<b>インドネシア</b>	1.58	1.64	(3.7)	1.38	1.43	(3.5)	477	476	0.2
石炭火力発電	1.58	1.64	(3.7)	1.38	1.43	(3.5)	477	476	0.2
<b>合計/加重平均</b>	262.87	236.04	11.4	246.25	220.57	11.6	312	307	1.6

## (3) 設備容量

当報告期間末現在の当社グループの総設備容量は、前年比2.8%増の57,855MWに達し、中国社会全体の総設備容量(1.777十億kW<sup>1)</sup>)の3.3%を占めている。このうち、石炭火力発電機の総設備容量は55,984MWであり、当社グループの総設備容量の96.8%を占めている。

単位:MW

電力の種類	2016年12月31日現在の 総設備容量	当報告期間の 設備容量の増加	2017年12月31日現在の 総設備容量
石炭火力発電	54,414	1,570	55,984
風力発電	16	-	16
水力発電	125	-	125
ガス火力発電	1,730	-	1,730
合計	56,285	1,570	57,855

会社	発電装置の所在地	新規増設の設備容量(MW)	説明
台山電力	広東省台山市	30	容量拡大及び改良
浙能電力	浙江省寧波市	90	容量拡大及び改良
萬州港電	重慶市萬州区	2×50	容量拡大及び改良
三河電力	河北省三河市	30	容量拡大及び改良
国華寧東	寧夏回族自治区靈武市	2×660	新設発電装置の稼働
合計		1,570	/

<sup>1</sup> 出典：中国電力企業連合会

## (4) 発電装置の利用率

2017年度の当社グループの石炭火力発電機の平均利用時間は、前年比255時間増の4,683時間となり、設備容量6,000kW以上の火力発電装置の全国平均利用時間(4,278時間<sup>1)</sup>)を405時間上回った。発電機の効率性は継続的に向上し、発電所の電力消費率は前年比0.20パーセント・ポイント低下している。当報告期間末現在の当社グループの循環流動層燃焼装置の設備容量は6,484MWに達し、当社グループの石炭火力発電装置の設備容量の11.6%を占めている。

電力の種類	平均稼働時間(時間)			発電所の電力消費率(%)		
	2017年度	2016年度	増減率(%)	2017年度	2016年度	増減
石炭火力発電	4,683	4,428	5.8	5.72	5.95	0.23パーセント・ポイント減
風力発電	1,160	1,952	(40.6)	0.90	0.90	-
水力発電	5,618	5,331	5.4	0.25	0.23	0.02パーセント・ポイント増
ガス火力発電	3,059	3,243	(5.7)	2.08	2.03	0.05パーセント・ポイント増
加重平均	4,634	4,391	5.5	5.64	5.84	0.20パーセント・ポイント減

<sup>1</sup> 出典：中国電力企業連合会

## (5) 環境保護

環境に優しい発展という概念を掲げ、電力セグメントでは装置の改修を進め、大気汚染及び水質汚染の防止において目覚ましい成果を得た。省エネルギー及び環境保護に対する投資総額は622百万人民元となり、中でも環境保護投資は222百万人民元であった。当報告期間末現在、当社グループは、中国国内で保有する石炭火力発電機のすべてについて、脱硫化及び脱窒化の改修を完了した。当報告期間末までに建設又は改修を行った「超低排出」型の石炭火力発電機は79基(総設備容量46,150MW)とな

り、当社グループの石炭火力発電機の総設備容量の82.4%を占めている。当事業年度における当社グループの石炭火力発電機の販売電力量に対する平均標準石炭消費量は1kWh当たり311グラムであり、前年比4グラム減となった。

## (6) 資本的支出

2017年度の当社グループの電力セグメントの資本的支出は、15.23十億人民元であった。これは主に、インドネシアのジャワ島第7石炭火力発電プロジェクト(2×1,050MW)、江西九江石炭埋蔵(輸送)発電一体化新プロジェクト、国華寧東石炭火力発電機建設プロジェクト(2×660MW)、四川神華天明発電会社の石炭火力発電機建設プロジェクト(2×1,000MW)等のプロジェクトや、発電所の環境保護技術の改良に係る支出であった。

## (7) 業績

### 当社グループの電力セグメントの業績(連結会社間取引消去前)

		2017年度	2016年度	増減率(%)	主な増減理由
売上高	百万人民元	79,511	69,850	13.8	送電量の前年比増加及び平均電力価格の小幅上昇
売上原価	百万人民元	68,388	53,939	26.8	石炭火力発電所の石炭調達価格の上昇及び発電量の増加
売上総利益率	%	14.0	22.8	8.8パーセント・ポイント減	
営業利益	百万人民元	7,399	11,689	(36.7)	
営業利益率	%	9.3	16.7	7.4パーセント・ポイント減	

### 当社グループの電力売上高及び電力売上原価(連結会社間取引消去前)

単位:百万人民元

電力の種類	電力売上高			電力売上原価				
	2017年度	2016年度	増減率(%)	2017年度	2017年度の売上原価合計に対する割合(%)	2016年度	2016年度の売上原価合計に対する割合(%)	増減率(2017年度対2016年度)(%)
石炭火力発電	75,383	66,047	14.1	63,813	95.7	49,507	94.4	28.9
風力発電	11	18	(38.9)	8	0.0	9	0.0	(11.1)
水力発電	147	145	1.4	73	0.1	66	0.1	10.6
ガス火力発電	2,941	2,936	0.2	2,810	4.2	2,890	5.5	(2.8)
合計	78,482	69,146	13.5	66,704	100.0	52,472	100.0	27.1

当社グループの電力売上原価は、主に原材料費、燃料費及び電力料、労務費、維持修繕費、減価償却費及び償却費並びにその他の費用等の原価で構成されている。2017年度の当社グループの単位当たり送電原価は1mWh当たり270.9人民元(2016年度:1mWh当たり237.9人民元)で、前年比13.9%増となった。この増加は主に、石炭火力発電所の石炭購入原価の増加によるものであった。

電力セグメントは、中国神華の石炭のうち合計96.1百万トン消費し、発電用石炭総消費量(113.1百万トン)の85.0%を占めている。

### 当社グループの石炭火力発電所の電力売上原価(連結会社間取引消去前)

	2017年度		2016年度		原価の増減率(%)
	原価(百万人民元)	割合(%)	原価(百万人民元)	割合(%)	



原材料費、燃料費及び電力料	46,008	72.1	31,996	64.7	43.8
労務費	3,939	6.2	3,667	7.4	7.4
維持修繕費	2,706	4.2	2,645	5.3	2.3
減価償却費及び償却費	9,066	14.2	8,959	18.1	1.2
その他	2,094	3.3	2,240	4.5	(6.5)
石炭火力発電所の電力売上原価合計	63,813	100.0	49,507	100.0	28.9

### 3. 鉄道セグメント

#### (1) 生産及び事業の概要

2017年度は石炭市場の需要が高まり、道路輸送に制限が設けられる中、鉄道セグメントでは輸送単位を最適化し、一体輸送確保のための様々な取組みを導入した。高馬力機関車及びC80型車両の購入並びに10,000トン及び20,000トン列車の路線増加により、朔黄及び神朔鉄道等の幹線の輸送能力が向上した。また、鉄道セグメントでは、積載ステーション及び積載地点を増やし、復路輸送及び石炭以外の輸送市場を開拓するとともに、循環列車の運行を開始した。このような取組みにより、当セグメントの輸送能力は前年比で大幅に増加し、巴准鉄道、准池鉄道及びその他の鉄道路線の既存能力の利用率は大幅に向上した。2017年度の当社の自社所有鉄道の輸送量は前年比11.6%増の273.0十億トンキロメートルに達し、過去最高水準を記録した。

一体輸送を維持する一方、鉄道セグメントでは、大規模物流システム及び第三者に対するサービスの構築を着実に推進した結果、当該分野は大幅に成長した。2017年度における鉄道セグメントの外部顧客向け貨物の輸送量は29.4十億トンキロメートル(2016年度:21.8十億トンキロメートル)となり、前年比34.9%増となった。また、外部顧客向け輸送サービスによる売上高は、前年比34.5%増の5,615百万人民元(2016年度:4,174百万人民元)となり、鉄道セグメントの総売上高の14.9%(2016年度:12.4%)を占めた。

#### (2) プロジェクトの進捗

当報告期間では、黄大鉄道の建設作業は引き続き進捗した。当該プロジェクトの鍵となる部分である黄河に架かる「特大橋」の主要構造の建設が完了した。山東区間の鉄道は敷設工事及び建込作業が行われており、また準備段階にある河北区間の鉄道建設は引き続き進捗した。

## (3) 業績

当社グループの鉄道セグメントの業績(連結会社間取引消去前)は、以下の通りである。

		2017年度	2016年度	増減率(%)	主な増減理由
売上高	百万人民元	37,586	33,530	12.1	当社グループの石炭販売量の増加及び外部顧客向けの石炭以外の輸送サービスの拡大による鉄道輸送量の増加
売上原価	百万人民元	18,632	17,350	7.4	自社所有鉄道の輸送能力の増加による労務費及び燃料に係る原価の増加、新車両の購入による関連減価償却費及び償却費の増加
売上総利益率	%	50.4	48.3	2.1パーセント・ポイント増	
営業利益	百万人民元	17,675	15,000	17.8	
営業利益率	%	47.0	44.7	2.3パーセント・ポイント増	

2017年度において鉄道セグメントが当社グループに対して提供した輸送業務による内部売上高は、31,971百万人民元(2016年度:29,356百万人民元)で、前年比8.9%増となった。鉄道セグメントの単位当たり輸送原価は、1トンキロメートル当たり0.064人民元(2016年度:1トンキロメートル当たり0.067人民元)で、前年比4.5%減となった。これは主に、自社所有鉄道の輸送量が大幅に増加したことによるものである。

#### 4. 港湾セグメント

##### (1) 生産及び事業の概要

2017年度の悪天候及びその他の不利な要因にもかかわらず、港湾セグメントは積極的に一体経営を維持した結果、海上輸送による石炭販売量は過去最高に達した。黄驊港の取扱量(石炭及び石油製品を含む。)は200百万トン超となった。同港はスタッカ(訳者注:原料の積付)・リクレーマ(訳者注:同払出)の自動運転を実現し、国内初の貯蔵場の自動化を実現した石炭港となった。黄驊港務公司プロジェクト・フェーズ(年間取扱量55百万トン)は、完成し検収を行った。天津石炭埠頭は管理の改善により海上輸送による石炭販売量を増やし、珠海石炭埠頭は引き続き輸送基地として一体輸送に寄与した。

2017年度の海上輸送による石炭販売量は258.2百万トン(2016年度:226.4百万トン)に達し、前年比14.0%増となった。このうち、自社所有の港経由の海上輸送による石炭販売量は227.8百万トン(2016年度:201.3百万トン)で、前年比13.2%増となった。

##### (2) 業績

当社グループの港湾セグメントの業績(連結会社間取引消去前)は、以下の通りである。

		2017年度	2016年度	増減率(%)	主な増減理由
売上高	百万人民元	5,717	5,040	13.4	自社所有の港経由の海上輸送による石炭販売量の増加
売上原価	百万人民元	2,880	2,523	14.1	石炭の積荷の増加による関連コストの増加
売上総利益率	%	49.6	49.9	0.3パーセント・ポイント減	
営業利益	百万人民元	2,529	2,302	9.9	
営業利益率	%	44.2	45.7	1.5パーセント・ポイント減	

2017年度において、港湾セグメントが当社グループに対して提供した内部輸送業務による売上高は、4,929百万人民元(2016年度:4,465百万人民元)で、前年比10.4%増となり、港湾セグメントの売上高の86.2%(2016年度:88.6%)を占めた。当社グループに対して提供した内部輸送業務に係る売上原価は、2,349百万人民元であった。外部顧客向け輸送サービスによる売上高は、788百万人民元(2016年度:575百万人民元)で、前年比37.0%増となった。

## 5. 海運セグメント

### (1) 生産及び事業の概要

2017年度では、当社の海運セグメントは石炭市場における輸送需要の増加と海運能力不足に直面したものの、一体輸送への需要を完全に保証すべく、輸送便の接続増加や、輸送能力の配分精緻化、「準定期便」システムの効果的実行に努めた。

海運セグメントの船積量は93.0百万トン(2016年度:79.2百万トン)で前年比17.4%増、海運取引高は80.4十億トン海里(2016年度:63.0十億トン海里)で前年比27.6%増となった。

### (2) 業績

当社グループの海運セグメントの業績(連結会社間取引消去前)は、以下の通りである。

		2017年度	2016年度	増減率(%)	主な増減理由
売上高	百万人民元	3,247	2,112	53.7	石炭市場の回復による沿岸市場での海運価格の上昇、海運輸送量の増加
売上原価	百万人民元	2,472	1,707	44.8	海運輸送量の増加、船舶賃借料の上昇による賃借料の増加、及び燃料価格の上昇
売上総利益率	%	23.9	19.2	4.7パーセント・ポイント増	
営業利益	百万人民元	661	266	148.5	
営業利益率	%	20.4	12.6	7.8パーセント・ポイント増	

2017年度における海運セグメントの単位当たり輸送原価は1トン海里当たり0.031人民元(2016年度:1トン海里当たり0.027人民元)で、前年比14.8%増となった。これは、賃借料の増加及び燃料価格の上昇による。

## 6. 石炭化学セグメント

### (1) 生産及び事業の概要

当社グループの石炭化学セグメントは、包頭煤化工会社が運営する石炭由来オレフィン事業から構成されている。その主な製品の内訳は、ポリエチレン(年間生産能力約300,000トン)、ポリプロピレン(年間生産能力約300,000トン)、及び少量の副産物(工業用硫黄、混合C5、工業用プロパン、混合C4、工業用メタノール等)である。石炭由来オレフィン事業のメタノール由来オレフィン装置は、中国初の大規模なメタノール由来オレフィン装置である。

2017年度の石炭由来オレフィン事業は、高水準の生産負荷となり、安定的かつ長期間の操業を維持した。オレフィン製品の総生産量は636,800トンに達し、2011年度の商業運転開始以降最高を記録した。

2017年度の石炭化学セグメントの石炭消費量は4.4百万トンとなり、前年度の4.0百万トンから10.0%増加した。石炭オレフィン事業の生産に使用する一般炭及び原料炭は、すべて当社グループが供給している。石炭輸送・製品輸送共に専用線を使用することで、原炭供給と製品配送を確実なものとしている。

2017年度の当社グループのポリエチレン及びポリプロピレン製品の販売量は、以下の通りである。

	2017年度		2016年度		増減率	
	販売量	価格	販売量	価格	販売量	価格
	千トン	1トン当たり 人民元	千トン	1トン当たり 人民元	%	%
ポリエチレン	324.6	7,373	292.6	7,222	10.9	2.1
ポリプロピレン	308.8	6,429	282.1	5,958	9.5	7.9

2017年度の包頭煤化工公司の環境保護投資は約2.6百万人民元であり、これは主に大気汚染及び廃水汚染の防止・対策に関するものであった。当報告期間において、石炭由来オレフィン事業は排出基準を満たしており、重大な環境汚染事故はなかった。

2017年7月、包頭石炭由来製品品質向上・実証プロジェクト(プロジェクト・フェーズ )は、内蒙古自治区発展改革委員会の認可を得た。当該プロジェクトでは、石炭由来オレフィン装置(年間予定生産能力750,000トン、うちポリエチエン350,000トン、ポリプロピレン400,000トン)の新設を計画している。この建設開始日は未定である。

## (2) 業績分析

当社グループの石炭化学セグメントの業績(連結会社間取引消去前)は、以下の通りである。

		2017年度	2016年度	増減率(%)	主な増減理由
売上高	百万人民元	5,681	4,831	17.6	オレフィン製品の販売量の増加及び販売価格の上昇
売上原価	百万人民元	4,968	4,330	14.7	オレフィン製品の生産量の増加、石炭の購入価格の上昇
売上総利益率	%	12.6	10.4	2.2パーセント・ポイント増	
営業利益	百万人民元	560	254	120.5	
営業利益率	%	9.9	5.3	4.6パーセント・ポイント増	

## (3) 主要製品の単位当たり生産原価

	2017年度		2016年度		増減率	
	生産量	単位あたり 生産原価	生産量	単位あたり 生産原価	生産量	単位あたり 生産原価
	千トン	1トン当たり 人民元	千トン	1トン当たり 人民元	%	%
ポリエチレン	327.1	5,861	294.6	5,839	11.0	0.4
ポリプロピレン	309.7	5,641	284.0	5,373	9.0	5.0

## ( ) 営業地域別分析

単位:百万人民元

	2017年度	2016年度
国内市場における外部顧客売上高	245,230	179,859
国外市場における外部顧客売上高	3,516	3,268
合計	248,746	183,127

注:外部顧客売上高は、サービスを提供した場所又は製品が購入された場所を基に分類している。

当社グループは中国において、主に石炭及び電力の生産及び販売、鉄道、港湾、海運並びに石炭由来オレフィン事業を行っている。2017年度の国内市場における外部顧客売上高は245,230百万人民元となり、当社グループの売上高の98.6%を占めた。石炭販売量の増加及び国内石炭価格の上昇のほか、輸送事業の伸び等の要因により、国内市場での外部顧客売上高は前年比36.3%増となった。また、国外市場における外部顧客売上高は、石炭再輸出価格の大幅な上昇等の影響を受け、前年比7.6%となった。

2017年度において、当社グループは国際的な探査に一層注力することで、「一帯一路」構想の推進に積極的に対応した。インドネシアの国華・南スマトラEMM石炭火力発電プロジェクト(フェーズ )( $2 \times 150\text{MW}$ )は、安定的に稼働している。このプロジェクトは、インドネシアの発電業界の中で「2017年度の最も革新的な発電会社」(総合第1位)を受賞した。インドネシアのジャワ島第7石炭火力発電プロジェクト( $2 \times 1,050\text{MW}$ )は、2017年10月に着工し、2020年の竣工及び稼働を見込んでいる。米国ペンシルバニア州におけるシェールガス・プロジェクトでは、当社の権益に基づくガス生産量は約212百万立方メートルとなり、さらに12抗のガス井の初期工事が依然進行中である。また、オーストラリアのニューサウスウェールズ州政府は、ウォーターマーク探査地域のうち黒色土地域約100平方キロメートルの探査許可を撤回し、ウォーターマークに対して補償金261.8百万オーストラリア・ドルを支払った。そのため、ウォーターマークは残る95平方キロメートルにつき、石炭資源開発の推進を継続している。その他の国外プロジェクトは、安定かつ慎重の原則に基づき進行中である。

## ( ) 投資分析

2017年度の当社の資本性投資は9,780百万人民元(2016年度:5,473百万人民元)となり、前年比78.7%増となった。資本性投資の内訳は、主に子会社及び関連会社(ジャワ・カンパニー、九江電力公司、福建能源公司、神華信息技術有限公司、及び神華融資租賃公司等)の増資、並びに会社(江蘇售電公司及山東售電公司等)の新設である。

当社の主要子会社の主な事業内容及び当社の資本持分の所有割合については、子会社に対する投資に関する本報告書の連結財務諸表注記43「子会社」を参照のこと。

## (1) 重要な資本性投資

該当あり ☒ 該当なし ☐

当社及び国電電力は、それぞれが所有する石炭火力発電資産を出資して、共同支配企業を設立する意向である。当報告期間末現在、当該共同支配企業の設立に関連する取引は完了していない。

## (2) 重要な非資本性投資

該当あり ☒ 該当なし ☐

## (3) 公正価値で測定する金融資産/負債

当報告期間末現在、当社グループの公正価値で測定する金融資産/負債のうち、公正価値の変動を当期の純損益に計上しているものは、デリバティブ金融資産、信託理財商品及びデリバティブ金融負債に分類している商品である。デリバティブ金融資産は、石炭の価格変動リスクのヘッジを目的とした発電用石炭の先物であり、2017年度末現在の証拠金は62百万人民元である。信託理財商品は神華財務会社が保有しており、当初投資原価は50百万人民元である。デリバティブ金融負債は、先渡、スワッ

プ及びオプション等のデリバティブ金融商品であり、一部の米ドル建社債のヘッジを目的として利用している。2017年度末現在、ヘッジ対象である当社グループの米ドル建負債は、1,634百万人民元である。

当報告期間末現在、当社グループの公正価値で測定する金融資産のうち、公正価値の変動を当期の純損益から除外しているものは、主に神華財務会社が購入した期限付きの証券業者の理財商品であり、当初投資原価は100百万人民元である。当該理财商品の公正価値は割引キャッシュ・フロー法により算定し、公正価値の変動は株主資本に計上している。

2017年度末現在の当社グループの公正価値で測定する金融資産/負債の公正価値の変動は、以下の通りである。

単位：百万人民元

項目名	当期首現在の 残高	当期末現在の 残高	当期における 変動	当期の純損益に対する影響額
デリバティブ金融資産	4	56	52	(1)
信託理财商品	50	52	2	2
デリバティブ金融負債	0	(12)	(12)	(12)
証券業者の理财商品	0	105	105	0
合計	54	201	147	(11)

公正価値で測定する金融資産/金融負債の金額及び変動額の詳細は、本報告書の連結財務諸表注記37「金融商品」を参照のこと。

#### ( ) 重要な資産及び資本持分の処分

該当あり ☐ 該当なし ☒

## ( ) 主要な持株会社及び関連会社に関する分析

## 1. 主要な子会社

単位:百万人民元

		登録資本	総資産	純資産	2017年度	2016年度	増減率 (%)	主な増減 理由
番号	会社	2017年12月31日現在			親会社の株主に帰属する純利益			
1	神東煤炭公司	4,989	36,199	23,888	15,587	7,433	109.7	石炭の価格の上昇 及び販売量の増加
2	朔黄铁路公司	5,880	40,576	31,245	7,596	6,487	17.1	
3	準格爾能源公司	7,102	35,691	28,147	3,283	1,278	156.9	石炭価格の上昇及 び大准鉄道の輸送 量の増加
4	錦界能源	2,278	9,470	7,772	3,014	1,469	105.2	石炭価格の上昇
5	神華銷售集团	1,889	21,015	6,366	1,772	1,465	21.0	
6	黄驊港務公司	6,790	15,423	9,972	1,513	1,213	24.7	
7	鉄路貨車公司	4,803	21,766	6,438	1,079	840	28.5	
8	榆神能源公司	1,000	6,427	4,080	1,021	289	253.3	郭家湾鉱山の2016 年終盤での操業開 始及び同鉱山の 2017年度生産量の 大幅な増加
9	神宝能源公司	1,169	7,276	4,519	936	438	113.7	石炭の価格の上昇
10	神華財務公司	5,000	77,367	8,087	858	790	8.6	

注 1. 上表で開示している主要な子会社の財務情報(連結調整前)は、中国企業会計準則に従い作成されたものである。これらのデータは、監査及びレビューのいずれも受けていない。

2. 神東煤炭会社が計上した2017年度売上高は59,477百万人民元、営業利益は18,606百万人民元であった。

3. 朔黄铁路会社が計上した2017年度売上高は19,070百万人民元、営業利益は10,168百万人民元であった。

当社の子会社の取得に詳細については、子会社に対する投資に関する本報告書の連結財務諸表注記43「子会社」に記載している。

## 2. 神華財務公司

当報告期間末現在、当社は、神華財務公司の資本持分の100%を直接又は間接に保有していた。

番号	株主名	持分比率(%)
1	中国神華能源股份有限公司	81.43
2	朔黄铁路發展有限責任公司	7.14
3	神華準格爾能源有限公司	7.14
4	包神铁路有限責任公司	4.29
	合計	100.00

当報告期間において、神華財務公司は2011年3月25日に開催された中国神華の第2期会合第12回取締役会で可決された次の決議を厳格に遂行した。即ち、(1) 中国神華は現在、神華財務公司に対する現行の経営方針及び戦略を変更する意思も計画もないこと、及び(2) 中国神華及びその子会社による神華財務公司に対する預金については、中国神華並びにその子会社及び支店の信用業務のみに使用し、中国人民銀行及び大手商業銀行5行(即ち、中国工商银行、中国農業銀行、中国銀行、中国建設銀行及び交通銀行)に預け入れ、公開市場/プライベート・エクイティ市場及び不動産等には投資しないこと。

神華財務公司は、資金管理能力の強化と投資事業の推進速度を早めることにより、運用水準と収益性を総合的に向上させ、中国財務公司協会から3年連続でA級の格付を付与された。

(1) 神華財務公司のガバナンスは以下の通りである。



## A. 取締役会

番号	当報告期間末現在の取締役会の構成員	役職
1	ジャン・ケフィ	取締役会長
2	ハン・ウェイピン	業務執行取締役
3	メイ・シェーイエン	業務執行取締役
4	チャン・イン	業務執行取締役
5	シュー・シャンチェン	非業務執行取締役
6	ドウ・ションリー	独立取締役
7	ジャン・ドンフィ	従業員取締役

神華財務公司の取締役会長のジャン・ケフィ博士は、中国神華の最高財務責任者を兼務している。経歴の詳細については、年次報告書の「取締役、監査役、上級管理職及び従業員」(訳者注：原文のセクション)を参照のこと。

業務執行取締役のハン・ウェイピン氏は、30年超に及ぶ財務管理の経験を有している。同氏は、1996年には神華集团公司の財務部門副マネージャー、2001年以降は神華房地產有限責任公司の副ジェネラル・マネージャーを務めていた。2014年以降は、神華財務公司のジェネラル・マネージャー(法定代表人)を務めている。同氏は、豊富なマネジメント経験を有している。

業務執行取締役のメイ・シェーイエン女史は、2005年1月に神華財務公司の取締役に就任し、2006年7月以降は神華財務公司のジェネラル・マネージャーを、2014年8月以降は神華財務公司の党委員会秘書役を務めていた。2017年1月以降は、神華財務公司の党委員会副秘書役(ジェネラル・マネージャーに相当)を務めている。同女史は、中国建設銀行の本店で、資金計画、財政投資及び内部統制を監督する業務を8年間行っていた。

業務執行取締役のチャン・イン氏は、神華財務公司に2000年に参画し、2011年11月以降副ジェネラル・マネージャーを務めている。同氏は神華財務公司に長年勤務しているため、神華財務公司の事業や状況を熟知しており、また豊富なマネジメント経験も有している。

非業務執行取締役のシュー・シャンチェン氏は、30年超に及ぶ財務管理の経験を有している。2016年8月以降、同氏は、神華集团公司の財務部門のジェネラル・マネージャー及び中国神華の財務部門のジェネラル・マネージャーを務めている。

独立取締役のドウ・ションリー氏は、清華大学経済管理学院の副教授である。同氏は、20年超に及ぶ資金運用管理及び企業財務運営、グループの経営管理及び業績評価、コーポレートガバナンス及び金融会社管理、国有資産の監督及び国有企業の運営の経験に加え、独立取締役として15年の経験を有している。

従業員取締役のジャン・ドンフィ女氏は、取締役会を通じて神華財務公司の意思決定に参加している。

神華財務有限責任公司の取締役会は、「神華財務有限責任公司定款」に従い運営している。神華財務公司の取締役会が可決した決議のみが有効となるが、これには、取締役会に出席した取締役の3分の2以上の同意を得ること、取締役会には全取締役の過半数が出席することが必要とされている。

2017年度では、神華財務公司の取締役会は2回開催された。

## B. 取締役会の専門委員会

神華財務公司の取締役会は現在、関連当事者取引管理委員会、リスク管理委員会、及び監査委員会の3つの専門委員会を有している。

## (A) 関連当事者取引管理委員会

神華財務公司の取締役会は、2012年1月15日に関連当事者取引管理委員会を設置した。同委員会は、関連当事者取引の識別、集計、予測、報告、限度額管理及びこれに関する提言を行う等、同社の関連当事者取引管理に対する責任を負っている。

2017年度では、関連当事者取引管理委員会は3回開催された。

## (B) リスク管理委員会

神華財務公司の取締役会は、2012年1月15日にリスク管理委員会を設置した。同委員会は、同社の包括的なリスク管理目標、リスク管理方針、リスク管理手続及び内部統制プロセスのレビュー、並びに関連する上級管理職及びリスク管理部門のリスク管理への取組みに関するモニタリング及び評価に関して、神華財務公司の取締役会を補佐する責任を負っている。

2017年度では、リスク管理委員会は1回開催された。

## (C) 監査委員会

神華財務公司の取締役会は、2016年11月10日に取締役会の監査委員会を設置した。同委員会は、同社の内部監査への助言のほか、取締役会の意思決定に係る助言や諮問を提供することに責任を負っている。

2017年度では、監査委員会は1回開催された。

## (2) リスク管理及び内部統制

### A. リスク管理

2017年度に神華財務公司は、次に列挙するリスク管理の取組みを完了した。同社の運営の法規制順守を確保するための案件別リスク調査、リスク管理水準の精緻化を促す規制当局の検査及び改善、内部統制体系化の実現に向けた内部統制システムの構築、神華財務公司の内部統制の自己評価、及び改善策の策定を行う関連部門の設置、四半期毎のリスクのモニタリングの実施、これによるリスクの早期警告化、リスク管理制度の向上及び導入段階からのリスク管理制度構築の重点化、リスク管理委員会の任務の良好な遂行及びリスク管理能力の継続的向上。

### B. 内部統制

2017年度に神華財務公司は、内部統制システムの検証及び評価を行った。この結論として、神華財務公司は、健全な内部統制環境、良好に整備された内部統制システム、標準化された業務プロセス、強固な情報伝送・通信能力、及び内部モニタリング機能を備え、合理的かつ有効な内部統制システムを有しており、かつ、当該内部統制システムを有効に運用していると判断した。内部統制システムの現状を客観的に分析することで、神華財務公司は、同社の成長への要求に適応した改善に適時に取り組んでいる。

## (3) 当報告期間における神華財務公司の預り金及び貸出金

### A. 当報告期間末現在の預り金合計及び貸出金合計

	2017年12月31日現在 (百万人民元)	2016年12月31日現在 (百万人民元)	増減 (%)
預り金残高	68,903	46,603	47.9
貸出金残高	30,403	30,672	(0.9)
うち、保証付貸出金残高	0	0	/

### B. 預り金及び貸出金残高上位10社

## (a) 預り金残高上位10社

単位:百万人民元

番号	顧客名	2017年12月31日現在
1	中国神華能源股份有限公司	48,828
2	国華能源投資集団有限責任公司	4,800
3	中国神華煤製油化工有限公司	3,132
4	神華国能集団有限公司	2,203
5	神華烏海能源有限責任公司	1,689
6	国華能源投資有限公司	1,599
7	北京国華電力有限責任公司	1,424
8	中国神華国際工程有限公司	1,315
9	神華新疆能源有限責任公司	1,009
10	中国節能減排有限公司	996

注:会社のデータはすべて連結ベースである(本社データに基づく神華集団有限責任公司のデータを除く。)

## (b) 貸出金残高上位10社

単位:百万人民元

番号	顧客名	2017年12月31日現在
1	神華寧夏煤業集団有限責任公司	4,500
2	神華新準鐵路有限責任公司	3,490
3	神華準池鐵路有限責任公司	2,900
4	国網能源哈密煤炭電有限責任公司	2,720
5	神華億利能源有限責任公司	2,176
6	神華巴彥淖爾能源有限責任公司	2,128
7	神華甘泉鐵路有限責任公司	1,870
8	神華国能焦作電廠有限公司	1,400
9	中国神華煤製油化工有限公司	1,000
10	国家能源投資集団有限責任公司	1,000
11	内蒙古大雁礦業集団有限責任公司	1,000

## C. 当報告期間の貸出承認状況

単位:百万人民元

項目	2017年度
契約した貸出枠	3,635
付与した貸出枠(資産の割引を含む。)注	3,005
うち:担保付貸出枠(資産の割引を含む。)注	0
付与を拒否した貸出枠	0

注:付与した貸出枠の金額は、2017年度に署名した貸出契約のうち、同事業年度中に付与した貸出金の2017年12月31日現在の残高である。

## ( ) 当社が支配している組成されたピークル

該当あり ☐ 該当なし ☒

## ( ) 環境方針及び実施

当社グループは、事業を行っている環境及び地域の長期的に持続可能な発展に向けた取り組みを行っている。環境に対して責任ある行動を取り、環境保護に関する法令遵守に努めるとともに、資源の有効活用、省エネルギー、及び廃棄物削減の達成のための効果的な対策を講じている。当社の環境保護に関する情報については、当社グループの2017年度CSRレポートを参照のこと。

当社グループは、気候変動への対策を重視している。2017年度に当社グループは、気候変動に対する複数の取組みを実行した。この取組みとして、炭素排出に関する年間業績評価システムの改良、炭素排出情報システム構築に関する計画立案・プロジェクト承認の完了、錦界能源発電所が行う「100,000トン規模の二酸化炭素の回収・貯蓄に関する実証プロジェクト」の立上げ、「気候変動への対応からクリーンエネルギー開発への戦略転換」をテーマとした省エネルギー及び環境保全会議の開催、火力発電企業における炭素取引の実地訓練の体系化、並びに全国炭素取引市場への参加準備等が挙げられる。

#### ( ) 関連法令の遵守

取締役会及び経営者が知る限り、当社グループは2017年度において、自らの事業及び経営に重大な影響を与える関連法令を、すべての重要な点において遵守した。当社グループの適用法令に対する重大な違反又は不遵守はなかった。

#### ( ) 利害関係者との関係

当社グループの従業員に対する報酬及び研修の詳細については、年次報告書の「取締役、監査役、上級管理職及び従業員」(記者注：原文のセクション)を参照のこと。

当社グループは、長期的目標を達成する上で、顧客、供給業者及びその他のビジネス・パートナーとの良好な関係の維持を重視している。このため、当社の上級経営陣は、適宜、十分なコミュニケーションや速やかな意見交換を図り、事業に関する最新情報を共有している。

2017年度に、当社グループと顧客、供給業者及びその他のビジネス・パートナーとの間に重大な紛争はなかった。

#### (X ) 後発事象

2018年3月1日、当社第4期会合第9回取締役会は、国家能源投資集団有限責任公司との「競業禁止契約に関する補足契約」(関連条件を充足した場合に限り発効)の締結に関する議案、共同支配企業の設立及び「資産再編による共同支配企業の設立に関する契約書」の締結に関する議案、並びに一部の関連/関係取引に関する2018年度及び2019年度の年間上限の見直しに関する議案について、審議の上承認した。これらの議案は、株主総会での審議・承認のため株主総会に提出した。詳細については、当社の2018年3月1日付のH株に関する公告及び2018年3月2日付のA株に関する公告を参照のこと。

## ・ 当社の将来の発展に関する説明及び分析<sup>1</sup>

<sup>1</sup> このセクションはあくまでも参考情報であり、投資助言を行うものではない。当社は、このセクションの情報の正確性及び信頼性確保のために最善を尽くしている。しかし、当該内容の全部又は一部の正確性、網羅性又は有効性について責任を負うものではなく、いかなる形の保証を行うものでもない。仮に誤謬又は脱漏があった場合、当社は一切の責任を負わない。このセクションの内容には、将来の政治的及び経済的動向に対する主観的な仮定及び判断に基づいた将来予測に関する記述が含まれているため、不確実性が存在し得る。当社は、情報を更新する責任も、事後的に明らかになった誤謬を訂正する責任も負わない。ここに記載された意見、見積り及びその他のデータは、予告なく修正又は撤回される可能性がある。このセクションに含まれるデータは、主に国家统计局、中国石炭市場ネットワーク、中国石炭資源ネットワーク、中国電力企業連合会、中国石炭輸送販売協会等からの出典によるものである。

## ( ) 業界の競争及び発展動向

### 1. マクロ経済の状況

2017年度は、「第13次5ヵ年計画」の実行において重要な年であった。習近平の「新時代の中国の特色ある社会主義思想」に主導される中国政府は、供給側の構造改革を主題として、構造最適化や質の向上を推進した。この結果、中国経済は堅調かつ良好な発展を遂げ、予想を上回るものとなった。2017年度の国内総生産(GDP)は前年比プラス6.9%となり、前年度のGDP成長率と比較して0.2パーセント・ポイント上昇した。消費者物価指数(CPI)は前年比プラス1.6%となり、前年度のCPI成長率と比較して0.4パーセント・ポイント低下した。また、生産者物価指数(PPI)は前年比6.3%上昇した。

2018年度においても、中国政府は、引き続き「稳中求進(安定を保ちつつ経済成長を促す)」の全般的原則を掲げるとともに新たな発展の理念も堅持しつつ、主題である供給側の構造改革に注力することで、高品質の発展という要求に応えていくことが予想される。また、様々な課題(安定成長、構造調整、国民生活向上、リスク防止等)を整理し、持続可能で健全な社会経済の発展を推進していくことが想定される。2018年度のGDP成長率は約6.5%、CPI成長率は約3%に抑制される見込みである。マクロ経済の安定と改善により、石炭需要及び電力需要は安定的に増加することが見込まれる。

### 2. 石炭業界の市場環境

#### (1) 中国の発電用石炭市場

##### 2017年度の概要

2017年度では、石炭業界の供給側の構造改革が深化したことで、石炭業界における構造調整と配置の最適化が進展し、国内の石炭市場では需給バランスが逼迫した。価格は需給関係や季節の変化に応じて変動した。2017年12月31日現在の環渤海動力石炭価格(5,500kcal)は1トン当たり578人民元、年間平均価格は1トン当たり585.3人民元となり、前年比27.4%上昇した。

	2017年度	2016年度	増減率(%)
原炭産出量(百万トン) <sup>1</sup>	3,520	3,408	3.3
石炭輸入量(百万トン)	270.9	255.4	6.1
鉄道による石炭輸出力(百万トン)	2,155	1,902	13.3

2017年度では、先進的生産能力の利用解除や、生産量の抑制、新たな種類のエネルギー利用推進等に伴い、高品質の生産能力の利用解除が一段と進み、原炭生産量は回復的成長を示した。国内原炭産出量は、3,520百万トンで前年比3.3%増となった。このうち、内モンゴルの産出量は前年比7.6%増の880百万トン、山西の産出量は前年比3.5%増の850百万トン、陝西の産出量は前年比10.6%増の570百万トンであった。

2017年度の石炭累計輸入量は270百万トンで前年比6.1%増となったが、伸び率は前年より大幅に低下した。

マクロ経済の安定した好成長や水力発電量の低迷等の要因により、石炭需要は中国全土で上昇傾向を記録し、2017年度の中国の石炭消費量は前年比0.4%増となった。下流の主要石炭消費産業(電力、鉄鋼等)の石炭消費量は、前年比で増加した。

当事業年度の中国国内の鉄道による石炭輸送量は2,155百万トンとなり、前年比13.3%増となった。中国の主要港を経由した石炭輸送量は730百万トンとなり、前年比12.9%増となった。

石炭の在庫水準は着実に低下した。2017年度末現在の中国北部の主要港、主要石炭企業、及び主要発電所の石炭在庫は合計110百万トンで、当期首と比較して9%減となった。

---

<sup>1</sup> 出典:国家統計局「2017年国民経済・社会発展統計公報」

## 2018年度の展望

2018年度の中国経済は、上昇軌道に乗り堅調に推移することが予想される。石炭需要は基本的に安定を維持し、発電用石炭需要は引き続き季節により変動する特徴を示す見込みである。石炭業界の供給側の構造改革は継続して進められ、年間で約150百万トンの石炭生産能力が排除される見込みである。高品質生産能力の利用解除等の関連政策の一層の推進により国内の石炭生産能力は徐々に増加し、環境保護や安全性等の要因による制約は受けるものの、2018年度の石炭生産量は増加することが予想される。

2018年度の石炭輸入量は、前年比ほぼ横ばいの見込みである。

中国の石炭市場の需給は、基本的に均衡を維持することが予想される。石炭価格は、季節の変化に応じて多少の変動が見込まれる。石炭に関する全国的な在庫最小化及び在庫上限設定システム等の政策が実行されるとともに、石炭会社及び電力会社における長期契約の締結・支払の仕組みが浸透することで、石炭市場及び石炭価格の安定化に資すると考えられる。

## (2) アジア太平洋地域の発電用石炭市場

### 2017年度の概要

世界的なエネルギー構造調整の継続的推進により、非化石エネルギーは急速な発展を続け、石炭の世界の一次エネルギー消費量に占める割合は低下<sup>1</sup>したものの、主要エネルギーとしての地位は引き続き維持した。

2017年度では、世界経済の継続的回復により石炭需要は増加し、アジアは依然として世界の石炭消費における中心地域であった。インドの発電用石炭消費量は増加を続け、一般炭の輸入量は引き続き大規模となった。2017年度のインドの石炭輸入量は200百万トンとなり、前年度と概ね同量であった。日本の石炭輸入量は190百万トンで、前年比1.0%増であった。韓国の石炭輸入量は150百万トンで、前年比10.2%増と大きく増加した。

世界的な石炭供給量は増加したものの、全体としては依然逼迫していた。インドネシア、オーストラリア、及びロシアが、引き続き一般炭の主要輸出国であった。2017年度のインドネシアの石炭輸出量は390百万トンで、前年比5.4%増となった。ロシアの石炭輸出量は190百万トンで、前年比12.4%増となり、過去最大を記録した。オーストラリアでは、気象変化やその他の要因の影響により年間を通して石炭の生産・輸出は制約を受け、輸出量は380百万トンとなり、前年比3.4%減となった。

石炭の国際価格は、需給関係に応じて季節により変動するという特徴を示し、前年よりも高値となった。12月31日現在のニューカッスルNEWC一般炭のスポット価格は、当期首時点の1トン当たり92.44米ドルから、1トン当たり103.88米ドルまで上昇し、年間平均価格は前年比34%上昇した。

---

<sup>1</sup> BP世界エネルギー統計(BP Statistical Review of World Energy)(2017年6月)によれば、2016年における世界の一次エネルギー消費量に対する石炭の割合は28.1%であり、2016年と比較して1.1パーセント・ポイント低下した。

## 2018年度の展望

2018年度も世界経済は引き続き回復が見込まれており、これにより安定したエネルギー需要が生じる。中国及びインドは引き続き主要石炭消費国となり、インドの電力事業の石炭需要は高水準を維持する見込みであるが、国内生産量の急速な伸びにより輸入量は減少する可能性がある。韓国、ベトナム等の国や地域では、石炭火力発電プロジェクトの建設が急速に進行しており、石炭需要及び輸入量は拡大が予想される。日本では一部の原子力発電設備の再稼働により、石炭輸入量の増加は限定的となる見込みである。

インドネシアの石炭生産量は相対的に高水準を維持し、石炭輸出量も引き続き大規模となる見込みである。オーストラリアの石炭生産量及び輸出量の増加は限定的となることが予想される。ロシアでは、為替レートの影響や国内の石炭需要減により、石炭輸出量は今後も高水準を維持する見込みである。

2018年度では、石炭の国際市場は需給の均衡が予想される。一般炭価格は季節の変化に応じた変動が見込まれる。

## 3. 電力業界の市場環境

### 2017年度の概要

2017年度の中国の電力業界では、供給量は十分となり需要は増加した。

中国の電力需要は急速な伸びを維持した。マクロ経済の安定的成長や、夏季の高気温等の要因を受け、総電力消費量は、前年比6.6%増の6,307.7十億kWhとなった。このうち、第二次産業及び第三次産業の電力消費量はそれぞれ前年比5.6%増及び10.7%増となったが、これは主に社会全体の電力消費の伸びが主な原動力であった。

中国の発電量は比較的高水準を維持した。一定規模を上回る発電所の発電量は、前年比5.7%増の6,275.8十億kWhとなった。このうち、火力発電量は前年比4.6%増の4,611.5十億kWh、水力発電量は前年比3.4%増の1,081.9十億kWhとなった。電力需要の増加と石炭火力発電能力(50百万kW)の全国的な排除、建設中止・延期等の要因により、石炭火力発電機の利用時間は前年比微増の4,278時間となった。

中国の電力供給量は十分であった。火力発電設備容量の割合は低下し、非化石エネルギーによる発電容量は急速に増加した。2017年度末までに、中国全土の6,000kW以上の発電容量を有する発電所の発電設備容量は1.78十億kWとなり、前期末から8.0%増加した。このうち、火力発電設備容量は1.11十億kWで前期末比4.3%増、水力発電設備容量は0.34十億kWで前期末比2.7%増、風力発電設備容量は0.16十億kWで前期末比10.5%増となった。総設備容量に占める割合は、火力発電設備容量が62.2%で前年比1.8パーセント・ポイント低下した一方、非化石エネルギー設備容量は2.1パーセント・ポイント上昇した。

需給の状況は地域により大きく異なるものであった。中国北部における需給は逼迫、中央部では概ね均衡、東部及び南部では僅かに供給過剰、北東部及び北西部では大幅に供給過剰であった。

2017年度の発電用石炭の供給は僅かに逼迫し、石炭価格は高水準で推移した。この結果、石炭火力発電企業の発電コストは大幅に増加し、赤字となった発電企業数は増加した。

### 2018年度の展望

マクロ経済状況、サービス産業及び都市部居住者の電力消費水準、電気エネルギーの代替可能性等の要因を踏まえると、電力需要は引き続き増加が見込まれる。

中国全土の電力需給は総じて緩和され、一部地域では余剰が生じ、一部地域ではピーク時には需給の逼迫が予想される。火力発電機の年間利用時間は概ね前年度と同一となる見込みである。中国政府は、石炭火力発電機の過剰生産能力の削減を供給側の構造改革の焦点としており、石炭火力発電機のうち国家基準を満たしていない生産能力300,000kW未満の発電機の停止及び閉鎖を計画している。加えて非化石エネルギーによる発電容量の急速な増加もあり、火力発電設備容量の割合は引き続き低下す

る見込みである。環境規制の継続的強化により全国炭素排出取引市場が始動したが、これは火力発電企業にとってより大きな課題になると考えられる。

## ( ) 中国神華の成長戦略

当社の支配株主である国家能源集団全体の戦略的目標は、「国際競争力を有する世界一流の総合エネルギー・グループの構築」である。国家能源集団は、石炭事業と電力事業を主軸とし、事業シナジーを存分に発揮して、質、効率性、原動力の変革を推進することにより、科学的発展、優れた管理力、先進的科学技術、豊かな文化、責任ある活動、卓越したブランドを有した世界一流の企業の創出を目指している。基本となる政治原則は、「4つの意識(四個意識)」の確立、「4つの自信(四個自信)」の確定、及び習近平同志を中心とする共産党中央委員会との高度の整合性を維持することである。国家能源集団は、共産党の基本理念、基本路線、及び基本戦略を国家能源集団において確実に実行するために、中央政府の意思決定を着実に遂行していく方針である。6つの核となる理念は、「革新、効率性、安全性、緑化、公正性、幸福」である。また、コーポレートガバナンスに関する9つの戦略は、「国家能源集団のルーツ・精神を形成する集団の強化、変革・価値向上のため主要事業への注力、メカニズム改善のための改革の深化、安全性への懸念に対するインフラ整備の向上、緑化に配慮した成長に向けた革新主導型の生産、質・効率性向上のための管理強化、リスク防止のための資産の最適化、双方にとって利益となる協力関係の開拓・拡大、人優先の方針との調和の創出」である。

これを基に、中国神華は、当社の成長戦略の一層の最適化を図っていく方針である。

## ( ) 2018年度の事業目標

項目	単位	2018年度 目標注	2017年度 実績	増加/(減少)率 (%)
商業用石炭生産量	100百万トン	2.9	2.954	(1.8)
石炭販売量	100百万トン	4.3	4.438	(3.1)
送電量	100百万kWh	2,486	2,462.5	1.0
売上高	100百万人民元	2,493	2,487.46	0.2
売上原価	100百万人民元	1,684	1,604.60	4.9
販売費および一般管理費、 財務費用(純額)の合計	100百万人民元	138	132.79	3.9
自社生産石炭の単位当たり生産 原価の増減	/	前年比5%未満増	前年比1.6%減	/

注:2018年度の事業目標は、2017年度末現在の資産及び事業の範囲に基づいている。

上記の事業目標及び見積りは、連結の範囲、リスク、不確実性及び仮定等の影響を受ける。実際の結果は、これらの記述と大幅に異なる可能性がある。当該記述は、投資家に対する確約ではなく、投資家は、当該情報への過度な依存や当該情報の過度な使用が、投資リスクを招く可能性があることに留意する必要がある。当社は、当社所有の石炭火力発電資産の一部を出資し国電電力との共同支配企業の設立を提案しているが、当社株主総会の承認を得る必要がある。詳細については、当社の2018年3月1日付のH株に関する公告及び2018年3月2日付のA株に関する公告を参照のこと。

2018年度第1四半期の当社株主に帰属する純利益が前年同期比50%以上増減することが見込まれる場合、当該状況に関する説明:

該当あり ☐ 該当なし ☒

## ( ) 2018年度の資本的支出計画

単位: 100百万人民元

	2018年度計画		2017年度実績
	総額	うち、第1期	



1.石炭セグメント	290	24.0	45.7
2.電力セグメント		101.3	152.3
3.輸送セグメント		48.7	61.1
内訳: 鉄道		44.8	53.8
港湾		3.5	7.2
海運		0.4	0.1
4.石炭化学セグメント		2.2	1.1
5.その他		-	1.8
合計	290	176.2	262.0

2017年度の資本的支出の合計は、262.0億人民元となった。これは主に、(1)電力セグメント:インドネシア・ジャワ島第7石炭火力発電プロジェクト(2×1,050MW)、江西九江石炭埋蔵(輸送)発電一体化プロジェクト、国華寧東石炭火力発電機建設プロジェクト(2×660MW)、四川神華天明発電公司石炭火力発電機建設プロジェクト(2×1,000MW)、(2)輸送セグメント:黄大鉄道プロジェクト、(3)石炭セグメント:海勒斯壕ターミナル駅建設、郭家湾・青龍寺炭鉱及び選炭工場の建設、及び採掘権に係る支払に関するものであった。

取締役会は、投資規模の厳格な管理及び重要建設プロジェクトの継続という原則に基づき、2018年度の資本的支出計画は合計290億人民元未満(持分及び資産の取得を除く。)とし、これを複数回に分けて実行予定である。

2018年度計画第1期の資本的支出は、合計176.2億人民元であった。このうち、石炭セグメントに係る資本的支出は、生産能力の維持や環境保護、情報技術に係るプロジェクトに関する支出が約21億人民元、設備購入に関する支出が約2.70億人民元、炭鉱の建設及び再建について承認済みの支出が約0.30億人民元であった。電力セグメントに係る資本的支出は、新規及び継続の建設プロジェクト(設備購入を含む。)に関する支出が約93.7億人民元、「超低排出」等の環境保全技術への改良に関する支出が約3.80億人民元であった。また、鉄道セグメントに係る資本的支出は、主に黄大鉄道の建設、神朔鉄道の拡張・改造、朔黄鉄道の牽引電力供給システム拡張、その他の改造プロジェクトや設備購入に関するものであった。

2018年度の当社グループの資本的支出計画は、事業計画(取得の可能性を含む。)の進展、投資プロジェクトの進捗、市況、将来の事業環境の見通しや、必要な認可及び許可証の入手の影響を受ける。法律で要求されない限り、当社はこれらのデータや資本的支出計画を更新する責任はない。当社は資本的支出計画の資金は、営業活動、短期及び長期借入、その他の債務やエクイティ・ファイナンスにより稼得した資金を充当する予定である。

## ( ) 直面している主要なリスク

投資家は、当社が列挙した主要なリスクについてモニタリングし対策を講じたとしても、様々な要因によりマイナスの影響をすべて排除し得る絶対的保証はないことに留意する必要がある。

### 1. マクロ経済の変動リスク

当社グループが事業を行っている業界は、国民経済の繁栄と密接な相関性がある。2017年度の中国の国内総生産の伸び率は前年比6.9%であり、2018年度では約6.5%と予想されている。中国は、供給側の構造改革の推進に努めており、革新の継続、マクロ経済規制の改善、新たな成長気運の精力的育成を行っている。エネルギー部門における当該改革や革新は、当社グループの成長戦略に重要な影響を及ぼすことが予想される。

マクロ経済の変動リスクに対処すべく、当社グループは、関連業界の動向調査を一層強化し、供給側の構造改革の推進、科学的革新・進歩への多大な努力とともに、環境に優しいエネルギー戦略を実行していく方針である。

### 2. 市場競争リスク

2017年度の国内石炭市場では、需給が逼迫し、石炭価格は需給及び季節の変化に応じて高水準で推移した。2018年度では、国際石炭市場の需給は均衡する見込みである。2017年度の電力総消費量は6.3兆kWhとなり、前年比6.6%増となった。市場主導型

の電力取引は今後も増加し、社会全体の電力消費量に対する割合はさらに増加が見込まれる。中国は、省を跨いだ石炭輸送チャネルの建設を増やしており、この石炭輸送能力は順次始動される見込みである。

市場競争リスクに対処すべく、当社グループは、石炭市場に関する予測的判断力の精度を向上させ、市場の拡大、均衡のとれた販売調整を行っていく。また、電力事業においては、一層の質の向上と作業の効率化を進め、リスクの事前制御、安全な生産、法規制に準拠した電力市場での取引を行っていく方針である。

### ３． 産業政策の変更リスク

当社グループの事業活動は、中国の産業規制政策の影響を受ける。2017年度に中国は、石炭火力発電プロジェクトの建設中止・延期、石炭業界における合併・買収支援等の政策を実行した。2018年度でも、引き続き供給側の構造改革を深化させることが予想される。中国は、石炭生産能力約150百万トンの停止と、石炭火力発電機のうち国家基準を満たしていない生産能力300,000kW未満の発電機の排除及び閉鎖を予定している。これらの政策は、当社の新設拡大プロジェクトの認可や稼働、管理モデルの改革に客観的影響を及ぼす可能性がある。

産業政策の変更リスクに対処すべく、当社グループは、中国の最新の産業政策及び規制に関する調査を強化するとともに、事業セグメントに跨る合理的な投資配分や、石炭及び電力プロジェクトの建設順序の一層の調整、環境投資の増加により、産業の質の向上や構造調整を進めていく方針である。

### ４． コスト上昇リスク

採掘プロセスが進むにつれ、また生産条件が複雑になるにつれ、当社グループの採掘コストは上昇する可能性がある。さらに、生産資源の長期的価格上昇、資源及び環境規制の強化、財政及び租税政策の変更等の複数の要因が当社グループのコストを上昇させる可能性がある。

コスト上昇リスクに対処すべく、当社グループは、価値創造の概念を定め、戦略的コスト管理を強化するとともに、コスト責任制度の最適化、タックス・プランニングの強化、継続予算の作成に関する改善を行うことで、コスト管理の精緻化やレベル向上を図っていく。

### ５． 環境保護リスク

中国政府の省エネルギー及び環境保護政策は、一層厳格化の傾向にある。汚染、温室効果ガスの排出、省エネルギー・排出削減等に関する一連の政策公布に続き、当社グループに課される省エネルギー、炭素削減及び環境保護規制はさらに増加している。

当社グループは、クリーンエネルギーによる成長戦略を重視しており、クリーン石炭を核とした効率的成長、クリーン石炭の利用及び同石炭への転換により、「生態文明」の建設を全面的に推進していく方針である。当社は、大気汚染、水質汚染の防止・制御を積極的に遂行し、京津冀(北京市・天津市・河北省)及びその周辺地域の省エネルギー・環境保護を向上させている。また、石炭火力発電の「超低排出」ブランドイメージの構築も行っている。これらにより、環境リスクの事前管理体制を一層改善し、潜在的問題の識別及び解決や環境危機管理を強化することで、エネルギー保全及び排出削減目標を達成し、重大な環境汚染問題を防止していく。

当社グループの経営陣は、財務諸表に計上済みの金額を除き、当社グループの財政状態に重要なマイナスの影響を及ぼす環境負債は現時点ではないと考えている。

### ６． 炭鉱における生産安全性リスク

当社グループは、生産安全性に関する目標として、「重大な作業関連事故や一般事故の防止、重軽度の傷害件数の削減努力、生産及び作業上の安全性のための長期的な体制構築」を掲げている。当社グループは炭鉱での生産安全性を安定的に維持してきたが、安全な生産プロセスにも不確実性は存在する。

炭鉱での生産安全性に対処すべく、当社グループは、様々な分野(安全性リスクの防止及び管理体制の遂行、重要なリスクの調査・当該リスクへの対処・評価、安全な生産のための訓練及び緊急時の救援体制の強化、安全管理に関する検査の全面的推進、安全な生産基盤の確立等)について強化していく方針である。

## 7. 一体経営に関するリスク

炭鉱、電力、輸送及び石炭化学事業の一体化という当社の強みは、一体化した全体的連携の個々の部分に中断が生じるリスクを伴う。組織の協力や調和が欠如し、一体経営の連携が中断した場合には、一体化した組織・経営のバランスや高い効率性に影響を与え、当社グループの経営成績にマイナスの影響を及ぼす可能性がある。

一体経営に関するリスクに対処すべく、当社グループは、科学的なスケジュール調整及び計画管理等の生産安全性に基づいた一連の手段を講じ、鉄道による集荷・配送システムを改善し、送電調整を強化するとともに、生産設備の稼働管理を強化していく。これらにより、生産の均衡化及びスムーズな一体経営に努め、競争力の最大化を図っていく。

## 8. 国際業務に関するリスク

世界経済、社会、政治、宗教の状況の複雑さの程度や為替レートの変動に応じて、他国への投資リスクは著しく変化する。一部の国家間での貿易摩擦の過熱により将来の国際貿易秩序や市場経済の安定性に起伏や変化が生じる可能性に加え、世界的なエネルギー市場での過度の競争過熱により、当社グループの国際業務における不確実性は、当社の国外事業に影響を及ぼす可能性がある。

国際業務に関するリスクに対処すべく、当社グループは、国外プロジェクトへの投資意思決定前に行う情報の分析・調査を強化し、経済的実行可能性を確実にすべく国外の資源評価及びプロジェクト評価を入念に実施する。さらに、複合的能力のある人材の育成・採用を行い、「走出去(積極的な国外進出)」戦略のための強力な裏付けを確保していく方針である。

## 9. 自然災害リスク

当社グループの生産及び事業活動は、自然災害や悪天候等の要因の影響を受ける。

自然災害リスクに対処すべく、当社グループは、重大な自然災害に関する早期の警告体制を強化し、緊急対応計画を策定し、必要な資源を配置し、緊急訓練に真摯に取り組むことで、自然災害の影響を最小限にとどめる。

商業財産保険の一元管理により、当社グループは、リスク・エクスポージャーやリスク・ポートフォリオを継続的に検討・評価し、ニーズや中国の保険業界の慣例に応じて保険戦略や保険行為を必要に応じて適切に見直すことで、多様なエクスポージャーから生じる損失を防止していく。

### ・ ガイドラインへの準拠又は特別の理由により当社が開示を行っていない理由及び原因の説明

該当あり



該当なし

### ・ 取締役会及び専門委員会の職務の履行状況

年次報告書の「コーポレートガバナンス及びコーポレートガバナンスに関する報告」(訳者注:原文のセクション)を参照のこと。

### ・ その他

寄付、配当、及び経営に関する契約については、年次報告書の「重要事項」(訳者注：原文のセクション)を参照のこと。また、重要な取引、取決め又は契約における取締役及び監査役に認められた免責条項及び権利については、同報告書の「取締役、監査役、上級経営者及び従業員」(訳者注：原文のセクション)を参照のこと。

## 第4【設備の状況】

### 1【設備投資等の概要】

「第一部-第2-3事業の内容-(1)概要」、「第一部-第3-7財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」の「当報告期間の主な経営成績-( )投資分析」および同「当社の将来の発展に関する説明及び分析-( )2018年度の資本的支出計画」を参照のこと。

### 2【主要な設備の状況】

「第一部-第6-1財務書類-連結財務諸表注記-15.有形固定資産」を参照のこと。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

該当なし。

## 第5【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

(2017年12月31日現在)

授 権 株 数(株)	発 行 済 株 式 総 数(株)	未 発 行 株 式 数(株)
19,889,620,455	19,889,620,455	0

## 【発行済株式】

(2017年12月31日現在)

記名・無記名の別及び 額面・無額面の別	種 類	発 行 数(株)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内 容
記名式額面株式 ( 券面額1.00人民元 )	普通株式 A 株式	16,491,037,955	上海証券取引所	中国人および/または中国法人 によって引受けられ、かつ人民 元で払込まれる、1株当たりの 額面金額が1.00人民元の当社の 普通株式を意味する。
記名式額面株式 ( 券面額1.00人民元 )	普通株式 H 株式	3,398,582,500	香港証券取引所	当社普通株式のうち、1株当た り額面金額1.00人民元の国外上 場外国投資株式で、香港ドル建 てで引受けられ、かつ、取引さ れ、香港証券取引所における上 場認可および取引許可の申請が なされているものを意味する。
計	-	19,889,620,455	-	-

## (2)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当なし。

## ( 3 ) 【発行済株式総数及び資本金の推移】

年 月 日	発行済株式総数(株)		資本金(人民元)		摘 要
	増減数	残 高	増減額	残 高	
2005年1月1日	-	15,000,000,000	-	15,000,000,000	-
2005年6月15日	2,785,000,000	17,785,000,000	2,785,000,000	17,785,000,000	香港証券取引所への 上場に伴うH株式の 発行
2005年7月7日	304,620,455	-	304,620,455	-	超過割当オプション の行使に伴うH株式 の発行
2005年12月31日	-	18,089,620,455	-	18,089,620,455	-
2007年9月25日	1,800,000,000	19,889,620,455	1,800,000,000	19,889,620,455	A株式の発行に続き 上海証券取引所にA 株式が上場

## ( 4 ) 【所有者別状況】

2017年12月31日現在、当社には190,798名の登録株主が存在し、その内訳はA株株主188,577名(国家能源集団を含む。)、H株株主2,221名であった。

## ( 5 ) 【大株主の状況】

( 2017年12月31日現在 )

氏名又は名称	住 所(注1)	所有株式数 ( 株 )	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合 ( % )
国家能源投資集団有限責任公司	100011北京市東城区 安定門西瀋河路22号	14,530,574,452	73.06
香港中央結算(代理人)有限公 司(注2)	-	3,390,779,799	17.05
中国証券金融股份有限公司	-	676,415,643	3.40
中央匯金資産管理有限責任公司	-	110,027,300	0.55
香港中央結算有限公司(注2)	-	46,831,966	0.24
中国工商銀行-上海インデックス 50トレーディング・オープンエ ンド・インデックス・セキュリ ティーズ・インベストメント・ ファンド	-	15,149,064	0.08
交通銀行-Eファンド50インデッ クス・セキュリティーズ・イン ベストメント・ファンド	-	13,023,640	0.07
華泰証券股份有限公司	-	11,574,177	0.06
ICBCクレディ・スイス・アセッ ト-工商銀行-特定顧客資産管理	-	10,369,654	0.05
鞍鋼集団資本控股有限公司	-	9,525,101	0.05

注：(1) 住所については、入手可能な情報のみを記載している。

(2) 香港中央結算(代理人)有限公司が保有するH株式は、その多数の顧客に代わって保有しているものであり、香港中央結算有限公司が保有するA株式は、その多数の顧客に代わって保有しているものである。



## 2【配当政策】

### 利益配当計画

#### ( ) 現金配当政策の策定、実施または調整

関連法令および定款の規定に準拠した上で、当社の利益配当政策においては、継続性および安定性を維持し、投資家に対する合理的な還元を達成することに重点が置かれている。当社は現金配当の形で利益配当することを優先する。当社の利益配当政策は、証券監督管理委員会が発表した上場企業の現金による配当の奨励に関するガイドラインに従っている。

当社の利益配当は、定款に従い、中国企業会計準則に基づき作成した連結財務諸表および国際財務報告基準に基づく当社株主に帰属する当期純利益のうちいずれか少ない額を基礎として行われている。関連条件に従い、現金による年間利益配当は、当社株主に帰属する当期純利益の35%を下回ってはならない。

#### ( ) 利益配当スキーム / 計画

##### 1. 最近3ヵ年（当報告期間を含む。）の利益配当計画

	10株当たり 配当額 (税込)  (人民元)	現金配当総額 (税込)  (百万人民元)	中国企業会計準則に 基づく各配当年度の 連結財務諸表上の 当社株主に帰属する 純利益 (百万人民元)	連結財務諸表上の 当社株主に帰属する 純利益に対する 割合 (%)
2017年度の最終配当（提案）	9.1	18,100	45,037	40.2
2017年度の特別配当の分配	25.1	49,923	なし	なし
2016年度の最終配当	4.6	9,149	22,712	40.3
2015年度の最終配当	3.2	6,365	16,144	39.4

2017年度の中国企業会計準則に基づく当社株主に帰属する当期純利益は45,037百万人民元であり、基本的1株当たり利益は2.264人民元であった。国際財務報告基準に基づく当社株主に帰属する当期利益は47,795百万人民元であり、基本的1株当たり利益は2.403人民元であった。2017年12月31日現在の中国企業会計準則に基づく当社の株主に配当可能な利益剰余金は、124,576百万人民元であった。

取締役会は、現金による2017年度の最終配当支払額を、2017年12月31日現在の当社株式19,889,620,455株の総株式資本に基づき、1株当たり0.91人民元（税込）、配当総額18,100百万人民元（税込）とすることを提案している。これは、中国企業会計準則に基づく当社株主に帰属する当期純利益の40.2%、国際財務報告基準に基づく当社株主に帰属する当期純利益の37.9%に相当する。

2. 上記の2017年度の最終配当計画は定款の規定に準拠しており、また独立取締役の賛成および取締役会の承認を得ている。2017年度の計画の提案に際して、取締役会は、当社株主（特に少数株主）の意見や要望を注意し考慮している。当社は、2017年度年次株主総会を2018年6月22日（金曜日）に開催し、取締役会が提出している上記の配当計画を含む関連議案が承認された。

3. 2017年度の最終配当は人民元建てで表示および宣言され、上海・香港ストック・コネクットのノースバウンド・トレーディング・リンクを通じて当社A株式を保有する株主（以下「ノースバウンド株主」という。）を含む当社A株式の株主に対する配当金およびサウスバウンド・トレーディング・リンクを通じて当社H株式を保有する株主（上海および深センの市場を含み、以下「サウスバウンド株主」という。）に対する配当金は、人民元建てで支払われる。当社H株式の株主（サウスバウンド株主を除く。）に対する配当金の支払は、香港ドルで行われている。香港ドルによる配当金は、当該配当宣言日の5営業日前に中国銀行が公表する対香港ドル人民元の平均標準レートに基づいた為替レートに従って計算されている。

2017年度の利益配当計画および当社の年次株主総会の事前協議に従って、当社のH株式の株主に対する2017年度の最終配当は2018年8月3日頃に支払われる予定である。H株主は、当社が分配した配当を期限内に請求するよう通知される。

#### 4. 定款に従い：

- (1) 2018年5月23日（水曜日）午後の上海証券取引所の取引終了後、中国証券登記結算有限責任公司上海支店に登録されている当社A株式の株主（ノースバウンド株主を含む。）およびその代理人は、当社の2017年度年次株主総会に出席し議決権を行使する権利を有する。
- (2) 中国証券登記結算有限責任公司上海支店の関連規則およびA株式の最終配当の分配に関して行われている市場慣行に従い、当社は、2017年度年次株主総会后に、A株式の株主に対する2017年度の最終配当の分配の配当基準日、権利落ち日および配当日を確定するために、A株式の株主（ノースバウンド株主を含む。）に対する2017年度の最終配当の分配に関する個別の通知書を発行する。

#### 5. 当社のH株式の株主名簿を一時閉鎖する準備

番号	対応する権利	株主名簿の一時閉鎖			当社のH株式の株式登録機関
		開始日 （同日を含む。）	最終日 （同日を含む。）	登録済株主の最終日	
1	2017年度年次株主総会への出席および議決権行使	2018年5月23日 （水曜日）	2018年6月22日 （金曜日）	2018年5月21日 （月曜日） 午後4時30分（注）	コンピュータシェア・ホンコン・インベスター・サービス・リミテッド
2	2017年度の最終配当の交付	2018年6月30日 （土曜日）	2018年7月6日 （金曜日）	2018年6月29日 （金曜日） 午後4時30分	コンピュータシェア・ホンコン・インベスター・サービス・リミテッド

（注）2018年5月22日は香港の祝日である。

6. 中国企業法人税法および施行規則（2008年1月1日発効）に従い、当社H株式の株主名簿に外観上名義のない非居住の法人株主に対して最終配当の分配を行う場合、当社は、当該法人株主に代わり、税率10%の企業法人所得税の源泉徴収および納付を行うことが義務付けられている。当社は、2018年7月6日時点で当社H株式の株主名簿に名義のある非居住者である法人株主に対する当社の2017年度の最終配当について、企業法人所得税の源泉徴収および納付を行わなければならない。

7. 国家税務総局が公布した国税函[2011]348号に従い、当社は、H株式の個人株主に対する配当金支払額について個人所得税の源泉徴収および納付を行わなければならない。H株式の個人株主は、居住国と中国との間で締結されている租税条約または中国本土と香港（マカオ）間の課税方式に従い、関連する税制優遇措置を享受する権利を有する。

H株式の個人株主が、香港もしくはマカオの居住者または税率を10%とすることで中国と合意している国の居住者である場合には、当社は10%の税率で個人所得税の源泉徴収を行うものとする。H株式の個人株主が、税率を10%未満とすることで中国と合意している国の居住者である場合、当社は、「租税条約下で非居住納税者が享受する優遇措置についての行政措置に関する国家税務総局通知」（2015年における国家税務総局の通知第60号）が要求する関連要件に従い、当該個人株主に代わり、個人所得税の源泉徴収を行うものとする。H株式の個人株主が、税率を10%超20%未満とすることで中国と合意している国の居住者である場合、当社は、合意されている実際の税率で個人所得税の源泉徴収を行うものとする。H株式の個人株主が中国と租税条約を締結していないまたは税率を20%もしくはその他とすることで中国と合意している国の居住者である場合には、当社は20%の税率で個人所得税の源泉徴収を行うものとする。

当社は、2018年7月6日付でH株式の株主名簿に記載されている登録住所（以下「登録住所」という。）を当社の2017年度最終配当を受け取る権利を有するH株式の個人株主の居住地を確定する際の基準とし、これに従い個人所得税の源泉徴収および納付を行う。H株式の個人株主の居住地が登録住所と一致していない場合、かかるH株式の個人株主は、2018年6月29日午後4時30分までに当社H株式の登録機関に通知し、関連する裏付資料を提出するものとする。連絡先は、香港中央証券登記有限公司（17M Floor, Hopewell Centre, 183 Queen's Road East, Wan Chai, Hong Kong）である。

8. サウスバウンド株主に関して、中国証券登記結算有限公司の関連規定に従い、中国証券登記結算有限公司の上海支店および深セン支店は、上海市場および深セン市場それぞれにおけるサウスバウンド株主の代理人として当社が分配した現金配当を受領し、その登記決算システムを通じて、かかる配当金を関連するサウスバウンド株主に分配しなければならない。

「上海・香港ストック・コネクトの実験プログラムに関する課税政策の通知」（財税[2014]第81号）および「深セン・香港ストック・コネクト実験プログラムに関する課税政策の通知」（財税[2016]第127号）の関連規定に従い、当社は、上海・香港ストック・コネクトおよび深セン・香港ストック・コネクトを通じて香港証券取引所に上場しているH株式に投資している中国本土の個人投資家が受領した配当金については、税率20%の個人所得税を源泉徴収するものとする。上記の規則は、上海・香港ストック・コネクトおよび深セ

ン・香港ストック・コネクトを通じて香港証券取引所に上場している株式に投資している中国本土の証券投資ファンドにも適用され、当該株式の配当金には個人所得税が課される。当社は、中国本土の法人投資家が受領した配当金については所得税の源泉徴収義務はないため、当該法人投資家は、当該配当所得に関する申告および納税を自ら行う必要がある。サウスバウンド株主に対する配当分配の配当基準日および関連手続は、当社のH株式の株主と同一である。

9. 当社は、株主の身元確認の遅延または不正確な身元確認から生じた源泉徴収の方法に関する争議に対して、一切の責任を負わない。株主は、当社H株式の保有および処分に関する中国、香港およびその他の税務上の取扱いについては、自身の税務アドバイザーに相談することが望まれる。

### 3【株価の推移】

#### ( 1 )【最近 5 年間の事業年度別最高・最低株価】

##### 香港証券取引所（H 株式）

（単位：香港ドル）

回 次	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
決算年月	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日
最 高	27.20 (377.81円)	23.95 (332.67円)	23.50 (326.42円)	17.42 (241.96円)	21.10 (293.08円)
最 低	18.10 (251.41円)	19.18 (266.41円)	13.79 (191.54円)	10.32 (143.34円)	14.74 (204.74円)

##### 上海証券取引所（A 株式）

（単位：人民元）

回 次	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
決算年月	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日
最 高	18.45 (313.28円)	20.29 (344.52円)	26.29 (446.40円)	18.19 (308.87円)	24.86 (422.12円)
最 低	15.36 (260.81円)	12.85 (218.19円)	13.79 (234.15円)	12.99 (220.57円)	16.19 (274.91円)

#### ( 2 )【当該事業年度中最近 6 月間の月別最高・最低株価】

##### 香港証券取引所（H 株式）

（単位：香港ドル）

月 別	2017年 7 月	2017年 8 月	2017年 9 月	2017年10月	2017年11月	2017年12月
最 高	19.64 (272.80円)	20.80 (288.91円)	21.10 (293.08円)	20.00 (277.80円)	20.35 (282.66円)	20.50 (284.75円)
最 低	16.86 (234.19円)	18.26 (253.63円)	18.24 (253.35円)	18.26 (253.63円)	18.52 (257.24円)	18.64 (258.91円)

##### 上海証券取引所（A 株式）

（単位：人民元）

月 別	2017年 7 月	2017年 8 月	2017年 9 月	2017年10月	2017年11月	2017年12月
最 高	- (-)	- (-)	23.38 (396.99円)	21.38 (363.03円)	24.86 (422.12円)	23.77 (403.61円)
最 低	- (-)	- (-)	20.17 (342.49円)	20.11 (341.47円)	20.13 (341.81円)	21.50 (365.07円)

注：当社の A 株式の取引は2017年 6 月 5 日に一時停止された。かかる取引は2017年 9 月 1 日の売買立会の開始から再開された。

## 4【役員の状況】

男性：16名

女性：4名

(役員のうちの女性の比率：20%)

## (1) 当社の取締役、監査役、上級管理職および共同秘書役

## (a) 当社取締役

役名 および職名	氏 名 (年齢)	略 歴	任期	所有 株式数
会長および業務執行取締役	リン・ウェン (Ling Wen) (55歳)	<p>1963年2月生まれ、男性、中国籍、教授および中国工程院の院士ならびに中国共産党の党员であるリン博士は、金融機関および金融企業において豊富な経営経験を有している。同氏は1991年にハルビン工業大学で博士号を取得し、1992年から1994年まで上海交通大学で博士号取得後の研究を行った。</p> <p>リン博士は、2018年1月から当社の第4期取締役会の会長および業務執行取締役ならびに2017年11月から国家能源集团公司の取締役、ジェネラル・マネジャーおよび党組副書記を務めている。</p> <p>リン博士は、2017年6月から2018年1月まで当社の第4期取締役会の副会長および業務執行取締役ならびに2017年1月から2018年1月まで当社の総裁を務めた。</p> <p>リン博士は、2003年8月から2016年5月まで神華集团公司の党組の党员、2016年5月から2017年11月まで神華集团公司の党組副書記、2010年4月から2017年11月まで神華集团公司の取締役、2014年5月から2017年11月まで神華集团公司のジェネラル・マネジャーを務めた。</p> <p>上記に先立ち、リン博士は、神華集团公司の副ジェネラル・マネジャー、当社の第1期取締役会の業務執行取締役、当社の第2期取締役会の副会長および業務執行取締役、当社の第3期取締役会の副会長および業務執行取締役、当社の総裁、業務執行副総裁および最高財務責任者、神華財務会社の会長、中国工商银行の国際業務部門の副ジェネラル・マネジャー、中国工商银行(アジア)有限公司の副ジェネラル・マネジャー、そして友聯中国業務管理会社の会長を含む、様々な役職を務めた。</p>	<p>会 長：2018年1月2日から</p> <p>業務執行取締役：2004年11月6日から</p>	-

業務執行取締役および上級副総裁	リ・ドン (Li Dong) (58歳)	<p>1960年1月生まれ、男性、中国籍、教授の資格を持つ上級技術者および中国共産党の党員であるリ博士は、中国の石炭企業の経営における豊富な経験を有している。同氏は2005年に中欧国際工商学院で修士号、2005年に遼寧工程技術大学で博士号を取得した。</p> <p>リ博士は、2017年6月から当社の第4期取締役会の業務執行取締役、2011年5月から当社の上級副総裁ならびに2017年11月から国家能源集団公司の副ジェネラル・マネジャーおよび党組の党員を務めている。</p> <p>リ博士は、2006年8月から2017年11月まで神華集団公司の副ジェネラル・マネジャー、2010年4月から2017年11月まで神華集団公司の党組の党員および2016年6月から2017年6月まで当社の第3期取締役会の業務執行取締役を務めた。</p> <p>上記に先立ち、リ博士は、神華集団公司の副主席技術者、神華准格爾能源有限責任公司の会長および神華集団公司のジェネラル・マネジャー室室長を含む様々な役職を務めた。</p>	業務執行取締役： 2016年6月17日から	-
業務執行取締役	ガオ・ソン (Gao Song) (57歳)	<p>1961年2月生まれ、男性、中国籍、教授レベルの上級技術者であるガオ氏は、電力企業における豊富な経営経験を有している。同氏は1982年に浙江大学で火力発電工学の学士号を取得した。</p> <p>2017年11月から、ガオ氏は国家能源投資集団有限責任公司の副ジェネラル・マネジャーおよび党組の党員を務めた。同氏は2012年9月から、国電電力の取締役を務めた。</p> <p>上記に先立ち、ガオ氏は、中国国電集団公司の副ジェネラル・マネジャー、党組の党員ならびに作業部会の部長、国電電力發展股份有限公司の党組のジェネラル・マネジャーおよび副書記、中国国電集団公司のジェネラル・マネジャー補佐、中国国電集団公司の党組書記および北中国支店のジェネラル・マネジャーならびに河北省電力公司の主席技術者を含む様々な役職を務めた。</p>	2018年4月27日から	-
業務執行取締役	ミ・シュウファ (Mi Shuhua) (55歳)	<p>1962年10月生まれ、男性、中国籍、上級技術者であるミ氏は、電力企業における豊富な経営経験を有している。同氏は、1984年に東北電力学院で火力発電工学の学士号を取得した。</p> <p>2017年11月から、ミ氏は国家能源投資集団有限責任公司の党組の副ジェネラル・マネジャーおよび党員を務めた。同氏は2014年4月から国電電力の取締役、2016年12月から国電新能源技術研究院の学長を務めた。</p> <p>上記に先立ち、ミ氏は、中国国電集団公司の副ジェネラル・マネジャーおよび党組の党員、国電電力のジェネラル・マネジャーおよび党組副書記、中国国電集団公司のジェネラル・マネジャー補佐、国電東北電力有限公司の党組書記、業務執行取締役およびジェネラル・マネジャーを含む様々な役職を務めた。</p>	2018年4月27日から	-

非業務執行取締役	ツァオ・ジーピン (Zhao Jibin) (65歳)	<p>1952年7月生まれ、男性、中国籍、上級技術者および中国共産党の党员であるツァオ氏は、経営管理および鉄道輸送運営における豊富な経験を有している。同氏は1984年に交通学を専攻して西南交通大学を卒業し、中国科学院長春光学精密機械と物理研究所にて修士号を取得した。</p> <p>ツァオ氏は、2017年6月から当社の第4期取締役会の非業務執行取締役、2017年11月から国家能源集団公司の社外取締役および2014年12月から中国建築材料集団有限公司の社外取締役を務めている。</p> <p>ツァオ氏は、2008年5月から2013年6月まで、中国移动通信集団公司の副ジェネラル・マネジャー、2007年12月から2014年6月まで中国南車股份有限公司の独立非業務執行取締役、2015年4月から2017年11月まで神華集団公司の社外取締役および2016年6月から2017年6月まで当社の第3期取締役会の非業務執行取締役を務めた。</p> <p>上記に先立ち、ツァオ氏は、長春駅の駅長、長春鉄路支局の局長、呼和浩特鉄路局および鄭州鉄路局の局長、中国鉄通集団有限公司の会長、第9回および第10回全国人民代表大会の代議士、北京交通大学および長春理工大学の名誉教授の役職を連続して務めた。</p>	2016年6月17日から	-
独立非業務執行取締役	タム・ウェイ・チュウ・マリア (Tam Wai Chu, Maria) (72歳)	<p>1945年11月生まれ、女性、中国籍、香港の法廷弁護士であるタム氏は、1970年に学士号を取得してロンドン大学を卒業し、1989年に名誉法学博士号を授与されて香港中文大学を卒業した。同氏は法務および監査について豊富な経験を有している。</p> <p>タム博士は、2017年6月から当社の独立非業務執行取締役、2013年3月から第12回全国人民代表大会の代議士、1997年7月から全国人民代表大会の香港特別自治区の議長および香港特別行政区の基本法委員会の委員を務めている。タム博士はまた、永安国際有限公司、五礦地産有限公司、中石化冠徳控股有限公司、北京同仁堂科技発展股份有限公司、莎莎国際控股有限公司、玖龍紙業(控股)有限公司および澳門勵駿創建有限公司を含む香港の様々な上場企業において独立非業務執行取締役を務めた。</p> <p>タム博士は、2015年1月から2017年12月まで香港廉政公署の運営監督委員会の委員長および汚職問題諮問委員会の当然議員を務めた。同博士は、2010年1月から2017年12月まで香港廉政公署の汚職問題諮問委員会および証人保護監督委員会の委員を務めた。</p> <p>上記に先立ち、タム博士は、第9回、第10回および第11回全国人民代表大会の代議士を連続して務めた。タム博士は1998年に金紫荊星章を受章し、2013年には香港政府の最高の名誉を象徴する大紫荊勳章を受勳した。</p>	2017年6月23日から	-

独立非業務執行取締役	ジャン・ポー (Jiang Bo) (62歳)	<p>1955年12月生まれ、女性、中国籍、上級会計士および上級エコノミストならびに中国共産党の党員であるジャン博士は、金融理論および企業経営の知識と実務についての豊富な経験を有している。ジャン博士は、1983年に吉林省財貿学院を卒業し、2004年に中国人民大学で経済学の博士号を取得した。</p> <p>ジャン博士は、2017年6月から当社の独立非業務執行取締役および2015年2月から中石化石油工程技術服務股份有限公司の独立非業務執行取締役を務めている。</p> <p>上記に先立ち、ジャン博士は、中国光大集団股份有限公司の最高財務責任者および労働組合の組合長、中国光大集団有限公司（香港）の取締役、光大永明人壽保險有限公司の取締役、光大金控資産管理有限公司の株主取締役、申銀万国証券公司の取締役、中国光大銀行の業務執行取締役、副総裁、共産党委員会の委員および首席監査官（現職）を含む、様々な役職を務めた。</p>	2017年6月23日から	-
独立非業務執行取締役	ツォン・イン ジー・クリス ティーナ (Zhong Yingjie, Christina) (49歳)	<p>1968年11月生まれ、女性、中国籍、公認会計士であるツォン氏は、1990年に会計監査専攻で学士号を取得し武漢大学を卒業した。同氏はまた、2000年に中欧国際工商管理学院で経営学の修士号を取得した。ツォン氏は財務および資本市場において豊富な経験を有している。</p> <p>ツォン氏は、2017年6月から当社の独立非業務執行取締役を務めている。</p> <p>上記に先立ち、ツォン氏は2008年5月から2017年4月までモルガン・スタンレー・アジア・リミテッドで勤務し、マネージング・ディレクターおよび中国の金融機関部門の部長を務めた。ツォン氏は、ゴールドマン・サックス・高華証券有限責任公司の業務執行取締役および中国国際金融有限公司の副総裁を含む、様々な役職を務めた。ツォン氏はまた、中国審計署に勤務していた。</p>	2017年6月23日から	-
独立非業務執行取締役	ペン・スーピン (Peng Suping) (59歳)	<p>1959年6月生まれ、男性、中国籍、中国鉱業大学の教授であるペン博士は、石炭産業における豊富な経験を有し、鉱山工学の鉱山地質学および物理探査の教育および研究に長きにわたり従事してきた。ペン氏は、1988年に中国鉱業大学北京博士後期課程で石炭地理学および探査の博士号を取得した。同博士は2007年に中国工程院の院士に選出された。</p> <p>ペン博士は、2007年1月から中国鉱業大学（北京）の石炭資源および安全採鉱の国家重点研究所の所長、2014年7月から中国工程院のエネルギーおよび鉱山工学部の学部長、2010年6月から天地科技股份有限公司の独立取締役および2012年10月から西藏華鈺鋁業股份有限公司の独立取締役を務めた。</p> <p>ペン博士は、2010年4月から2014年6月まで中国工程院のエネルギーおよび鉱山工学部の副学部長、2011年11月から2017年10月までは北京龍軟科技股份有限公司の独立取締役を務めた。</p>	2018年4月27日から	-



独立非業務執行取締役	ホアン・ミン (Huang Ming) (54歳)	<p>1964年3月生まれ、男性、米国籍、コーネル大学ジョンソン経営大学院の財政学の終身教授であるホアン博士は、財政分野の学術研究に長きにわたり従事しており、中国の金融市場およびコーポレート・ファイナンスに精通している。ホアン博士は、1991年に米国コーネル大学、1996年には米国スタンフォード大学にて、それぞれ物理学および財政学の博士号2つを取得した。</p> <p>ホアン博士は2005年7月からコーネル大学ジョンソン経営大学院の財政学の終身教授と兼任して2010年7月から中欧国際工商学院の財政学の教授、2008年8月から英利緑色能源控股有限公司の独立取締役、2009年10月から花樣年控股集团集团有限公司の独立取締役、2014年3月から任京東商城股份有限公司の独立取締役、2014年7月から万洲国際有限公司の独立取締役および2018年2月からは三六零安全科技股份有限公司（旧社名：江南嘉捷電梯股份有限公司）の独立取締役を務めた。</p> <p>上記に先立ち、ホアン博士は、上海財經大学の金融学院の学部長、長江商学院の教授および副学部長ならびに米国スタンフォード大学ビジネススクールの准教授を含む様々な役職を務めた。</p>	2018年4月27日から	-
------------	---------------------------------	--	--------------	---

取締役は、新たに指名された取締役が就任するまでは、法律、社則および定款に従って、引き続き職務を続行するものとする。

## (b) 当社監査役

役名 および職名	氏 名 ( 年齢 )	略 歴	任期	所有 株式数
監査役会会長	ツァイ・リーチェン ( Zhai Richeng ) ( 53歳 )	1964年7月生まれ、男性、中国籍、上級会計士および中国共産党の党員であるツァイ氏は、2003年に中国鉱業大学で修士号を取得した。 ツァイ氏は、2014年8月から当社監査役会の会長、2015年6月から当社の財産管理局の局長ならびに2015年6月から国家能源集团公司（旧社名：神華集团公司）の財産管理局の局長を務めている。 ツァイ氏は、2004年11月から2015年6月まで神華集团公司の財務部門のジェネラル・マネジャーを務めた。 上記に先立ち、ツァイ氏は、神華集团公司の財務部門の副マネジャー、神華准格爾煤炭公司の財務部門長および首席会計士を含む、様々な役職を務めた。	2014年8月22日から	-
監査役	ツォウ・ダーユー ( Zhou Dayu ) ( 52歳 )	1965年10月生まれ、男性、中国籍、研究員および中国共産党の党員であるツォウ氏は、1986年に北京大学で経済運営の学士号および2001年に北京大学で国際財務の修士号を取得した。 ツォウ氏は、2016年6月から当社の監査役、2016年3月から当社の資本運用部門のジェネラル・マネジャーおよび2016年3月から国家能源集团公司（旧社名：神華集团公司）の資本運用部門のジェネラル・マネジャーを務めた。 ツォウ氏は、2009年11月から2016年3月まで当社の事業運営部門のジェネラル・マネジャーおよび2009年11月から2016年3月まで神華集团公司の事業運営部門のジェネラル・マネジャーを務めた。 上記に先立ち、ツォウ氏は、神華集团公司の企画部門のジェネラル・マネジャーおよび政策法制調査室の副室長の役職を連続して務めた。	2016年6月17日から	-
監査役	シェン・リン ( Shen Lin ) ( 58歳 )	1960年5月生まれ、男性、中国籍、上級エコノミストおよび中国共産党の党員であるシェン氏は、2005年に修士号を取得してハルビン工業大学を卒業した。 シェン氏は、2014年8月から当社の監査役会の従業員代表監査役、2010年7月から当社の企業文化部門の主任および2010年7月から国家能源集团公司（旧社名：神華集团公司）の党派構築活動部門の主任を務めている。 シェン氏は、2009年から2010年まで当社の企業文化部門の副主任および神華集团公司の党派構築活動部門副主任を務めた。 上記に先立ち、シェン氏は、神華包神鉄路公司において、人事労務マネジャー、副主席エコノミスト、主席エコノミスト、党委員会副書記および党紀委員会の書記を含む、様々な役職を務めた。	2014年8月22日から	-

監査役は、新たに指名された監査役が就任するまでは、法律、社則および定款に従って、引き続き職務を続行するものとする。

## (c) 当社上級管理職

役名 および職名	氏 名 ( 年齢 )	略 歴	任期	所有 株式数
業務執行取締役 および上級副総裁	リ・ドン ( Li Dong ) (58歳)	上記「(a)当社取締役」のリ氏の項を参照のこと。	業務執行 取締役： 2016年 6 月17日か ら  上級副総 裁：2011 年 5 月24 日から	-
上級副総裁	ワン・ジンリ ( Wang Jinli ) ( 59歳 )	1959年 2 月生まれ、男性、中国籍、研究者および上級技術者ならびに中国共産党の党員であるワン博士は、中国の石炭産業において約30年にわたる運営および経営管理の経験を有している。ワン博士は、2009年に清華大学でEMBA修士号を取得し、2006年に博士号を取得して遼寧工程技術大学を卒業した。  ワン博士は、2013年 9 月から当社の上級副総裁および2017年11月から国家能源集団公司の党組の副ジェネラル・マネジャーおよび党員を務めている。  ワン博士は、2013年 7 月から2017年11月まで神華集団公司の副ジェネラル・マネジャー、2016年 8 月から2017年11月まで神華集団公司の党組の党員、2004年から2013年まで当社の副総裁、2010年から2014年まで神華集団の子会社である神華煤炭運銷公司の会長および当社の子会社である神華銷售集団公司の会長を務めた。  上記に先立ち、ワン氏は、シェンファ・オーストラリア・ホールディングス・ピーティーワイ・リミテッドの会長、神華神東煤炭公司の会長、ジェネラル・マネジャーおよび副ジェネラル・マネジャー、長春石炭科学技術センターの取締役、そして琿春礦務局の取締役を含む、様々な役職を務めた。	2013年 9 月27日か ら	-
副総裁	ワン・シューミン ( Wang Shumin ) ( 55歳 )	1962年11月生まれ、男性、中国籍、教授の資格を持つ上級技術者および中国共産党の党員であるワン博士は、電力事業運営における豊富な経験を有している。同氏は1985年に学士号を取得して東北電力学院を卒業し、2005年に中欧国際工商学院でMBAを取得し、2017年に華北電力大学で熱工学の博士号を取得した。  ワン博士は、2015年11月から当社の副総裁、2017年11月から国家能源集団公司の副ジェネラル・マネジャーおよび党組の党員を務めている。  ワン博士は2017年 4 月から2017年11月まで神華集団公司の副ジェネラル・マネジャーおよび党組の党員であった。同氏は、2013年 3 月から2015年11月まで北京国華電力有限責任公司の会長、2010年12月から2015年11月まで国華電力分公司のジェネラル・マネジャーを務めた。同氏は2010年12月から2013年 3 月まで北京国華電力有限責任公司のジェネラル・マネジャーを務めた。  上記に先立ち、ワン博士は、当社の国華電力分公司の副ジェネラル・マネジャー、そして中国華北電力集団公司の総合企画部門の副マネジャーを務めた。	2015年11 月25日か ら	-

副総裁	ジャン・ジミン (Zhang Jiming) (54歳)	1963年11月生まれ、男性、中国籍、上級技術者および中国共産党の党員であるジャン氏は、化学事業運営の豊富な経験を有している。1985年に、同氏は遼寧省石油化工学校を卒業した。 ジャン氏は、2016年7月から当社の副総裁を務めた。 ジャン氏は、2015年11月から2016年7月まで中国神華煤製油化工有限公司の会長およびジェネラル・マネジャー、2012年8月から2015年11月まで中国神華煤製油化工有限公司の総裁、2011年1月から2012年8月まで中国神華煤製油化工有限公司の取締役および副総裁を務めた。 上記に先立ち、ジャン氏は、中国神華煤製油化工有限公司の首席エコノミストおよび副ジェネラル・マネジャーならびに遼陽石油化工分公司の精製プラントの副取締役および取締役の職を連続して務めた。	2016年7月1日から	-
副総裁	ルウ・チーレン (Lv Zhiren) (53歳)	1964年11月生まれ、男性、中国籍、上級技術者および中国共産党の党員であるルウ氏は、企画および投資において豊富な経験を有している。同氏は1987年に学士号を取得して北京聯合大学を卒業し、2005年にEMBA修士号を取得して上海財経大学を卒業した。 ルウ氏は、2017年3月から当社の副総裁を務めた。 ルウ氏は、2004年11月から2017年3月まで当社の戦略企画部門のジェネラル・マネジャー、2009年11月から2017年3月まで神華集团公司の戦略企画部門のジェネラル・マネジャーおよび2016年4月から2017年11月まで神華集团公司の従業員代表取締役を務めた。 上記に先立ち、ルウ氏は、神華集团公司の企画部門の技術者、一般部門の副部門長、企画部門の副部門長および部門長ならびに副部門マネジャーの役職を連続して務めた。	2017年3月17日から	1,500 (A株)
副総裁	ジア・ジンジョン (Jia Jinzhong) (54歳)	1963年7月生まれ、男性、中国籍、教授レベルの上級技術者および中国共産党の党員であるジア氏は、鉄道輸送企業において豊富な管理経験を有している。同氏は、1980年に太原鉄路機械学校、2005年に修士号を取得して西南交通大学を卒業した。 ジア氏は、2017年3月から当社の副総裁を務めている。 ジア氏は、2014年8月から2017年3月まで当社の子会社である朔黄鉄路發展有限責任公司の会長、2011年4月から2014年8月まで朔黄鉄路發展有限責任公司の副ジェネラル・マネジャーを務めた。 上記に先立ち、ジア氏は、太原鉄路分局の原平市鉄道部門の副班長、太原鉄路分局の太原西鉄道駅の副主任および朔黄鉄道公司の原平支社のマネジャーの役職を連続して務めた。	2017年3月17日から	-
取締役会秘書役	ホアン・チン (Huang Qing) (52歳)	1965年11月生まれ、男性、中国籍、上級技術者および中国共産党の党員であるホアン氏は、2004年に上海証券取引所から取締役会秘書役証明書を取得した。ホアン氏は、香港公認秘書会の会員であり、アイゼンハウアー基金の上級客員研究員である。ホアン氏は、1991年に広西大学で修士号を取得した。 ホアン氏は、2004年11月から当社の取締役会秘書役および当社の秘書役を務めている。 上記に先立ち、ホアン氏は、神華集团公司の会長秘書役、神華集团公司の総務部副取締役、湖北省鉄路公司の副ジェネラル・マネジャー、そして湖北省政府の副知事秘書役を含む、様々な役職を務めた。	2004年11月6日から	-

最高財務責任者	ジャン・ケフィ (Zhang Kehui) (55歳)	1963年2月生まれ、女性、中国籍、研究者、中国公認会計士であり、オーストラリア公認会計士協会会員および中国共産党の党员でもあるジャン博士は、財務管理において豊富な経験を有しており、2014年に中国財政部財政科学研究所で博士号を取得した。  ジャン博士は、2007年1月から当社の最高財務責任者、2014年8月から当社の子会社である神華財務会社の会長を務めている。  上記に先立ち、ジャン博士は、当社の内部統制監査部門の部門長、神華集団会社の財務部門の副マネジャー、朔黄鉄路発展有限責任会社のジェネラル・マネジャー補佐役を含む、様々な役職を務めた。	2007年1月22日から	-
---------	-----------------------------------	--	--------------	---

上級管理職は、新たに指名された上級管理職が就任するまでは、法律、社則および定款に従って、引き続き職務を続行するものとする。

(d) 当社秘書役

役名 および職名	氏 名 (年齢)	略 歴	任期	所有 株式数
秘書役	ホアン・チン (Huang Qing) (52歳)	上記「(c)当社上級管理職」のホアン氏の項を参照のこと。	2004年11月6日から	-

秘書役は、新たに指名された秘書役が就任するまでは、法律、社則および定款に従って、引き続き職務を続行するものとする。

## (2) 当社の取締役および監査役への報酬

## (a) 報酬

## 取締役、監査役および上級管理職の報酬

取締役、監査役および 上級管理職に対する 報酬決定手続	取締役および監査役の報酬体系は、報酬委員会および取締役会の検討および承認の後、年次総会の承認を得るために提出され、上級管理職の報酬体系は、報酬委員会の検討および承認の後、取締役会に承認を得るために提出された。
取締役、監査役および 上級管理職の報酬決定基準	関連する取締役および監査役の報酬体系は、国際慣習および国内慣習に従い、中国における大規模上場会社の取締役および監査役の報酬を参考に当社が提案した。 当社の上級管理職の報酬体系は、上級管理職の年間報酬の管理に関する暫定基準に従い当社が策定した。
取締役、監査役および 上級管理職に支払う報酬	年次報告書の「保有株式および報酬の変動」を参照のこと。
当報告期間末現在 すべての取締役、監査役および 上級管理職が実際に得た報酬の総額	年次報告書の「保有株式および報酬の変動」を参照のこと。

## 報酬政策

当社は基本給および成果評価から成る報酬政策を策定した。かかる報酬政策は業界内において競争力を有し、第一線の従業員に有利なものとなっている。

## 上級管理職向けの試験ならびに評価および報奨の仕組み

当社は「中国神華能源股份有限公司の上級管理職の年間報酬の管理に関する暫定基準」に従って上級管理職の報酬体系を構築した。当社は、上級管理職の報酬に関し、経営業績の年間評価と任期中の経営業績に対する評価とを組み合わせた業績評価法を導入した。かかる年間評価および任期中の評価は、取締役および管理職が署名した経営業績の責任に関する書面に基づいて行われている。

上級管理職の報酬は、上級管理職の年間報酬の管理に関する暫定基準に従って決定される。基本給に加えて、当社の取締役会は管理職の業績に基づいて評価を行い、業績手当はかかる評価の結果によって決定される。

取締役および監査役の報酬の詳細については、「第一部-第6-1財務書類-連結財務諸表注記-11.取締役、監査役及び最高執行責任者に対する報酬」も参照のこと。

## (b) 役務提供契約

## その他の重要な事項

2017年12月31日現在、当社の副総裁であるルウ・チーレン氏は当社のA株式を1,500株保有していた。当報告期間において、ルウ・チーレン氏は当社のいずれの株式も譲渡しなかった。当報告期間中、当社のその他の取締役、監査役および上級管理職の株式保有におけるいかなる変動も、証券監督管理委員会が公布したA株式上場企業の取締役、監査役および上級管理職が保有する株式の保有割合および変動に関する管理規則に従って開示されるものではない。

2017年12月31日現在、当社の取締役、監査役または最高業務執行役のいずれも当社の株式を保有しておらず、証券先物条例第15章（香港法第571章）が規定する範囲における当社または関連会社のいかなる持分または空売り株式もしくは優先株式も保有しておらず、証券先物条例第352章に従って、当社が保管する登録簿に登録されるか、上場発行体の取締役による証券取引に関する模範規則に従って当社および香港証券取引所に通知することが要求されている。

当社の取締役による証券取引は、香港上場規則別紙10に規定される「上場発行体の取締役による証券取引に関する模範規則」（以下「模範規則」という。）に従って行われた。また、模範規則は、当社の監査役および上級管理職にも適用される。取締役、監査役および上級管理職は、2017年度中またはそれぞれの任期中において、完全に模範規則に従っていたことを確認した。

全取締役および全監査役は、関連する研修記録を当社に提供し、関連要件に従って、監督当局による研修プログラムに参加した。当社の取締役会秘書役は、関連要件に従って、株式が上場している証券取引所および香港特許秘書公会を含む多くの機関により企画された15時間超の研修プログラムに参加した。

取締役会において何らかの問題や取引について審議をする際には、取締役は直接的または間接的に得た利益を申告することおよび必要に応じて審議への参加を避けることが求められる。それぞれの役務提供契約および神華国華江蘇售電有限責任公司の設立に関する2017年1月19日付の通知および包括ジョイント・ベンチャー契約の締結に関する2017年8月29日付の通知において定められる契約を除き、当社の取締役および監査役のいずれも、直接または間接を問わず、2017年度に当社または当社子会社のいずれかが締結し、2017年度中または同年度末現在において存続していた重要な契約、取引または協定について、重要な個人的利益を有せず、当社の取締役および監査役は、取締役、監査役およびその関係者が当社およびその子会社と何らの関連取引も行っていないことを確認した。

当社は、当社のすべての取締役および監査役と役務提供契約を締結している。取締役または監査役のいずれも、当社グループが（法定報酬以外について）無報酬で1年以内は終了できないとされているようないかなる役務提供契約も当社グループの構成員と締結しておらず、また締結する意図を有していない。当社は取締役、監査役および上級管理職を適切な損害賠償保険に加入させている。当社の取締役は、職務の執行および遂行によって、またはそれに関連して生じた捜査および検査の費用、個人的な調査費用、税金負債および損失防止費用を、適用ある法律に従い、また当社が取締役に掛けた取締役責任保険の補償の適用範囲内で補償される権利を有する。これらの条項は2017年12月31日に終了した年度中有効であり、年次報告書の日付現在も引き続き有効である。

当社との職務上の関係以外に、取締役、監査役または上級管理職のいずれも、互いにいかなる金銭的、業務的關係になく、また縁戚関係もしくはその他の重要な関係を有しない。2017年12月31日に終了した年度において、当社は、自社の取締役、監査役、上級管理職または各々の配偶者もしくは18歳未満の子供に対して、いかなる持分証券も付与しておらず保証も行っていない。

#### (c) 株式評価益権スキーム

「第一部-第5-5 コーポレート・ガバナンスの状況等」を参照のこと。

### 5【コーポレート・ガバナンスの状況等】

#### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### コーポレート・ガバナンス

取締役会は、当社の善きコーポレート・ガバナンスの実行に関して責任を負う。当社は、独自のコーポレート・ガバナンスのシステムを構築するべく、香港上場規則別紙14に定められたコーポレート・ガバナンス政策の要件を遵守した。

当社の取締役会の招集、投票および情報開示の手続、取締役会手続規則ならびに取締役の指名および任命手続は、関連する要件に従ったものである。当社の有効な意思決定機関として、取締役会は株主総会に対して説明責任を負い、定款第130条の要件および関連して適用される法的規制に基づく要件に従って権限および任務を遂行する。当社の有効な執行機関として、総裁を含む上級管理職で構成される経営陣は、取締役会に対して説明責任を負い、定款第149条の要件および関連して適用される法的規制の要件に従って職務の遂行および権限の行使をする。取締役会会長および総裁のそれぞれの職務の詳細は、当社の定款に定められている。2017年3月27日付でジャン・ユジュオ博士が取締役会会長、業務執行取締役および取締役会の下部組織である委員会の関連する役職を辞任した。当社の定款に従い、副会長および総裁であるリン・ウェン博士が、新しい取締役会会長が選任されるまで取締役会会長の職務の遂行および権限の行使をすることとなった。2018年1月2日付で、リン・ウェン博士は取締役会会長に選任され、当社の副会長および総裁ではなくなった。

上記で開示されている以外に、2017年12月31日に終了した事業年度中、当社は、当該コーポレート・ガバナンス政策の原則および規約の規定およびその中で推奨されている最善のコーポレート・ガバナンスの実践方法のほとんどを完全に遵守した。コーポレート・ガバナンスに関する規則の下での取締役会および取締役会委員会の機能および権限の条件については、当社が上場している証券取引所のウェブサイトおよび当社のウェブサイトで公表している定款、取締役会手続規則および取締役会委員会手続規則を参照のこと。

当社の取締役会は、当社の取締役会の指名委員会の照会条件に定められ開示されている、取締役会の役員に向けての取締役会多様性指針を定めた。当社の取締役会多様性指針に従って候補者を選定するとき、取締役会は性別、年齢、文化および教育背景、人種、技能、知識および専門的な職歴を含むがこれらに限られない一連の多様な条件を基準として、人材の特徴および役割と併せて決定する。当報告期間中、当社の株主総会は第4期当社取締役会を選任した。当報告期末時点において、当社の取締役会は業務執行取締役3名、非業務執行取締役1名および独立非

業務執行取締役3名を含む7名の取締役で構成され、うちには3名の女性取締役が含まれていた。取締役会は、国内外のさまざまな業界出身であり、役員の構成は多様性を特色とする。各取締役の知識基盤および専門領域は、専門的かつ取締役会の組織全体を補完し、取締役会の科学的な意思決定を保证する。

取締役会の構成ならびに株式取引、継続的な研修および取締役の任期については、年次報告書の「取締役、監査役、上級管理職および従業員」の章を参照のこと。監査役の報酬については、年次報告書の「重要事項」の章を参照のこと。当社の戦略およびリスク評価については、年次報告書の「業績の説明および分析」の章を参照のこと。

## 株主総会

### 1. 株主の権利

当社の株主は、当社の所有者として、法律、行政規則および当社の定款により定められた権利を有する。株主総会は、当社の最高権力機関であり、それを通じて株主はその権利を行使することができる。支配株主は、株主総会および取締役会を通じて、当社の運営および意思決定に参画する。

当社の定款第69条および第75条に従い、株主は、取締役会に対して、臨時株主総会または種類株主総会の招集請求書を提出し、株主総会において当社に対して議案を提出することができる。株主は、保有する当社株式の種類および数を示す書面を提出し、それに対して当社が当該株主の身元照合をすることによって、当社の関連する情報を調査する権利または定款、株主名簿、株主総会議事録、取締役会決議および監査役会決議、定期報告書ならびに財務および会計報告書等を入手する権利を得る。

当社は、当社株式が上場している場所の上場規則に厳密に従って情報開示を行っている。当社は、投資家用ホットライン、ファクスおよびメール（詳細については年次報告書の「会社概要および主要な財務指標」という章を参照のこと。）を一般に公開している。当社は、かかる情報開示システムおよび投資家受入れシステムを通じて、株主との効果的な通信経路を確立している。

### 2. 当事業年度における株主総会の招集

会議	日付	投票結果を公表するために 指定されたウェブサイトの 問合せインデックス	投票結果の公表の開示日
2016年度年次株主総会	2017年6月23日	上海証券取引所の ウェブサイト	2017年6月24日

上記の株主総会で審議された議案はすべて可決された。投票結果は香港証券取引所のウェブサイトにて2017年6月23日に、上海証券取引所のウェブサイトにて2017年6月24日に開示された。

当社は、株主総会への出席の登録を受け付け、総会中に株主が効果的に議題を検討できるよう特別に時間を設けた。株主は、株主総会に積極的に参加し、知る権利、発言する権利、質問する権利および投票する権利等の種々の権利を行使する権限を付与された。当社の取締役、監査役および上級管理職は総会に出席した。総会中の特別質疑応答の設定により、株主と経営陣との間の意思疎通が可能になった。

株主の代表者、監査役の代表者、証人弁護士およびコンピュータシェア・ホンコン・インベスター・サービス・リミテッドの代表者は、株主総会において検査官を務めた。当社の中国の法律顧問は、法律意見書を発行した。監査人の代表者は、年次株主総会に出席し、監査意見を公表した。



## 取締役会の義務の履行

## ( ) 取締役会および株主総会への出席

取締役の氏名	独立 取締役で あるか 否か	取締役会への出席						総会出席 回数
		当年度の 取締役会 必要 出席回数	本人出席 回数	通信 による 出席回数	委任状に よる 出席回数	欠席回数	2 回連続 本人欠席 の有無	
当報告期間末時点の現任取締役								
リン・ウェン	×	14	14	6	0	0	なし	1 / 1
ハン・ジァングオ	×	14	14	6	0	0	なし	1 / 1
リ・ドン	×	14	14	6	0	0	なし	1 / 1
ジャオ・ジーピン	×	14	14	6	0	0	なし	1 / 1
タム・ウェイ・チュウ・マリア		7	7	6	0	0	なし	0 / 0
ジアン・ボー		7	7	2	0	0	なし	1 / 0
ツォン・インジー・クリスティーナ		7	7	2	0	0	なし	1 / 0
当報告期間中に退任した取締役								
ジャン・ユジュオ	×	4	4	2	0	0	なし	0 / 0
ファン・スー・ライ・タイ		7	6	4	1	0	なし	1 / 1
ゴン・ファジャン		7	7	5	0	0	なし	1 / 1
グオ・ペイジャン		7	7	4	0	0	なし	1 / 1
チェン・ホンシェン	×	7	7	4	0	0	なし	1 / 1

注：(1) 2017年3月27日付で、ジャン・ユジュオ氏は当社の取締役を辞任した。

- (2) 2017年6月23日付で、中国神華の2016年度年次株主総会において当社の第4期取締役会の取締役にタム・ウェイ・チュウ・マリア、ジアン・ボーおよびツォン・インジー・クリスティーナの3氏が独立取締役として新たに選任された。当社の第3期取締役会の取締役であるファン・スー・ライ・タイ、ゴン・ファジャン、グオ・ペイジャンおよびチェン・ホンシェンの各氏は、任期の満了をもって退任した。

当事業年度中に開催された取締役会の回数	14回
内訳：現場にて開催された会議の回数	3回
通信によって開催された会議の回数	6回
現場および通信によって開催された会議の回数	5回

2017年度において、当社の取締役会は合計14回の会議を開催し、提案はすべて検討および承認された。会議の詳細は以下のとおりである。

番 号	会 議 名	日 付	方 法
1	第3期第21回取締役会	2017年1月3日	通信
2	第3期第22回取締役会	2017年1月4日	現場および通信
3	第3期第23回取締役会	2017年1月19日	通信

4	第3期第24回取締役会	2017年3月17日	現場
5	第3期第25回取締役会	2017年4月28日	現場
6	第3期第26回取締役会	2017年5月5日	通信
7	第3期第27回取締役会	2017年6月16日	通信
8	第4期第1回取締役会	2017年6月23日	現場および通信
9	第4期第2回取締役会	2017年6月23日	現場および通信
10	第4期第3回取締役会	2017年7月3日	通信
11	第4期第4回取締役会	2017年8月3日	通信
12	第4期第5回取締役会	2017年8月25日	現場および通信
13	第4期第6回取締役会	2017年8月28日	現場および通信
14	第4期第7回取締役会	2017年10月27日	現場

## ( ) 独立取締役の職務の履行

当事業年度において、当社の第3期取締役会は、ファン・スー・ライ・タイ、ゴン・ファジャンおよびグオ・ペイジャンの3名の独立非業務執行取締役を擁しており、そのうちゴン・ファジャン氏は会計の専門家であった。当社の第4期取締役会は、タム・ウェイ・チュウ・マリア、ジアン・ボーおよびツォン・インジー・クリスティーナの3名の独立非業務執行取締役を擁しており、そのうちジアン・ボー氏およびツォン・インジー・クリスティーナの両氏は会計の専門家である。

当社は、各独立非業務執行取締役から自らの独立性を認めた確認書を受領した。当社は、すべての独立非業務執行取締役が独立しているとの見解である。独立取締役の定数および経歴は、上場している場所の上場規則の要件に従う。

当事業年度において、当社の独立取締役は、関連する法令の要件、当社の定款、関係する会議の手續に関連する規則および当社の独立取締役制度を厳密に遵守した。当社の独立取締役は、独立取締役としての独立性を保ち、その監督機能を果たし、当社の様々な重要な意思決定に参加し、当社の定期報告書および財務報告書を検討した。したがって、当社の独立取締役は、当社の規制された業務において重要な役割を果たし、少数株主の法的利益を保護した。

当社は、独立取締役がその職務を行うための適切な環境を確保し、独立取締役からの意見や提案を積極的に採用している。当社は、体系的に、独立取締役による職務遂行を確保し、独立取締役の業務に関連する作業を行う機関および独立取締役委員会を指定し、研究および調査の実施、会議の開催ならびに独立意見の表明において独立取締役を補佐する「独立取締役のためのシステム」等を構築した。

当社の独立非業務執行取締役につき、タム・ウェイ・チュウ・マリア、ジアン・ボーおよびツォン・インジー・クリスティーナの3名の取締役は、2017年1月から2018年1月までの当社の総裁および国家能源集団公司のジェネラル・マネジャーを兼任したリン・ウェン博士の義務の履行について、以下のとおり独立意見を発表した。

1：リン・ウェン博士は勤勉かつ実行力があり、取締役会が策定し、当社の順調な経営成績および株主還元の継続的な改善をもたらした発展戦略および使命目標を達成するべく当社の経営を牽引した。

2：リン・ウェン博士は責任を果たし、当社および株主全体の利益を保護する当社と支配株主との間の関係を適切に取り扱い、兼任した役職に起因して当社およびその少数株主の利益を損なうことはなかった。

独立取締役の取締役会および株主総会への出席状況については、当社の取締役会および株主総会への出席に関する章を参照のこと。

当社の問題に関する独立取締役の反対意見：

該当あり ☐ 該当なし ☒

## ( ) その他

2017年度中に取締役会により株主総会で可決された決議の実行：

番号	株主総会	決議事項	状況
1	2016年度年次株主総会	当社の2016年度の利益配当案の承認ならびに会長および副会長（総裁）に対する特別配当の分配を実施に関する個別の授權	2016年度の利益配当案の実施は、2017年度第3四半期に完了した。
2	2016年度年次株主総会	当社の特別利益配当案の承認ならびに会長および副会長（総裁）に対する特別配当の分配実施の授權	特別配当分配案の実施は、2017年度第3四半期に完了した。
3	2016年度年次株主総会	2017年度外部監査役の指名の承認ならびに会長および副会長（総裁）ならびに監査委員会会長で構成される委員会に対する監査役の報酬決定の授權	2017年度における監査役の指名および報酬の詳細については、年次報告書の「重要事項」の章を参照のこと。
4	2016年度年次株主総会	発行額内の当社の社債発行決定について当社の取締役会に対する授權を承認する。権限の範囲内で社債の各発行の種類、総額、期限および利益の用途決定後は、当社は、発行に関するその他の事項を決定および実行するために当社の総裁および最高財務責任者を再委任する。	当報告期間中、当社は社債を発行しなかった。

## 当事業年度における取締役会の下における委員会の職務の履行

## ( ) 委員会の構成

当社は取締役会の下に5つの委員会を設立しており、詳細は以下のとおりである。

委員会	取締役会委員会第4期	取締役会委員会第3期
戦略委員会	リン・ウェン（議長）、ハン・ジャングオ、ツァオ・ジーピン	ジャン・ユジュオ（議長）、リン・ウェン、ハン・ジャングオ
監査委員会	ツォン・インジー・クリスティーナ（議長）、タム・ウェイ・チュウ・マリア、ジャン・ポー	ゴン・ファジャン（議長）、ファン・スー・ライ・タイ、グオ・ペイジャン、チェン・ホンシェン
報酬委員会	タム・ウェイ・チュウ・マリア（議長）、ツォン・インジー・クリスティーナ	ファン・スー・ライ・タイ（議長）、ゴン・ファジャン、ツァオ・ジーピン
指名委員会	ジャン・ポー（議長）、ハン・ジャングオ、ツァオ・ジーピン	グオ・ペイジャン（議長）、ジャン・ユジュオ、ファン・スー・ライ・タイ
安全衛生環境委員会	ツァオ・ジーピン（議長）、リ・ドン、タム・ウェイ・チュウ・マリア、ツォン・インジー・クリスティーナ	グオ・ペイジャン（議長）、リン・ウェン、ハン・ジャングオ、リ・ドン

注：(1) 2017年3月27日付で、ジャン・ユジュオ氏は当社の取締役を辞任した。

(2) 2017年6月23日付で、当社の2016年度年次株主総会において第4期取締役会の取締役が選任された。

## ( ) 委員会の職務とその履行状況

当事業年度において、取締役会の下部組織である各委員会は、職務の実行について異議を唱えなかった。各委員会の責務は以下のとおり定められている。

### 1. 戦略委員会

戦略委員会の主な職務は、当社の長期的な発展戦略および重要な投資決定に関する調査および提言を行うこと、すなわち、取締役会の承認が必要な重要な投資および融資計画に関する調査および提言、取締役会の承認が必要な重要な資本運用および資産運用計画に関する調査および提言、当社の発展に影響を与え得るその他の重要な事項に関する調査および提言、上記事項の実行に関する検討ならびに取締役会から授権されたその他の事項を実行することである。

2017年度において、戦略および計画の管理対策の策定、合併会社の設立、2018年度の年間生産計画および当社の2018年度の年間投資計画などの提案について検討するため、取締役会の戦略委員会は3回の会議を開催した。すべての議案は会議で承認され、委員全員がすべての会議に直接出席した。

## 2. 監査委員会

監査委員会の主な業務は、社外監査機関の業務を監督し査定すること、内部監査業務を指導すること、当社の財務報告書を検討し意見を提示すること、リスク管理および内部統制の有効性を評価すること、経営陣、内部監査部門および関連部門と外部監査機関との連絡を調整すること、取締役会が委任するその他の職務ならびに関連する法令に関するその他の事項であった。当事業年度中、監査委員会は、取締役会の監査委員会の会議の手続に関する規則、取締役会の監査委員会の業務に関する規則および取締役会の監査委員会の年次報告書に係る業務に関する規則に厳密に従ってその職務を遂行した。

2017年度において、監査委員会は当社の財務報告書および内部統制報告書などの提案を検討するため、10回の会議を開催し、合理的な規模の貨幣資本の維持、資本の活用向上および内部統制評価で発見された問題の是正について助言がなされ、これらすべての議案は会議で承認され、委員全員がすべての会議に直接出席した。

監査委員会は、当社の2017年度年次報告書および内部統制報告書の準備のため、必要な手続を行った。

- (1) 2017年度の会計事務所、すなわち有限責任監査法人トーマツおよびデロイト・トウシュ・トーマツ（以下「デロイト」という。）が現地監査を開始する以前に、監査委員会は、当社の2017年度監査の予定を決定するためデロイトと相談した。2017年10月20日に監査委員会は当社の2017年度の監査計画および2017年度の内部統制評価計画を検討した。
- (2) デロイトが予備監査意見を発行した後、監査委員会は、2017年度の内部統制評価報告書案および財務書類案を検討した。2018年2月28日に、監査委員会は当社が作成した中国神華の2017年度の内部統制に関する評価報告書（案）および2017年度の財務書類（案）について検討した。
- (3) 監査委員会は、当事業年度における当社の全体の運営を理解するため、経営陣より概要の説明を受けた。2018年3月19日、監査委員会は、会計方針および財務書類の作成について当社の財務部門より概要の説明を受けた。
- (4) デロイトは、決められた期間内にすべての監査手続を完了させるとともに、2017年度の標準無限定監査報告書を監査委員会に対して発行しようとし、2018年3月19日、監査委員会は、2017年度の監査済年次財務および会計書類、内部統制に関する評価報告書および社会的責任報告書に関する議案を採決および決定し、取締役会の審議のためにかかる報告書を提出することに同意した。

監査委員会が個別に社外監査役と討議したところ、経営陣からの概要説明に矛盾は発見されなかった。

## 3. 報酬委員会

報酬委員会の主な職務は、業績評価の基準、手続および主なシステム、主な奨励ならびに懲罰の計画およびシステムを含む（ただし、これらに限られない。）取締役、監査役、総裁およびその他の上級管理職への報酬に関する計画または提案の策定について取締役会に提言し、当社の取締役、監査役、総裁およびその他の上級管理職による職務遂行を検査し、それらに対する年次業績評価を行い、また、当社の報酬システムの履行を監督し、取締役またはその関係者のいずれかが自らその報酬の決定に参加することがないようにし、また、取締役会から授権されたその他の事項を行う。

2017年度において、2016年度の実績、監査役および上級管理職の報酬体系を含む提案を検討するため、報酬委員会は1回の会議を開催した。すべての提案が会議で承認され、委員全員がすべての会議に直接出席した。当事業年度において、報酬委員会は、当社の報酬管理システムならびに当該期間における取締役、監査役、総裁およびその他の上級管理職に対する報酬の水準について検討した。

報酬委員会は、当社の報酬管理システムは、上場会社としての経済利益志向の理念ならびに国有企業としての政治的、社会的および経済的な責任を反映させた、十分に確立されたものであると考えている。報酬委員会は、当社の報酬管理システムに賛同している。

## 4. 指名委員会

指名委員会の主な職務は、取締役会の多様性確保に向けた方針を策定し、取締役会の構成、規模および多様性を定期的に見直し、提案された変更に関して取締役会に提言すること、独立非業務執行取締役の独立性を評価および

証明すること、取締役、総裁およびその他の上級管理職の選任および指名の候補者を作成し取締役会に推薦すること、取締役、総裁およびその他の上級管理職の適格候補者を広範囲にわたって探すこと、上記の候補者を審査し推薦すること、取締役会委員会の委員（指名委員会の委員および取締役会委員会の委員長を除く。）の候補者を指名すること、総裁、その他の上級管理職および主要な予備人材の開発計画を作成すること、必要に応じて取締役会の多様性確保に向けた方針を検討し、それを実施するために取締役会が設定する定量的な目標およびその達成の進捗を検討するだけでなく、毎年コーポレート・ガバナンス報告書において検討結果を開示すること、そして取締役会から授権されたその他の事項を行うことである。

2017年度において、副総裁、当社の第4期の取締役および第4期取締役会の下部組織である関連委員会委員の候補者の指名を含む提案を検討するため、指名委員会は3回の会議を開催した。すべての提案が会議で承認され、委員全員がすべての会議に直接出席した。

## 5. 安全衛生環境委員会

安全衛生環境委員会の主な職務は、健康、安全および環境保護に関する当社の計画の実行を監督すること、健康、安全および環境保護に関する当社の重要な問題について取締役会または総裁に提言すること、当社の生産、運営、財産・資産、従業員またはその他の設備に関する重大な事件について調査すること、また、かかる事件の解決方法を検討および監督し、取締役会から授権されたその他の事項を行うことである。

2017年度において、2016年度の社会的責任報告書を検討するため、安全衛生環境委員会は1回の会議を開催した。会議において提案が承認され、委員全員がかかる会議に直接出席した。

## 監査役会の監査意見

当事業年度において、監査役会は、監査役会が監査した事項について異議を唱えなかった。詳細については、年次報告書の「監査委員会の報告」の章を参照のこと。

## 当社の独立性および競争の説明

競争回避のための暫定措置として、2010年12月より当社は、関連する手続の完了をもって、既存の資産および事業に関する日常業務管理サービスの提供を当時の神華集团公司より委託された。当事業年度末現在、当社の総裁、上級副総裁2名および副総裁1名は国家能源集团公司ジェネラル・マネジャーおよび副ジェネラル・マネジャーを兼任した。

当社は主に石炭および電力の生産ならびに販売の他、鉄道輸送、港湾輸送、船舶輸送および石炭由来オレフィン化学加工を行っている。現在、当社の支配株主である国家能源集团公司の既存の資産によって生産する主な石炭、電力およびオレフィン製品は、種類および品質の点で当社が生産したものと類似しているが、各企業は比較的独立した地域的な市場を有する。

当社および神華集团公司は2005年に競争禁止契約を締結した。かかる契約に従って、神華集団は中国国内か国外かを問わず当社の主要な事業に関して当社と競争しないことを約束し、当社に対して潜在的に競合する事業を神華集団から取得する先買権のオプションを付与した。2018年3月1日に、「国家能源集团公司と関連条件が合致した場合にのみ発効する競争禁止保証契約の追補契約書に関する決議」が、当社の第4期取締役会の第9回会合で検討および承認された。当社と国家能源集团公司との間の「競争禁止保証契約の追補契約書」の調印については、2018年4月27日（金曜日）に開催された2018年度第1回臨時株主総会において承認された。詳細については、2018年3月1日付の「当社のH株式に関する通知」および2018年3月2日付の「当社のA株式に関する通知」を参照のこと。

上記に開示される以外に、当事業年度において、当社のコーポレート・ガバナンスと、証券監督管理委員会の関連する規則および要件には、重大な差異はなかった。当社は、独立した完全な事業システムだけでなく市場志向の独立経営能力を有している。当社は事業、人員、資産、組織および財務の面で、支配株主から独立している。

## 内部統制およびリスク管理

当社は、リスク動向に合わせた内部統制システムを構築した。当社の内部統制およびリスク管理手続は、年初のリスク査定および報告、四半期毎の主要なリスク監視、毎日のシステムリスク点検ならびに内部統制に特化した監視および検査ならびに年毎の内部統制評価を含み、統合的循環型管理システムを構築する。また、取締役会および監査役会を構成する階層的な業務組織構造、本部の機能別部門ならびに当社の子会社および支社が、内部統制およびリスク管理の有効な運営を守るために設置された。取締役会は、リスク管理ならびに内部監視および統制システ

に責任を負い、かかるシステムの有効性の検討に関して説明責任を負う。取締役会は1年に1度、リスク管理ならびに内部監視および統制システムの見直しを行う。取締役会は、当社グループのリスク管理ならびに内部監視および統制システムが2017年度中有効に運用されたか検討する。

健全かつ有効な内部統制を確立し、その有効性を評価し、企業の内部統制の規範システムの要件に従って内部統制自己評価報告書において真正な開示を行うことは、当社取締役会の責務である。監査役会は取締役会が構築し実施した内部統制システムを監視する責務がある一方、管理職は企業内部における内部統制の日常的な運営を組織し指導する責務がある。

当社の内部統制の目的は、適法な運営および経営、資産の安全ならびに財務報告書およびそれに関連する情報の正確性かつ完全性を合理的に保証すること、運営の効率性および有効性を高めることならびに発展戦略の実施を促進することである。内部統制には内在的な限界があるため、上記の目的に対する保証は一定の合理的な程度までしか提供されない。加えて、異なる状況による変化の結果としての不適切な内部統制または内部統制の方針および手順において遵守レベルが低い内部統制の評価結果に基づいた将来的な内部統制の有効性を予測することには、一定のリスクがある。

内部統制監視および検査メカニズムは、毎年の内部統制評価を行うために組織された。内部統制評価の手続は、内部統制評価の提案を策定すること、内部統制検査の実行委員会を設立すること、内部統制の自己評価を実施すること、検査官による内部統制評価を実施すること、内部統制の欠陥を明確化し特定すること、内部統制の欠陥を是正することおよび内部統制報告書を準備することを含む。当社は上記の手順に従って、2017年度の内部統制の有効性を評価した。

当社の2017年度内部統制評価に関する提案は、取締役会の下部組織である監査委員会で審議のうえ可決され、2017年度の内部統制評価に関する年次報告書は、取締役会により審議のうえ可決された。当社の取締役会および監査委員会は、かかる監視および検査メカニズムは、当社の内部統制およびリスク管理業務の有効性を評価できるとの意見である。

評価によれば、当事業年度中において、主要なリスクを内包するすべての事業および事項は評価の範囲に含められており、主要な事業および事項について内部統制システムが制定され、有効に実施され、当社の内部統制の目的を達成した。

取締役会の2017年度内部統制に関する年間自己評価報告書に記載されているとおり、当社の財務報告に係る内部統制の重大な欠陥の検証によると、内部統制に関する評価報告書の基準日現在における財務報告に係る内部統制に重大な欠陥は発見されなかった。企業内部統制規範制度および関連規則ならびにその補足ガイドラインの下での要件は勿論のこと、内部統制に係るその他の規制要件に従って、取締役会は、当社はすべての重要な局面において財務報告に係る有効な内部統制を維持したとの見解である。当社の非財務報告に係る内部統制の重大な欠陥の検証によると、内部統制に関する評価報告書の基準日現在における非財務報告に係る内部統制に重大な欠陥は発見されなかった。いかなる物事も、内部統制に関する評価報告書の基準日から内部統制に関する評価報告書の発表日までに発生した内部統制の有効性についての評価結果に影響を与えるものではない。

内部情報の取り扱いおよび公表について、当社は、とりわけ内部情報および内部者に該当するもの、報告過程、登録および届出ならびに禁止事項を規定するインサイダー取引防止の管理対策および重要な事項に関する内部報告システム等の内部システムを構築した。内部者に該当するものは、内部情報流出のリスクを排除するために厳重な管理下にある。

当事業年度中の内部統制の重大な欠陥：

該当あり ☐ 該当なし ☒

## 内部統制に係る監査報告書の記載

当社が依頼した有限責任監査法人トーマツは、標準的かつ無限定の内部統制に関する評価報告を行った。内部統制に関する評価報告は、2017年12月31日現在、企業内部統制のための基本水準および関連規則に従って、当社はすべての重要な局面において財務報告に係る有効な内部統制を維持したとの見解に関するものである。上記の監査意見は、取締役会の自己評価報告に記載された意見と一致している。

2017年度の内部統制に関する評価報告および内部統制に関する監査報告については、2018年3月24日付で上海証券取引所のウェブサイトにて当社が開示した関連する公告を参照のこと。

## 監査役会の報告

中国会社法および定款の下での関連する要件に則り、当社の監査役会は、すべての株主に対して責任ある姿勢に基づき、忠実に監査業務を遂行し、当社および当社の株主の正当な利益を守るべく積極的かつ効率的に職務を遂行した。

## 監査役会の職務の履行

当事業年度中、定款および監査役会の会議の手續に関する規則の要件に従い、当社の監査役会は当社の適法な経営、財務状況および当社の取締役会および管理職の職務遂行の監督を厳密に実施した。

当社の監査役会は2017年度に会議を合計7回開催した。

会 議	日 付	開催地	開催方法	監査役の出席	議 題	投票結果
第3期 第12回 監査役会	3月17日	北京	現場	全員	当社の2016年度年次報告書に関する提案	全会一致で可決
					当社の2016年度社会的責任報告書に関する提案	全会一致で可決
					当社の2016年度内部統制評価報告書に関する提案	全会一致で可決
					当社の資産の減損の準備に関する提案	全会一致で可決
					当社の2016年度財務報告書に関する提案	全会一致で可決
					当社の2016年度利益配当計画に関する提案	全会一致で可決
					当社の配当分配計画に関する提案	全会一致で可決
					当社の2016年度監査役会の報告に関する提案	全会一致で可決
第3期 第13回 監査役会	4月28日	北京	現場	全員	当社の2017年度第1四半期報告書に関する提案	全会一致で可決
					当社の2017年度第1四半期財務報告書に関する提案	全会一致で可決
第3期 第14回 監査役会	5月5日	北京	書面	全員	当社の第4期監査役会株主代表監査役の候補者決定に関する提案	全会一致で可決
第4期 第1回 監査役会	6月23日	北京	現場	全員	当社の監査役会会長の選任に関する提案	全会一致で可決
第4期 第2回 監査役会	8月25日	北京	現場	全員	当社の2017年度中間報告書に関する提案	全会一致で可決
					当社の2017年度中間財務報告書に関する提案	全会一致で可決
第4期 第3回 監査役会	8月28日	北京	現場	全員	合併会社の設立に関する提案	全会一致で可決
第4期 第4回 監査役会	10月27日	北京	現場	全員	当社の2017年度第3四半期報告書に関する提案	全会一致で可決
					当社の2017年度第3四半期財務報告書に関する提案	全会一致で可決

取締役の選任または解任の要件、定数および資格に関しては、「第一部-第1-1-(1) 提出会社の属する国・州等における会社制度」を参照のこと。

デロイト・トウシュ・トーマツは、2017年度における当社の監査法人である。

## (2) 【監査報酬の内容等】

### 【外国監査公認会計士等に対する報酬の内容】

(単位: 百万人民元)

(下段の括弧内の数値は単位: 百万円)

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬	監査証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬
提出会社	12.29 (208.68)	- (-)	12.29 (208.68)	- (-)
連結子会社	2.08 (35.32)	- (-)	1.39 (23.60)	- (-)
計	14.37 (244.00)	- (-)	13.68 (232.29)	- (-)

### 【その他重要な報酬の内容】

該当なし。

【外国監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当なし。

【監査報酬の決定方針】

「第一部-第5-5-(1) コーポレート・ガバナンスの状況等」を参照のこと。



## 第6【経理の状況】

a. 本書記載の当社および子会社の邦文の財務書類（以下「邦文の財務書類」という。）は、当社の2017年12月31日終了事業年度に係る原文（英文）の年次報告書に含まれる、香港上場規則が財務報告書の作成のための会計基準として認める香港財務報告基準または国際財務報告基準のうち、国際財務報告基準に準拠して作成された本書記載の原文（英文）の監査済財務書類（以下「原文の監査済財務書類」という。）の翻訳に、下記の円換算額を併記したものである。原文の監査済財務書類を含む上記年次報告書は、香港において開示されている。当社の財務書類の日本における開示については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第131条第1項の規定が適用されている。

邦文の財務書類には、財務諸表等規則に基づき、原文の監査済財務書類中の人民元表示の金額のうち主要なものについて円換算額が併記されている。日本円への換算には、1人民元 = 16.98円（中国外貨取引センターが公表した2018年6月1日の仲値である100円 = 5.8906人民元に相当）の為替レートが使用されている。金額は百万円単位で四捨五入して表示されている。

なお、財務諸表等規則に基づき、国際財務報告基準と日本における会計処理の原則および手続ならびに表示方法の主要な相違については、第6の「4 国際財務報告基準と日本における会計原則及び会計慣行の主要な相違」に記載されている。

円換算額および第6の「2 主な資産・負債及び収支の内容」から「4 国際財務報告基準と日本における会計原則及び会計慣行の主要な相違」までの事項は原文の監査済財務書類には記載されておらず、当該事項における原文の監査済財務書類への参照事項を除き、下記bの監査証明に相当すると認められる証明の対象になっていない。

b. 原文の監査済財務書類は、外国監査法人等（「公認会計士法」（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定されている外国監査法人等をいう。）であるデロイト・トウシュ・トーマツ（香港における公認会計士事務所）から、「金融商品取引法」（昭和23年法律第25号）第193条の2第1項第1号に規定されている監査証明に相当すると認められる証明を受けている。その監査報告書の原文および訳文は、本書に掲載されている。

## 1【財務書類】

## 連結純損益及びその他の包括利益計算書

	注記	12月31日終了事業年度	
		2017年	2016年
		百万人民元	百万人民元
売上高	5	248,746	183,127
売上原価	7	(160,460)	(124,843)
売上総利益		88,286	58,284
販売費		(612)	(610)
一般管理費		(9,456)	(8,423)
その他の利得及び損失	10	(1,880)	(3,078)
その他の収益		894	1,379
その他の費用		(1,262)	(1,511)
受取利息	8	1,205	723
財務費用	8	(4,416)	(5,748)
関連会社の純利益に対する持分		534	237
<b>税引前利益</b>		<b>73,293</b>	<b>41,253</b>
法人所得税	9	(16,155)	(9,283)
<b>当期純利益</b>	10	<b>57,138</b>	<b>31,970</b>
<b>当期その他の包括(損失)利益</b>			
純損益に振り替えられない項目(税引後)：			
確定給付債務の再測定額		11	21
その後に純損益に振り替えられる可能性のある項目(税引後)：			
為替換算差額		(210)	311
関連会社のその他の包括利益(損失)に対する持分		(3)	60
売却可能投資の公正価値利得		4	-
		(209)	371
<b>当期その他の包括(損失)利益(税引後)</b>		<b>(198)</b>	<b>392</b>
<b>当期包括利益合計額</b>		<b>56,940</b>	<b>32,362</b>
<b>当期純利益の帰属：</b>			
当社株主		47,795	24,910
非支配持分		9,343	7,060
		57,138	31,970
<b>当期包括利益合計額の帰属：</b>			
当社株主		47,637	25,272
非支配持分		9,303	7,090
		56,940	32,362
<b>1株当たり利益(人民元)</b>			
- 基本的	14	2.403	1.252

12月31日終了事業年度			
	注記	2017年	2016年
		百万円	百万円
売上高	5	4,223,707	3,109,496
売上原価	7	(2,724,611)	(2,119,834)
売上総利益		1,499,096	989,662
販売費		(10,392)	(10,358)
一般管理費		(160,563)	(143,023)
その他の利得及び損失	10	(31,922)	(52,264)
その他の収益		15,180	23,415
その他の費用		(21,429)	(25,657)
受取利息	8	20,461	12,277
財務費用	8	(74,984)	(97,601)
関連会社の純利益に対する持分		9,067	4,024
<b>税引前利益</b>		<b>1,244,515</b>	<b>700,476</b>
法人所得税	9	(274,312)	(157,625)
<b>当期純利益</b>	10	<b>970,203</b>	<b>542,851</b>
<b>当期その他の包括(損失)利益</b>			
純損益に振り替えられることのない項目(税引後) :			
確定給付債務の再測定額		187	357
その後に純損益に振り替えられる可能性のある項目(税引後) :			
為替換算差額		(3,566)	5,281
関連会社のその他の包括利益(損失)に対する持分		(51)	1,019
売却可能投資の公正価値利得		68	-
		(3,549)	6,300
<b>当期その他の包括(損失)利益(税引後)</b>		<b>(3,362)</b>	<b>6,656</b>
<b>当期包括利益合計額</b>		<b>966,841</b>	<b>549,507</b>
<b>当期純利益の帰属 :</b>			
当社株主		811,559	422,972
非支配持分		158,644	119,879
		970,203	542,851
<b>当期包括利益合計額の帰属 :</b>			
当社株主		808,876	429,119
非支配持分		157,965	120,388
		966,841	549,507
<b>1株当たり利益(円)</b>			
- 基本的	14	41.000	21.000

## 連結財政状態計算書

	注記	2017年 12月31日現在 百万人民元	2016年 12月31日現在 百万人民元
<b>非流動資産</b>			
有形固定資産	15	329,970	337,785
建設仮勘定	16	39,054	35,220
探査及び評価資産	17	998	2,344
無形資産	18	3,447	3,018
関連会社に対する持分	19	9,513	5,142
売却可能投資	20	854	1,800
その他の非流動資産	21	33,466	36,749
リース前払金	22	17,858	17,359
繰延税金資産	28	3,798	3,849
<b>非流動資産合計</b>		<b>438,958</b>	<b>443,266</b>
<b>流動資産</b>			
棚卸資産	23	11,647	13,341
売掛金及び受取手形	24	19,455	20,573
前払費用及びその他の流動資産	25	20,452	48,792
拘束性預金	26	7,348	6,141
当初預入期間が3ヶ月超の定期預金		1,870	3,428
現金及び現金同等物	27	71,872	41,188
<b>流動資産合計</b>		<b>132,644</b>	<b>133,463</b>
<b>流動負債</b>			
借入金	29	15,785	11,811
買掛金及び支払手形	31	33,914	35,156
未払費用及びその他の債務	32	51,995	41,361
1年内償還予定中期社債	30	4,995	19,989
1年内償還予定社債	30	3,267	-
1年内返済予定長期債務	33	345	403
未払法人所得税		5,604	3,465
<b>流動負債合計</b>		<b>115,905</b>	<b>112,185</b>
<b>正味流動資産</b>		<b>16,739</b>	<b>21,278</b>
<b>流動負債控除後資産合計</b>		<b>455,697</b>	<b>464,544</b>
<b>非流動負債</b>			
借入金	29	64,321	58,462
中期社債	30	-	4,985
社債	30	6,485	10,331
長期債務	33	2,292	2,451
未払埋戻費用	34	2,745	2,549
繰延税金負債	28	749	797
<b>非流動負債合計</b>		<b>76,592</b>	<b>79,575</b>
<b>純資産</b>		<b>379,105</b>	<b>384,969</b>
<b>資本</b>			
株式資本	35	19,890	19,890
剰余金		285,651	297,085
当社株主に帰属する資本		305,541	316,975
非支配持分		73,564	67,994
<b>資本合計</b>		<b>379,105</b>	<b>384,969</b>

	注記	2017年 12月31日現在 百万円	2016年 12月31日現在 百万円
<b>非流動資産</b>			
有形固定資産	15	5,602,891	5,735,589
建設仮勘定	16	663,137	598,036
探査及び評価資産	17	16,946	39,801
無形資産	18	58,530	51,246
関連会社に対する持分	19	161,531	87,311
売却可能投資	20	14,501	30,564
その他の非流動資産	21	568,253	623,998
リース前払金	22	303,229	294,756
繰延税金資産	28	64,490	65,356
<b>非流動資産合計</b>		<b>7,453,507</b>	<b>7,526,657</b>
<b>流動資産</b>			
棚卸資産	23	197,766	226,530
売掛金及び受取手形	24	330,346	349,330
前払費用及びその他の流動資産	25	347,275	828,488
拘束性預金	26	124,769	104,274
当初預入期間が3ヶ月超の定期預金		31,753	58,207
現金及び現金同等物	27	1,220,387	699,372
<b>流動資産合計</b>		<b>2,252,295</b>	<b>2,266,202</b>
<b>流動負債</b>			
借入金	29	268,029	200,551
買掛金及び支払手形	31	575,860	596,949
未払費用及びその他の債務	32	882,875	702,310
1年内償還予定中期社債	30	84,815	339,413
1年内償還予定社債	30	55,474	-
1年内返済予定長期債務	33	5,858	6,843
未払法人所得税		95,156	58,836
<b>流動負債合計</b>		<b>1,968,067</b>	<b>1,904,901</b>
<b>正味流動資産</b>		<b>284,228</b>	<b>361,300</b>
<b>流動負債控除後資産合計</b>		<b>7,737,735</b>	<b>7,887,957</b>
<b>非流動負債</b>			
借入金	29	1,092,171	992,685
中期社債	30	-	84,645
社債	30	110,115	175,420
長期債務	33	38,918	41,618
未払埋戻費用	34	46,610	43,282
繰延税金負債	28	12,718	13,533
<b>非流動負債合計</b>		<b>1,300,532</b>	<b>1,351,184</b>
<b>純資産</b>		<b>6,437,203</b>	<b>6,536,774</b>
<b>資本</b>			
株式資本	35	337,732	337,732
剰余金		4,850,354	5,044,503
当社株主に帰属する資本		5,188,086	5,382,236
非支配持分		1,249,117	1,154,538
<b>資本合計</b>		<b>6,437,203</b>	<b>6,536,774</b>

170ページから257ページ(訳者注：原文のページ)の連結財務諸表は、2018年3月23日に取締役会の承認を得て公表が認められたものであり、以下が代表して署名を行っている。

リン・ウェン

会長

ハン・ジァングオ

業務執行取締役

[次へ](#)

## 連結持分変動計算書

	当社株主に帰属する資本							非支配持分 百万 人民元	資本合計 百万 人民元
	株主資本 百万 人民元 (注記35)	株式払込 剰余金 百万 人民元 (注( ))	資本 準備金 百万 人民元 (注( ))	為替換算 準備金 百万 人民元	法定 準備金 百万 人民元 (注( ))	その他 準備金 百万 人民元 (注( ))	利益 剰余金 百万 人民元 (注( ))	合計 百万 人民元	
2017年1月1日現在	19,890	85,001	3,612	105	20,827	(14,227)	201,767	316,975	384,969
当期純利益	-	-	-	-	-	-	47,795	47,795	57,138
当期その他の包括(損失)利益	-	-	-	(170)	-	12	-	(158)	(198)
当期包括(損失)利益合計	-	-	-	(170)	-	12	47,795	47,637	56,940
宣言配当額(注記13)	-	-	-	-	-	-	(59,072)	(59,072)	(59,072)
保全・生産積立金繰入額(注( ))	-	-	-	-	5,316	-	(5,316)	-	-
保全・生産積立金取崩額(注( ))	-	-	-	-	(1,994)	-	1,994	-	-
一般準備金繰入額(注( ))	-	-	-	-	344	-	(344)	-	-
非支配株主による拠出	-	-	-	-	-	-	-	2,000	2,000
非支配株主への配当	-	-	-	-	-	-	-	(5,733)	(5,733)
その他	-	-	-	-	-	1	-	1	1
2017年12月31日現在	19,890	85,001	3,612	(65)	24,493	(14,214)	186,824	305,541	379,105

## 当社株主に帰属する資本

	株主資本 百万円 (注記35)	株式払込 剰余金 百万円 (注( ))	資本 準備金 百万円 (注( ))	為替換算 準備金 百万円	法定 準備金 百万円 (注( ))	その他 準備金 百万円 (注( ))	利益 剰余金 百万円 (注( ))	合計 百万円	非支配持分 百万円	資本合計 百万円
2017年1月1日現在	337,732	1,443,317	61,332	1,783	353,642	(241,574)	3,426,004	5,382,236	1,154,538	6,536,774
当期純利益	-	-	-	-	-	-	811,559	811,559	158,644	970,203
当期その他の包括(損失)利益	-	-	-	(2,887)	-	204	-	(2,683)	(679)	(3,362)
当期包括(損失)利益合計	-	-	-	(2,887)	-	204	811,559	808,876	157,965	966,841
宣言配当額(注記13)	-	-	-	-	-	-	(1,003,043)	(1,003,043)	-	(1,003,043)
保全・生産積立金繰入額(注( ))	-	-	-	-	90,266	-	(90,266)	-	-	-
保全・生産積立金取崩額(注( ))	-	-	-	-	(33,858)	-	33,858	-	-	-
一般準備金繰入額(注( ))	-	-	-	-	5,841	-	(5,841)	-	-	-
非支配株主による拠出	-	-	-	-	-	-	-	-	33,960	33,960
非支配株主への配当	-	-	-	-	-	-	-	-	(97,346)	(97,346)
その他	-	-	-	-	-	17	-	17	-	17
2017年12月31日現在	337,732	1,443,317	61,332	(1,104)	415,891	(241,354)	3,172,272	5,188,086	1,249,117	6,437,203



## 当社株主に帰属する資本

	株主資本 百万 人民元 (注記35)	株式払込 剰余金 百万 人民元 (注( ))	資本 準備金 百万 人民元 (注( ))	為替換算 準備金 百万 人民元	法定 準備金 百万 人民元 (注( ))	その他 準備金 百万 人民元 (注( ))	利益 剰余金 百万 人民元 (注( ))	合計 百万 人民元	非支配持分 百万 人民元	資本合計 百万 人民元
2016年1月1日現在	19,890	85,001	3,612	(176)	18,003	(14,308)	186,046	298,068	65,853	363,921
当期純利益	-	-	-	-	-	-	24,910	24,910	7,060	31,970
当期その他の包括利益	-	-	-	281	-	81	-	362	30	392
当期包括利益合計	-	-	-	281	-	81	24,910	25,272	7,090	32,362
宣言配当額(注記13)	-	-	-	-	-	-	(6,365)	(6,365)	-	(6,365)
保全・生産積立金繰入額(注( ))	-	-	-	-	3,747	-	(3,747)	-	-	-
保全・生産積立金取崩額(注( ))	-	-	-	-	(889)	-	889	-	-	-
一般準備金取崩額(注( ))	-	-	-	-	(34)	-	34	-	-	-
非支配株主による拠出	-	-	-	-	-	-	-	-	1,111	1,111
非支配株主への配当	-	-	-	-	-	-	-	-	(6,060)	(6,060)
2016年12月31日現在	19,890	85,001	3,612	105	20,827	(14,227)	201,767	316,975	67,994	384,969

	当社株主に帰属する資本							非支配持分 百万円	資本合計 百万円
	株主資本 百万円 (注記35)	株式払込 剰余金 百万円 (注( ))	資本 準備金 百万円 (注( ))	為替換算 準備金 百万円	法定 準備金 百万円 (注( ))	その他 準備金 百万円 (注( ))	利益 剰余金 百万円 (注( ))	合計 百万円	
2016年1月1日現在	337,732	1,443,317	61,332	(2,988)	305,691	(242,950)	3,159,061	5,061,195	6,179,379
当期純利益	-	-	-	-	-	-	422,972	422,972	542,851
当期その他の包括利益	-	-	-	4,771	-	1,375	-	6,147	6,656
当期包括利益合計	-	-	-	4,771	-	1,375	422,972	429,119	549,507
宣言配当額(注記13)	-	-	-	-	-	-	(108,078)	(108,078)	(108,078)
保全・生産積立金繰入額(注( ))	-	-	-	-	63,624	-	(63,624)	-	-
保全・生産積立金取崩額(注( ))	-	-	-	-	(15,095)	-	15,095	-	-
一般準備金取崩額(注( ))	-	-	-	-	(577)	-	577	-	-
非支配株主による拠出	-	-	-	-	-	-	-	18,865	18,865
非支配株主への配当	-	-	-	-	-	-	-	(102,899)	(102,899)
2016年12月31日現在	337,732	1,443,317	61,332	1,783	353,642	(241,574)	3,426,004	5,382,236	6,536,774

[次へ](#)

注：

( ) 株式払込剰余金は、2005年におけるH株及び2007年におけるA株の国際的な新規株式公開時に発行した株式の額面金額の合計と、受領した正味払込額との差額である。

( ) 資本準備金は、リストラクチャリング(注記1に定義)に関連して発行した株式の額面金額の合計と、神華集団有限責任公司(以下「神華集団」という。)から移転された純資産総額(その他の準備金を除く。)との差額である。

( ) 法定準備金

#### 法定利益準備金

中国会社法及び当社の定款に基づき、当社は、中国企業会計準則(以下「中国会計準則」という。)に従い算定した純利益の10%を、当社の登録資本の50%に達するまで、法定利益準備金に繰り入れることが義務付けられている。この準備金への繰入は、株主への配当実施前に行わなければならない。

法定利益準備金は、2009年度に登録資本の50%に達している。このため、2010年1月1日以降は、純利益から法定利益準備金への繰入は行っていない。

法定利益準備金は、欠損填補又は当社事業の拡大に使用することができる。また、株主に対する現在の持株比率に応じた新株発行や、株主が現在保有している株式の額面金額を引き上げることにより、法定利益準備金を登録資本に組み入れることも認められている(発行後の残高が当社登録資本の25%を下回らないことが条件)。法定利益準備金を分配することはできない。

#### 生産・保全積立金に係る特別準備金

中国の関連規則に従い、当社グループは、生産量に対して一定率を乗じて算定した生産・保全積立金を、特別準備金勘定に繰り入れることが義務付けられている。生産・保全積立金は、生産保全及び安全対策に関する費用又は資本的支出が生じた場合に使用することができる。使用した生産・保全積立金は、特別準備金勘定から利益剰余金に振り替える。

#### 一般準備金

財政部発行の関連規則に従い、当社の子会社である神華財務有限責任公司(以下「神華財務」という。)は、リスク資産の損失可能性に備え、中国会計準則に従い算定した税引後利益にリスク資産総額の期末残高の一定割合を乗じた金額を繰り入れることにより、期末までに一般準備金を積み立てることが義務付けられている。

#### 任意積立金

任意積立金への繰入は、株主承認事項である。この積立金の使用は、法定利益準備金を使用する場合と同様である。

当社取締役(以下「取締役」という。)は、2017年度及び2016年度において、任意積立金への繰入に関する議案の提出は行っていない。

( ) その他準備金

その他準備金は、主に共通支配下の子会社の取得に際して支払った対価、及び関連会社のその他の包括利益(損失)に対する持分である。

( ) 利益剰余金

当社グループの利益剰余金には、2017年12月31日現在の国内子会社の法定利益準備金に対する当社グループの持分22,573百万人民元(2016年12月31日現在：18,065百万人民元)が含まれている。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

	12月31日終了事業年度	
	2017年 百万人民元	2016年 百万人民元
<b>営業活動</b>		
税引前純利益	73,293	41,253
調整：		
減価償却費及び償却費(注記10)	25,340	24,721
その他の利得及び損失(注記10)	1,880	3,078
受取利息(注記8)	(1,205)	(723)
関連会社の純利益に対する持分	(534)	(237)
支払利息	4,910	5,062
金融商品の公正価値の変動(注記8)	-	(2)
為替差(益)損(純額)(注記8)	(494)	688
運転資本増減考慮前営業活動によるキャッシュ・フロー	103,190	73,840
棚卸資産の減少(増加)	1,588	(1,076)
売掛金及び受取手形の減少	361	20,084
前払費用及びその他の債権の(増加)減少	(89)	1,146
買掛金及び支払手形の(減少)増加	(1,802)	2,925
未払費用及びその他の債務の増加(減少)	5,912	(6,267)
営業活動によるキャッシュ・フロー	109,160	90,652
法人所得税支払額	(14,008)	(8,769)
<b>営業活動による正味キャッシュ・フロー</b>	<b>95,152</b>	<b>81,883</b>
<b>投資活動</b>		
有形固定資産、無形資産、探査及び評価資産の購入並びに 建設仮勘定及びその他の非流動資産の増加	(19,602)	(28,264)
リース前払金の増加	(666)	(794)
有形固定資産、無形資産、リース前払金及びその他の 非流動資産の処分による収入	1,342	649
関連会社の処分による収入	-	35
委託理財商品の処分による収入	57,885	160
デリバティブ金融商品の処分による収入	59	23
委託貸付金に係る収入	2,627	-
関連会社に対する投資	(3,431)	(104)
デリバティブ金融商品の購入	(111)	(2)
売買目的理財商品の購入	-	(50)
社債に対する投資	(100)	-
関連会社からの配当金受取額	232	375
利息受取額	1,097	710
委託理財商品の購入	(24,100)	(33,350)
委託貸付の実行	(2,220)	-
拘束性預金の増加	(1,207)	(1,530)
当初預入期間が3ヶ月超の定期預金の増加	(1,827)	(5,026)
当初預入期間が3ヶ月超の定期預金の満期	3,385	2,514
<b>投資活動による(使用された)正味キャッシュ・フロー</b>	<b>13,363</b>	<b>(64,654)</b>
<b>財務活動(注記38)</b>		
利息支払額	(5,762)	(5,600)
借入れによる収入	24,651	28,037
借入金の返済	(14,490)	(24,927)
短期社債及び中期社債の償還	(20,000)	(5,000)
手形の割引による収入	137	435
非支配株主による拠出	1,164	1,111
非支配株主への配当	(4,249)	(6,181)
当社株主に対する配当金支払額	(59,072)	(6,365)
<b>財務活動に使用された正味キャッシュ・フロー</b>	<b>(77,621)</b>	<b>(18,490)</b>
<b>現金及び現金同等物の純増(減)</b>	<b>30,894</b>	<b>(1,261)</b>
期首現金及び現金同等物残高	41,188	42,323

為替レートの変動の影響

(210)

126

期末現金及び現金同等物残高

71,872

41,188

## 12月31日終了事業年度

	2017年 百万円	2016年 百万円
<b>営業活動</b>		
税引前純利益	1,244,515	700,476
調整：		
減価償却費及び償却費(注記10)	430,273	419,763
その他の利得及び損失(注記10)	31,922	52,264
受取利息(注記8)	(20,461)	(12,277)
関連会社の純利益に対する持分	(9,067)	(4,024)
支払利息	83,372	85,953
金融商品の公正価値の変動(注記8)	-	(34)
為替差(益)損(純額)(注記8)	(8,388)	11,682
運転資本増減考慮前営業活動によるキャッシュ・フロー	1,752,166	1,253,803
棚卸資産の減少(増加)	26,964	(18,270)
売掛金及び受取手形の減少	6,130	341,026
前払費用及びその他の債権の(増加)減少	(1,511)	19,459
買掛金及び支払手形の(減少)増加	(30,598)	49,667
未払費用及びその他の債務の増加(減少)	100,386	(106,414)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,853,537	1,539,271
法人所得税支払額	(237,856)	(148,898)
<b>営業活動による正味キャッシュ・フロー</b>	<b>1,615,681</b>	<b>1,390,373</b>
<b>投資活動</b>		
有形固定資産、無形資産、探査及び評価資産の購入並びに 建設仮勘定及びその他の非流動資産の増加	(332,842)	(479,923)
リース前払金の増加	(11,309)	(13,482)
有形固定資産、無形資産、リース前払金及びその他の非流動資産の 処分による収入	22,787	11,020
関連会社の処分による収入	-	594
委託理財商品の処分による収入	982,887	2,717
デリバティブ金融商品の処分による収入	1,002	391
委託貸付金に係る収入	44,606	-
関連会社に対する投資	(58,258)	(1,766)
デリバティブ金融商品の購入	(1,885)	(34)
売買目的理財商品の購入	-	(849)
社債に対する投資	(1,698)	-
関連会社からの配当金受取額	3,939	6,368
利息受取額	18,627	12,056
委託理財商品の購入	(409,218)	(566,283)
委託貸付の実行	(37,696)	-
拘束性預金の増加	(20,495)	(25,979)
当初預入期間が3ヶ月超の定期預金の増加	(31,022)	(85,341)
当初預入期間が3ヶ月超の定期預金の満期	57,477	42,688
<b>投資活動による(使用された)正味キャッシュ・フロー</b>	<b>226,904</b>	<b>(1,097,825)</b>
<b>財務活動(注記38)</b>		
利息支払額	(97,839)	(95,088)
借入れによる収入	418,574	476,068
借入金の返済	(246,040)	(423,260)
短期社債及び中期社債の償還	(339,600)	(84,900)
手形の割引による収入	2,326	7,386
非支配株主による拠出	19,765	18,865
非支配株主への配当	(72,148)	(104,953)
当社株主に対する配当金支払額	(1,003,043)	(108,078)
<b>財務活動に使用された正味キャッシュ・フロー</b>	<b>(1,318,005)</b>	<b>(313,960)</b>
<b>現金及び現金同等物の純増(減)</b>	<b>524,580</b>	<b>(21,412)</b>
期首現金及び現金同等物残高	699,372	718,645
為替レートの変動の影響	(3,566)	2,139

期末現金及び現金同等物残高

1,220,387

699,372

[次へ](#)

## 連結財務諸表注記

2017年12月31日終了事業年度

### 1. 主要な事業及び組織

#### 主要な事業

中国神華能源股份有限公司(以下「当社」という。 )及びその子会社(以下総称して「当社グループ」という。 )は、主に、中華人民共和国(以下「中国」という。 )において、( )石炭の生産及び販売、並びに( )石炭による発電及び省/地区の送電会社への電力販売を行っている。当社グループは、一体化した鉄道網・港湾事業(主として当社グループの販売用石炭の炭鉱からの輸送に利用される。 )を営んでいる。当社グループの石炭販売における主要顧客は、中国の発電所並びに金属及び石炭化学メーカーである。

#### 組織

当社は、中国国務院の直接の監督下にある国有企業である神華集団のリストラクチャリング(以下に定義する。 )の一環として、2004年11月8日に株式有限会社として中国に設立された。

2003年12月31日以降は、神華集団の完全所有又は管理下にあった複数の企業により行われていた石炭生産と発電事業は再編され、それぞれ別個に管理されている(以下本第6においては「リストラクチャリング」という。 )。当社に移転された事業に係る資産及び負債は、中国で登録されている独立の資産評価会社である中企華資産評価有限責任公司により、中国の規則に基づき2003年12月31日時点で再評価が行われている。

2004年11月8日、神華集団から当社に対する石炭採掘及び発電に係る資産・負債の移転対価として、当社は、神華集団に対して、額面金額1.00人民元の国内国有普通株式15,000,000,000株を発行した。神華集団に対して発行した株式は、発行時点で全株が当社の登録済払込済株式資本であった。

2005年に、当社は、国際的な新規株式公開により、額面金額1.00人民元のH株3,089,620,455株を1株当たり7.50香港ドルで発行した。さらに、神華集団が所有していた額面金額1.00人民元の国内国有普通株式308,962,045株を、H株に転換した。H株合計3,398,582,500株は、香港証券取引所に上場されている。

2007年に、当社は、額面金額1.00人民元のA株1,800,000,000株を、1株当たり36.99人民元で発行した。A株は上海証券取引所に上場されている。

#### 直近上位の親会社及び最終的な支配当事者

2017年8月28日、神華集団は、中国国務院国有資産監督管理委員会から「中国国電集团公司及び神華集団有限責任公司の再編に関する通知」(国資発改革[2017]146号)を受領した。この通知により、中国国電集团公司(以下「中国国電」という。 )と神華集団有限責任公司が共同再編を行うこと、中国国電を神華集団に合併すること、並びに神華集団の社名を国家能源投資集団有限責任公司(以下「国家能源集団」という。 )に変更することが承認された。当該再編完了後は、国家能源集団が親会社となる。

2017年11月27日、神華集団は事業免許の工業・商業登録変更手続を完了した。2017年12月31日現在、取締役は、当社グループの直近上位の親会社及び最終的な支配当事者は国家能源集団であると判断している。

### 2. 新規及び改訂後の国際財務報告基準(以下「IFRS」という。 )の適用

#### 当期から強制適用となっているIFRSの修正

当社グループは、当期から強制適用となっている以下のIFRSの修正を当期に初めて適用している。



IAS第7号の修正	開示に関する取組み
IAS第12号の修正	未実現損失に係る繰延税金資産の認識
IFRS第12号の修正	IFRSの年次改善 2012-2014年サイクルの一部

当期に適用したIFRSの修正による、当社グループの当期及び過年度の財務業績及び財政状態並びに/又は連結財務諸表に記載の開示(IAS第7号の修正の適用を除く。)に対する重要な影響はない。

当社グループは、IAS第7号の修正「開示に関する取組み」を当期に初めて適用している。IAS第7号の修正では、企業に、財務活動から生じた負債の変動(キャッシュ・フローから生じた変動と非資金変動の両方を含む。)を財務諸表利用者が評価できるようにする開示の提供を要求している。また、当該修正では、金融資産からのキャッシュ・フロー又は将来キャッシュ・フローが財務活動によるキャッシュ・フローに含まれる場合には、金融資産の変動に関する開示も要求している。

具体的に、当該修正は以下の開示を要求している。

( )財務キャッシュ・フローによる変動、( )子会社又は他の事業に対する支配の獲得又は喪失により生じた変動、( )外国為替レートの変動の影響、( )公正価値の変動、及び( )その他の変動

これらの項目に関する期首残高と期末残高との調整表は、注記38に開示している。当該修正の経過措置に従い、当社グループは前事業年度に係る比較情報を開示していない。注記38の追加の開示を除き、当該修正の適用による当社グループの連結財務諸表に対する重要な影響はない。

### 公表済だが未発効の新規及び改訂後のIFRS

当社グループは、以下の公表済だが未発効の新規及び改訂後のIFRSを早期適用していない。

IFRS第9号	金融商品 <sup>1</sup>
IFRS第15号	顧客との契約から生じる収益及び関連する修正 <sup>1</sup>
IFRS第16号	リース <sup>2</sup>
IFRS第17号	保険契約 <sup>4</sup>
IFRIC第22号	外貨建取引と前払・前受対価 <sup>1</sup>
IFRIC第23号	法人所得税処理に関する不確実性 <sup>2</sup>
IFRS第2号の修正	株式に基づく報酬取引の分類及び測定 <sup>1</sup>
IFRS第4号の修正	IFRS第9号「金融商品」のIFRS第4号「保険契約」との適用 <sup>1</sup>
IFRS第9号の修正	負の補償を伴う期限前償還要素 <sup>2</sup>
IFRS第10号及びIAS第28号の修正	投資者とその関連会社又は共同支配企業の間での資産の売却又は 抛出 <sup>3</sup>
IAS第19号の修正	制度改訂、縮小又は清算 <sup>2</sup>
IAS第28号の修正	関連会社又は共同支配企業に対する長期持分 <sup>2</sup>
IAS第40号の修正	投資不動産の振替 <sup>1</sup>
IAS第28号の修正	IFRSの年次改善 2014-2016年サイクルの一部 <sup>1</sup>
IFRSの修正	IFRSの年次改善 2015-2017年サイクル <sup>2</sup>

<sup>1</sup> 2018年1月1日以後開始事業年度から適用

<sup>2</sup> 2019年1月1日以後開始事業年度から適用

<sup>3</sup> 適用開始日は今後決定予定

<sup>4</sup> 2021年1月1日以後開始事業年度から適用

以下に詳述したものを除き、取締役は、上記の新規及び改訂後のIFRSの適用による当社グループの連結財務諸表及び開示に対する重要な影響はないと予想している。

### IFRS第9号 金融商品

IFRS第9号は、金融資産及び金融負債の分類及び測定、一般ヘッジ会計及び金融資産の減損要件に関する新たな要求事項を導入している。

#### IFRS第9号の主な要求事項

- ・ IFRS第9号の適用範囲に含まれる認識した金融資産はすべて、償却原価又は公正価値のいずれかで事後測定することが求められる。具体的には、負債性投資のうち、契約上のキャッシュ・フローを回収することを目的とする事業モデルに基づいて保有されており、かつ当該契約上のキャッシュ・フローが元本及び元本残高に対する利息の支払のみであるものについては、通常、当初認識後の会計期間末において償却原価で測定する。また、負債性金融商品のうち、契約上のキャッシュ・フローの回収と売却の両方により目的が達成される事業モデルの中で保有されており、かつ契約条件により、元本及び元本残高に対する利息の支払のみであるキャッシュ・フローが所定の日に生じる金融資産については、通常、その他の包括利益を通じて公正価値(以下「FVTOCI」という。)で測定する。その他のすべての金融資産は、当初認識後の会計期間末において公正価値で測定する。さらにIFRS第9号に基づき、企業は、売買目的でない資本性投資の公正価値のその後の変動を、その他の包括利益に表示する取消不能の指定をすることができる(この場合でも、受取配当金は通常純損益に認識される。 )。
- ・ 純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融負債の測定に関して、IFRS第9号は、金融負債の公正価値の変動額のうち当該負債の信用リスクの変動に起因する額を、その他の包括利益に表示することを求めている(金融負債の信用リスクの変動の影響をその他の包括利益に認識することにより、純損益における会計上のミスマッチが創出又は拡大される場合を除く。 )。金融負債の信用リスクに起因する公正価値の変動額は、その後純損益に振り替えられない。IAS第39号「金融商品:認識及び測定」(以下「IAS第39号」という。 )では、純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融負債の公正価値の変動の全額が、純損益に表示される。
- ・ 金融負債の認識の中止とならない大幅ではない条件変更の場合、関連する金融負債の帳簿価額は、条件変更後の契約上のキャッシュ・フローの現在価値で測定する(当該金融負債の当初の実効金利で割り引く)。発生した取引コスト又は手数料は、条件変更後の金融負債の帳簿価額の修正となり、変更後の負債の残存期間にわたって償却する。条件変更後の金融負債の帳簿価額のあらゆる修正は、条件変更日に純損益に認識する。当社グループでは、IAS第39号に従い、金融負債の大幅でない条件変更の際には実効金利の修正を行っていたが、条件変更日に利得又は損失の純損益への認識は行っていなかった。
- ・ 金融資産の減損に関して、IFRS第9号は、IAS第39号の発生信用損失モデルに代わるものとして、予想信用損失モデルを規定している。予想信用損失モデルは、当初認識後の信用リスクの変動を反映させるべく、企業に予想信用損失及び各報告日現在の予想信用損失の変動を会計処理することを要求している。つまり、信用事象の発生を待たずに、信用損失を認識することになる。

2017年12月31日現在の当社グループの金融商品及びリスク管理方針に照らし、取締役は、IFRS第9号を初めて適用することによる潜在的影響を以下の通り予想している。

#### 分類及び測定:

- ・ 満期保有投資並びに貸付金及び債権に分類し償却原価で計上している負債性金融商品(注記21、24、25、26及び27にそれぞれ開示):これらの金融資産は、契約上のキャッシュ・フロー(元本及び元本残高に対する利息の支払のみ)を回収するために保有することを目的とする事業モデルの中で保有している。したがって当該金融資産は、IFRS第9号の適用にあたり引き続き償却原価で事後測定することになる。
- ・ 売却可能(以下「AFS」という。 )投資に分類し取得原価(減損控除後)で計上している資本性証券(注記20に開示):IFRS第9号では、これらの有価証券につきFVTOCIでの測定を指定することが認められており、当社グループは、当該有価証券を当初認識後の報告期間末の公正価値で測定し、公正価値利得又は損失をその他の包括利益に認識(投資再評価準備金に累積)する予定である。IFRS第9号を初めて適用する際に、当社グループのAFS資本性証券(2017年12月31日現在の帳簿価額:749百万人民元)は、FVTOCIで測定する金融資産に指定する予定である。その他のAFS投資については、公正価値で測定し、事後の公正価値利得又は損失は純損益に認識することになる。

- ・ その他のすべての金融資産及び金融負債は、現行のIAS第39号と同様の基準による測定を継続する予定である。

**減損:**

取締役は、全体として、IFRS第9号の予想信用損失モデルの適用により、減損引当金の対象となる償却原価で測定する金融資産及びその他の項目に関して未だ発生していない信用損失に対する引当を、より早期に計上することになると予想している。

取締役の評価では、当社グループが予想信用損失モデルを適用する場合、2018年1月1日時点で当社グループが認識する減損損失累計額は、IAS第39号により認識する同累計額と比較して僅かに増加する見込みである。これは主に、売掛金、その他の債権、国家能源集団及び兄弟会社に対する貸付金及び債権並びに委託貸付金に係る予想信用損失によるものである。予想信用損失モデルに基づき減損認識額が増加することで、2018年1月1日現在の利益剰余金の期首残高が減少し、繰延税金資産が増加することになる。

上記を除き、取締役は、IFRS第9号が当社グループの業績及び財政状態に与える重要な影響はないと予想している。

**IFRS第15号 顧客との契約から生じる収益**

公表されたIFRS第15号は、企業が顧客との契約から生じる収益の会計処理に使用する単一の包括的なモデルについて規定したものである。IFRS第15号が発効した時点で、現行の収益認識に関するガイダンス(IAS第18号「収益」、IAS第11号「工事契約」及び関連解釈指針を含む。)は置き換えられることになる。

IFRS第15号のコア原則とは、企業は約束した財又はサービスの顧客への移転を、当該財又はサービスとの交換で権利を得ると見込んでいる対価を反映する金額で描写するように、収益を認識すべきというものである。具体的には、当該基準では収益認識の方法として5つのステップが導入されている。

- ・ ステップ1: 顧客との契約を識別する。
- ・ ステップ2: 契約における履行義務を識別する。
- ・ ステップ3: 取引価格を算定する。
- ・ ステップ4: 取引価格を契約における履行義務に配分する。
- ・ ステップ5: 履行義務の充足時に(又は充足するにつれて)収益を認識する。

IFRS第15号によれば、企業は、履行義務を充足した時点で(又は充足するにつれて)(即ち、特定の履行義務の基礎となっている財又はサービスに対する「支配」が顧客に移転した時点で)、収益を認識する。具体的な事例に対処すべく、IFRS第15号には、より規範的なガイダンスが追加されている。またIFRS第15号では、広範な開示が要求されている。

取締役は、IFRS第15号を今後適用することにより、さらなる開示が必要となる可能性があると予想している。但し、各報告期間における収益認識の時期及び金額に重要な影響はないと予想している。

## IFRS第16号 リース

IFRS第16号は、発効日にIAS第17号「リース」に置き換わるものである。当該基準は、借手に単一モデルを導入し、リース期間が12ヶ月超のすべてのリース(原資産が少額の場合を除く。)について、借手に資産及び負債の認識を要求している。具体的には、借手はIFRS第16号に従い、原資産を使用する権利を表す使用権資産と、リース料の支払を行う負債を表すリース負債の認識が求められる。これに伴い借手は、使用権資産の減価償却費とリース負債に係る利息の認識が必要となる。キャッシュ・フローの分類については、リース負債の現金支払額を元本部分と利息部分とに分けて、キャッシュ・フロー計算書上財務活動として表示することになる。使用権資産の当初測定は取得原価で行い、事後測定は取得原価から減価償却累積額及び減損損失累計額を控除の上、リース負債の再測定に係る調整を加えた額で行う(一部例外を除く。)。リース負債の当初測定は、測定日現在未払の支払リース料の現在価値で行う。この測定額には、解約不能リース料のほか、借手がリース期間の延長オプションを行使すること又はリース解約オプションを行使しないことが合理的に確実な場合にオプション期間中に支払うリース料も含まれる。この会計処理は、従前のIAS第17号ではオペレーティング・リースに分類されるリースに係る借手の会計処理とは著しく異なる。

貸手の会計処理については、IFRS第16号はIAS第17号の貸手の会計処理に関する要求事項を実質的に踏襲している。したがって、貸手は引き続きリースをオペレーティング・リース又はファイナンス・リースに分類し、この2種類のリースを異なる方法で会計処理することになる。

注記39.2に開示している通り、2017年12月31日現在の当社グループのオペレーティング・リースに係るコミットメントは総額2,123百万人民元である。取締役は、IFRS第16号の適用による当社グループの業績に与える重要な影響はないが、連結財政状態計算書上、当該リースに係るコミットメントを使用権資産及びリース負債として認識することが必要になると予想している。

### ３．重要な会計方針

#### 作成の基礎

連結財務諸表は、国際会計基準審議会発行のIFRSに従い作成している。財務諸表は人民元で表示しており、別段の記載のある場合を除き、数値はすべて百万(百万人民元)単位で四捨五入している。また連結財務諸表には、香港証券取引所の有価証券上場規則(以下「上場規則」という。)及び香港会社条例の開示規則(以下「C0」という。)で要求されている所定の開示を含めている。

注記37.3に開示している各報告期間末に公正価値で測定する一部の金融商品を除き、連結財務諸表は取得原価基準で作成している。

取得原価とは、通常、財又はサービスと交換で移転された対価の公正価値に基づいている。

公正価値とは、測定日における市場参加者間の秩序ある取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格又は負債を移転するために支払うであろう価格である。その価格が直接観察可能であるか、他の評価技法を用いて見積られるのかは問わない。資産又は負債の公正価値を見積る際に、当社グループは、当該資産又は負債の特性が、市場参加者が測定日において当該資産又は負債の価格付けを行う際に考慮に入れるものについては、考慮している。当社グループの連結財務諸表上の測定及び/又は開示のための公正価値は、IFRS第2号「株式に基づく報酬」の適用範囲の株式報酬取引、IAS第17号「リース」の適用範囲のリース取引、及び公正価値との類似点もあるが公正価値ではない測定額(IAS第2号「棚卸資産」の正味実現可能価額、IAS第36号「資産の減損」の使用価値等)を除き、これを基に算定している。

また、財務報告上の公正価値測定は、公正価値測定へのインプットの観察可能性の程度及び公正価値測定全体に対するインプットの重要性に基づき、下記のレベル1、2又は3に区分している。

- ・ レベル1のインプットは、測定日における企業がアクセスできる同一の資産又は負債に関する活発な市場における相場価格(無修正)である。
- ・ レベル2のインプットは、レベル1に含まれる相場価格以外のインプットのうち、資産又は負債について直接又は間接に観察可能なものである。
- ・ レベル3のインプットは、資産又は負債に関する観察可能でないインプットである。

主要な会計方針は下記の通りである。

#### 連結の基礎

連結財務諸表には、当社の財務諸表、並びに当社及びその子会社が支配している企業の財務諸表が含まれている。当社は以下の場合に支配している。

- ・ 当社は投資先に対してパワーを有している。
- ・ 当社は投資先への関与により生じる変動リターンに対するエクスポージャー又は権利を有している。
- ・ 当社はリターンに影響を及ぼすようにそのパワーを用いる能力がある。

当社グループは、事実又は状況が上記の支配の3要素のいずれかに変化があったことを示している場合には、投資先を支配しているかどうかについて再判定を行っている。

当社グループが投資先の過半数に満たない議決権しか保有していないが、当社グループの議決権が投資先の関連性のある活動を一方的に指図する実質上の能力を有している場合には、投資先に対するパワーを有している。当社グループは、当社グループ

プの投資先に対する議決権が投資先に対するパワーを有するに十分であるかの判定に際しては、すべての関連性のある事実と状況を考慮している。これには以下が含まれる。

- ・ 他の議決権保有者の保有の規模及び分散状況との比較における当社グループの議決権保有の相対的な規模
- ・ 当社グループ、他の議決権保有者又は他の当事者が保有している潜在的議決権
- ・ 他の契約上の取決めから生じる権利
- ・ 意思決定を行う必要がある時に関連性のある活動を指図する現在の能力を、当社グループが有していること又は有していないことを示す追加的な事実及び状況(過去の株主総会における投票パターンを含む。)

子会社の連結は、当社グループが子会社に対する支配を獲得した時点から開始し、当社グループが支配を喪失した時点で終了する。具体的には、期中に取得又は処分した子会社の収益及び費用は、当社グループが支配を獲得した日から当該子会社を支配しなくなった日まで、連結純損益及びその他の包括利益計算書に含めている。

純損益及びその他の包括利益の各項目は、当社株主及び非支配持分に帰属している。非支配持分が負の残高となる場合でも、子会社の包括利益合計は、当社株主及び非支配持分に帰属する。

必要な場合には、子会社の会計方針を当社グループの会計方針に合わせるために、子会社の財務諸表を修正している。

当社グループの企業間の取引に関連したグループ会社間の資産及び負債、資本、利益、費用並びにキャッシュ・フローはすべて、連結の際に全額消去している。

#### **既存の子会社に対する当社グループの所有持分の変動**

当社グループの既存の子会社に対する所有持分の変動のうち、当該子会社に対する支配の喪失とならないものは、資本取引として会計処理している。当社グループの持分及び非支配持分の帳簿価額については、当該子会社に対する相対的持分の変動(当社グループと非支配持分の持分比率に応じた、当社グループと非支配持分との間の関連剰余金の再配分を含む。)を反映して、修正している。

非支配持分の修正額と支払対価又は受取対価の公正価値との差額は、資本に直接計上し、当社株主に帰属させている。

#### **企業結合**

事業の取得は、共通支配下の企業に関する企業結合を除き、取得法により会計処理している。企業結合で移転された対価は公正価値で測定し、当該公正価値は、当社グループが移転した資産、被取得企業の旧所有者に対する負債及び当社グループが発行した資本持分の取得日公正価値の合計額として計算している。取得関連コストは、通常、発生時に純損益に認識している。

取得した識別可能な資産及び引き受けた負債は、取得日に公正価値で認識している。但し例外として、繰延税金資産又は負債、及び従業員給付契約に係る資産又は負債は、それぞれIAS第12号「法人所得税」、及びIAS第19号「従業員給付」に従い認識及び測定している。

のれんは、移転された対価、被取得企業に対する非支配持分の金額、及び取得企業がこれまで保有していた被取得企業に対する資本持分の公正価値(該当ある場合)の総計が、取得した識別可能な資産及び引き受けた負債の取得日における正味の金額を超過する金額として測定している。再検討を行っても、取得した識別可能な資産及び引き受けた負債の取得日における正味の金額が、移転された対価、被取得企業に対する非支配持分の金額、及び取得企業がこれまで保有していた被取得企業に対する持分の公正価値(該当ある場合)の総計を超過している場合には、その超過額は割当購入益として純損益に即時認識している。

非支配持分のうち、現在の所有持分であり、清算時に企業の純資産に対する比例的な取り分を保有者に与えているものは、被取得企業の識別可能純資産の認識金額に対する比例的な取り分で当初測定している。

## 共通支配下の企業に関する企業結合の会計処理

連結財務諸表には結合事業の財務諸表項目が含まれるが、連結財務諸表上では、結合事業が支配当事者の支配下に最初に入った日から結合していたかのように、共通支配下の結合が行われる。

結合企業又は結合事業の純資産は、支配当事者の見地から、既存の帳簿価額を用いて連結している。共通支配下の結合時におけるのれん又は割安購入益は認識していない。

連結純損益及びその他の包括利益計算書には、表示を行っている最も早い日、又は結合事業が最初に共通支配下に入った日以降のいずれか短い期間の各結合事業の損益が含まれている。

連結財務諸表の比較金額は、その前報告期間末、又は当該企業若しくは事業が最初に共通支配下に入った時点のいずれか短い期間について当該企業又は事業が結合していたかのように表示している。

## のれん

事業の取得により生じたのれんは、事業の取得日現在の取得原価(減損損失累計額控除後(該当ある場合))で計上している。

減損テスト上、のれんは、当社グループの各資金生成単位(又は資金生成単位グループ)のうち、企業結合のシナジーから便益を得ると見込まれるものに配分している。この単位又はグループは、のれんを内部管理目的で監視している最小単位であり、かつ事業セグメントよりも大きくない単位としている。

のれんを配分した資金生成単位については、年に1回、又は当該資金生成単位に減損の兆候がある場合にはより頻繁に、減損テストを行っている。当報告期間中の取得から生じたのれんに関しては、のれんを配分した当該資金生成単位に係る減損テストを、当報告期間末より前に実施している。資金生成単位の回収可能価額がその帳簿価額を下回る場合、減損損失は、まず当該資金生成単位に配分したのれんの帳簿価額を減額し、次に当該資金生成単位内の各資産の帳簿価額に基づいた比例按分により、当該単位内の他の資産に配分している。のれんの減損損失は、純損益に直接認識している。のれんの減損損失は、その後の期間において戻し入れることはない。

関連する資金生成単位の処分の際には、帰属するのれんの額を処分損益額の算定に含めている。

## 関連会社に対する投資

関連会社とは、当社グループが重要な影響力を有している企業である。重要な影響力とは、投資先の財務及び営業の方針決定に参加するパワーであるが、当該方針に対する支配又は共同支配ではないものである。

関連会社の損益並びに資産及び負債は、持分法により財務諸表に計上している。持分法の会計処理に用いる関連会社の財務諸表は、類似の状況における同様の取引及び事象に関し、当社グループの会計方針と統一した会計方針を用いて作成している。持分法を適用した関連会社に対する投資は、連結財政状態計算書上、取得原価で当初認識し、その後は当該関連会社の純損益及びその他の包括利益に対する当社グループの持分を認識すべく修正している。関連会社の損失に対する当社グループの持分が、関連会社に対する当社グループの持分(当該関連会社に対する当社グループの正味投資の一部を実質的に構成する長期の持分を含む。)を超過する場合、当社グループは、それ以上の損失については持分の認識を中止している。追加的な損失は、当社グループに法的債務若しくは推定的債務が生じている範囲、又は当社グループが関連会社に代わって支払う金額の範囲でのみ認識している。

関連会社に対する投資の取得に際して、取得原価が当該投資先の識別可能な資産及び負債の正味の公正価値に対する当社グループの持分を上回る超過額については、のれんとして認識し、当該投資の帳簿価額に含めている。再検討を行っても、識別可能な資産及び負債の正味の公正価値に対する当社グループの持分が、投資原価を上回る超過額については、当該投資を取得した期間の純損益に即時認識している。

当社グループの関連会社に対する投資に関して減損の兆候の有無を判定するには、IAS第39号の規定を適用している。必要な場合には、投資の帳簿価額全体(のれんを含む。)について、IAS第36号に従い、回収可能価額(使用価値と処分コスト控除後の公正価値のいずれか高い方)と帳簿価額とを資産ごとに比較することにより、減損テストを行っている。関連会社に対する投資の回収可能価額が帳簿価額を下回る場合には、減損損失を認識している。減損損失の戻入は、IAS第36号に従い、投資の回収可能価額がその後に増加した範囲で認識している。

当社グループの関連会社に対する所有持分が減少し、かつ持分法の適用を継続する場合で、過去にその他の包括利益に認識した利得又は損失を関連する資産又は負債の処分時に純損益に振り替える場合、当社グループは、当該利得又は損失のうち当該減少した所有割合に相当する金額を純損益に振り替えている。

当社グループの企業が当社グループの関連会社と取引を行い、当該関連会社との取引から生じた損益は、当該関連会社に対する持分のうち当社グループとは関連のない範囲に限り、当社グループの連結財務諸表に認識している。

## 収益認識

収益は、受領した又は受領可能な対価の公正価値で測定している。経済的便益が当社グループに流入する可能性が高く、かつ収益及び費用の額を信頼性をもって測定できる場合に、以下のように収益を純損益に認識している。

- ・ 石炭の販売による収益は、物品の所有に伴うリスク及び経済価値が顧客に移転した時点で認識している。
- ・ 電力の販売から生じる収益は、電力を送電会社へ送電した時点で認識し、送電量と、各送電会社と年度毎に合意した固定料金の適用単価を基に算定している。
- ・ 鉄道、港湾、海運及びその他のサービスの提供による収益は、サービスの提供が完了又はサービスを提供した時点で認識している。
- ・ 非上場投資に係る受取配当金は、配当金の支払を受ける株主の権利が確定した時点で認識している。
- ・ 受取利息は、実効金利法により発生時に認識している。

## リース

リースのうち、所有に伴う経済価値とリスクのほとんどすべてが貸手に残るものについては、オペレーティング・リースとして会計処理している。当社グループが貸手の場合、オペレーティング・リースによる当社のリース資産は非流動資産に計上し、オペレーティング・リースによる賃貸収益はリース期間にわたり定額法で純損益に貸方計上している。当社グループが借手の場合、オペレーティング・リースによる支払リース料は、リース期間にわたり定額法で純損益に計上している。

オペレーティング・リースによる土地使用权は、連結財政状態計算書上リース前払金として表示しており、当初取得原価で計上し、その後リース期間にわたり定額法で純損益に計上している。

## 外貨

当社グループ内の各企業の財務諸表の作成にあたり、各企業の機能通貨以外の通貨(外貨)で行われた取引は、取引日の為替レートで認識している。外貨建貨幣性項目は、報告期間末現在の為替レートで換算替えを行っている。外貨建非貨幣性項目については取得原価で測定し、換算替えは行っていない。貨幣性項目に係る為替差額は、発生した期間の純損益に認識している。

連結財務諸表の表示上、当社グループの在外営業活動体の資産及び負債は、各報告期間末日現在の為替レートで当社グループの表示通貨(即ち、人民元)に換算している。収益及び費用項目は、期中平均為替レートで換算している。為替差額が生じた場合には、その他の包括利益に認識し、為替換算剰余金の科目で資本に累積し、適宜、非支配持分に帰属させている。



## 借入コスト

適格資産(即ち、意図した使用又は販売が可能となるために相当の期間を要する資産)の取得、建設又は生産に直接起因する借入コストは、当該資産の意図した使用又は販売が実質的に可能となるまで、当該資産の原価の一部として資産化している。その他の借入コストはすべて、発生した期間に費用計上している。

## 政府補助金

政府補助金は、当社グループが当該補助金に付帯する条件を遵守すること、及び当該補助金を受け取ることにに関して合理的な保証が得られるまで認識していない。

政府補助金は、当該補助金で補償することを意図している関連コストを、当社グループが費用として認識する期間にわたり、定期的に純損益に認識している。具体的には、政府補助金の主要な条件が当社グループが非流動資産を購入、建設又はその他の方法で取得することである場合、当該補助金は、連結財政状態計算書上、繰延収益として認識され、当該関連資産の耐用年数にわたり規則的かつ合理的に純損益に振り替えられる。

既に発生した費用又は損失に対する補償として、又は当社グループに緊急に財政的支援を与える目的で受け取る予定の政府補助金のうち将来の関連コストを伴わないものについては、受け取ることになった期間の純損益に認識している。

## 退職給付費用

公的退職給付制度及び政府の認可を受けた補完的な確定拠出制度への支払は、従業員が拠出に対する権利を生じさせる勤務を提供した時点で、費用として認識している。

## 税金

法人所得税費用は、納付すべき当期の税額と繰延税金の合計である。

納付すべき当期の税額は、当期の課税所得に基づいている。課税所得は、連結純損益及びその他の包括利益計算書で報告している「税引前利益」とは異なる。これは、当期以外の期間に益金算入又は損金算入される収益又は費用項目、及び永久に益金算入又は損金算入されない項目が存在するためである。当社グループの当期税金は、報告期間末までに制定され又は実質的に制定されている税率を使用して算定している。

繰延税金は、連結財務諸表上の資産及び負債の帳簿価額と、課税所得の算定に用いた対応する税務基準額との間の一時差異に関して認識している。通常、将来加算一時差異についてはすべて繰延税金負債を認識している。繰延税金資産は、通常、将来減算一時差異を利用できる課税所得が生じる可能性が高い範囲内で、すべての将来減算一時差異について認識している。一時差異が、課税所得にも会計上の利益にも影響しない取引における資産及び負債の当初認識(企業結合を除く。)から生じている場合には、繰延税金資産及び負債の認識は行わない。また、一時差異がのれんの当初認識から生じている場合にも、繰延税金負債の認識は行わない。

子会社及び関連会社に対する投資に関する将来加算一時差異について、繰延税金負債を認識している。但し、当社グループが当該一時差異の解消をコントロールでき、かつ一時差異が予測可能な期間内に解消しない可能性が高い場合は除く。当該投資及び持分に関する将来減算一時差異から生じる繰延税金資産については、当該一時差異の便益を活用できる十分な課税所得が生じる可能性が高く、かつ予測可能な期間に当該一時差異が解消する可能性が高い範囲に限り認識している。

繰延税金資産の帳簿価額は、報告期間末ごとに再検討し、繰延税金資産の全額又は一部を回収するに十分な課税所得を稼得できる可能性が高くなった範囲で、当該帳簿価額を減額している。未認識の繰延税金資産については、報告期間末ごとに再検討を行い、繰延税金資産の全額又は一部を回収できる将来課税所得を稼得できる可能性が高くなった範囲で認識している。

繰延税金資産及び繰延税金負債は、当報告期間末までに制定され又は実質的に制定されている税率(及び税法)に基づき、当該負債が決済される期又は当該資産が実現する期に適用されると予想される税率で算定している。

繰延税金負債及び繰延税金資産の測定には、当社グループが報告期間末時点で、資産及び負債の帳簿価額の回収又は決済を見込んでいる方法から生じる税務上の帰結が反映されている。

当期税金及び繰延税金は純損益に認識している。但し、その他の包括利益又は資本に直接認識している項目に関連する当期税金又は繰延税金については、それぞれ、その他の包括利益又は資本に直接認識している。当期税金及び繰延税金が企業結合の当初の会計処理から生じたものである場合、その税効果は企業結合の会計処理に含めている。

## 有形固定資産

有形固定資産は、財若しくはサービスの生産若しくは供給、又は管理目的で保有している自由保有地及び建物、採掘構造物及び採掘権、並びに採掘関連の機械装置及び設備等で構成されており、連結財政状態計算書上、取得原価(取得後の減価償却累計額及び減損損失累計額(該当ある場合)控除後)で計上している。

減価償却費は、有形固定資産項目(自由保有地及び建設仮勘定を除く。これらは減損の判定対象となる。)の取得原価から残存価額を控除した額を見積耐用年数にわたり償却することで認識している。見積耐用年数、残存価額及び減価償却方法は、各報告期間末において再検等し、見積りの変更による影響は将来に向かって会計処理している。

有形固定資産(自由保有地、並びに採掘構造物及び採掘権を除く。)は、以下の償却率(年率)に基づき定額法で減価償却している。

区分	償却期間(年数)
建物	10-50年
採掘関連の機械装置及び設備	5-20年
発電機関連の機械装置及び設備	20年
鉄道及び港湾	30-45年
船舶	10-25年
石炭化学関連の機械装置及び設備	10-20年
器具、備品、車両及びその他の設備	5-20年

取締役は、当社グループの類似資産の過去の実績を基に、予想される技術的变化を考慮して、資産の見積耐用年数について毎年再検討を行っている。

生産、供給又は管理目的の使用を意図した建設仮勘定は、取得原価(認識済みの減損損失控除後)で計上している。取得原価には専門家報酬が含まれており、適格資産に係る取得原価には、当社グループの会計方針に従い資産化した借入コストが含まれている。当該資産は、完成し意図した使用が可能となった時点で、有形固定資産の適切な区分に分類している。当該資産の減価償却は、他の有形固定資産と同一の基準に基づき、当該資産の意図した使用が可能となった時点で開始している。

有形固定資産項目は、処分時又は当該資産の継続的使用から将来の経済的便益の発生が期待されなくなった時点で、認識の中止を行っている。有形固定資産項目の処分又は除却により生じる利得又は損失は、当該資産の売却収入額と帳簿価額の差額として算定し、純損益に認識している。

## 採掘構造物及び採掘権

採掘構造物及び採掘権の取得原価(採掘構造物及び採掘権の取得及び開発に係るコストを含む。)は、発生事業年度において、まず「建設仮勘定」に資産計上し、その後商業生産に向けた使用が可能となった時点で、有形固定資産の「採掘構造物及び採掘権」に振り替えている。

採掘構造物及び採掘権は、確認可採石炭埋蔵量を減価の基準として利用した、生産高比例法で減価償却している。

当社グループの採掘権は、現在の生産計画を基に全埋蔵量を採掘できる十分な期間(又は十分な期間を確保するために更新する法的権利)を有している。

生産開始前に鉱山(又は採掘場)開発のために発生した剥土コスト、又は生産フェーズにおいて鉱体の構成部分へのアクセスを改善するために発生した剥土コストは、鉱山(又は採掘場)の建設コストの一部として資産計上し、その後鉱山(又は採掘場)の耐用年数にわたり生産高比例法で償却している。鉱体の生産段階で発生した剥土コスト及び主に発破、運搬、掘削等に係る費用で構成される副次的な開発支出は、発生時に純損益に計上している。

商業埋蔵量とは、確認可採埋蔵量である。生産高比例法の計算に影響を及ぼす商業埋蔵量の増減については、見直し後の残存埋蔵量を基に将来に向かって反映させている。

## 探査及び評価資産

探査及び評価資産は、以下の通り、鉱物資源の調査、技術的可能性の判断及び識別した資源の経済的実行可能性の評価に直接起因するコストで構成されている。

- ・ 過去の探査データの調査及び分析
- ・ 地勢的、地理的及び地球物理学的研究を通じた探査データの収集
- ・ 探査向け掘削、トレンチ作業及び標本採取
- ・ 資源の量及び質の確認及び検査
- ・ 輸送及びインフラ要件の調査
- ・ 市場及び財源に関する調査の実施

プロジェクト初期の探査の準備段階における支出は、発生時に純損益に計上している。探査及び評価コスト(認可取得コストを含む。)については、プロジェクトの技術的可能性及び経済的実行可能性の判断が確定するまで、プロジェクトごとに探査及び評価資産として資産計上している。

技術的可能性に関する最終調査が完了し開発を決定した場合、資産計上していた権益領域の探査及び評価に関する支出累計額は、有形固定資産に振り替えている。権益領域を放棄又は経済的実行可能性がないと経営者が判断した場合には、当該判断を行った期間に当該権益領域に係る支出累計額を取り崩している。

## 土地の埋戻しに係る債務

当社グループの土地の埋戻しに係る債務は、中国の規則に基づき、露天掘り鉱山及び坑内掘り鉱山の両方に関する支出の見積額で構成されている。当社グループは、土地の埋戻し及び鉱山の閉鎖に係る負債について、必要な作業を実施するための将来の現金支出額及びその時期に関する詳細な計算を基に見積りを行っている。支出の見積額はインフレにより増加し、また引当額が当該債務の決済に必要なと予想される支出の現在価値を反映するように、当該支出の見積額を貨幣の時間価値と当該負債に固有のリスクに関する現在の市場評価を反映した割引率で割り引いている。当社グループは、最終的な埋戻し及び鉱山の閉鎖に係る負債と関連して、対応する資産を計上している。当該債務及び対応する資産は、当該負債が発生した期間に認識している。当該資産は見積耐用年数にわたり生産高比例法で償却され、当該負債は支出が見込まれる日まで累積される。見積りに変更(鉱山計画の見直し、コストの見積額の変更又は埋戻し作業を実施する時期の変更等)が生じた場合、当該債務及び対応する資産の見直し後の金額は、適切な割引率を用いて認識している。

事後的な用地の損傷に係る復旧費用のうち生産期間中に継続的に生じるものは、採掘の進捗に応じて正味現在価値で引当額を測定し純損益に費用計上している。用地の復旧費用が重要でないと予想される場合には、発生時に費用処理している。

## 無形資産

### 個別に取得した無形資産

個別に取得した無形資産で耐用年数を確定できるものは、取得原価(償却累計額及び減損損失累計額控除後)で計上している。耐用年数を確定できる無形資産は、見積耐用年数にわたり定額法で償却している。見積耐用年数及び償却方法は各報告期間末において再検討し、見積りの変更による影響は将来に向かって会計処理している。

### 自己創設無形資産 - 研究開発支出

研究活動に係る支出は、発生した期間に費用として認識している。

開発活動(又は内部プロジェクトの開発局面)から生じた自己創設無形資産は、次のすべてを立証できる場合に、かつ、その場合にのみ認識している。

- ・ 使用又は売却できるように無形資産を完成させることの技術上の実行可能性
- ・ 無形資産を完成させ、さらにそれを使用又は売却するという企業の意図
- ・ 無形資産を使用又は売却できる能力
- ・ 無形資産が蓋然性の高い将来の経済的便益を創出する方法
- ・ 無形資産の開発を完成させ、さらにそれを使用又は売却するために必要となる、適切な技術上、財務上及びその他の資源の利用可能性
- ・ 開発期間中の無形資産に起因する支出を、信頼性をもって測定できる能力

自己創設無形資産に係る当初認識額は、無形資産が上記の認識基準を最初に満たした日以降に発生した支出の合計となる。自己創設無形資産を認識することができない場合には、開発支出は、発生した期間の純損益に認識している。

当初認識後、自己創設無形資産は、個別に取得した無形資産と同一の基準に基づき、取得原価(償却累計額及び減損損失累計額(該当ある場合)控除後)で測定している。

### 企業結合で取得した無形資産(共通支配下の企業結合を除く。)

企業結合で取得した無形資産は、のれんとは区別して認識し、取得日現在の公正価値(これらの取得原価とみなされる。)で当初認識している。

当初認識後、企業結合で取得した耐用年数を確定できる無形資産は、個別に取得した無形資産と同様に、取得原価(償却累計額及び減損損失累計額(該当ある場合)控除後)で計上している。

### 無形資産の認識の中止

無形資産については、処分時、又は使用又は処分から将来の経済的便益の発生が期待されなくなった時点で認識を中止している。無形資産の認識の中止により生じる利得又は損失は、当該資産の正味処分収入額と帳簿価額との差額で測定し、当該資産の認識を中止した期間の純損益に認識している。

### 有形固定資産及びのれん以外の無形資産の減損

減損の兆候が存在する場合には、該当資産につき回収可能価額の見積りを行っている。資産の回収可能価額とは、資産の使用価値と処分コスト控除後の公正価値のいずれか高い金額であり、資産ごとに算定している。但し、当該資産が、他の資産又は資産グループからのキャッシュ・インフローとは概ね独立したキャッシュ・インフローを生成しない場合、回収可能価額は、当該資産の属する資金生成単位について算定している。

減損損失は、資産の帳簿価額が回収可能価額を超過する場合に限り認識している。使用価値の算定にあたっては、将来キャッシュ・フローの見積りを税引前の割引率で現在価値に割り引いている。この割引率は、貨幣の時間価値と、当該資産に固有のリスクのうち将来キャッシュ・フローの見積りを調整していないものについての現在の市場評価を反映している。減損損失は、その他の利得及び損失として純損益に計上している。

各報告年度末において、過去の期間に認識した減損損失がもはや存在しないか又は減少している可能性を示す兆候があるかについて、判定を行っている。そのような兆候が存在する場合には、回収可能価額の見積りを行っている。過去の期間に認識した減損損失は、当該資産の回収可能価額の算定に用いた見積りに変更があった場合にのみ、戻し入れている。但し、当該戻入れの額は、過去の期間において当該資産について認識した減損損失がなかったとした場合の(減価償却又は償却控除後の)帳簿価額を超えない。当該減損損失の戻入額は、発生した年度の純損益に貸方計上している。

## 棚卸資産

棚卸資産は、原価と正味実現可能価額とのいずれか低い額で測定している。棚卸資産の原価は加重平均法で計算している。正味実現可能価額とは、見積売価から、完成までに要する原価の見積額及び販売に要するコストの見積額のすべてを控除した額である。

## 引当金

当社グループは、過去の事象の結果として現在の債務(法的又は推定的)を有しており、当社グループが当該債務の決済を行うことが必要となる可能性が高く、かつ当該債務の金額について信頼性のある見積りができる場合に、引当金を認識している。

引当金は、当報告期間末において現在の債務を決済するのに必要な対価に関する最善の見積額で測定し、当該債務を取り巻くリスク及び不確実性を考慮に入れている。引当金が、現在の債務の決済に見込まれるキャッシュ・フローを用いて測定される場合、その帳簿価額は当該キャッシュ・フローの現在価値となる(貨幣の時間価値の影響に重要性がある場合)。

引当金の決済に必要な経済的便益の一部又は全部が第三者から回収される見込みであり、補填を受けることがほぼ確実で、かつ回収可能額につき信頼性のある測定が可能な場合には、当該回収可能額を資産として認識している。

## 金融商品

金融資産及び金融負債は、当社グループの企業が金融商品の契約条項の当事者になった場合に認識している。

金融資産及び金融負債は、公正価値で当初測定している。金融資産又は金融負債(純損益を通じて公正価値で測定する金融資産及び金融負債を除く。)の取得又は発行に直接起因する取引コストは、当初認識時の金融資産又は金融負債の公正価値に加算又は減算している。純損益を通じて公正価値で測定する金融資産又は金融負債の取得に直接起因する取引コストは、純損益に即時認識している。

## 実効金利法

実効金利法とは、金融商品の償却原価を計算し、関係する期間に金利収益を配分する方法である。実効金利とは、当該金融商品の予想残存期間(場合によっては、それより短い期間)を通じての、将来の現金受取額の見積額(実効金利の不可分の一部である授受されるすべての手数料及びポイント、取引コスト、及びその他のプレミアム又はディスカウントを含む。)を、当初認識時に正味帳簿価額まで正確に割り引く利率である。

負債性金融商品の受取利息は、実効金利法に基づき認識している。

## 金融資産

IAS第39号の範囲内の金融資産は、純損益を通じて公正価値(以下「FVTPL」という。)で測定する金融資産、満期保有投資、貸付金及び債権、並びにAFS金融資産に分類される。当社グループは、金融資産をその性質及び目的に基づき、当初認識時に分類している。通常の方法による金融資産の売買は、取引日ごとに認識及び認識の中止を行っている。通常の方法による金融資産の売買とは、市場における規則又は慣行により設定されている期間内での資産の引渡しが要求されている金融資産の購入又は売却である。

当社グループの金融資産としては、FVTPLで測定する金融資産、満期保有投資、貸付金及び債権、並びにAFS金融資産がある。金融資産の事後測定は、その分類に応じて以下のように行っている。

### FVTPLで測定する金融資産

金融資産を売買目的で保有又はFVTPLに指定している場合、当該金融資産はFVTPLに分類される。当該金融資産は公正価値で測定し、再測定により生じた利得又は損失(稼得した利息を除く。)は純損益に認識し、その他の利得又は損失の科目に計上している。

金融資産は、次のいずれかに該当する場合、売買目的保有に分類される。

- ・ 主として短期間に売却又は買戻しを行う目的で取得した。
- ・ 当初認識時において、当社グループがまとめて管理し、かつ、最近における実際の短期的な利益獲得のパターンの証拠がある識別された金融商品のポートフォリオの一部である。
- ・ デリバティブである(指定された有効なヘッジ手段であるデリバティブを除く)。

### 満期保有投資

満期保有投資とは、固定又は決定可能な支払金額と固定の満期を有する、デリバティブ以外の金融資産のうち、活発な市場での相場価格があり、当社グループが満期まで保有する明確な意図と能力を有するものである。

当初認識後、満期保有投資は、実効金利法による償却原価(減損損失控除後)で測定している。

### 貸付金及び債権

貸付金及び債権とは、支払額が固定又は決定可能なデリバティブ以外の金融資産のうち、活発な市場での相場価格がないものである。当初認識後、貸付金及び債権(売掛金及び受取手形、その他の債権、国家能源集団及び兄弟会社に対する貸付金、委託貸付金、拘束性預金、当初預入期間が3ヶ月超の定期預金並びに現金及び現金同等物を含む。)は、実効金利法による償却原価(識別済みの減損控除後)で測定している。

受取利息は、利息の認識に重要性がない短期債権を除き、実効金利を適用して認識している。

### AFS金融資産

AFS金融資産とは、デリバティブ以外の金融資産のうち、売却可能に指定されたもの、又はその他の金融資産に分類されないものである。AFS金融資産は、各報告期間末現在の公正価値で測定している(但し、相場価格がなく公正価値を信頼性をもって測定できない資本性投資を除く。)。AFS負債性商品の帳簿価額の変動のうち実効金利法により算定する受取利息に係る金額は、純損益に認識している。AFS資本性投資に係る配当は、当社グループの配当を受ける権利が確定した時点で純損益に認識している。AFS金融資産の帳簿価額のその他の変動については、その他の包括利益に認識し、「売却可能投資の公正価値変動額」に累

積している。当該投資を処分する又は当該投資が減損していると判断される場合には、これまで「売却可能投資の公正価値変動額」に計上していた累積利得又は損失は純損益に振り替えている。

非上場の資本性投資は、活発な市場における公表相場価格がなく、公正価値を信頼性をもって測定できないため、報告期間末現在の取得原価(識別済みの減損損失控除後)で測定している。非上場の資本性投資に係る配当金は、配当金を受領する当社グループの権利が確定した時点で、「収益認識」に記載した方針に基づき純損益に認識している。

#### 金融資産の認識の中止

当社グループは、金融資産からのキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅した場合、又は金融資産を他の企業に譲渡し、当該資産に係るリスクと経済価値のほとんどすべてを移転している場合に限り、当該金融資産の認識を中止している。当社グループが、譲渡した金融資産の所有に係るリスクと経済価値のほとんどすべてを保持している場合には、当該金融資産の認識を継続するとともに、受領した入金額については担保付借入金として認識している。

金融資産の認識を中止した時点で、当該金融資産の帳簿価額と、受け取った及び受取予定の対価とその他の包括利益に認識し資本に累積していた利得又は損失累計額の合計額との差額を、純損益に認識している。

#### 金融資産の減損

当社グループは、FVTPL以外の金融資産については、報告期間末ごとに減損の兆候の判定を行っている。金融資産の当初認識後に発生した1つ以上の事象の結果として、当該金融資産の見積将来キャッシュ・フローに影響が生じている客観的証拠がある場合に、当該金融資産は減損しているとみなされる。減損の客観的証拠としては、以下の事象が挙げられる。

- ・ 発行体又は相手先の著しい財政的困難
- ・ 利息又は元本の支払不履行又は遅滞等の契約違反
- ・ 借手が破産又は財務的再編を行う可能性が高くなったこと

取得原価で計上する金融資産の場合、減損損失の金額は、当該金融資産の帳簿価額と、類似の金融資産の現在の市場利回りで割り引いた見積将来キャッシュ・フローの現在価値との差額として測定している。当該減損損失は、以後の期間において戻し入れない。

償却原価で計上する金融資産の場合、減損損失の認識額は、当該金融資産の帳簿価額と、当該金融資産の当初の実効金利で割り引いた見積将来キャッシュ・フローの現在価値との差額となる。

貸倒引当金を用いて帳簿価額を減額している売掛金、その他の債権、国家エネルギー及び兄弟会社に対する貸付金並びに委託貸付を除くすべての金融資産に関して、減損損失は帳簿価額から直接減額している。売掛金、その他の債権、国家エネルギー及び兄弟会社に対する貸付金並びに委託貸付金は、回収不能と判断された時点で、貸倒引当金を相手勘定に償却している。過去に償却済みの金額のその後の回収額については、純損益に貸方計上している。

償却原価で測定する金融資産に関して、以後の期間において減損損失の額が減少し、その減少が減損を認識した後に発生した事象に客観的に関連付けることができる場合には、以前に認識した減損損失は純損益を通じて戻し入れている。但し、当該投資の帳簿価額の戻入は、当該帳簿価額が減損が認識されていなかったとした場合の減損を戻し入れた日現在の償却原価の金額を超過しない範囲で行っている。

AFS資本性投資の場合には、以前に純損益に認識した減損損失の純損益への戻入は行っていない。減損損失認識後の公正価値の増加額はその他の包括利益に認識し、「売却可能投資の公正価値変動額」に累積している。負債性証券に関しては、当該投資の公正価値の増加が減損損失を認識した後に発生した事象と客観的に関連付けることができる場合には、純損益を通じて戻入を行っている。

## 金融負債及び資本性金融商品

### 資本性金融商品

資本性金融商品とは、当社グループのすべての負債を控除した後の資産に対する残余持分を表す契約である。当社グループが発行した資本性金融商品は、直接発行コスト控除後の受領した入金額で認識している。

### 金融負債

IAS第39号の範囲内の金融負債は、FVTPL及び償却原価で測定する金融負債のいずれかに分類される。

当初認識後、当社グループの金融負債(借入金、買掛金及び支払手形、その他の債務、長期債務、中期社債及び社債を含む。)は、実効金利法を用いて償却原価で事後測定している。但し、割引の影響に重要性がない場合には、取得原価で計上している。利得及び損失は、金融負債の認識を中止した時点で、純損益に認識している。実効金利法による償却費は純損益の財務費用に計上している。

### 金融負債の認識の中止

当社グループは、その債務が免責、取消し、又は失効となった時に、かつ、その時にのみ、金融負債の認識の中止を行っている。認識の中止を行う金融負債の帳簿価額と、支払済及び支払予定の対価との差額は、純損益に認識している。

### デリバティブ金融商品

当社グループのデリバティブ金融商品は、クロスカレンシー為替スワップである。これについては、デリバティブ契約締結日の公正価値で当初認識し、報告期間末に公正価値で再測定し、利得又は損失を純損益に認識している。

## 4. 重要な会計上の判断及び見積りの不確実性の主要な発生要因

当社グループの会計方針(注記3に記載)の適用にあたり、取締役は、他の情報源から容易に明らかなでない資産及び負債の帳簿価額について、判断、見積り及び仮定を行うことが必要となる。見積り及び関連する仮定は、過去の実績及び関連性があると判断されるその他の要因が基礎となる。実際の結果はこれらの見積りと異なる場合がある。

見積り及び基礎となる仮定は、継続的に見直している。会計上の見積りの変更は、当該変更の影響が当該変更を行った期間にのみ及ぶ場合には、当該期間に認識し、当該変更の影響が当該変更を行った期間及び将来の期間の両方に及ぶ場合には、当該期間及び将来の期間に認識している。

### 4.1 会計方針の適用における重要な判断

以下は、見積りを伴う判断(以下注記4.2参照)を除き、取締役が当社グループの会計方針を適用する過程で行った重要な判断のうち、連結財務諸表に認識した金額に最も重要な影響を与えているものである。

#### 河北国華定洲発電有限責任公司(以下「定洲発電」という。)に対する支配

注記43では、当社の定洲発電に対する所有持分及び議決権は41%であるが、定洲発電は当社の子会社である旨の記載を行っている。残りの59%の所有持分及び議決権は、当社グループとは関係のない株主2名がそれぞれ19%及び40%を保有している。定洲発電の詳細については、注記43に記載している。

当該判断を行うにあたり、取締役は、定洲発電の他の株主が定洲発電の統治機関である取締役会の過半数の構成員を任命する権限を当社に委譲していたこと、及び当社が定洲発電の関連性のある活動を一方的に指図する実質上の能力を有していたことを考慮した。取締役は、当社が定洲発電の関連性のある活動を指図するに十分に支配的な議決持分を有していることから、当社は定洲発電に対する支配を有していると判断している。



## 4.2 見積りの不確実性の主要な発生要因

以下は、当報告期間末における、将来に関して行う主な仮定及び見積りの不確実性の他の主要な発生要因のうち、翌事業年度中に資産及び負債の帳簿価額に重要性のある修正を生じさせる重要なリスクのあるものである。

### 石炭埋蔵量

当社グループの石炭埋蔵量の技術的な見積りは本質的に不正確であり、当該情報の算出には主観的な判断を伴うため、当該見積りは概算量を示しているに過ぎない。技術的基準に関して権威ある指針は存在し、石炭埋蔵量の見積りが「確認」かつ「可採」であると指定されるためには、当該基準を満たす必要がある。確認可採石炭埋蔵量の見積りは定期的に見直しており、各鉱山に関する直近の生産データや技術的情報を考慮に入れている。また、価格及びコスト水準は毎年変化するため、確認可採石炭埋蔵量の見積りも変動する。この変動は、会計上の見積りの変更とみなされ、関連する償却率で将来に向かって反映させている。

このような技術上の見積りは本質的に不正確ではあるが、減価償却費及び減損損失の算定にこれらの見積りを使用している。償却率は、確認可採見積石炭埋蔵量を分母、資産計上した採掘構造物及び採掘権の取得原価を分子として算定している。資産計上した採掘構造物及び採掘権の取得原価は、石炭生産量に基づき償却している。

### 減損損失

当社グループの一定の資産(有形固定資産、建設仮勘定、関連会社に対する持分を含む。)について減損損失の検討が要求される場合には、当該資産の回収可能価額の算定が必要となる。回収可能価額とは、処分コスト控除後の公正価値と使用価値のいずれか高い金額である。当該資産の市場相場価格は容易に入手できないことがあることから、公正価値を正確に見積ることは困難である。また、使用価値の算定においては、容易に入手可能な情報をすべて利用して、当該資産が属する資金生成単位から生じる予想キャッシュ・フローを算定し現在価値に割り引くが、これには販売量、販売価格、売上原価及び将来の返品額等のキャッシュ・フロー項目に関する重要な判断が必要となる。

流動債権及びその他の金融資産について減損損失の検討が要求される場合には、将来キャッシュ・フローの算定が必要となる。使用すべき主要な仮定の一つは、当該債権に関する債務者の支払能力である。

当社グループが減損損失の見積りを行う際に入手可能な情報をすべて使用したとしても、固有の不確実性は存在し、実際に評価減を行う金額は見積額を上回る又は下回る可能性がある。有形固定資産、建設仮勘定及び関連会社に対する持分の帳簿価額は、それぞれ注記15、16、及び19に開示している。

### 減価償却

採掘構造物及び採掘権以外の有形固定資産については、見積残存価額を考慮後、当該資産の見積耐用年数にわたり定額法で償却している。当社グループは、自社の類似資産の過去の実績を基に、予想される技術的变化を考慮して、資産の見積耐用年数及び残存価額を定期的に再検討している。従来に見積りに重要な変更が生じた場合には、将来の期間について減価償却費の調整を行っている。有形固定資産の帳簿価額は、注記15に開示している。

### 繰延税金資産

2017年12月31日現在、当社グループの連結財政状態計算書上、繰延税金資産3,798百万人民元(2016年度:3,849百万人民元)を認識している。税務上の欠損金7,268百万人民元(2016年度:6,869百万人民元)及び将来減算一時差異6,555百万人民元(2016年度:5,804百万人民元)については、将来の経済的便益の流入が予測不能であるため、繰延税金資産を認識していない。繰延税金資産の回収可能性は、主に、将来十分な利益又は将来減算一時差異が発生するかによる。将来、利益の実際発生額が予想を上回った又は下回った場合には、金額的に重要な繰延税金資産の取崩又は追加計上が発生する可能性があり、当該金額は取崩等が発生した期の純損益に認識している。

**土地の埋戻しに係る債務**

最終的な埋戻し及び鉱山の閉鎖に係る負債の見積りには、将来の現金支出額及びその時期に関する見積り、並びに貨幣の時間価値と当該負債に固有のリスクに関する現在の市場評価を反映した割引率が必要となる。当社グループは、鉱山の開発計画、採掘地域の地質構造並びに埋蔵量等の要因を考慮して、実施すべき埋戻し及び鉱山閉鎖作業の範囲、金額及び時期を決定している。これらの要因の影響の測定には、当社グループの判断を伴い、当該負債の見積額は発生する実際の支出額とは異なる場合がある。また、当社グループが使用する割引率も、貨幣の時間価値と、当該負債に固有のリスク(市場の借入金利及びインフレ率の変動等)に関する現在の市場評価の変化を反映させるべく変更する場合がある。見積りに変更(鉱山計画の見直し、コストの見積りの変更又は埋戻し作業を実施する時期の変更等)が生じた時点で、当該債務の見直しを適切な割引率を用いて認識している。当該債務の帳簿価額は、注記34に開示している。

[次へ](#)

## 5. 売上高

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
石炭売上高	150,740	98,126
電力売上高	78,246	68,935
輸送売上高	6,076	4,610
石炭化学売上高	5,085	4,293
	240,147	175,964
その他の売上高	8,599	7,163
	248,746	183,127

## 6. セグメント及びその他の情報

当社グループは部門毎に事業を営んでおり、部門は業務内容(製品及び業務)別に組織されている。当社グループは、以下の6つ(2016年度:6つ)の報告セグメントを表示しているが、これは資源の配分及び業績評価を行うために、当社グループの最高経営意思決定責任者(総裁、上級副総裁及び最高財務責任者を含む。)(以下「CODM」という。))に対して行われる内部報告の方法と一致している。以下の報告セグメントに集計されていない事業セグメントはない。

- (1) 石炭事業 - 露天掘り及び坑内掘り鉱山から石炭を生産し、外部顧客、電力事業セグメント及び石炭化学事業セグメントに石炭を販売している。当社グループは、定期的な価格調整が可能な長期の石炭供給契約に基づき石炭販売を行うとともに、スポット市場での販売も行っている。
- (2) 電力事業 - 石炭事業セグメントから調達した石炭及び外部仕入先から購入した石炭を利用した石炭火力発電、風力発電、水力発電及びガス発電による電力を、石炭事業セグメント及び外部顧客に販売している。電力は、関連政府機関が認可した予定出力に基づく料金単価で送電会社に販売している。予定出力を超えて発電した電力は、各送電会社と合意した料金単価で販売している。この料金単価は、通常、予定出力に対する料金単価を下回る。
- (3) 鉄道事業 - 石炭事業セグメント、電力事業セグメント、石炭化学事業セグメント及び外部顧客に対して、鉄道輸送業務を提供している。石炭事業セグメント、電力事業セグメント、石炭化学事業セグメント及び外部顧客に対する請求運賃は同一であり、当該運賃は関連政府機関が認可した上限額を超過していない。
- (4) 港湾事業 - 石炭事業セグメント及び外部顧客に対して、荷役、輸送、及び保管業務を提供している。当社グループは、関連政府機関が審査し、認可した役務料及びその他の費用を請求している。
- (5) 海運事業 - 電力事業セグメント、石炭事業セグメント及び外部顧客に対して、船積輸送業務を提供している。電力事業セグメント、石炭事業セグメント及び外部顧客に対する請求運賃は同一である。
- (6) 石炭化学事業 - 石炭事業セグメントから調達した石炭を利用してメタノールを生産し、さらにポリエチレン及びポリプロピレンに加工し、他の副産物とともに外部顧客に販売している。当社グループは、ポリエチレンをスポット市場で販売している。

## 6.1 セグメント別業績

当社グループのCODMは、セグメントの業績評価及びセグメント間の資源配分を行うために、税引前利益に基づいた各報告セグメントに帰属する利益(以下「報告セグメント利益」という。)についてモニターしている。セグメント利益は、本社及び全社項目を配分していない、各セグメントが稼得した利益である。セグメント間売上高は、主に外部顧客に対する請求レートと同一の市場実勢レートで計上している。

資源配分及びセグメント業績評価のために当社グループのCODMに対して提供した当社グループの2017年及び2016年12月31日終了事業年度の報告セグメント情報は、以下の通りである。

	石炭		電力		鉄道		港湾		海運		石化化学		セグメント合計	
	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年
	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元
外部顧客売上高	155,370	102,283	79,246	69,613	5,615	4,174	788	575	698	380	5,681	4,831	247,398	181,856
セグメント間 売上高	40,548	29,074	265	237	31,971	29,356	4,929	4,465	2,549	1,732	-	-	80,262	64,864
報告セグメント 売上高	195,918	131,357	79,511	69,850	37,586	33,530	5,717	5,040	3,247	2,112	5,681	4,831	327,660	246,720
報告セグメント 利益	46,062	16,084	5,585	10,001	16,480	13,283	2,580	2,049	620	192	481	5	71,808	41,614
うち:														
支払利息	1,452	1,517	2,284	1,882	1,028	1,189	397	433	59	86	120	197	5,340	5,304
減価償却費 及び償却費	7,703	7,936	10,059	9,550	4,858	4,635	1,266	1,037	293	292	913	938	25,092	24,388
関連会社の純 利益に対する 持分	266	50	213	153	-	-	17	8	-	-	-	-	496	211
減損損失	1,540	823	1,141	1,855	27	2	9	-	-	31	24	60	2,741	2,771

## 6.2 2017年及び2016年12月31日終了事業年度の報告セグメントの売上高、税引前利益及びその他の損益項目の調整

	報告セグメントの 金額		配分不能本社及び 全社項目		セグメント間消去		連結	
	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年
	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元
売上高	327,660	246,720	2,388	2,237	(81,302)	(65,830)	248,746	183,127
税引前純利益	71,808	41,614	1,463	154	22	(515)	73,293	41,253
支払利息	5,340	5,304	1,660	1,920	(2,090)	(2,162)	4,910	5,062
減価償却費及び償却費	25,092	24,388	248	333	-	-	25,340	24,721
関連会社の純利益に対する持分	496	211	38	26	-	-	534	237
減損損失	2,741	2,771	(22)	44	-	(8)	2,719	2,807

## 6.3 地域別情報

下表は、地域別の( )当社グループの外部顧客売上高、及び( )当社グループの有形固定資産、建設仮勘定、探査及び評価資産、無形資産、関連会社に対する持分、その他の非流動資産並びにリース前払金(以下「特定非流動資産」という。)に関する情報である。顧客の地域は、役務の提供又は製品の引渡しが行われた場所を基準としている。特定非流動資産の地域は、有形固定資産、建設仮勘定及びリース前払金については資産の物理的な所在地を基準としており、探査及び評価資産、無形資産、その他の非流動資産並びに関連会社に対する持分については事業の所在地を基準としている。

	外部顧客売上高		特定非流動資産	
	2017年 12月31日 終了事業年度	2016年 12月31日 終了事業年度	2017年 12月31日現在	2016年 12月31日現在
	百万人民元	百万人民元	百万人民元	百万人民元
国内市場	245,230	179,859	406,565	412,502

海外市場	3,516	3,268	17,204	9,113
	248,746	183,127	423,769	421,615

#### 6.4 主要な顧客

当社グループにおいて、単一の顧客に対する売上高が当社グループの売上高の10%を超過しているものはない。当社グループの顧客の一部は中国政府が支配若しくは共同支配又は重要な影響を有している企業(以下「政府関連企業」という。)であり、これらをまとめて当社グループの主要な顧客とみなしている。当社グループの石炭セグメント及び電力セグメントにおける主要な顧客に対する売上高は、当社グループの売上高のうち174,515百万人民元(2016年度:137,294百万人民元)となっている。

[次へ](#)

## 6.5 その他の情報

2017年及び2016年12月31日終了事業年度の当社グループのセグメントに関するその他の情報は、以下の通りである。

	石炭		電力		鉄道		港湾		海運		石炭化学		配分不能項目		消去		合計	
	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年
	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万
	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元
石炭購入高	49,950	26,286	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49,950	26,286
石炭生産原価	40,305	36,584	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(7,352)	(7,664)	32,953	28,920
石炭輸送原価	49,726	42,221	-	-	15,153	14,708	2,565	2,271	1,130	948	-	-	-	-	(39,449)	(44,060)	29,125	16,088
電力原価	-	-	67,756	53,456	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(32,245)	(12,352)	35,511	41,104
石炭化学製造原価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,376	3,797	-	-	(1,344)	(401)	3,032	3,396
その他	3,480	4,313	632	483	3,479	2,642	315	252	1,342	759	592	533	49	67	-	-	9,889	9,049
売上原価合計	143,461	109,404	68,388	53,939	18,632	17,350	2,880	2,523	2,472	1,707	4,968	4,330	49	67	(80,390)	(64,477)	160,460	124,843
営業利益																		
(注( ))	46,051	17,017	7,399	11,689	17,675	15,000	2,529	2,302	661	266	560	254	1,536	1,261	(912)	(1,345)	75,499	46,444
非流動資産の増加																		
(注( ))	4,566	5,835	15,226	17,829	5,384	3,819	722	1,746	8	7	106	95	188	47	-	-	26,200	29,378
資産合計																		
(注( ))	225,672	198,140	215,910	207,879	129,829	125,152	24,211	22,489	7,865	8,038	10,982	11,621	381,056	377,853	(423,923)	(374,443)	571,602	576,729
負債合計																		
(注( ))	(114,713)	(116,711)	(152,157)	(134,519)	(65,772)	(65,396)	(10,607)	(10,135)	(1,527)	(2,063)	(3,619)	(4,686)	(169,782)	(137,179)	325,680	278,929	(192,497)	(191,760)

注:

(i) 営業利益は、売上高から売上原価、販売費、一般管理費及び減損損失を控除して計算している。

( ) 非流動資産から金融商品及び繰延税金資産が除外されている。

( ) 資産合計の配分不能項目には、繰延税金資産及びその他の配分不能全社資産が含まれている。負債合計の配分不能項目には、繰延税金負債及びその他の配分不能全社負債が含まれている。

[次へ](#)

## 7. 売上原価

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
石炭購入高	49,950	26,286
原材料費、燃料費及び電力料	19,523	16,405
労務費	13,842	12,661
減価償却費及び償却費	21,576	21,744
維持修繕費	9,938	9,509
輸送費	14,326	10,172
税金及び賦課金	9,640	6,922
その他の営業費用	21,665	21,144
	160,460	124,843

## 8. 受取利息/財務費用

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
以下に係る受取利息:		
- 預金	959	691
- その他の貸付金及び債権	246	32
受取利息合計	1,205	723
以下に係る支払利息:		
- 借入金	4,264	3,896
- 短期社債	-	18
- 中期社債	954	1,289
- 社債	311	329
FVTPLで測定する金融負債以外に係る		
財務費用合計	5,529	5,532
控除:資産化額	799	643
	4,730	4,889
割引の振戻し	180	173
為替差(益)損(純額)	(494)	688
金融商品の公正価値の変動	-	(2)
財務費用合計	4,416	5,748
財務費用(純額)	3,211	5,025

一般目的で借り入れた資金プールについて発生した借入コストの当期資産化額は、適格資産に係る支出に対して、2.48%から4.81% (2016年度:2.48%から4.63%)の資産化率を適用して計算している。

## 9. 法人所得税費用

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
当期税金(主に中国の企業所得税(以下「EIT」という。))	14,172	10,378
過年度税金引当過少額	1,981	161
繰延税金	2	(1,256)
	16,155	9,283

当期税金費用は、連結純損益及びその他の包括利益計算書上の税引前利益に対して、以下のように調整可能である。

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
税引前利益	73,293	41,253
中国の法人所得税の税率25%(2016年度:25%):	18,323	10,313
税率への影響:		
-支店及び子会社の税率差異	(4,802)	(2,209)
-損金不算入の費用	572	636
-益金不算入の収益	(175)	(65)
-関連会社の純利益に対する持分	(128)	(59)
-過年度未認識の税務上の欠損金の使用及び将来減算一時差異の解消	(518)	(190)
-未認識の税務上の欠損金及び将来減算一時差異	905	704
-過年度追徴税	1,981	161
-その他	(3)	(8)
法人所得税費用	16,155	9,283

中国の企業所得税法(以下「EIT法」という。)及びEIT法施行令に基づく、中国のグループ企業に適用される税率は、25%(2016年度:25%)である。但し、当社グループの在外子会社及び在外支店、並びに中国の西部開発地区で事業を行う当社グループの子会社(2011年から2020年まで優遇税率15%の適用が認められている。)を除く。

当社グループの在外子会社に適用されている税率は、以下の通りである。

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	%	%
オーストラリア	30.0	30.0
インドネシア	25.0	25.0
ロシア	20.0	20.0
香港	16.5	16.5

これらの在外子会社については、2017年及び2016年12月31日終了事業年度に重要な課税所得が生じなかったため、未払法人所得税の計上は行っていない。



## 10. 当期純利益

当期純利益には、以下の項目(借方(貸方))が含まれている。

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
人件費(以下を含む。)	25,693	20,844
- 確定拠出制度に対する拠出額		
(2,886百万人民元(2016年度:2,728百万人民元))		
有形固定資産の減価償却費	23,521	22,813
無形資産の償却費(売上原価に計上)	449	414
リース前払金の償却費(売上原価に計上)	498	429
その他の非流動資産の償却費	872	1,065
減価償却費及び償却費	25,340	24,721
その他の利得及び損失		
- 有形固定資産、探査及び評価資産、無形資産並びに非流動資産の処分(益)損	(317)	304
- 関連会社処分利得	-	(17)
- 子会社処分損(益)	1	(5)
- 売却可能投資処分益	(535)	-
- デリバティブ金融商品処分益	(7)	(11)
- デリバティブ金融商品の公正価値の変動による損失	19	-
- 売却可能投資の減損	65	-
- 関連会社に対する持分の減損	1	1
- 有形固定資産の減損	1,511	1,725
- 建設仮勘定の減損	175	22
- リース前払金の減損	22	-
- 貸付債権の減損(減損の戻入れ)	(8)	22
- 貸倒引当金繰入額	847	388
- 棚卸資産評価損	106	551
- のれんの減損	-	98
	1,880	3,078
販売した棚卸資産の帳簿価額	116,464	86,149
有形固定資産のオペレーティング・リース料	345	301
監査報酬		
- 監査業務	30	32

## 11. 取締役、監査役及び最高執行責任者に対する報酬

上場規則及びCOに基づく各取締役及び上級管理職の報酬に関する開示は、以下の通りである。

	2017年12月31日終了事業年度				
	報酬	基本給、住宅 手当及びその 他の手当並び に現物給付	変動賞与	退職制度に 係る拠出金	合計
	百万人民元	百万人民元	百万人民元	百万人民元	百万人民元
<b>取締役会会長</b>					
ジャン・ユジュオ(注( ))及び注( ))	-	-	-	-	-
小計	-	-	-	-	-
<b>業務執行取締役</b>					
リン・ウェン(注( ))	-	-	-	-	-
ハン・ジァングオ(注( ))	-	-	-	-	-
リ・ドン(注( ))	-	-	-	-	-
小計	-	-	-	-	-
<b>非業務執行取締役</b>					
チェン・ホンシェン(注( ))及び注( ))	-	-	-	-	-
ツァオ・ジービン(注( ))	-	-	-	-	-
小計	-	-	-	-	-
<b>独立非業務執行取締役</b>					
ファン・スー・ライ・タイ(注( ))	0.26	-	-	-	0.26
ゴン・ファジャン(注( ))	0.26	-	-	-	0.26
グオ・ペイジャン(注( ))	0.26	-	-	-	0.26
タム・ウェイ・チュウ(注( ))	0.19	-	-	-	0.19
ジャン・ポー(注( ))	0.19	-	-	-	0.19
ツォン・インジー(注( ))	0.19	-	-	-	0.19
小計	1.35	-	-	-	1.35
<b>監査役</b>					
ツァイ・リーチェン	-	0.46	0.40	0.08	0.94
ツォウ・ダーユー	-	0.48	0.38	0.08	0.94
シェン・リン	-	0.48	0.37	0.08	0.93
小計	-	1.42	1.15	0.24	2.81
合計					4.16

## 2016年12月31日終了事業年度

	報酬	基本給、住宅 手当及びその 他の手当並び に現物給付	変動賞与	退職制度に 係る拠出金	合計
	百万人民元	百万人民元	百万人民元	百万人民元	百万人民元
取締役会会長					
ジャン・ユジュオ(注( )及び注( ))	-	-	-	-	-
小計	-	-	-	-	-
業務執行取締役					
リン・ウェン(注( ))	-	-	-	-	-
ハン・ジアングオ(注( ))	-	-	-	-	-
リ・ドン(注( ))	-	-	-	-	-
小計	-	-	-	-	-
非業務執行取締役					
チェン・ホンシェン(注( )及び注( ))	-	-	-	-	-
ツァオ・ジービン(注( ))	-	-	-	-	-
小計	-	-	-	-	-
独立非業務執行取締役					
ファン・スー・ライ・タイ(注( ))	0.45	-	-	-	0.45
ゴン・ファジャン(注( ))	0.45	-	-	-	0.45
グオ・ペイジャン(注( ))	0.45	-	-	-	0.45
小計	1.35	-	-	-	1.35
監査役					
ツァイ・リーチェン	-	0.45	0.40	0.08	0.93
ツォウ・ダーユー	-	0.25	0.15	0.04	0.44
シェン・リン	-	0.46	0.38	0.08	0.92
タン・ニン(注( ))	-	-	0.05	-	0.05
小計	-	1.16	0.98	0.20	2.34
合計					3.69

変動賞与は、関連する人事方針に従い報酬委員会が決定している。

注:

( ) 2017年及び2016年12月31日終了事業年度において、これらの取締役の報酬は国家エネルギーグループが負担している。

( ) タム・ウェイ・チュウ氏は、2017年6月23日付で独立非業務執行取締役に任命された。

ジャン・ボー氏は、2017年6月23日付で独立非業務執行取締役に任命された。

ツォン・インジー氏は、2017年6月23日付で独立非業務執行取締役に任命された。

( ) ジャン・ユジュオ氏は、2017年3月27日付で取締役会会長を退任した。

チェン・ホンシェン氏は、2017年6月23日付で非業務執行取締役を退任した。

ファン・スー・ライ・タイ氏は、2017年6月23日付で独立非業務執行取締役を退任した。

ゴン・ファジャン氏は、2017年6月23日付で独立非業務執行取締役を退任した。

グオ・ペイジャン氏は、2017年6月23日付で独立非業務執行取締役を退任した。

( ) タン・ニン氏は、2016年6月17日付で監査役を退任した。同氏は、2015年12月31日終了事業年度に退職しており、退職後に得た報酬はなかった。2016年12月31日終了事業年度に同氏が受領した変動賞与は、過年度における同氏の功績に対する報酬である。

国家能源集団が負担した取締役又は監査役の報酬を除き、上記に示した業務執行取締役及び監査役の報酬は、主に当社及び当社グループの業務運営に関する役務に対する報酬である。

上記に示した独立非業務執行取締役の報酬は、主に当社の取締役としての役務に対する報酬である。

## 12. 従業員に対する報酬

当社グループの高額報酬者上位5名のうち、当社の取締役は該当なかった(2016年度:該当なし)。残る5名(2016年度:5名)の報酬は、以下の通りである。

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
基本給、住宅手当及びその他の手当並びに現物給付	2.31	2.23
変動賞与	2.12	2.13
退職制度に係る拠出金	0.41	0.40
	4.84	4.76

当該従業員の報酬は、以下の金額の範囲であった。

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
1,000,001香港ドルから1,500,000香港ドル	5	5

## 13. 配当金

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
当期に承認済及び支払済の配当金:		
2016年度最終配当額 - 普通株式1株当たり0.46人民元(2016年度:		
2015年度最終配当額0.32人民元)	9,149	6,365
2016年度特別配当額 - 普通株式1株当たり2.51人民元	49,923	-
	59,072	6,365

当報告期間末後に、取締役は、2017年12月31日終了事業年度の最終配当額として普通株式1株当たり0.91人民元(2016年12月31日終了事業年度:最終配当額0.46人民元、特別配当額2.51人民元)の議案の提出を行った。当該配当は、次の株主総会で株主の承認を受ける予定である。

#### 14. 1株当たり利益

基本的1株当たり利益の計算は、当社普通株主に帰属する当期純利益47,795百万人民元(2016年度:24,910百万人民元)及び事業年度の発行済株式数19,890百万株(2016年度:19,890百万株)を基に行っている。

2017年度及び2016年度ともに潜在的普通株式が存在しなかったため、希薄化後1株当たり利益の表示は行っていない。

## 15. 有形固定資産

	土地 及び 建物	採掘 構造物 及び 採掘権	採掘関連 の機械装 置及び設 備	発電機関連 の機械装置 及び設備	鉄道 及び 港湾	船舶	石炭化学 関連の機 械装置 及び設備	器具、備 品、車両 及び その他の 設備	合計
	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元
取得原価									
2016年1月1日現在	76,977	30,876	<b>66,040</b>	167,802	121,234	6,853	13,120	17,716	500,618
為替換算調整額	114	8	-	103	-	-	-	-	225
増加	28	2,609	689	153	685	-	8	16	4,188
建設仮勘定からの振替	5,232	246	1,045	10,403	2,476	27	134	67	19,630
処分、減少	(242)	(115)	(756)	(1,275)	<b>(946)</b>	-	(44)	(34)	(3,412)
総合的技術向上のための 建設仮勘定への振替	-	-	-	-	(152)	-	-	-	(152)
2016年12月31日現在	<b>82,109</b>	<b>33,624</b>	<b>67,018</b>	<b>177,186</b>	<b>123,297</b>	<b>6,880</b>	<b>13,218</b>	<b>17,765</b>	<b>521,097</b>
増加	<b>210</b>	<b>1,173</b>	<b>157</b>	<b>436</b>	<b>2,450</b>	<b>11</b>	<b>4</b>	<b>13</b>	<b>4,454</b>
建設仮勘定からの振替	<b>4,195</b>	<b>268</b>	<b>1,256</b>	<b>5,972</b>	<b>2,063</b>	<b>6</b>	<b>15</b>	<b>44</b>	<b>13,819</b>
調整	<b>(326)</b>	<b>1,245</b>	<b>(590)</b>	<b>(343)</b>	<b>42</b>	-	<b>(58)</b>	<b>2</b>	<b>(28)</b>
処分、減少	<b>(237)</b>	<b>(70)</b>	<b>(1,496)</b>	<b>(3,377)</b>	<b>(502)</b>	-	<b>(2)</b>	<b>(4)</b>	<b>(5,688)</b>
為替換算調整額	<b>(7)</b>	-	-	<b>(31)</b>	-	-	-	-	<b>(38)</b>
2017年12月31日現在	<b>85,944</b>	<b>36,240</b>	<b>66,345</b>	<b>179,843</b>	<b>127,350</b>	<b>6,897</b>	<b>13,177</b>	<b>17,820</b>	<b>533,616</b>
減価償却費及び減損									
2016年1月1日現在	<b>17,151</b>	<b>9,906</b>	<b>36,019</b>	<b>53,096</b>	<b>31,129</b>	<b>157</b>	<b>3,900</b>	<b>9,934</b>	<b>161,292</b>
為替換算調整額	<b>11</b>	-	-	<b>25</b>	-	-	-	-	<b>36</b>
当期計上額	<b>1,963</b>	<b>1,048</b>	<b>4,700</b>	<b>8,327</b>	<b>4,679</b>	<b>298</b>	<b>732</b>	<b>1,066</b>	<b>22,813</b>
減損損失(注( ))	<b>149</b>	-	<b>10</b>	<b>1,551</b>	-	-	<b>13</b>	<b>2</b>	<b>1,725</b>
建設仮勘定からの振替	<b>19</b>	-	<b>18</b>	-	-	-	<b>3</b>	-	<b>40</b>
処分、減少	<b>(43)</b>	<b>(84)</b>	<b>(655)</b>	<b>(1,022)</b>	<b>(640)</b>	-	<b>(5)</b>	<b>(23)</b>	<b>(2,472)</b>
総合的技術向上のための 建設仮勘定への振替	-	-	-	-	<b>(122)</b>	-	-	-	<b>(122)</b>
2016年12月31日現在	<b>19,250</b>	<b>10,870</b>	<b>40,092</b>	<b>61,977</b>	<b>35,046</b>	<b>455</b>	<b>4,643</b>	<b>10,979</b>	<b>183,312</b>
当期計上額	<b>1,892</b>	<b>1,294</b>	<b>4,373</b>	<b>8,954</b>	<b>4,860</b>	<b>302</b>	<b>752</b>	<b>1,094</b>	<b>23,521</b>
調整	<b>88</b>	<b>22</b>	<b>(58)</b>	<b>362</b>	<b>8</b>	-	<b>(11)</b>	<b>2</b>	<b>413</b>
減損損失(注( ))	<b>584</b>	<b>34</b>	<b>118</b>	<b>746</b>	<b>6</b>	-	<b>21</b>	<b>2</b>	<b>1,511</b>
処分、減少	<b>(100)</b>	-	<b>(1,405)</b>	<b>(3,175)</b>	<b>(400)</b>	-	<b>(2)</b>	<b>(4)</b>	<b>(5,086)</b>
為替換算調整額	<b>(7)</b>	-	-	<b>(18)</b>	-	-	-	-	<b>(25)</b>
2017年12月31日現在	<b>21,707</b>	<b>12,220</b>	<b>43,120</b>	<b>68,846</b>	<b>39,520</b>	<b>757</b>	<b>5,403</b>	<b>12,073</b>	<b>203,646</b>
帳簿価額									
2017年12月31日現在	<b>64,237</b>	<b>24,020</b>	<b>23,225</b>	<b>110,997</b>	<b>87,830</b>	<b>6,140</b>	<b>7,774</b>	<b>5,747</b>	<b>329,970</b>
2016年12月31日現在	62,859	22,754	26,926	115,209	88,251	6,425	8,575	6,786	337,785
2016年1月1日現在	59,826	20,970	30,021	114,706	90,105	6,696	9,220	7,782	339,326

注:

( ) 減損損失

資金生成単位に係る減損損失

2017年度における当社グループの一部鉱山の業績不振を受け、経営陣は、炭鉱に関連する一部の非流動資産に減損の兆候を識別した。当社グループは、それらの鉱山を個別の資金生成単位として各鉱山の回収可能価額を測定し、減損テストを実施した。回収可能価額は、将来キャッシュ・フローの現在価値を予測するモデルに基づいており、8.12%から11.87%の税引前割引率で割り引いて算定している。経営者承認済みの予算(5年)を超える期間のキャッシュ・フローは、成長率をゼロとしている。

減損テストの結果、取締役は、当事業年度では石炭セグメントの非流動資産について減損損失を認識していない(2016年度:ゼロ)。

個別の資産に係る減損損失

2017年度に、国家能源局中国北部監管局発行の「内モンゴル西部地区における未認可発電機による発電禁止に関する規制上の決定」(華北監能決[2017]3号)に従い、当社グループの電力セグメント内の子会社である蒙古准能<sub>77</sub>電有限責任公司是、発電を近く停止する予定となった。経営者は、関連する非流動資産(機械装置及び発電機を含む。)の回収可能価額を見積り、これらの機械装置及び発電機の帳簿価額を2017年12月31日現在の回収可能価額まで605百万人民元減額した。

国務院公表の「小型火力発電ユニットの閉鎖・停止の加速に関する若干の意見」(国発[2007]第2号)及び国家発展改革委員会公表の「石炭火力発電の排出削減高度化と改良行動計画(2014年-2020年)」(発改能源[2014]2093号)に従い、当社グループは、電力セグメント内の子会社である中電国華神木発電有限責任公司の発電事業を近く停止する予定となった。当社グループは、これらの非流動資産(機械装置及び発電機を含む。)の回収可能価額を見積り、当該機械装置及び発電機の帳簿価額を2017年12月31日現在の回収可能価額まで200百万人民元減額した。

当社グループは、省エネルギー及び環境保護のための発電所の改修を実施し、一部の非流動資産の除却を行った。当社グループは、電力セグメント内のこれらの非流動資産(機械装置及び発電機を含む。)の回収可能価額を見積り、当該機械装置及び発電機の帳簿価額を2017年12月31日現在の回収可能価額まで164百万人民元(2016年度:584百万人民元)減額した。

上記資産の回収可能価額の見積りは、上記資産が利用可能な場合には、当該機械装置及び発電機の処分コスト控除後の公正価値に基づいており、公正価値は、市場比較法により同一業界における類似資産の直近の販売価格を参照の上、残存耐用年数等の相違を調整して算定している。上記資産が利用可能ではない場合には、公正価値は、市場比較法により類似機器の重量及び価格を参照の上、市場の地理的所在地等の相違を調整して算定している。当該回収可能価額の基礎となる公正価値は、レベル3に区分される。

当社グループは、当事業年度中にオーストラリアの自由保有地の一部の用途に変更が生じたことに関連して、2017年6月に減損損失46百万オーストラリア・ドル(以下「豪ドル」という。)(239百万人民元に相当)を認識した。

この土地の公正価値は、類似の土地の市場価格を基に、経営者が算定した。この土地は石炭セグメントに属しており、当該回収可能価額の基礎となる公正価値はレベル2の測定に区分される。

土地の用途の変更に至った状況の詳細については、注記17に記載している。

( ) 当社グループの自由保有地のうち帳簿価額950百万人民元(2016年度:1,141百万人民元)は、オーストラリアに所在している。

( ) 当社グループは、一定の有形固定資産について権利証を申請中であり、当該有形固定資産の2017年12月31日現在の帳簿価額は合計で8,771百万人民元(2016年度:11,170百万人民元)であった。取締役は、当社グループが上記の資産を適法かつ有効に占有又は使用する権利を有しているとの見解である。

( ) 2017年12月31日現在、当社グループの有形固定資産を銀行借入金の担保に供しており、当該資産の帳簿価額は644百万人民元(2016年度:707百万人民元)である。

## 16. 建設仮勘定

	2017年 12月31日現在 百万人民元	2016年 12月31日現在 百万人民元
期首残高	35,220	33,610
増加	19,273	22,123
総合的技術向上のための有形固定資産からの振替	-	30
有形固定資産への振替	(13,819)	(19,630)
無形資産への振替	(49)	(106)
リース前払金への振替	(596)	(459)
その他の非流動資産への振替	(281)	-
鉱山の試験操業による正味収入	(356)	(319)
処分	(163)	(47)
減損損失	(175)	(22)
減損損失の有形固定資産への振替	-	40
期末残高	39,054	35,220

注:  
2017年12月31日現在、当社グループは、一定の建設仮勘定について、関連政府機関から必要な認可の取得手続中である。取締役は、当社グループがいずれ必要な認可を取得できるとの見解である。

## 17. 探査及び評価資産

探査及び評価資産の増減は、以下の通りである。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
期首残高	2,344	2,176
為替換算調整額	32	119
増加	-	49
処分(注)	(1,378)	-
期末残高	998	2,344

注:  
2017年6月29日、シェンファ・ウォーターマーク・コール・ピーティーワイ・リミテッド(以下「ウォーターマーク」という。)は、探査許可の一部延長に関して、オーストラリアのニューサウスウェールズ州政府(以下「NSW政府」という。)との合意に達した。黒色土の平原での農業活動を保護する規定の政策に従い、NSW政府は、ウォーターマークの探査地域合計195平方キロメートルのうち、約100平方キロメートル(以下「撤回地域」という。)(帳簿価額214豪ドル(1,120百万人民元に相当))の探査許可を撤回し、ウォーターマークに対して補償金262百万豪ドル(1,364百万人民元に相当)を支払うとともに、上記の合意に基づき撤回地域以外の地域の探査許可の延長申請を受理した。



## 18. 無形資産

無形資産(主な内訳:特許技術及びソフトウェア)の増減は、以下の通りである。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
期首残高	3,018	2,964
為替換算調整額	(3)	9
増加	915	356
建設仮勘定からの振替	49	106
償却額	(449)	(414)
処分	(83)	(3)
期末残高	3,447	3,018

## 19. 関連会社に対する持分

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
非上場株式(取得原価)	7,557	3,274
取得後の純利益及びその他の包括利益に対する持分 (受取配当金控除後)	1,956	1,868
	9,513	5,142

当社グループの関連会社に対する持分は、個別にも集計しても、当社グループの当期の財政状態又は経営成績に対する重要性はない。当社グループの関連会社は非上場であり、中国で設立されている。以下の一覧は関連会社の明細であり、これらの会社は主に当社グループの損益又は資産に影響を与えている。

関連会社名	法人の種類	当社グループが 保有している所有持分 及び議決権の割合		主要な 事業内容
		2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在	
		%	%	
蒙西華中鐵路股份有限公司	有限責任会社	10(注)	10	輸送サービスの提供
神東天隆集団有限責任公司	有限責任会社	20	20	石炭の生産及び販売
浙江浙能嘉華発電有限責任公司	有限責任会社	20	20	発電及び電力販売
四川廣安発電有限責任公司	有限責任会社	20	20	発電及び電力販売
国華(河北)新能源有限責任公司	有限責任会社	25	25	発電及び電力販売
天津遠華海運有限責任公司	有限責任会社	44	44	輸送業務の提供
内蒙古億利化学工業有限公司	有限責任会社	25	25	化学製品の生産及び販売

注:

当社グループは、蒙西華中鐵路股份有限公司に対して重要な影響力の行使が可能である。この根拠は、同社の定款に基づき、同社の11名の取締役のうち1名を任名するパワーを有していることにある。

## 20. 売却可能投資

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
非上場投資:		
- 資本性投資	749	1,800
- 委託理財商品に対する投資	105	-
合計	854	1,800
報告目的上の内訳:		
非流動資産	854	1,800
	854	1,800

上記の非上場の資本性投資は、中国で設立された非公開企業が発行した非上場の資本性証券に対する投資である。当該投資については、当報告期間末日の取得原価(減損損失控除後)で測定している。これは、合理的な公正価値の見積額の範囲が極めて広く、公正価値を信頼性をもって測定できないとする取締役の見解によるものである。

## 21. その他の非流動資産

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
建設作業、備品購入及びその他に係る前払金(注( ))	8,189	7,713
採掘プロジェクトに係る前払金	8,000	8,000
控除可能付加価値税及びその他の税金	1,834	1,452
長期債権	318	2,500
国家能源集団及び兄弟会社に対する貸付金(注( ))	9,699	13,502
長期委託貸付金(注( ))	420	-
のれん	889	889
その他	4,117	2,693
	33,466	36,749

注:

( ) 2017年12月31日現在、当社グループは、兄弟会社に対して20百万人民元(2016年度:5百万人民元)の前払金を有していた。

( ) 国家能源集団及び兄弟会社に対する貸付金は、年利4.28%から4.41%(2016年度:年利4.28%から4.41%)であり、2年から8年以内に回収予定である。

( ) 当社グループは、中国国有銀行を通じて、関連会社に対して420百万人民元の長期委託貸付を行っている。当該貸付金の年利は4.75%であり、中国人民銀行(以下「PBOC」という。)公表の基準金利を参照の上、調整を行っている。

## 22. リース前払金

リース前払金は、土地使用权について、中国政府機関に支払った金額である。当社グループは、一定の土地使用权について権利証を申請中であり、その帳簿価額は合計で2017年12月31日現在2,097百万人民元(2016年度:2,526百万人民元)である。取締役は、上記の土地を当社グループが適法かつ有効に占有又は使用する権利があるとの見解である。

2017年12月31日現在、当社グループは、銀行借入金を当社グループのリース前払金により担保している。当該リース前払金の帳簿価額は、892百万人民元(2016年12月31日現在:ゼロ)である。

## 23. 棚卸資産

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
石炭	4,579	5,563
原材料及び消耗品	5,882	6,424
その他(注)	1,186	1,354
	<u>11,647</u>	<u>13,341</u>

注：その他は、主に売却目的保有資産及び開発中の資産である。

## 24. 売掛金及び受取手形

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
売掛金		
国家能源集団及び兄弟会社	2,377	3,177
関連会社	179	284
第三者	11,802	13,138
	<u>14,358</u>	<u>16,599</u>
控除:貸倒引当金	<u>(1,039)</u>	<u>(420)</u>
	<u>13,319</u>	<u>16,179</u>
受取手形		
国家能源集団及び兄弟会社	57	18
関連会社	54	42
第三者	6,025	4,334
	<u>6,136</u>	<u>4,394</u>
	<u>19,455</u>	<u>20,573</u>

受取手形は、主に中国の銀行が発行したものであり、1年以内に期日到来予定である。2017年12月31日現在の受取手形のうち、帳簿価額388百万人民元(2016年度:85百万人民元)は、支払手形の担保として差し入れている。

以下は、貸倒引当金控除後の売掛金及び受取手形の年齢別内訳であり、財又はサービスを提供した日（収益認識日に近似）毎に表示している。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
1年以内	10,411	13,035
1年超2年以内	1,648	1,996
2年超3年以内	1,027	1,010
3年超	233	138
	<u>13,319</u>	<u>16,179</u>

貸倒引当金の増減は、以下の通りである。

12月31日終了事業年度

	2017年 百万人民元	2016年 百万人民元
期首残高	420	194
減損損失		
認識	760	245
戻入	(140)	(10)
償却	(1)	(9)
期末残高	1,039	420

期日が経過しているが減損していないと判断される売掛金の年齢別内訳は、以下の通りである。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
期日経過後1年以内	1,335	2,115
期日経過後1年超2年以内	1,399	1,408
期日経過後2年超3年以内	377	178
期日経過後3年超	38	52
	3,149	3,753

期日が経過しておらず減損もしていない債権は、最近の貸倒実績のない幅広い顧客に関連した債権である。

期日が経過しているが減損していない債権は、当社グループと良好な取引実績を有する多数の独立の顧客に関連しており、当社グループはこれらの残高に対して担保を保有していない。経営陣は過去の経験から、これらの債権に関する信用度に重大な変化はなく、当該残高は依然全額回収可能と判断されるため、減損の必要はないと考えている。

売掛金には、下記の外貨建ての金額が含まれている。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
米ドル	105	486
ユーロ	-	140
	105	626

## 金融資産の譲渡

2017年12月31日現在、当社グループは、受取手形1,859百万人民元(2016年度:2,075百万人民元)を、同額の買掛金決済を目的として仕入先に裏書しており、また受取手形137百万人民元(2016年度:446百万人民元)を銀行に割引に出していた。中国の関連法規に基づき、受取手形の保有者は、手形発行銀行が支払を履行しなかった場合に、当社グループに対して遡求権を有する(以下「継続的関与」という)。取締役は、継続的関与に関する公正価値に重要性はなく、仕入先に手形を裏書した時点及び銀行に手形を割引に出した時点で、当社グループは当該受取手形の所有に係るリスクと経済価値のほとんどすべてを移転していると判断し、これらの受取手形及び関連買掛金の全額につき認識を中止している。

**25. 前払費用及びその他流動資産**

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
FVTPLで測定する金融資産		
- デリバティブ金融資産	56	4
- 売買目的理財商品	52	50
	108	54
売却可能投資		
- 委託理財商品(注( ))	-	33,350
	108	33,404
前払費用及び預け金	8,115	7,029
国家能源集団及び兄弟会社に対する貸付金及び前渡金(注( ))	5,262	2,209
関連会社に対する債権	535	973
控除対象の付加価値税及びその他の税金	3,075	3,396
その他の債権	3,357	1,781
	20,452	48,792

注:

- ( ) 2016年12月31日現在、当社グループは、元本保証・収益変動型の委託理財商品(期間90日、予想年間収益率3.20%から3.35%)に対して31,000百万人民元投資している。また、元本非保証・収益変動型の理財商品(期間32日から365日、予想年間収益率4.10%から4.55%)に対する投資額は2,350百万人民元である。当社グループが保有する委託理財商品は割引キャッシュ・フロー法で評価しており、その公正価値測定の詳細は注記37.3に開示している。
- ( ) 2017年12月31日現在、当社グループは、国家能源集団及び兄弟会社に対して5,059百万人民元(2016年度:2,087百万人民元)の貸付を行っており、年利3.92%から4.28%(2016年度:年利3.92%から5.04%)であった。残りの残高は無担保・無利息であり、返済条件は定められていない。

**26. 拘束性預金**

2017年12月31日現在の拘束性預金は、PBOCに預け入れている法定保証金であり、支払手形の担保、並びに炭鉱及び港湾事業の運営に関する担保となっている。

**27. 現金及び現金同等物**

連結財政状態計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書上の現金及び現金同等物の内訳は、銀行預金及び手許現金並びに当初満期が3ヶ月以内の定期預金である。

現金及び現金同等物には、下記の外貨建ての金額が含まれている。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
米ドル	776	111
香港ドル	2	2
ユーロ	40	28
	818	141

**28. 繰延税金**

連結財政状態計算書の表示上、一部の繰延税金資産と繰延税金負債を相殺している。財務報告上の繰延税金の残高の内訳は、以下の通りである。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
繰延税金資産	3,798	3,849
繰延税金負債	(749)	(797)
	<u>3,049</u>	<u>3,052</u>

当期及び前期における主な繰延税金資産及び繰延税金負債の認識額及び増減額は、以下の通りである。

	2017年 1月1日現在 百万人民元	純損益/その他の 包括利益に 貸方(借方)計上 百万人民元	2017年 12月31日現在 百万人民元
引当金(主に対債権及び棚卸資産)	503	23	526
有形固定資産	769	(7)	762
リース前払金	(169)	2	(167)
税務上の繰越欠損金の使用額	461	(137)	324
税務上損金算入可能未発生費用	1	-	1
当社グループ内の売却による未実現利益	1,187	(84)	1,103
未払給与及びその他の未払費用	188	22	210
その他	112	178	290
繰延税金資産純額	<u>3,052</u>	<u>(3)</u>	<u>3,049</u>

	2016年 1月1日現在 百万人民元	純損益に 貸方計上 百万人民元	2016年 12月31日現在 百万人民元
引当金(主に対債権及び棚卸資産)	417	86	503
有形固定資産	427	342	769
リース前払金	(171)	2	(169)
税務上の繰越欠損金の使用額	384	77	461
税務上損金算入可能未発生費用	(62)	63	1
当社グループ内の売却による未実現利益	558	629	1,187
未払給与及びその他の未払費用	170	18	188
その他	73	39	112
繰延税金資産純額	<u>1,796</u>	<u>1,256</u>	<u>3,052</u>

当報告期間末日現在、当社グループは、将来の所得と相殺できる税務上の未使用の欠損金8,564百万人民元(2016年12月31日現在:8,714百万人民元)及び未認識の将来減算一時差異6,555百万人民元(2016年12月31日現在:5,804百万人民元)を有している。これらの欠損金のうち1,296百万人民元(2016年12月31日現在:1,845百万人民元)に関して、繰延税金資産を認識している。残りの7,268百万人民元(2016年12月31日現在:6,869百万人民元)については、将来の利益を予測できないため、繰延税金資産を認識していない。税務上の未使用の欠損金のうち683百万人民元(2016年12月31日現在:398百万人民元)は、2018年に期限切れとなる予定である。

## 29. 借入金

当社グループの借入金の内訳は、以下の通りである。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
短期借入金:		
短期の銀行借入金及びその他の借入金	9,493	4,384
長期借入金の1年以内返済分	6,292	7,427
	15,785	11,811
長期借入金:		
長期の銀行借入金、1年以内返済分控除後	64,321	58,462
	80,106	70,273
担保付	9,381	9,114
無担保	70,725	61,159
	80,106	70,273

当社グループの短期借入金は無担保であり、年利3.85%から4.79%(2016年度:年利3.70%から5.04%)であり、長期借入金の年利は1.08%から6.55%(2016年度:年利1.08%から6.55%)である。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
長期借入金のエクスポージャー及び契約上の満期日:		
1年以内	6,292	7,427
1年超2年以内	6,141	5,657
2年超5年以内	17,089	13,040
5年超	41,091	39,765
	70,613	65,889

当社グループの長期借入金の内訳は、以下の通りである。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
銀行及びその他の機関からの借入金		
人民元建て	年利1.08%から6.55%、 満期2036年1月22日までの期間	
米ドル建て	年利LIBOR+0.7%から+2.85%、 満期2034年12月26日までの期間	
日本円建て	年利1.80%から2.60%、 満期2031年3月20日までの期間	
ユーロ建て	年利2.85%、 満期2022年6月22日までの期間	
	66,357	61,677
	2,111	1,722
	2,119	2,445
	26	45
	70,613	65,889
控除: 長期借入金の1年以内返済分	6,292	7,427
	64,321	58,462

2017年12月31日現在の上記借入金残高には、国家能源集団及び兄弟会社からの委託借入、合計1,374百万人民币(2016年度:4,824百万人民币)が含まれている。

一部の借入金には、一定の有形固定資産(帳簿価額644百万人民币(2016年度:707百万人民币))(注記15参照)、一定のリース前払金(帳簿価額892百万人民币(2016年度:ゼロ))(注記22参照)、当社グループが稼得する将来の一定の電力収益、当社の子会社に対する投資による担保に加え、子会社の非支配株主による保証が付されている。

### 30. 短期社債、中期社債及び社債

2013年11月7日、当社は、収入額約5,000百万人民币、2018年11月11日償還予定の中期社債を発行した。当該社債の年利は5.49%であり、毎年支払われる。実効金利は年利5.69%である。

2014年8月19日、当社は、収入額約10,000百万人民币の中期社債を発行し、2017年8月21日に償還した。当該社債の年利は5.10%であり、毎年支払われていた。実効金利は年利5.17%であった。

2014年9月16日、当社は、収入額約10,000百万人民币の中期社債を発行し、2017年9月18日に償還した。当該社債の年利は5.04%であり、毎年支払われていた。実効金利は年利5.11%であった。

2015年1月20日、チャイナ・シェンファ・オーバーシーズ・キャピタル・カンパニー・リミテッド(以下「シェンファ・オーバーシーズ・キャピタル」という。)は、収入額500百万米ドル(約3,061百万人民币に相当)、2018年1月19日償還予定の米ドル建社債を発行した。当該社債の年利は2.50%であり、半年ごとに支払われる。実効金利は年利2.84%である。

2015年1月20日、シェンファ・オーバーシーズ・キャピタルは、収入額500百万米ドル(約3,061百万人民币に相当)、2020年1月19日償還予定の米ドル建社債を発行した。当該社債の年利は3.13%であり、半年ごとに支払われる。実効金利は年利3.35%である。

2015年1月20日、シェンファ・オーバーシーズ・キャピタルは、収入額500百万米ドル(約3,061百万人民币に相当)、2025年1月19日償還予定の米ドル建社債を発行した。当該社債の年利は3.88%であり、半年ごとに支払われる。実効金利は年利4.10%である。

これらの米ドル建社債の純収入額は、主に子会社の借入金の返済に充当している。



## 31. 買掛金及び支払手形

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
買掛金		
- 国家能源集団、国家能源集団の関連会社及び兄弟会社	1,874	2,140
- 関連会社	283	218
- 第三者	29,431	29,624
	31,588	31,982
支払手形	2,326	3,174
	33,914	35,156

2017年12月31日現在、一部の支払手形には、当社グループが保有する受取手形による担保が設定されている(注記24参照)。

以下は、買掛金及び支払手形の年齢別内訳であり、請求日毎に表示している。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
1年以内	25,241	26,296
1年超2年以内	2,576	4,184
2年超3年以内	2,431	2,320
3年超	3,666	2,356
	33,914	35,156

買掛金及び支払手形には、下記の外貨建ての金額が含まれている。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
米ドル	1,398	486
ユーロ	7	154
英ポンド	2	19
	1,407	659

## 32. 未払費用及びその他の債務

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
未払従業員給与及び未払社会保険料	4,042	3,727
未払利息	472	705
法人所得税以外の未払税金	7,408	6,911
未払配当金	4,149	2,665
クロスカレンシー為替スワップ	12	-
前受金	5,530	4,196
国家能源集団及び兄弟会社からの預り金(注( ))	20,075	13,492
その他の未払費用及び債務(注( ))	10,307	9,665
	<u>51,995</u>	<u>41,361</u>

注:

( ) 2017年12月31日現在、国家能源集団及び兄弟会社からの預り金の金利は、年利0.42%から1.62%(2016年度:年利0.42%から1.62%)であった。

( ) 当社グループのその他の未払費用及び債務には、以下の金額が含まれている。

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
国家能源集団及び兄弟会社に対する債務	1,238	1,945
関連会社に対する債務	28	54
	<u>1,266</u>	<u>1,999</u>

上記の残高は無担保・無利息で、返済条件は定められていない。

## 33. 長期債務

	2017年12月31日現在 百万人民元	2016年12月31日現在 百万人民元
採掘権の取得に係る債務(注( ))	852	1,093
繰延収益(注( ))	1,367	1,328
確定給付制度	128	147
その他	290	286
	<u>2,637</u>	<u>2,854</u>
報告目的上の内訳:		
流動負債	345	403
非流動負債	2,292	2,451
	<u>2,637</u>	<u>2,854</u>

注:

( ) 長期債務は、主に採掘権の取得に係る債務であり、契約に規定された生産期間にわたり、年1回返済を行っている。毎年の支払額は、取得した鉱山の年間生産量に1トン当たりの固定レートに乗じて算定した額となる。

( ) 繰延収益は、主に非流動資産の建設を助成する中国の複数の地方政府からの補助金である。

**34. 未払埋戻費用**

	12月31日終了事業年度	
	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
期首残高	2,549	2,197
当期増加	58	220
割引費用	138	132
期末残高	2,745	2,549

**35. 株式資本**

	2017年	2016年
	12月31日現在	12月31日現在
	百万人民元	百万人民元
登録済、発行済及び全額払込済:		
1株当たり額面金額1.00人民元の国内上場A株16,491,037,955株	16,491	16,491
1株当たり額面金額1.00人民元のH株3,398,582,500株	3,399	3,399
	19,890	19,890

すべてのA株及びH株は、あらゆる重要な点において平等に位置付けられている。

**36. 資本リスク管理**

当社グループは、強固な資本基盤を維持して、投資家、債権者及び市場からの信頼を確保するとともに、事業の将来的発展を持続していく方針である。

当社グループは、経済状況の変化や関連資産のリスク特性に照らし、資本構成の管理及び調整を行っている。当社グループは、資本構成の維持又は調整のため、株主に対する配当支払額の調整、株主に対する資本の払戻し、又は借入削減を目的とした新株発行を行う場合がある。

当社グループは、ギアリング比率(負債合計を資産合計で除した比率)を用いて、資本をモニターしている。当社グループは、ギアリング比率を合理的水準に維持することを目標としている。2017年12月31日現在の当社グループのギアリング比率は、34%(2016年度:33%)であった。

過年度と比較して、当社グループの資本リスク管理方法に変更はない。

## 37. 金融商品

### 37.1 金融商品の分類

当報告期間末における金融資産及び金融負債の下記の分類別の帳簿価額は、以下の通りである。

	2017年 12月31日現在 百万人民元	2016年 12月31日現在 百万人民元
金融資産		
- 売却可能投資	854	1,800
- 貸付金及び債権(現金及び現金同等物を含む。)	125,517	95,651
- デリバティブ金融商品	56	54
- 売買目的理財商品に対する投資	52	33,350
金融負債		
- 償却原価	164,633	172,081

### 37.2 金融リスク管理の目的及び方針

当社グループの主要な金融商品には、売掛金及び受取手形、国家能源集団及び兄弟会社に対する貸付金、前渡金及び債権、国家能源集団及び兄弟会社からの預り金、国家能源集団及び兄弟会社に対する債務、関連会社に対する債権及び債務、その他の債権、買掛金及び支払手形、借入金、その他の債務、長期債務、中期社債並びに社債がある。金融商品の詳細については、各注記に開示している。これらの金融商品に関連するリスクとしては、市場リスク(金利リスク及び為替リスク)、信用リスク及び流動性リスクがある。これらのリスクの軽減策に関する方針は、以下に記載している。経営陣は、これらのエクスポージャーを管理及びモニターし、適切な方策を適時かつ有効に実施するようにしている。

#### 市場リスク

##### ( ) 為替リスク

当社グループの企業の多くは、取引の大半が行われる人民元を機能通貨としているが、当社グループの一部の借入金、債権、銀行預金及び債務は外貨建てである。当社グループは、人民元に対する米ドルの変動によるリスクを軽減するため、米ドル建借入金の一部の利息の支払について、信用度の高い銀行とクロスカレンシー為替スワップを締結しており、その帳簿価額については注記29に記載している。

当社グループの外貨建貨幣性資産及び貨幣性負債の当報告期間末現在の帳簿価額は、以下の通りである。

	負債		資産	
	2017年 12月31日現在 百万人民元	2016年 12月31日現在 百万人民元	2017年 12月31日現在 百万人民元	2016年 12月31日現在 百万人民元
米ドル	3,286	2,208	870	597
日本円	2,119	2,445	-	-
その他の通貨	35	218	42	170

#### 感応度分析

下表は、他の変数を一定として、各外貨の人民元に対する為替レートが10%上昇又は下落した場合の当社グループの感応度の詳細である。この感応度分析には、当報告期間末における未決済の外貨建貨幣性項目のみを含めている。

	米ドル		日本円		その他の通貨	
	12月31日終了事業年度 2017年 百万人民元	12月31日終了事業年度 2016年 百万人民元	12月31日終了事業年度 2017年 百万人民元	12月31日終了事業年度 2016年 百万人民元	12月31日終了事業年度 2017年 百万人民元	12月31日終了事業年度 2016年 百万人民元
当期純利益の(減少)増加:						
- 人民元が外貨に対して下落した場合	(198)	(121)	(159)	(183)	-	(4)
- 人民元が外貨に対して上昇した場合	198	121	159	183	-	4

#### ( ) 金利リスク

当社グループは、固定金利の貸付金及び債権、借入金、中期社債並びに社債に関連した、公正価値金利リスクにさらされている(注記25、29及び30参照)。一定の効果を得るため、当社グループは、借入金の公正価値の変動に対するエクスポージャーをヘッジする目的で、金利スワップを締結している(注記29参照)。

また、当社グループは、変動金利借入金並びに変動金利貸付金及び債権(注記29及び21参照)に関連したキャッシュ・フロー金利リスクにもさらされている。ロンドン銀行間取引金利及びPBOC公表の貸出金利の変動に関する金利リスクの集中を除き、当社グループに重要な金利リスクの集中はない。

当社グループの金融負債の金利に対するエクスポージャーは、本注記の流動性リスクのセクションに詳述している。

#### 感応度分析

以下の感応度分析は、当報告期間末日現在の変動金利借入金並びに変動金利貸付金及び債権の金利に対するエクスポージャーを基に算定している。尚、当社グループの経営陣は、銀行預金の金利エクスポージャーに関する感応度分析については開示していないが、これは、銀行預金の金利変動はごく僅かであり、当事業年度の純損益に対する影響が軽微であることを考慮したためである。

この分析は、当報告期間末現在未決済の変動金利借入金並びに変動金利貸付金及び債権が、1年を通して未決済であったと仮定して作成している。

金利が100ベース・ポイント(2016度:100ベース・ポイント)上昇/下落し、かつ、他のすべての変数が一定と仮定した場合、2017年12月31日終了事業年度の当社グループの当期純利益は、324百万人民元減少/増加(2016年度:259百万人民元減少/増加)する。

#### 信用リスク

2017年12月31日現在の当社グループの信用リスク(相手方の債務不履行や当社グループの金融保証の提供により当社グループに生じる財務的損失)に対する最大エクスポージャーは、以下に起因している。

- ・ 連結財政状態計算書上認識している各金融資産の帳簿価額
- ・ 当社グループが提供している金融保証に関連した偶発負債の金額(注記39.3に開示)

信用リスクを最小限にするため、当社グループの経営陣は、与信限度額の決定、与信承認及びその他のモニタリング手法に責任を負うチームを設置し、期限経過債権の回収のためのフォローアップ措置を講じている。さらに当社グループは、個々の取引債権の回収可能額について定期的にかつ報告期間末に再検討を行い、回収不能額に対して適切な減損損失を計上している。当社グループの経営陣は、金融保証の提供に起因するリスクに関しては、当社グループと金融保証契約を締結している被保証先の信用度及び財政状態を継続的にモニターし、当該被保証先の借入金の返済不履行の結果、当社グループが重大な信用損失を被ることがないようにしている。これにより、取締役は、当社グループの信用リスクは大幅に低減されていると考えている。

流動資金に係る信用リスクは、相手先が信用度の高い銀行であるため、限定的である。

信用度の高い銀行数行に預け入れている流動資金に係る信用リスクの集中を除き、当社グループにその他の重要な信用リスクの集中はない。売掛金は、幅広い業種に分散した中国に所在する多数の顧客から構成されている。

## 流動性リスク

流動性リスクとは、当社グループが金融債務を期日に履行できなくなるリスクである。流動性管理の方法は、受入不能な損失の負担や当社グループの高い信用を毀損するリスクが生じないように、平常時においてもストレス状況下においても、可能な限り負債を期日に履行する十分な流動性を常時確保することである。

当社グループは、キャッシュ・フロー需要を綿密にモニターし、資金流入を最適化している。当社グループは、キャッシュ・フロー予測を作成し、営業、財務及び資本に係る義務を履行するための十分な現金を確保するようにしている(但し、自然災害等の合理的に予測できない極端な状況による潜在的な影響を除く。 )。

下表は、当報告期間末日現在における当社グループの金融負債に関する、残存契約満期の詳細について記載したものである。これは、契約上の割引前キャッシュ・フロー(契約金利、又は、変動金利の場合には当報告期間末日現在の実勢金利に基づく利息支払額を含む。)、並びに当社グループが支払を要求される可能性のある最も早い日に基づいている。

## 2017年12月31日現在

	加重平均 利率 %	要求払 又は 1年以内 百万 人民元	1年超 2年以内 百万 人民元	2年超 5年以内 百万 人民元	5年超 百万 人民元	割引前 キャッ シュ・フ ロー合計 百万 人民元	帳簿価額 合計 百万 人民元
金融負債							
買掛金及び支払手形、その他の 債務並びに長期債務		69,148	120	236	505	70,009	69,780
変動金利借入金	4.54	18,785	9,530	20,012	49,278	97,605	72,998
固定金利借入金	3.17	1,073	1,143	3,746	2,254	8,216	7,108
中期社債及び社債	4.45	8,736	229	3,652	3,527	16,144	14,747
		<u>97,742</u>	<u>11,022</u>	<u>27,646</u>	<u>55,564</u>	<u>191,974</u>	<u>164,633</u>

## 2016年12月31日現在

	加重平均 利率 %	要求払 又は 1年以内 百万 人民元	1年超 2年以内 百万 人民元	2年超 5年以内 百万 人民元	5年超 百万 人民元	割引前 キャッ シュ・フ ロー合計 百万 人民元	帳簿価額 合計 百万 人民元
金融負債							
買掛金及び支払手形、その他の 債務並びに長期債務		65,695	206	436	425	66,762	66,503
変動金利借入金	4.60	10,676	7,727	18,064	46,839	83,306	60,986
固定金利借入金	3.94	4,931	543	2,583	2,653	10,710	9,287
中期社債及び社債	4.58	21,287	8,952	3,986	3,879	38,104	35,305
		<u>102,589</u>	<u>17,428</u>	<u>25,069</u>	<u>53,796</u>	<u>198,882</u>	<u>172,081</u>

また当社グループは、上記の通り、銀行及び金融機関の融資枠を有効な流動性の源泉の一つとして活用している。

当社グループが実施している金融保証に係る負債の最大額は、注記39.3に開示している。

### 37.3 公正価値測定

#### 経常的に公正価値で測定している当社グループの金融資産の公正価値

2017年12月31日現在、当社グループが保有する金融資産は、デリバティブ金融商品、売買目的理財商品及び委託理財商品に対する投資であり、それぞれ公正価値56百万人民元(2016年度:4百万人民元)、52百万人民元(2016年度:50百万人民元)及び105百万人民元(2016年度:33,350百万人民元)で測定している。当社グループが保有する金融負債はデリバティブ金融商品であり、公正価値12百万人民元(2016年度:ゼロ)で測定している。

	2017年 12月31日現在 百万人民元	2016年 12月31日現在 百万人民元	公正価値 ヒエラル キー	評価技法及び 重大なインプット
<b>金融資産:</b>				
デリバティブ金融商品	56	4	レベル1	活発な市場における相場価格
売買目的理財商品	52	50	レベル2	割引キャッシュ・フロー法。将来キャッ シュ・フローは類似商品の期待収益率を基 に見積り
売却可能委託理財商品	105	33,350	レベル2	割引キャッシュ・フロー法。将来キャッ シュ・フローは類似商品の期待収益率を基 に見積り
<b>金融負債:</b>				
デリバティブ金融商品	12	-	レベル2	類似商品の市場相場価格又はディーラー 価格

2017年及び2016年12月31日終了事業年度において、レベル1とレベル2の間での振替はなかった。

#### 経常的に公正価値で測定していない金融資産及び金融負債の公正価値

下表に列挙したものを除き、取締役は、連結財務諸表上、償却原価で測定した金融資産及び金融負債の帳簿価額は、公正価値に近似した金額になっていると考えている。

	2017年12月31日現在		2016年12月31日現在	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
	百万人民元	百万人民元	百万人民元	百万人民元
<b>金融負債:</b>				
固定金利の銀行借入金	6,658	6,670	8,507	8,567
固定金利の中期社債	4,995	5,009	24,974	25,282
固定金利の社債	9,752	9,903	10,331	10,436

レベル2の区分に含まれている上記の固定金利の銀行借入金の公正価値は、割引キャッシュ・フロー法を使用して測定している。この方法では、将来キャッシュ・フローを契約を基に見積み、複数の発行体の信用リスクを反映した率で割り引いている。

レベル1の区分に含まれている中期社債及び社債の公正価値は、活発な市場における相場価格(無調整)から算出している。

### 38. 財務活動から生じた負債の調整表

下表は、当社グループの財務活動から生じた負債の変動(キャッシュ・フローから生じた変動と非資金変動の両方を含む。)の詳細である。財務活動から生じた負債とは、キャッシュ・フロー(又は将来キャッシュ・フロー)が当社グループの連結キャッシュ・フロー計算書において財務活動から生じたキャッシュ・フローに分類される負債である。



	借入金 (注記29)	中期社債 (注記30)	社債 (注記30)	未払費用 (注記32)	合計
	百万人民元	百万人民元	百万人民元	百万人民元	百万人民元
2017年1月1日現在	70,273	24,974	10,331	705	106,283
財務キャッシュ・フロー	10,161	(20,000)	-	(5,762)	(15,601)
外国為替レートの変動	(328)	-	(599)	-	(927)
社債の割引の償却	-	21	20	-	41
支払利息	-	-	-	5,529	5,529
2017年12月31日現在	80,106	4,995	9,752	472	95,325

### 39. コミットメント及び偶発負債

#### 39.1 資本コミットメント

12月31日現在、当社グループは、土地及び建物並びに設備に関して、以下の資本コミットメントを有している。

	2017年12月31日現在	2016年12月31日現在
	百万人民元	百万人民元
契約済だが未実行		
-土地及び建物	19,485	23,604
-機械装置及びその他	14,425	17,200
	33,910	40,804

#### 39.2 オペレーティング・リースに係るコミットメント

オペレーティング・リースに係るコミットメントは、主に、解約不能なオペレーティング・リース契約を通じて賃借している事業用施設並びに採掘関連の機械装置及び備品である。オペレーティング・リース契約には、変動リース料に関する条項は含まれていない。12月31日現在、当初又は残存リース期間が1年超の事業用施設並びに採掘関連の機械装置及び備品に関する解約不能なオペレーティング・リース契約による将来の最低支払リース料総額の期日別の内訳は、以下の通りである。

	2017年12月31日現在	2016年12月31日現在
	百万人民元	百万人民元
1年以内	373	45
1年超5年以内	1,144	23
5年超	606	-
	2,123	68

#### 39.3 金融保証の実施

2017年12月31日現在、当社グループは、当社グループが資本持分の20%未満を保有する企業に対して設定された一部の銀行融資枠に対し、一定の保証を行っている。当該保証の最高額は182百万人民元(2016年12月31日現在:191百万人民元)である。

2017年12月31日現在、当社グループは、当社グループの関連会社に対して設定された一部の銀行融資枠に対し、一定の保証を行っている。当該保証の最高額は40百万人民元(2016年12月31日現在:ゼロ)である。

#### 39.4 法的偶発事象

当社グループは、通常の事業活動の過程において提起された一定の訴訟では被告であるとともに、その他の法的手続では原告となっている。これらの偶発事象、訴訟又はその他の法的手続の結果を現時点で確定することはできないが、経営陣は、結果として生じる負債が当社グループの財政状態又は経営成績に重要なマイナスの影響を及ぼすことはないと考えている。

### 39.5 環境関連の偶発事象

当社グループは、これまで環境修復に関する重要な支出を負担したことはなく、現在も環境修復活動は行っていない。また、土地埋戻費用に関する引当以外に、当社グループの事業に関連する将来の環境修復に備えた未払計上は行っていない。現行法制下において、経営陣は、当社グループの財政状態又は経営成績に重要なマイナスの影響を及ぼす負債の発生可能性は低いと考えている。但し、規制当局は、より厳格な環境基準を適用する方向にあり、この動きはさらに加速する可能性がある。環境関連の負債は重大な不確実性にさらされており、これは当社グループの環境修復作業に係る最終的なコストの見積りの適否に影響を及ぼす。当該不確実性には、以下が含まれる。( ) 様々な用地(例として炭鉱及び土地開発地域等(操業中、閉鎖中又は売却済かを問わない。))における汚染の正確な性質及び範囲、( ) 必要となる浄化作業の範囲、( ) 環境修復戦略の変更に伴うコストの変動、( ) 環境修復に関する要求の変化、( ) 新規に環境修復を要する用地の特定。このような将来のコストについて、起こり得る汚染の深刻度や必要となり得る修復措置の時期及び範囲等を知り得ないため、当該金額を算定することはできない。したがって、現時点では、将来の環境関連法規に基づいた環境関連の負債を合理的に見積ることはできず、当該負債は多額になる可能性がある。

### 40. 従業員給付制度

子会社が運営している最小限の確定給付制度以外に、当社グループは、中国の法規定に従い、主に市政府又は省政府が組織する従業員のための様々な確定拠出型退職制度に加入している。当社グループは、従業員の給与、賞与及び一部手当の20%を、当該退職制度に拠出することが義務付けられている。さらに当社グループは、従業員のために、政府の認可を受けた補完的な確定拠出型年金制度にも拠出している。当該制度の基金は、適格ファンド・マネージャーが運用を行っている。当社グループは、上記の毎年の拠出以外に、当該制度に関連した年金の給付に関する重要な債務は有していない。2017年12月31日終了事業年度における当社グループの拠出額は、2,886百万人民元(2016年度:2,728百万人民元)であった。

### 41. 関連当事者取引

#### 41.1 国家能源集団、国家能源集団の関連会社、兄弟会社及び当社グループの関連会社との取引

当社グループは国家能源集団に支配されており、国家能源集団、国家能源集団の関連会社、及び国家能源集団の子会社(以下「兄弟会社」という。)と重要な取引及び関係を有している。関連当事者とは、国家能源集団が重要な影響力又は支配を行使し得る企業である。また当社グループは、当社グループが重要な影響力を行使し得る関連会社との取引も行っている。

当社グループが、両事業年度中に、通常の事業の過程において国家能源集団、国家能源集団の関連会社、兄弟会社及び当社グループの関連会社と行った取引は、以下の通りである。

		2017年	2016年
		百万人民元	百万人民元
受取利息	( )	652	634
委託貸付収益	( )	31	33
支払利息	( )	248	242
補助材料及び予備部品購入高	( )	776	1,347
採掘業務収益	( )	90	-
生産支援料	( )	385	688
輸送業務収益	( )	193	195
輸送業務費用	( )	-	-
石炭売上高	( )	6,257	4,724
石炭購入高	( )	9,139	6,227
不動産リース料	(xi)	88	48
修繕維持業務料	(x )	47	44
石炭輸出代行費用	(x )	11	9
備品購入高及び建設作業費	(x )	1,119	1,021
石炭化学製品売上高	(x )	4,382	3,804
その他の収益	(x )	2,084	2,123
神華財務による貸付金の実行	(x )	2,281	4,768
神華財務に対する貸付金の返済	(x )	3,067	3,900
委託貸付金の実行	(x )	420	-
委託貸付金の返済	(xx)	627	-
神華財務の預り金正味受領(支払)額	(xxi)	6,583	(11,008)
国家能源集団からの借入	(xx )	-	-
国家能源集団に対する借入金の返済	(xx )	3,450	2,600

( ) 受取利息は、国家能源集団及び兄弟会社に対する貸付金から得た利息である。適用金利は、PBOC公表の現行の基準金利に従い決定されている。

( ) 委託貸付収益は、当社グループの関連会社に対する委託貸付から得た利息である。適用金利は、PBOC公表の現行の基準金利に従い決定されている。

( ) 支払利息は、国家能源集団及び兄弟会社からの預り金及び借入金から生じた利息である。適用金利は、PBOC公表の現行の基準金利に従い決定されている。

( ) 補助材料及び予備部品購入高は、当社グループの事業に関連した材料及び設備用消耗品の兄弟会社及び国家能源集団の関連会社からの購入高である。

( ) 採掘業務収益は、兄弟会社に対する石炭採掘業務の提供から得た収益である。

( ) 生産支援料は、国家能源集団、兄弟会社及び国家能源集団の関連会社に対して支払った不動産管理、水・電力供給及び社員食堂運営費等の福利厚生及び生産支援業務に関する支出である。

( ) 輸送業務収益は、石炭輸送業務に関して兄弟会社から得た収益である。

( ) 輸送業務費用は、石炭輸送業務に関連する費用である。

- ( ) 石炭売上高は、兄弟会社に対する石炭の販売による収益である。
- ( ) 石炭購入高は、当社グループの関連会社、国家能源集団の関連会社及び兄弟会社からの石炭の購入高である。
- ( ) 不動産リース料は、兄弟会社から賃借した不動産に係る支払済又は未払の賃借料である。
- ( ) 修繕維持業務料は、兄弟会社から提供された機械装置の修繕維持業務に関連した費用である。
- (x ) 石炭輸出代行費用は、兄弟会社から提供された石炭輸出代行業務に関連した費用である。
- (x ) 備品購入高及び建設作業費は、兄弟会社から提供された備品及び建設業務に関連した費用である。
- (x ) 石炭化学製品売上高は、兄弟会社に対する石炭化学製品の販売による収益である。
- (x ) その他の収益には、国家能源集団及び兄弟会社から得た代行収益、修繕維持業務収益、補助材料及び予備部品の販売、管理手数料収入、水・電力販売並びに金融業務収益等が含まれている。
- (x ) 神華財務による貸付金の実行は、神華財務が国家能源集団及び兄弟会社に対して実行した貸付額である。
- (x ) 神華財務に対する貸付金の返済は、国家能源集団及び兄弟会社から神華財務に返済された貸付金である。
- (x ) 委託貸付金の実行は、当社グループの関連会社に対して実行した委託貸付額である。
- (xx) 委託貸付金の返済は、当社グループの関連会社から返済された委託貸付金である。
- (xx ) 神華財務の預り金受領額は、神華財務が国家能源集団及び兄弟会社から受領した正味の預り金である。
- (xx ) 当社グループが調達した借入額である。
- (xx ) 当社グループが兄弟会社に返済した借入金である。

取締役は、上記の関連当事者取引が、通常の事業の過程において、これらの取引を規定する契約に従い行われたとの見解である。

当社グループは、国家能源集団、国家能源集団の関連会社、兄弟会社及び当社グループの関連会社と多数の契約を締結している。主な契約条件の要約は、以下の通りである。

( ) 当社グループは、生産消耗品及び補助業務を相互に提供するため、国家能源集団の関連会社及び兄弟会社と相互供給契約を締結している。本契約に基づき、国家能源集団の関連会社及び兄弟会社は、当社グループに対して、生産消耗品及び生産業務、生産補助業務(情報ネットワークシステムの利用を含む。)並びに補助管理業務を提供している。一方当社グループは、兄弟会社に対して、水の供給、石炭運搬車両の管理、鉄道管理、鉄道輸送及びその他の関連又は類似の生産消耗品及び生産業務並びに情報ネットワークシステムの利用を提供している。

無償で提供している情報ネットワークシステムの共有利用を除き、本契約に基づく製品及び役務の提供は、以下の価格決定方針に従っている。

- ・ 適切な場合、政府設定価格(地方政府の設定価格を含む。)
  - ・ 政府設定価格はないが政府指導価格がある場合には、政府指導価格
  - ・ 政府設定価格も政府指導価格もない場合には、市場価格
  - ・ 上記のいずれにも該当しない場合、又は上記の価格決定方針を実際に適用することが実務的でない場合、関連する当事者間で合意する価格は、財又は役務の提供により発生する合理的なコストに、当該コストの5%の利益を上乗せした金額に基づくものとする。
- ( ) 当社グループは、兄弟会社及び当社グループの関連会社と石炭供給契約を締結している。石炭の供給は、実勢市場価格で行っている。
- ( ) 当社グループは、神華財務を通じて、国家能源集団及び兄弟会社と金融サービス契約を締結している。当該契約に基づき、神華財務は、国家能源集団及び兄弟会社に対して金融サービスを提供している。国家能源集団及び兄弟会社の神華財務に対する預金金利は、PBOC公表の同種の預金の下限金利を下回ってはならない。神華財務の国家能源集団及び兄弟会社に対する貸出金利は、PBOC公表の同種の貸出金の上限金利を上回ってはならない。上記の金利は、中国の一般的な商業銀行が、通常取引条件に基づき比較可能な預金及び貸出金に適用する金利を参照して決定しなければならない。神華財務がその他の金融サービスの提供に関して請求する報酬は、PBOC又は中国銀行業監督管理委員会が定める料率に基づいて決定しなければならない。
- ( ) 当社グループは、一部の不動産を相互に賃借するために、兄弟会社と不動産リース契約を締結している。兄弟会社が当該関連不動産の権利証を取得するまでは、当社グループの賃借料の支払はない。賃借料は、比較可能な市場相場を基準としている。兄弟会社がリース不動産の第三者への売却交渉を行う場合、当社は、当該不動産を他の第三者と同等の条件で購入する先買権を有している。

- ( ) 当社グループは、兄弟会社と土地リース契約を締結している。年間賃借料は、現地の市場相場に基づき決定している。当社グループは、賃借している土地を転貸することはできない。
- ( ) 当社グループは、石炭の輸出に関して、兄弟会社と代理店契約を締結している。兄弟会社は、当社グループの非独占輸出代理店に指定されており、関連する市場相場以下の相場を基準とした代理店手数料を受け取る権利を有している。現在の当該市場相場は、輸出石炭の本船渡し価格の0.7%である。
- ( ) 当社グループは、石炭の販売に関して、兄弟会社と代理店契約を締結している。当社グループは、兄弟会社の発電用石炭については独占代理店に、コークス用炭については非独占代理店に指定されている。当社グループは、内モンゴル自治区外での石炭販売について、発生した関連コストに5%の利益を上乗せした金額を基準とした代理店手数料を受け取る権利を有している。内モンゴル自治区内での石炭販売については、代理店手数料は発生しない。
- ( ) 当社グループは、兄弟会社と、一定の商標権の使用が許諾される契約を締結している。兄弟会社は、当該商標使用許諾契約の契約期間中の商標権の登録料、及び使用を許諾した当該商標権の第三者による侵害への対抗措置に係る費用を負担している。

国家能源集団、国家能源集団の関連会社、兄弟会社及び当社グループの関連会社に対する債権/債務:

		2017年 12月31日現在	2016年 12月31日現在
	注記	百万人民元	百万人民元
売掛金及び受取手形	24	2,594	3,458
前払費用及びその他の流動資産	25	5,797	3,182
その他の非流動資産	21	10,139	13,507
国家能源集団、国家能源集団の関連会社、兄弟会社及び当社グループの関連会社に対する債権合計		18,530	20,147
借入金	29	1,374	4,824
買掛金	31	2,157	2,358
未払費用及びその他の債務	32	21,341	15,491
国家能源集団、国家能源集団の関連会社、兄弟会社及び当社グループの関連会社に対する債務合計		24,872	22,673

注記21、25、29及び32に開示したものを除き、国家能源集団、国家能源集団の関連会社、兄弟会社及び当社グループの関連会社に対する債権/債務は、無利息・無担保であり、通常取引条件に従って返済されている。

#### 41.2 経営幹部に対する報酬

経営幹部は、報酬、基本給、住宅手当及びその他の手当、現物給付、変動賞与、並びに退職制度への拠出の形で報酬を受領している。

当社グループの経営幹部に対する報酬の要約は、以下の通りである。

	2017年 百万人民元	2016年 百万人民元
短期従業員給付	10	8
退職後給付	1	1
	11	9

報酬合計は、注記10に開示した「人件費」に含まれている。

#### 41.3 退職後給付制度に対する拠出

当社グループは、従業員のために、市政府又は省政府が組織する様々な確定拠出型退職後給付制度や、政府の認可を受けた補完的な確定拠出型年金制度に加入している。当社グループの退職後給付制度の詳細については、注記40に開示している。

#### 41.4 中国のその他の政府関連企業との取引

当社は中国政府に最終的に支配されており、当社グループは、政府関連企業が現在優位を占めている経済環境において事業を行っている。

当社グループは、上記に開示した国家エネルギー集団、国家エネルギー集団の関連会社、兄弟会社及び当社グループの関連会社との取引以外に、その他の政府関連企業と取引を行っている。当該取引には以下が含まれる(これに限定されない。 )。

- 電力の販売
- 石炭の販売及び購入
- 輸送業務
- 建設作業
- 補助材料及び予備部品の購入
- 福利厚生及び補助サービス
- 金融サービスのアレンジ

これらの取引は、当社グループの通常の事業の過程において、政府関連企業以外の他の企業と同等の取引条件で行われている。当社グループは、製品の販売及び役務の提供に関して価格決定方針を設定し、製品及び役務の購入について承認手続を定めている。これらの方針及び承認手続は、相手先が政府関連であるかに関わらず、すべての相手先に対して適用されている。

関連当事者との関係、当社グループの購買方針、価格決定方針及び承認手続が取引に対して与え得る影響、並びに当該関係が財務諸表に対して与え得る影響を理解する上でどのような情報が必要であるかを考慮した上で、取締役は、以下のその他の政府関連企業との取引について、情報開示が必要との見解である。

#### その他の政府関連企業(中国国有銀行を含む。)との取引

	2017年	2016年
	百万人民元	百万人民元
石炭売上高	97,212	69,822
電力売上高	77,303	67,472
輸送費	11,501	7,618
受取利息	959	691
支払利息(資産化額を含む。)	5,461	5,463

#### その他の政府関連企業(中国国有銀行を含む。)に対する残高

	2017年12月31日現在	2016年12月31日現在
	百万人民元	百万人民元
売掛金及び受取手形	7,954	12,354
前払費用及びその他の流動資産	683	1,289
現金及び銀行定期預金	73,728	44,602
拘束性預金	7,348	6,141
借入金	78,326	64,578
未払費用及びその他の債務	2,915	3,669

#### 42. 後発事象

2018年3月1日、当社と国電電力発展股份有限公司(以下「国電電力」という。)は、共同支配企業に関する契約を締結した。この契約により、国電電力及び当社が、資本金及び関連石炭火力発電会社の資産を共同支配企業に出資することを取り決めた。この契約に基づき、国電電力は当該共同支配企業の57.47%の持分を保有し、当社は当該共同支配企業の42.53%の持分を保有することになる。当該共同支配企業に関する契約は、国電電力及び当社の株主総会の承認並びに関係当局の承認を得た時点で効力を生じるため、不確実性が存在している。

2018年3月23日、取締役会は、普通株式1株当たり0.91人民元、総額18,100百万人民元の最終配当に関する議案を、当社株主に対して提出した。詳細は注記13に開示している。



## 43. 子会社

### 当社の重要な子会社の詳細

当社の子会社は非上場である。当報告期間末における当社の重要な子会社の詳細は、以下の通りである。

子会社名	設立地 及び 事業場所	法人の種類	登録資本金の 明細	当社が保有している 所有持分及び議決権の 割合		主要な 事業内容
				2017年 12月31日現在	2016年 12月31日現在	
				%	%	
神華銷售集團有限責任公司	中国	有限責任会社	1,889百万人民元	100	100	石炭の売買
神皖能源有限責任公司	中国	有限責任会社	4,696百万人民元	51	51	石炭の売買
神華神東煤炭集團有限責任公司	中国	有限責任会社	4,989百万人民元	100	100	石炭の売買、石炭に関する総合サービスの提供
神華准格爾能源有限責任公司	中国	有限責任会社	7,102百万人民元	58	58	石炭の採掘及び開発、発電及び電力販売
神華寶日希勒能源有限責任公司	中国	有限責任会社	1,169百万人民元	57	57	石炭の採掘、荷役及び輸送業務の提供
神華北電勝利能源有限責任公司	中国	有限責任会社	2,720百万人民元	63	63	石炭の採掘、荷役及び輸送業務の提供
陝西国華錦界能源有限責任公司	中国	有限責任会社	2,278百万人民元	70	70	発電及び電力販売、石炭の採掘及び開発
神華国華国際電力股份有限責任公司	中国	有限責任会社	4,010百万人民元	70	70	発電及び電力販売
神華神東電力有限責任公司	中国	有限責任会社	3,024百万人民元	100	100	発電及び電力販売
広東国華粵電台山有限責任公司	中国	有限責任会社	4,670百万人民元	80	80	発電及び電力販売
浙江国華浙能発電有限責任公司	中国	有限責任会社	3,255百万人民元	60	60	発電及び電力販売
綏中発電有限責任公司（注（ ））	中国	有限責任会社	4,029百万人民元	65	65	発電及び電力販売
河北国華滄東発電有限責任公司	中国	有限責任会社	1,834百万人民元	51	51	発電及び電力販売
定洲発電（注（ ））	中国	有限責任会社	1,561百万人民元	41	41	発電及び電力販売
国華太倉発電有限責任公司（注（ ））	中国	有限責任会社	2,000百万人民元	50	50	発電及び電力販売
神華四川能源有限責任公司	中国	有限責任会社	2,152百万人民元	51	51	発電及び電力販売、石炭の売買
神華(福建)有限責任公司	中国	有限責任会社	2,551百万人民元	100	100	発電及び電力販売
朔黄鉄路發展有限責任公司	中国	有限責任会社	5,880百万人民元	53	53	輸送業務の提供
神華准池鉄路有限責任公司	中国	有限責任会社	4,710百万人民元	85	85	輸送業務の提供
神華黄驛港務有限責任公司	中国	有限責任会社	6,790百万人民元	70	70	港湾業務の提供
神華中海航運有限責任公司	中国	有限責任会社	5,180百万人民元	51	51	輸送業務の提供
神華包頭煤化工有限責任公司	中国	有限責任会社	5,132百万人民元	100	100	石炭ベースの化学加工
神華鉄路貨車運輸有限責任公司	中国	有限責任会社	4,803百万人民元	100	100	輸送業務の提供
神華財務	中国	有限責任会社	5,000百万人民元	100	100	金融サービスの提供
中国神華海外發展投資有限責任公司	香港	有限責任会社	5,252百万香港ドル	100	100	投資持株会社
シェンファ・オーストラリア・ホールディング・ピーティーワイ・リミテッド	オーストラリア	有限責任会社	400百万豪ドル	100	100	石炭の採掘及び開発、発電及び電力販売
シェンファ・ウォーターマーク・コール・ピーティーワイ・リミテッド	オーストラリア	有限責任会社	350百万豪ドル	100	100	石炭の採掘及び開発、発電及び電力販売
ピーティー・ジーエイチ・イーエム・インドネシア	インドネシア	有限責任会社	63百万米ドル	70	70	石炭の採掘及び開発、発電及び電力販売

神華包神鉄路集团有限公司	中国	有限責任会社	10,000百万人民元	100	100	輸送業務の提供
神華(天津)融資租賃有限公司	中国	有限責任会社	1,765百万人民元	100	100	ファイナンス・リース 業務の提供
神華准能資源総合開発有限公司	中国	有限責任会社	1,200百万人民元	100	100	低品位炭資源の総合利 用
徐州電廠	中国	有限責任会社	1,790百万人民元	100	100	発電及び電力販売
舟山電廠	中国	有限責任会社	804百万人民元	51	51	発電及び電力販売

取締役は、主に、上記の一覧表に記載した当社グループの子会社が当社グループの業績又は資産に影響を与えているとの見解である。取締役は、その他の子会社について詳細を提供すると過度に冗長になるため、記載しないとの見解である。

注記30に開示した米ドル建て社債1,500百万米ドル(約9,183百万人民元に相当)を発行しているシェンファ・オーバーシーズ・キャピタルを除き、当事業年度末現在、負債性証券を発行している子会社はない。当社グループは、子会社が発行した負債性証券を保有していない。

注:

( ) 当社が保有する資本持分の15%に加えて、当社の子会社が綏中電力有限責任公司に対する資本持分の50%を保有している。

( ) 当社は、取締役会の過半数を任命する権利により、定洲発電に対する支配を獲得している。詳細は、注記4.1に記載している。

( ) 当社は、50%超の議決権により、国華太倉発電有限責任公司に対する支配を有している。

## 重要性のある非支配持分がある完全所有子会社以外の子会社の詳細

重要性のある非支配持分がある当社グループの子会社に関する要約財務情報は、以下の通りである。以下の要約財務情報は、グループ会社間取引消去前の金額である。

子会社名	設立地 及び 事業場所	非支配持分が 保有している所有持 分及び議決権の割合		非支配持分に 配分された 利益		非支配持分 の累積額	
		2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在	12月31日 終了事業年度		2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在
		%	%	2017年 百万 人民元	2016年 百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元
神皖能源有限責任公司	中国	49	49	205	434	4,076	3,976
神華准格爾能源有限責任公司	中国	42	42	1,415	576	12,075	10,636
神華寶日希勒能源有限責任公司	中国	43	43	457	206	2,231	1,885
河北国華滄東發電有限責任公司	中国	49	49	175	329	1,328	1,449
河北国華定洲發電有限責任公司	中国	59	59	331	503	1,795	1,928
神華四川能源有限責任公司	中国	49	49	(125)	(36)	1,424	1,550
朔黄鉄路發展有限責任公司	中国	47	47	3,587	3,062	15,021	14,112
神華中海航運有限責任公司	中国	49	49	227	70	3,105	2,940
広東国華粵電台山有限責任公司	中国	20	20	114	206	1,544	1,525
神華黄驊港務有限責任公司	中国	30	30	506	367	3,085	2,866
神華国華国際電力股份有限公司	中国	30	30	302	302	2,989	3,010
浙江国華浙能發電有限責任公司	中国	40	40	298	414	2,138	2,212
非支配持分がある個別には重要性のない子会社						22,753	48,089
						73,564	67,994

	神皖能源 有限責任公司		神華准格爾能源 有限責任公司		神華寶日希勒能源 有限責任公司		河北国華滄東發電 有限責任公司	
	2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在	2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在	2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在	2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在
	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元	百万 人民元
流動資産	1,302	1,145	18,119	13,580	2,774	1,967	1,029	1,233
非流動資産	12,492	12,292	18,012	18,506	5,125	5,218	5,557	5,965
流動負債	3,050	2,978	7,075	6,458	2,589	2,680	2,786	3,210
非流動負債	2,425	2,345	470	448	168	160	1,089	1,030
資本合計	8,319	8,114	28,586	25,180	5,142	4,345	2,711	2,958

	12月31日 終了事業年度		12月31日 終了事業年度		12月31日 終了事業年度		12月31日 終了事業年度	
	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年
	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万
	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元
売上高	6,894	6,324	14,316	9,677	3,567	2,697	4,146	4,019
費用	6,339	5,249	10,585	8,114	2,227	2,146	3,679	3,120
当期純利益及び当期包括利益合計	419	886	3,349	1,364	1,054	475	358	672
非支配持分に対する配当金支払額	105	245	-	-	142	193	296	365

営業活動による正味キャッシュ・インフロー	<b>517</b>	1,444	<b>3,008</b>	4,199	<b>1,939</b>	650	<b>901</b>	958
投資活動による正味キャッシュ・(アウトフロー)インフロー	<b>(959)</b>	1,401	<b>(2,832)</b>	<b>(4,045)</b>	<b>(95)</b>	<b>(184)</b>	<b>197</b>	<b>(348)</b>
財務活動による正味キャッシュ・インフロー(アウトフロー)	<b>436</b>	<b>(47)</b>	<b>(20)</b>	<b>(42)</b>	<b>(532)</b>	<b>(363)</b>	<b>(1,098)</b>	<b>(610)</b>
正味キャッシュ・(アウトフロー)インフロー	<b>(6)</b>	2,798	<b>156</b>	112	<b>1,312</b>	103	-	-

	定洲発電		神華四川能源 有限責任公司		朔黄鐵路發展 有限責任公司		神華中海航運 有限責任公司	
	2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在	2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在	2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在	2017年 12月31日 現在	2016年 12月31日 現在
	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万
	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元
流動資産	1,240	1,060	774	1,031	10,283	8,210	1,288	969
非流動資産	5,048	5,429	6,111	5,349	30,819	29,387	6,634	7,125
流動負債	2,503	2,276	1,827	1,130	7,439	5,507	1,538	1,376
非流動負債	769	973	2,151	2,087	1,892	2,242	48	718
資本合計	3,016	3,240	2,907	3,163	31,771	29,848	6,336	6,000

	12月31日 終了事業年度		12月31日 終了事業年度		12月31日 終了事業年度		12月31日 終了事業年度	
	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年
	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万
	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元
売上高	4,104	3,873	1,055	1,106	19,070	17,250	3,247	2,112
費用	3,352	2,741	1,281	1,162	8,940	8,737	2,641	1,928
当期純利益(損失)及び当期包括利益合計	557	845	<b>(255)</b>	<b>(74)</b>	7,587	6,477	463	143
非支配持分に対する配当金支払額	465	529	-	2	2,759	1,435	62	-

営業活動による正味キャッシュ・インフロー(アウトフロー)	766	1,438	<b>(256)</b>	127	7,481	8,419	752	372
投資活動による正味キャッシュ・インフロー(アウトフロー)	65	<b>(610)</b>	<b>(658)</b>	(656)	<b>(2,665)</b>	<b>(1,935)</b>	<b>(26)</b>	<b>(85)</b>
財務活動による正味キャッシュ・(アウトフロー)インフロー	<b>(831)</b>	<b>(828)</b>	431	531	<b>(4,588)</b>	<b>(6,460)</b>	<b>(757)</b>	<b>(273)</b>
正味キャッシュ・(アウトフロー)インフロー	-	-	<b>(483)</b>	2	228	24	<b>(31)</b>	14

	広東国華粵電 有限責任公司		神華黄驊港務 有限責任公司		神華国華国際電力 股份有限公司		浙江国華浙能 有限責任公司	
	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年
	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日	12月31日
	現在	現在	現在	現在	現在	現在	現在	現在
	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万
	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元
流動資産	936	1,439	2,013	1,419	2,545	3,260	1,826	1,340
非流動資産	10,972	11,332	13,722	14,538	15,909	16,974	9,687	10,276
流動負債	2,889	5,147	2,621	1,304	5,647	7,932	3,223	3,585
非流動負債	1,301	-	2,830	5,099	2,844	1,841	2,945	2,501
資本合計	7,718	7,624	10,284	9,554	9,963	10,461	5,345	5,530

  

	12月31日 終了事業年度		12月31日 終了事業年度		12月31日 終了事業年度		12月31日 終了事業年度	
	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年
	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万	百万
	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元	人民元
売上高	6,849	6,310	4,519	3,964	10,758	9,794	7,310	6,476
費用	6,068	4,963	2,604	2,015	10,566	9,045	6,292	5,135
当期純利益及び当期包括利益合計	571	1,031	1,685	1,223	84	490	746	1,034
非支配持分に対する配当金支払額	-	306	288	118	137	460	372	583

  

営業活動による正味キャッシュ・インフ ロー	1,947	1,646	1,968	1,962	2,390	2,546	1,736	1,312
投資活動による正味キャッシュ・(アウ トフロー)インフロー	(124)	(155)	156	(424)	(523)	(312)	(642)	(130)
財務活動による正味キャッシュ・アウト フロー	(1,822)	(1,488)	(2,011)	(1,416)	(2,221)	(1,890)	(1,096)	(2,712)
正味キャッシュ・インフロー(アウトフ ロー)	1	3	113	122	(354)	344	(2)	(1,530)

## 44. 当社の財政状態に関する情報

	注記	2017年 12月31日現在 百万人民元	2016年 12月31日現在 百万人民元
<b>非流動資産</b>			
有形固定資産		48,713	52,469
建設仮勘定		3,067	3,446
無形資産		572	1,712
子会社に対する投資		139,138	132,569
関連会社に対する投資		5,283	1,065
売却可能投資		569	1,647
その他の非流動資産		33,829	36,853
リース前払金		3,074	3,167
繰延税金資産		240	152
<b>非流動資産合計</b>		<b>234,485</b>	<b>233,080</b>
<b>流動資産</b>			
棚卸資産		3,167	3,591
売掛金及び受取手形		11,977	22,559
前払費用及びその他の流動資産		44,481	84,782
拘束性預金		938	335
当初預入期間が3ヶ月超の定期預金		4,650	27,750
現金及び現金同等物		59,154	19,276
<b>流動資産合計</b>		<b>124,367</b>	<b>158,293</b>
<b>流動負債</b>			
借入金		7,271	5,263
買掛金及び支払手形		6,476	6,251
未払費用及びその他の債務		73,778	63,875
1年内返済予定長期債務		5,196	20,227
未払法人所得税		2,867	1,570
<b>流動負債合計</b>		<b>95,588</b>	<b>97,186</b>
<b>正味流動資産</b>		<b>28,779</b>	<b>61,107</b>
<b>流動負債控除後資産合計</b>		<b>263,264</b>	<b>294,187</b>
<b>非流動負債</b>			
借入金		4,744	3,460
中期社債		-	4,985
長期債務		720	872
未払埋戻費用		1,285	1,224
<b>非流動負債合計</b>		<b>6,749</b>	<b>10,541</b>
<b>純資産</b>		<b>256,515</b>	<b>283,646</b>
<b>資本</b>			
株式資本	35	19,890	19,890
剰余金		236,625	263,756
<b>資本合計</b>		<b>256,515</b>	<b>283,646</b>

	株式払込 剰余金 百万 人民元	法定 準備金 百万 人民元	その他の 包括利益 百万 人民元	資本準備金 及びその他 準備金 百万 人民元	利益 剰余金 百万 人民元	合計 百万 人民元
2016年1月1日現在	85,001	15,987	-	1,681	110,455	213,124
当期純利益	-	-	-	-	56,967	56,967
その他の包括利益	-	-	30	-	-	30
当期包括利益合計	-	-	30	-	56,967	56,997
宣言配当額(注記13)	-	-	-	-	(6,365)	(6,365)
保全・生産積立金繰入額	-	2,699	-	-	(2,699)	-
保全・生産積立金取崩額	-	(398)	-	-	398	-
2016年12月31日現在	85,001	18,288	30	1,681	158,756	263,756
当期純利益	-	-	-	-	31,966	31,966
その他の包括損失	-	-	(25)	-	-	(25)
当期包括(損失)利益合計	-	-	(25)	-	31,966	31,941
宣言配当額(注記13)	-	-	-	-	(59,072)	(59,072)
保全・生産積立金繰入額	-	3,891	-	-	(3,891)	-
保全・生産積立金取崩額	-	(1,183)	-	-	1,183	-
2017年12月31日現在	85,001	20,996	5	1,681	128,942	236,625

当社の定款に基づき、当社の株主に配当可能な利益剰余金の金額は、中国会計準則に従い算定した利益剰余金の額とIFRSに従い算定した当該額のうちいずれか低い額から、連結持分変動計算書の注( )で詳述した準備金繰入後の金額となる。

2017年12月31日現在、中国会計準則に従い算定した当社株主に対する配当可能利益剰余金の合計は、124,576百万人民元(2016年度:153,846百万人民元)であった。

[次へ](#)

## Consolidated Statement of Profit or Loss and Other Comprehensive Income

For the year ended 31 December 2017

	NOTES	Year ended 31 December	
		2017 RMB million	2016 RMB million
Revenue	5	248,746	183,127
Cost of sales	7	(160,460)	(124,843)
Gross profit		88,286	58,284
Selling expenses		(612)	(610)
General and administrative expenses		(9,456)	(8,423)
Other gains and losses	10	(1,880)	(3,078)
Other income		894	1,379
Other expenses		(1,262)	(1,511)
Interest income	8	1,205	723
Finance costs	8	(4,416)	(5,748)
Share of results of associates		534	237
<b>Profit before income tax</b>		<b>73,293</b>	<b>41,253</b>
Income tax expense	9	(16,155)	(9,283)
<b>Profit for the year</b>	10	<b>57,138</b>	<b>31,970</b>
<b>Other comprehensive (expense) income for the year</b>			
<i>Item that will not be reclassified to profit or loss, net of income tax:</i>			
Remeasurement of defined benefit obligations		11	21
<i>Items that may be reclassified subsequently to profit or loss, net of income tax:</i>			
Exchange differences		(210)	311
Share of other comprehensive (expense) income of associates		(3)	60
Fair value gain on available-for-sale investment		4	-
		(209)	371
<b>Other comprehensive (expense) income for the year, net of income tax</b>		<b>(198)</b>	<b>392</b>
<b>Total comprehensive income for the year</b>		<b>56,940</b>	<b>32,362</b>



## Consolidated Statement of Profit or Loss and Other Comprehensive Income (Continued)

For the year ended 31 December 2017

	NOTE	Year ended 31 December	
		2017 RMB million	2016 RMB million
<b>Profit for the year attributable to:</b>			
Equity holders of the Company		47,795	24,910
Non-controlling interests		9,343	7,060
		<b>57,138</b>	31,970
<b>Total comprehensive income for the year attributable to:</b>			
Equity holders of the Company		47,637	25,272
Non-controlling interests		9,303	7,090
		<b>56,940</b>	32,362
<b>Earnings per share (RMB)</b>			
– Basic	14	2.403	1.252

## Consolidated Statement of Financial Position

At 31 December 2017

	NOTES	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
<b>Non-current assets</b>			
Property, plant and equipment	15	329,970	337,785
Construction in progress	16	39,054	35,220
Exploration and evaluation assets	17	998	2,344
Intangible assets	18	3,447	3,018
Interests in associates	19	9,513	5,142
Available-for-sale investments	20	854	1,800
Other non-current assets	21	33,466	36,749
Lease prepayments	22	17,858	17,359
Deferred tax assets	28	3,798	3,849
<b>Total non-current assets</b>		<b>438,958</b>	<b>443,266</b>
<b>Current assets</b>			
Inventories	23	11,647	13,341
Accounts and bills receivables	24	19,455	20,573
Prepaid expenses and other current assets	25	20,452	48,792
Restricted bank deposits	26	7,348	6,141
Time deposits with original maturity over three months		1,870	3,428
Cash and cash equivalents	27	71,872	41,188
<b>Total current assets</b>		<b>132,644</b>	<b>133,463</b>
<b>Current liabilities</b>			
Borrowings	29	15,785	11,811
Accounts and bills payables	31	33,914	35,156
Accrued expenses and other payables	32	51,995	41,361
Current portion of medium-term notes	30	4,995	19,989
Current portion of bonds	30	3,267	–
Current portion of long-term liabilities	33	345	403
Income tax payable		5,604	3,465
<b>Total current liabilities</b>		<b>115,905</b>	<b>112,185</b>
<b>Net current assets</b>		<b>16,739</b>	<b>21,278</b>
<b>Total assets less current liabilities</b>		<b>455,697</b>	<b>464,544</b>

## Consolidated Statement of Financial Position (Continued)

At 31 December 2017

	NOTES	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
<b>Non-current liabilities</b>			
Borrowings	29	64,321	58,462
Medium-term notes	30	–	4,985
Bonds	30	6,485	10,331
Long-term liabilities	33	2,292	2,451
Accrued reclamation obligations	34	2,745	2,549
Deferred tax liabilities	28	749	797
<b>Total non-current liabilities</b>		<b>76,592</b>	<b>79,575</b>
<b>Net assets</b>		<b>379,105</b>	<b>384,969</b>
<b>Equity</b>			
Share capital	35	19,890	19,890
Reserves		285,651	297,085
Equity attributable to equity holders of the Company		305,541	316,975
Non-controlling interests		73,564	67,994
<b>Total equity</b>		<b>379,105</b>	<b>384,969</b>

The consolidated financial statements on pages 170 to 257 were approved and authorised for issue by the board of directors on 23 March 2018, and are signed on its behalf by:

**Ling Wen**  
Chairman

**Han Jianguo**  
Executive Director

## Consolidated Statement of Changes in Equity

For the year ended 31 December 2017

	Equity attributable to equity holders of the Company							Non-controlling interests	Total equity
	Share capital	Share premium	Capital reserve	Exchange reserve	Statutory reserves	Other reserves	Retained earnings		
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
	(Note 35)	(Note (ii))	(Note (iii))		(Note (iii))	(Note (iv))	(Note (v))		
At 1 January 2017	19,890	85,001	3,612	105	20,827	(14,227)	201,767	316,975	384,969
Profit for the year	-	-	-	-	-	-	47,795	47,795	57,138
Other comprehensive (expense) income for the year	-	-	-	(170)	-	12	-	(158)	(198)
Total comprehensive (expense) income for the year	-	-	-	(170)	-	12	47,795	47,637	56,940
Dividend declared (Note 13)	-	-	-	-	-	-	(59,072)	(59,072)	(59,072)
Appropriation of maintenance and production funds (Note (iii))	-	-	-	-	5,316	-	(5,316)	-	-
Utilisation of maintenance and production funds (Note (iii))	-	-	-	-	(1,994)	-	1,994	-	-
Appropriation of general reserve (Note (iii))	-	-	-	-	344	-	(344)	-	-
Contributions from non-controlling shareholders	-	-	-	-	-	-	-	2,000	2,000
Distributions to non-controlling shareholders	-	-	-	-	-	-	-	(5,733)	(5,733)
Others	-	-	-	-	-	1	-	1	1
At 31 December 2017	19,890	85,001	3,612	(65)	24,493	(14,214)	186,824	305,541	379,105

## Consolidated Statement of Changes in Equity (Continued)

For the year ended 31 December 2017

	Equity attributable to equity holders of the Company									
	Share capital	Share premium	Capital reserve	Exchange reserve	Statutory reserves	Other reserves	Retained earnings	Total	Non-controlling interests	Total equity
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
	(Note 35)	(Note 61)	(Note 61)		(Note 61)	(Note 61)	(Note 61)			
At 1 January 2016	19,890	85,001	3,612	(176)	18,003	(14,308)	186,046	298,068	65,853	363,921
Profit for the year	-	-	-	-	-	-	24,910	24,910	7,060	31,970
Other comprehensive income for the year	-	-	-	281	-	81	-	362	30	392
Total comprehensive income for the year	-	-	-	281	-	81	24,910	25,272	7,090	32,362
Dividend declared (Note 13)	-	-	-	-	-	-	(6,365)	(6,365)	-	(6,365)
Appropriation of maintenance and production funds (Note 61)	-	-	-	-	3,747	-	(3,747)	-	-	-
Utilisation of maintenance and production funds (Note 61)	-	-	-	-	(889)	-	889	-	-	-
Utilisation of general reserve (Note 61)	-	-	-	-	(34)	-	34	-	-	-
Contributions from non-controlling shareholders	-	-	-	-	-	-	-	-	1,111	1,111
Distributions to non-controlling shareholders	-	-	-	-	-	-	-	-	(6,060)	(6,060)
At 31 December 2016	19,890	85,001	3,612	105	20,827	(14,227)	201,767	316,975	67,994	384,969

## Notes:

- (i) Share premium represents the difference between the total amount of the par value of shares issued and the amount of the net proceeds received upon the global initial public offering of H shares in 2005 and the issuance of A shares in 2007.
- (ii) The capital reserve represents the difference between the total amount of the par value of shares issued and the amount of the net assets, net of other reserves, transferred from Shenhua Group Corporation Limited ("Shenhua Group") in connection with the Restructuring (as defined in Note 1).



## Consolidated Statement of Changes in Equity (Continued)

For the year ended 31 December 2017

Notes: (Continued)

### (iii) Statutory reserves

#### *Statutory surplus reserve*

According to the PRC Company Law and the Company's Articles of Association, the Company is required to transfer 10% of its net profit as determined in accordance with the China Accounting Standards for Business Enterprises ("China Accounting Standards") to its statutory surplus reserve until the reserve balance reaches 50% of the registered capital. The transfer to this reserve must be made before distribution of a dividend to shareholders.

The statutory surplus reserve has reached 50% of the registered capital in 2009. Accordingly, no appropriation of net profit to the statutory surplus reserve has been proposed since 1 January 2010.

Statutory surplus reserve can be used to make up losses, if any, or to expand the Company's business, and may be converted into share capital by the issue of new shares to shareholders in proportion to their existing shareholdings or by increasing the par value of the shares currently held by them, provided that the balance after such issue is not less than 25% of the registered capital of the Company. The statutory surplus reserve is not distributable.

#### *Specific reserve for maintenance and production funds*

Pursuant to the relevant PRC regulations, the Group is required to transfer production and maintenance funds at fixed rates based on relevant bases, such as production volume, to a specific reserve account. The production and maintenance funds could be utilised when expenses or capital expenditures on production maintenance and safety measures are incurred. The amount of production and maintenance funds utilised would be transferred from the specific reserve account to retained earnings.

#### *General reserve*

Pursuant to relevant regulations issued by the Ministry of Finance, the Company's subsidiary, Shenhua Finance Co., Ltd. ("Shenhua Finance"), is required to set aside a general reserve by the end of the financial year through appropriations of profit after tax as determined in accordance with China Accounting Standards at a certain ratio of the ending balance of gross risk-bearing assets to cover potential losses against such assets.

#### *Discretionary surplus reserve*

The appropriation to the discretionary surplus reserve is subject to the shareholders' approval. The utilisation of the reserve is similar to that of the statutory surplus reserve.

The directors of the Company (the "Directors") have not proposed any appropriation to the discretionary surplus reserve in 2017 and 2016.

### (iv) Other reserves

Other reserves mainly represents the consideration paid for acquisition of subsidiaries under common control, and share of other comprehensive income (expense) of associates.

### (v) Retained earnings

Included in the retained earnings of the Group were its share of the surplus reserve of its domestic subsidiaries amounted to RMB22,573 million (31 December 2016: RMB18,065 million) as at 31 December 2017.

# Consolidated Statement of Cash Flows

For the year ended 31 December 2017

	Year ended 31 December	
	2017	2016
	RMB million	RMB million
<b>OPERATING ACTIVITIES</b>		
Profit before income tax	73,293	41,253
Adjustments for:		
Depreciation and amortisation (Note 10)	25,340	24,721
Other gains and losses (Note 10)	1,880	3,078
Interest income (Note 8)	(1,205)	(723)
Share of results of associates	(534)	(237)
Interest expenses	4,910	5,062
Fair value changes on financial instruments (Note 8)	-	(2)
Exchange (gain) loss, net (Note 8)	(494)	688
Operating cash flows before movements in working capital	103,190	73,840
Decrease (increase) in inventories	1,588	(1,076)
Decrease in accounts and bills receivables	361	20,084
(Increase) decrease in prepaid expenses and other receivables	(89)	1,146
(Decrease) increase in accounts and bills payables	(1,802)	2,925
Increase (decrease) in accrued expenses and other payables	5,912	(6,267)
Cash generated from operations	109,160	90,652
Income tax paid	(14,008)	(8,769)
<b>NET CASH GENERATED FROM OPERATING ACTIVITIES</b>	<b>95,152</b>	<b>81,883</b>
<b>INVESTING ACTIVITIES</b>		
Acquisition of property, plant and equipment, intangible assets, exploration and evaluation assets, additions to the construction in progress and other non-current assets	(19,602)	(28,264)
Increase in lease prepayments	(666)	(794)
Proceeds on disposal of property, plant and equipment, intangible assets, lease prepayments and other non-current assets	1,342	649
Proceeds on disposal of associates	-	35
Proceeds on disposal of wealth management products	57,885	160
Proceeds on disposal of derivative financial instruments	59	23
Proceeds on entrusted loans	2,627	-
Investments in associates	(3,431)	(104)
Purchase of derivative financial instruments	(111)	(2)
Purchase of tradable wealth management products	-	(50)
Investments in bonds	(100)	-
Dividend received from associates	232	375
Interest received	1,097	710
Purchase of wealth management products	(24,100)	(33,350)
Offering entrusted loans	(2,220)	-
Increase in restricted bank deposits	(1,207)	(1,530)
Increase in time deposits with original maturity over three months	(1,827)	(5,026)
Maturity of time deposits with original maturity over three months	3,385	2,514
<b>NET CASH GENERATED FROM (USED IN) INVESTING ACTIVITIES</b>	<b>13,363</b>	<b>(64,654)</b>

## Consolidated Statement of Cash Flows (Continued)

For the year ended 31 December 2017

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
<b>FINANCING ACTIVITIES (Note 38)</b>		
Interest paid	(5,762)	(5,600)
Proceeds on borrowings	24,651	28,037
Repayments of borrowings	(14,490)	(24,927)
Repayments of short-term debentures and medium-term notes	(20,000)	(5,000)
Proceeds on bills discounted	137	435
Contributions from non-controlling shareholders	1,164	1,111
Distributions to non-controlling shareholders	(4,249)	(6,181)
Dividend paid to equity holders of the Company	(59,072)	(6,365)
<b>NET CASH USED IN FINANCING ACTIVITIES</b>	<b>(77,621)</b>	<b>(18,490)</b>
<b>Net increase (decrease) in cash and cash equivalents</b>	<b>30,894</b>	<b>(1,261)</b>
Cash and cash equivalents, at the beginning of the year	41,188	42,323
Effect of foreign exchange rate changes	(210)	126
<b>Cash and cash equivalents, at the end of the year</b>	<b>71,872</b>	<b>41,188</b>



# Notes to the Consolidated Financial Statements

For the year ended 31 December 2017

## 1. PRINCIPAL ACTIVITIES AND ORGANISATION

### Principal activities

China Shenhua Energy Company Limited (the "Company") and its subsidiaries (hereinafter collectively referred to as the "Group") are principally engaged in: (i) the production and sale of coal; and (ii) the generation and sale of coal-based power to provincial/regional electric grid companies in the People's Republic of China (the "PRC"). The Group operates an integrated railway network and seaports that are primarily used to transport the Group's coal sales from its mines. The primary customers of the Group's coal sales include power plants, metallurgical and coal chemical producers in the PRC.

### Organisation

The Company was established in the PRC on 8 November 2004 as a joint stock limited company as part of the Restructuring (as defined below) of Shenhua Group, a state-owned enterprise under the direct supervision of the State Council of the PRC.

Effective on 31 December 2003, the coal production and power generation operations previously operated by various entities wholly-owned or controlled by Shenhua Group were restructured and managed separately (the "Restructuring"), and those assets and liabilities related to the operations and businesses that were transferred to the Company were revalued by China Enterprise Appraisal Co., Ltd., an independent valuer registered in the PRC, as at 31 December 2003 as required by the PRC rules and regulations.

On 8 November 2004, in consideration for Shenhua Group transferring the coal mining and power generating assets and liabilities to the Company, the Company issued 15,000,000,000 domestic state-owned ordinary shares with a par value of RMB1.00 each to Shenhua Group. The shares issued to Shenhua Group represented the entire registered and paid-up share capital of the Company at that date.

In 2005, the Company issued 3,089,620,455 H shares with a par value of RMB1.00 each, at a price of Hong Kong Dollars ("HKD") 7.50 per H share by way of a global initial public offering. In addition, 308,962,045 domestic state-owned ordinary shares of RMB1.00 each owned by Shenhua Group were converted into H shares. A total of 3,398,582,500 H shares were listed on The Stock Exchange of Hong Kong Limited.

In 2007, the Company issued 1,800,000,000 A shares with a par value of RMB1.00 each, at a price of RMB36.99 per A share in the PRC. The A shares were listed on the Shanghai Stock Exchange.

### Immediate parent and ultimate controlling party

On 28 August 2017, Shenhua Group received the *Notice regarding the Restructuring of China Guodian Corporation and Shenhua Group Corporation Limited* (Guo Zi Fa Gai Ge [2017] No. 146) from the State-owned Assets Supervision and Administration Commission of the State Council, which approves that China Guodian Corporation (the "China Guodian") and Shenhua Group shall implement the joint restructuring. China Guodian shall be merged into Shenhua Group, and the company name of Shenhua Group shall be changed to China Energy Investment Corporation Limited (the "China Energy Group"). China Energy Group will be the parent company after the completion of the restructuring.

On 27 November 2017, Shenhua Group has completed the industrial and commercial registration of changes in the business license. At 31 December 2017, the Directors consider the immediate parent and ultimate holding company of the Group to be China Energy Group.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 2. APPLICATION OF NEW AND REVISED INTERNATIONAL FINANCIAL REPORTING STANDARDS ("IFRSs")

#### Amendments to IFRSs that are mandatorily effective for the current year

In the current year, the Group has applied, for the first time, the following amendments to IFRSs that are mandatorily effective for the current year:

Amendments to IAS 7	<i>Disclosure Initiative</i>
Amendments to IAS 12	<i>Recognition of Deferred Tax Assets for Unrealised Losses</i>
Amendments to IFRS 12	<i>As part of the Annual Improvements to IFRSs 2014-2016 Cycle</i>

The application of the amendments to IFRSs in the current year has had no material impact on the Group's financial performance and positions for the current and prior years and/or on the disclosures set out in these consolidated financial statements, except for the application of Amendments to IAS 7.

The Group has applied the amendments to IAS 7 *Disclosure Initiative* for the first time in the current year. The amendments require an entity to provide disclosures that enable users of financial statements to evaluate changes in liabilities arising from financing activities, including both cash and non-cash changes. In addition, the amendments also require disclosures on changes in financial assets if cash flows from those financial assets were, or future cash flows will be, included in cash flows from financing activities.

Specifically, the amendments require the following to be disclosed: (i) changes from financing cash flows; (ii) changes arising from obtaining or losing control of subsidiaries or other businesses; (iii) the effect of changes in foreign exchange rates; (iv) changes in fair values; and (v) other changes.

A reconciliation between the opening and closing balances of these items is provided in Note 38. Consistent with the transition provisions of the amendments, the Group has not disclosed comparative information for the prior year. Apart from the additional disclosure in Note 38, the application of these amendments has had no impact on the Group's consolidated financial statements.

#### New and revised IFRSs in issue but not yet effective

The Group has not early applied the following new and revised IFRSs that have been issued but are not effective:

IFRS 9	<i>Financial Instruments</i> <sup>1</sup>
IFRS 15	<i>Revenue from Contracts with Customers and the related Amendments</i> <sup>1</sup>
IFRS 16	<i>Leases</i> <sup>2</sup>
IFRS 17	<i>Insurance Contracts</i> <sup>4</sup>
IFRIC 22	<i>Foreign Currency Transactions and Advance Consideration</i> <sup>1</sup>
IFRIC 23	<i>Uncertainty over Income Tax Treatments</i> <sup>2</sup>
Amendments to IFRS 2	<i>Classification and Measurement of Share-based Payment Transactions</i> <sup>1</sup>
Amendments to IFRS 4	<i>Applying IFRS 9 Financial Instruments with IFRS 4 Insurance Contracts</i> <sup>1</sup>
Amendments to IFRS 9	<i>Prepayment Features with Negative Compensation</i> <sup>2</sup>
Amendments to IFRS 10 and IAS 28	<i>Sale or Contribution of Assets between an Investor and its Associate or Joint Venture</i> <sup>3</sup>
Amendments to IAS 19	<i>Plan Amendment, Curtailment or Settlement</i> <sup>2</sup>
Amendments to IAS 28	<i>Long-term interests in Associates and Joint Ventures</i> <sup>2</sup>
Amendments to IAS 40	<i>Transfers of Investment Property</i> <sup>1</sup>
Amendments to IAS 28	<i>As part of the Annual Improvements to IFRS Standards 2014-2016 Cycle</i> <sup>1</sup>
Amendments to IFRSs	<i>Annual Improvements to IFRS Standards 2015-2017 Cycle</i> <sup>2</sup>

<sup>1</sup> Effective for annual periods beginning on or after 1 January 2018

<sup>2</sup> Effective for annual periods beginning on or after 1 January 2019

<sup>3</sup> Effective for annual periods beginning on or after a date to be determined

<sup>4</sup> Effective for annual periods beginning on or after 1 January 2021



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 2. APPLICATION OF NEW AND REVISED INTERNATIONAL FINANCIAL REPORTING STANDARDS ("IFRSs") (CONTINUED)

#### New and revised IFRSs in issue but not yet effective (Continued)

Other than as further explained below, the Directors do not anticipate that the application of the new and revised IFRSs above will have a material impact on the Group's consolidated financial statements and the disclosure.

#### *IFRS 9 Financial Instruments*

IFRS 9 introduces new requirements for the classification and measurement of financial assets, financial liabilities, general hedge accounting and impairment requirements for financial assets.

Key requirements of IFRS 9:

- all recognised financial assets that are within the scope of IFRS 9 are required to be subsequently measured at amortised cost or fair value. Specifically, debt investments that are held within a business model whose objective is to collect the contractual cash flows, and that have contractual cash flows that are solely payments of principal and interest on the principal outstanding are generally measured at amortised cost at the end of subsequent accounting periods. Debt instruments that are held within a business model whose objective is achieved both by collecting contractual cash flows and selling financial assets, and that have contractual terms that give rise on specified dates to cash flows that are solely payments of principal and interest on the principal amount outstanding, are generally measured at fair value through other comprehensive income ("FVTOCI"). All other financial assets are measured at their fair value at subsequent accounting periods. In addition, under IFRS 9, entities may make an irrevocable election to present subsequent changes in the fair value of an equity investment (that is not held for trading) in other comprehensive income, with only dividend income generally recognised in profit or loss.
- with regard to the measurement of financial liabilities designated as at fair value through profit or loss, IFRS 9 requires that the amount of change in the fair value of the financial liability that is attributable to changes in the credit risk of that liability is presented in other comprehensive income, unless the recognition of effects of changes in the liability's credit risk in other comprehensive income would create or enlarge an accounting mismatch in profit or loss. Changes in fair value attributable to a financial liability's credit risk are not subsequently reclassified to profit or loss. Under IAS 39 *Financial Instruments: Recognition and Measurement* ("IAS 39"), the entire amount of the change in the fair value of the financial liability designated as fair value through profit or loss is presented in profit or loss.
- for non-substantial modifications of financial liabilities that do not result in derecognition, the carrying amount of the relevant financial liabilities will be calculated at the present value of the modified contractual cash flows and discounted at the financial liabilities' original effective interest rate. Transaction costs or fees incurred are adjusted to the carrying amount of the modified financial liabilities and are amortised over the remaining term. Any adjustment to the carrying amount of the financial liability is recognised in profit or loss at the date of modification. Under IAS 39, the effective interest rates for non-substantial modification of financial liabilities are revised with no gain/loss being recognised in profit or loss at the date of modification.
- in relation to the impairment of financial assets, IFRS 9 requires an expected credit loss model, as opposed to an incurred credit loss model under IAS 39. The expected credit loss model requires an entity to account for expected credit losses and changes in those expected credit losses at each reporting date to reflect changes in credit risk since initial recognition. In other words, it is no longer necessary for a credit event to have occurred before credit losses are recognised.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 2. APPLICATION OF NEW AND REVISED INTERNATIONAL FINANCIAL REPORTING STANDARDS ("IFRSs") (CONTINUED)

#### New and revised IFRSs in issue but not yet effective (Continued)

##### *IFRS 9 Financial Instruments (Continued)*

Based on the Group's financial instruments and risk management policies as at 31 December 2017, the Directors anticipate the following potential impact on initial application of IFRS 9:

##### *Classification and measurement:*

- Debt instruments classified as held-to-maturity investments and loan receivables carried at amortised cost as disclosed in Note 21, 24, 25, 26 and 27 respectively: these are held within a business model whose objective is to collect the contractual cash flows that are solely payments of principal and interest on the principal outstanding. Accordingly, these financial assets will continue to be subsequently measured at amortised cost upon the application of IFRS 9.
- Equity securities classified as available-for-sale ("AFS") investments carried at cost less impairment as disclosed in Note 20: these securities qualified for designation as measured at FVTOCI under IFRS 9 and the Group will measure these securities at fair value at the end of subsequent reporting periods with fair value gains or losses to be recognised as other comprehensive income and accumulated in the investments revaluation reserve. Upon initial application of IFRS 9, AFS equity securities of the Group with a carrying amount of RMB749 million as at 31 December 2017 will be designated as financial assets measured at FVTOCI. Other AFS investments will be measured at fair value with subsequent fair value gains or losses to be recognised in profit or loss.
- All other financial assets and financial liabilities will continue to be measured on the same bases as are currently measured under IAS 39.

##### *Impairment:*

In general, the Directors anticipate that the application of the expected credit loss model of IFRS 9 will result in earlier provision of credit losses which are not yet incurred in relation to the Group's financial assets measured at amortised costs and other items that subject to the impairment provisions upon application of IFRS 9 by the Group.

Based on the assessment by the Directors, if the expected credit loss model were to be applied by the Group, the accumulated amount of impairment loss to be recognised by Group as at 1 January 2018 would be slightly increased as compared to the accumulated amount recognised under IAS 39 mainly attributable to expected credit losses provision on accounts receivables, other receivables, loans and advances to China Energy Group and fellow subsidiaries and entrusted loans. Such further impairment recognised under expected credit loss model would reduce the opening retained profits and increase the deferred tax assets at 1 January 2018.

Other than above, the Directors do not expect IFRS 9 will have a material impact on the results and financial position of the Group.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 2. APPLICATION OF NEW AND REVISED INTERNATIONAL FINANCIAL REPORTING STANDARDS ("IFRSs") (CONTINUED)

#### New and revised IFRSs in issue but not yet effective (Continued)

##### *IFRS 15 Revenue from Contracts with Customers*

IFRS 15 was issued which establishes a single comprehensive model for entities to use in accounting for revenue arising from contracts with customers. IFRS 15 will supersede the current revenue recognition guidance including IAS 18 *Revenue*, IAS 11 *Construction Contracts* and the related interpretations when it becomes effective.

The core principle of IFRS 15 is that an entity should recognise revenue to depict the transfer of promised goods or services to customers in an amount that reflects the consideration to which the entity expects to be entitled in exchange for those goods or services. Specifically, the standard introduces a 5-step approach to revenue recognition:

- Step 1: Identify the contract(s) with a customer
- Step 2: Identify the performance obligations in the contract
- Step 3: Determine the transaction price
- Step 4: Allocate the transaction price to the performance obligations in the contract
- Step 5: Recognise revenue when (or as) the entity satisfies a performance obligation

Under IFRS 15, an entity recognises revenue when (or as) a performance obligation is satisfied, i.e. when "control" of the goods or services underlying the particular performance obligation is transferred to the customer. Far more prescriptive guidance has been added in IFRS 15 to deal with specific scenarios. Furthermore, extensive disclosures are required by IFRS 15.

The Directors anticipate that the application of IFRS 15 in the future may result in more disclosures, however, the Directors do not anticipate that the application of IFRS 15 will have a material impact on the timing and amounts of revenue recognised in the respective reporting periods.

##### *IFRS 16 Leases*

IFRS 16, which upon the effective date will supersede IAS 17 *Leases*, introduces a single lessee accounting model and requires a lessee to recognise assets and liabilities for all leases with a term of more than 12 months, unless the underlying asset is of low value. Specifically, under IFRS 16, a lessee is required to recognise a right-of-use asset representing its right to use the underlying leased asset and a lease liability representing its obligation to make lease payments. Accordingly, a lessee should recognise depreciation of the right-of-use asset and interest on the lease liability. For the classification of cash flows, cash repayments of the lease liability are classified into a principal portion and an interest portion and presented as financing in the statement of cash flows. The right-of-use asset is initially measured at cost and subsequently measured at cost (subject to certain exceptions) less accumulated depreciation and impairment losses, adjusted for any remeasurement of the lease liability. The lease liability is initially measured at the present value of the lease payments that are not paid at that date. The measurement includes non-cancellable lease payments and also includes payments to be made in optional periods if the lessee is reasonably certain to exercise an option to extend the lease, or not to exercise an option to terminate the lease. This accounting treatment is significantly different from the lessee accounting for leases that are classified as operating leases under the predecessor standard, IAS 17.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 2. APPLICATION OF NEW AND REVISED INTERNATIONAL FINANCIAL REPORTING STANDARDS ("IFRSs") (CONTINUED)

#### New and revised IFRSs in issue but not yet effective (Continued)

##### *IFRS 16 Leases (Continued)*

In respect of the lessor accounting, IFRS 16 substantially carries forward the lessor accounting requirements in IAS 17. Accordingly, a lessor continues to classify its leases as operating leases or finance leases, and to account for those two types of leases differently.

As disclosed in Note 39.2, total operating lease commitments for the Group as at 31 December 2017 amounted to RMB2,123 million, the Directors do not expect the application of IFRS 16 would result in significant impact on the Group's results but it is expected that these lease commitments will be required to be recognised in the consolidated statement of financial position as right-of-use assets and lease liabilities.

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES

#### Basis of preparation

The consolidated financial statements have been prepared in accordance with IFRS issued by the International Accounting Standards Board. They are presented in Renminbi ("RMB") and all values are rounded to the nearest million (RMB' million) except when otherwise indicated. In addition, the consolidated financial statements include applicable disclosures required by the Rules Governing the Listing of Securities on The Stock Exchange of Hong Kong Limited ("Listing Rules") and by the Hong Kong Companies Ordinance ("CO").

The consolidated financial statements have been prepared on the historical cost basis, except for certain financial instruments as disclosed in Note 37.3, which have been measured at fair value at the end of each reporting period.

Historical cost is generally based on the fair value of the consideration given in exchange for goods and services.

Fair value is the price that would be received to sell an asset or paid to transfer a liability in an orderly transaction between market participants at the measurement date, regardless of whether that price is directly observable or estimated using another valuation technique. In estimating the fair value of an asset or a liability, the Group takes into account the characteristics of the asset or liability if market participants would take those characteristics into account when pricing the asset or liability at the measurement date. Fair value for measurement and/or disclosure purposes in the Group's consolidated financial statements is determined on such a basis, except for share-based payment transactions that are within the scope of IFRS 2 *Share-based Payment*, leasing transactions that are within the scope of IAS 17 *Leases*, and measurements that have some similarities to fair value but are not fair value, such as net realisable value in IAS 2 *Inventories* or value in use in IAS 36 *Impairment of Assets*.

In addition, for financial reporting purposes, fair value measurements are categorised into Level 1, 2 or 3 based on the degree to which the inputs to the fair value measurements are observable and the significance of the inputs to the fair value measurement in its entirety, which are described as follows:

- Level 1 inputs are quoted prices (unadjusted) in active markets for identical assets or liabilities that the entity can access at the measurement date;



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Basis of preparation (Continued)

- Level 2 inputs are inputs, other than quoted prices included within Level 1, that are observable for the asset or liability, either directly or indirectly, and
- Level 3 inputs are unobservable inputs for the asset or liability.

The principal accounting policies are set out below.

#### Basis of consolidation

The consolidated financial statements incorporate the financial statements of the Company and entities controlled by the Company and its subsidiaries. Control is achieved when the Company:

- has power over the investee,
- is exposed, or has rights, to variable returns from its involvement with the investee; and
- has the ability to use its power to affect its returns.

The Group reassesses whether or not it controls an investee if facts and circumstances indicate that there are changes to one or more of the three elements of control listed above.

When the Group has less than a majority of the voting rights of an investee, it has power over the investee when the voting rights are sufficient to give it the practical ability to direct the relevant activities of the investee unilaterally. The Group considers all relevant facts and circumstances in assessing whether or not the Group's voting rights in an investee are sufficient to give it power, including:

- the size of the Group's holding of voting rights relative to the size and dispersion of holdings of the other vote holders,
- potential voting rights held by the Group, other vote holders or other parties;
- rights arising from other contractual arrangements; and
- any additional facts and circumstances that indicate that the Group has, or does not have, the current ability to direct the relevant activities at the time that decisions need to be made, including voting patterns at previous shareholders' meetings.

Consolidation of a subsidiary begins when the Group obtains control over the subsidiary and ceases when the Group loses control of the subsidiary. Specifically, income and expenses of a subsidiary acquired or disposed of during the year are included in the consolidated statement of profit or loss and other comprehensive income from the date the Group gains control until the date when the Group ceases to control the subsidiary.

Profit or loss and each item of other comprehensive income are attributed to equity holders of the Company and to the non-controlling interests. Total comprehensive income of subsidiaries is attributed to equity holders of the Company and to the non-controlling interests even if this results in the non-controlling interests having a deficit balance.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### **Basis of consolidation (Continued)**

Where necessary, adjustments are made to the financial statements of subsidiaries to bring their accounting policies into line with the Group's accounting policies.

All intragroup assets and liabilities, equity, income, expenses and cash flows relating to transactions between members of the Group are eliminated in full on consolidation.

#### ***Changes in the Group's ownership interests in existing subsidiaries***

Changes in the Group's ownership interests in existing subsidiaries that do not result in the Group losing control over the subsidiaries are accounted for as equity transactions. The carrying amounts of the Group's relevant components of equity and the non-controlling interests are adjusted to reflect the changes in their relative interests in the subsidiaries, including re-attribution of relevant reserves between the Group and the non-controlling interests according to the Group's and the non-controlling interests' proportionate interests.

Any difference between the amount by which the non-controlling interests are adjusted, and the fair value of the consideration paid or received is recognised directly in equity and attributed to owners of the Company.

#### **Business combinations**

Except for business combination involving entities under common control, acquisitions of businesses are accounted for using the acquisition method. The consideration transferred in a business combination is measured at fair value, which is calculated as the sum of the acquisition-date fair values of the assets transferred by the Group, liabilities incurred by the Group to the former owners of the acquiree and the equity interests issued by the Group in exchange for control of the acquiree. Acquisition-related costs are generally recognised in profit or loss as incurred.

At the acquisition date, the identifiable assets acquired and the liabilities assumed are recognised at their fair value, except that deferred tax assets or liabilities, and assets or liabilities related to employee benefit arrangements are recognised and measured in accordance with IAS 12 *Income Taxes* and IAS 19 *Employee benefits* respectively.

Goodwill is measured as the excess of the sum of the consideration transferred, the amount of any non-controlling interests in the acquiree, and the fair value of the acquirer's previously held equity interest in the acquiree (if any) over the net of the acquisition-date amounts of the identifiable assets acquired and the liabilities assumed. If, after re-assessment, the net of the acquisition-date amounts of the identifiable assets acquired and liabilities assumed exceeds the sum of the consideration transferred, the amount of any non-controlling interests in the acquiree and the fair value of the acquirer's previously held interest in the acquiree (if any), the excess is recognised immediately in profit or loss as a bargain purchase gain.

Non-controlling interests that are present ownership interests and entitle their holders to a proportionate share of the entity's net assets in the event of liquidation are initially measured at the non-controlling interests' proportionate share of the recognised amounts of the acquiree's identifiable net assets.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### **Merger accounting for business combination involving businesses under common control**

The consolidated financial statements incorporate the financial statements items of the combining businesses in which the common control combination occurs as if they had been combined from the date when the combining businesses first came under the control of the controlling party.

The net assets of the combining businesses are consolidated using the existing book values from the controlling party's perspective. No amount is recognised in respect of goodwill or bargain purchase gain at the time of common control combination.

The consolidated statement of profit or loss and other comprehensive income includes the results of each of the combining businesses from the earliest date presented or since the date when the combining businesses first came under the common control, where this is a shorter period.

The comparative amounts in the consolidated financial statements are presented as if the businesses had been combined at the end of the previous reporting period or when they first came under common control, whichever is shorter.

#### **Goodwill**

Goodwill arising on an acquisition of a business is carried at cost as established at the date of acquisition of the business less accumulated impairment losses, if any.

For the purposes of impairment testing, goodwill is allocated to each of the Group's cash-generating units (or groups of cash-generating units) that is expected to benefit from the synergies of the combination, which represent the lowest level at which the goodwill is monitored for internal management purposes and not larger than an operating segment.

A cash-generating unit to which goodwill has been allocated is tested for impairment annually or more frequently when there is indication that the unit may be impaired. For goodwill arising on an acquisition in a reporting period, the cash-generating unit to which goodwill has been allocated is tested for impairment before the end of that reporting period. If the recoverable amount of the cash-generating unit is less than its carrying amount, the impairment loss is allocated first to reduce the carrying amount of any goodwill allocated to the unit and then to the other assets of the unit on a pro-rata basis based on the carrying amount of each asset in the unit. Any impairment loss for goodwill is recognised directly in profit or loss. An impairment loss recognised for goodwill is not reversed in subsequent periods.

On disposal of the relevant cash-generating unit, the attributable amount of goodwill is included in the determination of the amount of profit or loss on disposal.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Investments in associates

An associate is an entity over which the Group has significant influence. Significant influence is the power to participate in the financial and operating policy decisions of the investee but is not control or joint control over those policies.

The results and assets and liabilities of associates are incorporated in these consolidated financial statements using the equity method of accounting. The financial statements of associates used for equity accounting purposes are prepared using uniform accounting policies as those of the Group for like transactions and events in similar circumstances. Under the equity method, an investment in an associate is initially recognised in the consolidated statement of financial position at cost and adjusted thereafter to recognise the Group's share of the profit or loss and other comprehensive income of the associate. When the Group's share of losses of an associate exceeds the Group's interest in that associate (which includes any long-term interests that, in substance, form part of the Group's net investment in the associate), the Group discontinues recognising its share of further losses. Additional losses are recognised only to the extent that the Group has incurred legal or constructive obligations or made payments on behalf of that associate.

On acquisition of the investment in an associate, any excess of the cost of acquisition over the Group's share of the net fair value of the identifiable assets, liabilities of the investee is recognised as goodwill, which is included within the carrying amount of the investment. Any excess of the Group's share of the net fair value of the identifiable assets and liabilities over the cost of investment, after reassessment, is recognised immediately in profit or loss in the period in which the investment is acquired.

The requirements of IAS 39 are applied to determine whether there are any indicators that the Group's investment in an associate may be impaired. When necessary, the entire carrying amount of the investment (including goodwill) is tested for impairment in accordance with IAS 36 as a single asset by comparing its recoverable amount (higher of value in use and fair value less costs of disposal) with its carrying amount. Any impairment loss is recognised when the recoverable amount is less the carrying value of the investment in associates. Any reversal of that impairment loss is recognised in accordance with IAS 36 to the extent that the recoverable amount of the investment subsequently increases.

When the Group reduces its ownership interest in an associate but the Group continues to use the equity method, the Group reclassifies to profit or loss the proportion of the gain or loss that had previously been recognised in other comprehensive income relating to that reduction in ownership interest if that gain or loss would be reclassified to profit or loss on the disposal of the related assets or liabilities.

When a group entity transacts with an associate of the Group, profits and losses resulting from the transactions with the associate are recognised in the Group's consolidated financial statements only to the extent of interests in the associate that are not related to the Group.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Revenue recognition

Revenue is measured at the fair value of the consideration received or receivable. Provided it is probable that the economic benefits will flow to the Group and the revenue and costs can be measured reliably, revenue is recognised in profit or loss as follows:

- Revenue associated with the sale of coal is recognised when the risks and rewards to the ownership of the goods have been passed to the customer.
- Revenue from sale of power is recognised upon the transmission of electric power to the power grid companies, as determined based on the volume of electric power transmitted and the applicable fixed tariff rates agreed with the respective electric power grid companies annually.
- Revenue from the rendering of railway, port, shipping and other services is recognised upon the delivery or performance of the services.
- Dividend income from unlisted investments is recognised when the shareholder's right to receive payment is established.
- Interest income is recognised as it accrues using the effective interest method.

#### Leasing

Leases where substantially all the rewards and risks of ownership of assets remain with the lessor are accounted for as operating leases. Where the Group is the lessor, assets leased by the Group under operating leases are included in non-current assets, and rentals receivable under the operating leases are credited to profit or loss on the straight-line basis over the lease terms. Where the Group is the lessee, rentals payable under operating leases are charged to the profit or loss on the straight-line basis over the lease terms.

Land using rights under operating leases are presented as lease prepayments in the consolidated statement of financial position and are initially stated at cost and subsequently charged to the profit or loss on the straight-line basis over the lease terms.

#### Foreign currencies

In preparing the financial statements of each individual group entity, transactions in currencies other than entity's functional currencies (foreign currencies) are recognised at the rates of exchange prevailing on the dates of the transactions. At the end of the reporting period, monetary items denominated in foreign currencies are retranslated at the rates prevailing at that date. Non-monetary items that are measured in terms of historical cost in a foreign currency are not retranslated. Exchange differences on monetary items are recognised in profit or loss in the period in which they arise.

For the purpose of presenting the consolidated financial statements, the assets and liabilities of the Group's foreign operations are translated into the presentation currency of the Group (i.e. RMB) using exchange rates prevailing at the end of each reporting period. Income and expenses items are translated at the average exchange rates for the period. Exchange differences arising, if any, are recognised in other comprehensive income and accumulated in equity under the heading of exchange reserve, attributed to non-controlling interests as appropriate.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### **Borrowing costs**

Borrowing costs directly attributable to the acquisition, construction or production of qualifying assets, which are assets that necessarily take a substantial period of time to get ready for their intended use or sale, are added to as part of the cost of those assets, until such time as the assets are substantially ready for their intended use or sale. All other borrowing costs are expensed in the period in which they are incurred.

#### **Government grants**

Government grants are not recognised until there is reasonable assurance that the Group will comply with the conditions attaching to them and that the grants will be received.

Government grants are recognised in profit or loss on a systematic basis over the periods in which the Group recognises as expenses the related costs for which the grants are intended to compensate. Specifically, government grants whose primary condition is that the Group should purchase, construct or otherwise acquire non-current assets are recognised as deferred income in the consolidated statement of financial position and transferred to profit or loss on a systematic and rational basis over the useful lives of the related assets.

Government grants that are receivable as compensation for expenses or losses already incurred or for the purpose of giving immediate financial support to the Group with no future related costs are recognised in profit or loss in the period in which they become receivable.

#### **Retirement benefit costs**

Payments to state-managed retirement benefit schemes and a supplemental defined contribution pension plan approved by the government are recognised as an expense when employees have rendered service entitling them to the contributions.

#### **Taxation**

Income tax expense represents the sum of the tax currently payable and deferred tax.

The tax currently payable is based on taxable profit for the year. Taxable profit differs from "profit before income tax" as reported in the consolidated statement of profit or loss and other comprehensive income because of income or expense that are taxable or deductible in other years and items that are never taxable or deductible. The Group's liability for current tax is calculated using tax rates that have been enacted or substantively enacted by the end of the reporting period.

Deferred tax is recognised on temporary differences between the carrying amounts of assets and liabilities in the consolidated financial statements and the corresponding tax bases used in the computation of taxable profit. Deferred tax liabilities are generally recognised for all taxable temporary differences. Deferred tax assets are generally recognised for all deductible temporary differences to the extent that it is probable that taxable profits will be available against which those deductible temporary differences can be utilised. Such deferred tax assets and liabilities are not recognised if the temporary difference arises from the initial recognition (other than in a business combination) of assets and liabilities in a transaction that affects neither the taxable profit nor the accounting profit. In addition, deferred tax liabilities are not recognised if the temporary difference arises from the initial recognition of goodwill.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Taxation (Continued)

Deferred tax liabilities are recognised for taxable temporary differences associated with investments in subsidiaries and associates, except where the Group is able to control the reversal of the temporary difference and it is probable that the temporary difference will not reverse in the foreseeable future. Deferred tax assets arising from deductible temporary differences associated with such investments and interests are only recognised to the extent that it is probable that there will be sufficient taxable profits against which to utilise the benefits of the temporary differences and they are expected to reverse in the foreseeable future.

The carrying amount of deferred tax assets is reviewed at the end of each reporting period and reduced to the extent that it is no longer probable that sufficient taxable profits will be available to allow all or part of the asset to be recovered. Unrecognised deferred tax assets are reassessed at the end of each reporting year and are recognised to the extent that it has become probable that future taxable profit will be available to allow all or part of the deferred tax asset to be recovered.

Deferred tax assets and liabilities are measured at the tax rates that are expected to apply in the period in which the liability is settled or the asset is realised, based on tax rate (and tax laws) that have been enacted or substantively enacted by the end of the reporting period.

The measurement of deferred tax liabilities and assets reflects the tax consequences that would follow from the manner in which the Group expects, at the end of the reporting period, to recover or settle the carrying amount of its assets and liabilities.

Current and deferred tax are recognised in profit or loss, except when they relate to items that are recognised in other comprehensive income or directly in equity, in which case, the current and deferred tax are also recognised in other comprehensive income or directly in equity respectively. Where current tax or deferred tax arises from the initial accounting for a business combination, the tax effect is included in the accounting for the business combination.

#### Property, plant and equipment

Property, plant and equipment, which consists of freehold land and buildings, mining structures and mining rights, mining related machinery and equipment, and others, held for use in the production or supply of goods or services, or for administrative purposes, are stated in the consolidated statement of financial position at cost less subsequent accumulated depreciation and subsequent accumulated impairment losses, if any.

Depreciation is recognised so as to write off the cost of items of property, plant and equipment (other than freehold land and construction in progress, which are subject to impairment assessment) less their residual values over their estimated useful lives. The estimated useful lives, residual values and depreciation method are reviewed at the end of each reporting period, with the effect of any changes in estimate accounted for on a prospective basis.

Property, plant and equipment, except for freehold land, and mining structures and mining rights, are depreciated on a straight-line basis at the following rates per annum:

Category	Term for depreciation (year)
Buildings	10-50 years
Mining related machinery and equipment	5-20 years
Generators related machinery and equipment	20 years
Railway and port	30-45 years
Vessel	10-25 years
Coal chemical related machinery and equipment	10-20 years
Furniture, fixtures, motor vehicles and other equipment	5-20 years

2017 Annual Report **191**



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### **Property, plant and equipment (Continued)**

The Directors reviewed the estimated useful lives of the assets annually based on the Group's historical experience with similar assets and taking into account anticipated technological changes.

Construction in progress intended to be used for production, supply or administrative purposes are carried at cost, less any recognised impairment loss. Costs include professional fees and, for qualifying assets, borrowing costs capitalised in accordance with the Group's accounting policy. Such properties are classified to the appropriate categories of property, plant and equipment when completed and ready for intended use. Depreciation of these assets, on the same basis as other property, plant and equipment, commences when the assets are ready for their intended use.

An item of property, plant and equipment is derecognised upon disposal or when no future economic benefits are expected to arise from the continued use of the asset. Any gain or loss arising on the disposal or retirement of an item of property, plant and equipment is determined as the difference between the sales proceeds and the carrying amount of the asset and is recognised in profit or loss.

#### ***Mining structures and mining rights***

The costs of mining structures and mining rights, which include the costs of acquiring and developing mining structures and mining rights, are firstly capitalised as "construction in progress" in the year in which they are incurred and then reclassified to "Mining structures and mining rights" under property, plant and equipment when they are ready for commercial production.

Mining structures and mining rights are depreciated on a units-of-production basis utilising only proved and probable coal reserves in the depletion base.

The Group's mining rights are of sufficient duration (or convey a legal right to renew for sufficient duration) to enable all reserves to be mined in accordance with current production schedules.

Stripping costs incurred to develop a mine (or pit) before the production commences or to improve access to the component of the ore body during the production stage are capitalised as part of the cost of constructing the mine (or pit) and subsequently amortised over the life of the mine (or pit) on a units-of-production basis. Stripping costs and secondary development expenditure, mainly comprising costs on blasting, haulage, excavation, etc. incurred during the production stage of the ore body are charged to profit or loss as incurred.

Commercial reserves are proved and probable reserves. Changes in the commercial reserves affecting unit of production calculations are dealt with prospectively over the revised remaining reserves.

#### **Exploration and evaluation assets**

Exploration and evaluation assets comprise costs which are directly attributable to the search for mineral resources, the determination of technical feasibility and the assessment of commercial viability of an identified resource.

- researching and analysing historical exploration data;
- gathering exploration data through topographical, geochemical and geophysical studies;

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Exploration and evaluation assets (Continued)

- exploratory drilling, trenching and sampling;
- determining and examining the volume and grade of the resource;
- surveying transportation and infrastructure requirements; and
- conducting market and finance studies.

Expenditure during the initial exploration preparation stage of a project is charged to profit or loss as incurred. Exploration and evaluation costs, including the costs of acquiring licenses, are capitalised as exploration and evaluation assets on a project-by-project basis pending determination of the technical feasibility and commercial viability of the project.

Once the final feasibility study has been completed and a development decision has been taken, accumulated capitalised exploration and evaluation expenditures in respect of an area of interest are transferred to property, plant and equipment. In circumstances when an area of interest is abandoned or management decides it is not commercially viable, any accumulated costs in respect of that area are written off in the period the decision is made.

#### Obligations for land reclamation

The Group's obligations for land reclamation consist of spending estimates at both surface and underground mines in accordance with the PRC rules and regulations. The Group estimates its liabilities for land reclamation and mine closure based upon detailed calculations of the amount and timing of the future cash flows for the required work. Spending estimates are escalated for inflation, then discounted at a discount rate that reflects current market assessments of the time value of money and the risks specific to the liability such that the amount of provision reflects the present value of the expenditures expected to be required to settle the obligation. The Group records a corresponding asset associated with the liability for final reclamation and mine closure. The obligation and corresponding asset are recognised in the period in which the liability is incurred. The asset is depreciated on the units-of-production method over its expected life and the liability is accreted to the projected spending date. As changes in estimates occur (such as mine plan revisions, changes in estimated costs, or changes in timing of the performance of reclamation activities), the revisions to the obligation and the corresponding asset are recognised at the appropriate discount rate.

Costs for restoration of subsequent site damage which is caused on an ongoing basis during production are provided for at their net present values and charged to profit or loss as extraction progresses. Where the costs of site restoration are not anticipated to be significant, they are expensed as incurred.

#### Intangible assets

##### *Intangible assets acquired separately*

Intangible assets with finite useful lives that are acquired separately are carried at costs less accumulated amortisation and any accumulated impairment losses. Amortisation for intangible assets with finite useful lives is recognised on a straight-line basis over their estimated useful lives. The estimated useful life and amortisation method are reviewed at the end of each reporting period, with the effect of any changes in estimate being accounted for on a prospective basis.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Intangible assets (Continued)

##### *Internally-generated intangible assets – research and development expenditure*

Expenditure on research activities is recognised as an expense in the period in which it is incurred.

An internally-generated intangible asset arising from development activities (or from the development phase of an internal project) is recognised if, and only if, all of the following have been demonstrated:

- the technical feasibility of completing the intangible asset so that it will be available for use or sale;
- the intention to complete the intangible asset and use or sell it;
- the ability to use or sell the intangible asset;
- how the intangible asset will generate probable future economic benefits;
- the availability of adequate technical, financial and other resources to complete the development and to use or sell the intangible asset; and
- the ability to measure reliably the expenditure attributable to the intangible asset during its development.

The amount initially recognised for internally-generated intangible asset is the sum of the expenditure incurred from the date when the intangible asset first meets the recognition criteria listed above. Where no internally-generated intangible asset can be recognised, development expenditure is recognised in profit or loss in the period in which it is incurred.

Subsequent to initial recognition, internally-generated intangible asset is measured at cost less accumulated amortisation and accumulated impairment losses (if any), on the same basis as intangible assets acquired separately.

##### *Intangible assets acquired in a business combination not under common control*

Intangible assets acquired in a business combination are recognised separately from goodwill and are initially recognised at their fair value at the acquisition date (which is regarded as their cost).

Subsequent to initial recognition, intangible assets acquired in a business combination with finite useful lives are reported at cost less accumulated amortisation and any accumulated impairment losses, on the same basis as intangible assets that are acquired separately.

##### *Derecognition of intangible assets*

An intangible asset is derecognised on disposal, or when no future economic benefits are expected from use or disposal. Gains and losses arising from derecognition of an intangible asset are measured as the difference between the net disposal proceeds and the carrying amount of the asset and are recognised in profit or loss in the period when the asset is derecognised.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### **Impairment of tangible and intangible assets other than goodwill**

Where an indication of impairment exists, the asset's recoverable amount is estimated. An asset's recoverable amount is the higher of the asset's value in use and its fair value less costs of disposal, and is determined for an individual asset, unless the asset does not generate cash inflows that are largely independent of those from other assets or groups of assets, in which case the recoverable amount is determined for the cash-generating unit to which the asset belongs.

An impairment loss is recognised only if the carrying amount of an asset exceeds its recoverable amount. In assessing value in use, the estimated future cash flows are discounted to their present value using a pre-tax discount rate that reflects current market assessments of the time value of money and the risks specific to the asset for which the future cash flow estimates have not been adjusted. An impairment loss is charged to the profit or loss as other gains and losses.

An assessment is made at the end of each reporting year as to whether there is any indication that previously recognised impairment losses may no longer exist or may have decreased. If such an indication exists, the recoverable amount is estimated. A previously recognised impairment loss of an asset is reversed only if there has been a change in the estimates used to determine the recoverable amount of that asset, but not to an amount higher than the carrying amount that would have been determined (net of any depreciation/amortisation), had no impairment loss been recognised for the asset in prior years. A reversal of such an impairment loss is credited to the profit or loss in the year in which it arises.

#### **Inventories**

Inventories are stated at the lower of cost and net realisable value. Costs of inventories are calculated using the weighted average method. Net realisable value represents the estimated selling price for inventories less all estimated costs of completion and costs necessary to make the sale.

#### **Provisions**

Provisions are recognised when the Group has a present obligation (legal or constructive) as a result of a past event, it is probable that the Group will be required to settle that obligation, and a reliable estimate can be made of the amount of the obligation.

Provisions are measured at the best estimate of the consideration required to settle the present obligation at the end of the reporting period, taking into account the risks and uncertainties surrounding the obligation. When a provision is measured using the cash flows estimated to settle the present obligation, its carrying amount is the present value of those cash flows (where the effect of the time value of money is material).

When some or all of the economic benefits required to settle a provision are expected to be recovered from a third party, a receivable is recognised as an asset if it is virtually certain that reimbursement will be received and the amount of the receivable can be measured reliably.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Financial instruments

Financial assets and financial liabilities are recognised when a group entity becomes a party to the contractual provisions of the instruments.

Financial assets and financial liabilities are initially measured at fair value. Transaction costs that are directly attributable to the acquisition or issue of financial assets and financial liabilities (other than financial assets and financial liabilities at fair value through profit or loss) are added to or deducted from the fair value of the financial assets or financial liabilities, as appropriate, on initial recognition. Transaction costs directly attributable to the acquisition of financial assets or financial liabilities at fair value through profit or loss are recognised immediately in profit or loss.

#### Effective interest method

The effective interest method is a method of calculating the amortised cost of a financial instrument and of allocating interest income or expense over the relevant period. The effective interest rate is the rate that exactly discounts estimated future cash receipts or payments (including all fees and points paid or received that form an integral part of the effective interest rate, transaction costs and other premiums or discounts) through the expected life of the financial instrument, or, where appropriate, a shorter period, to the net carrying amount on initial recognition.

Interest income is recognised on an effective interest basis for debt instruments.

#### Financial assets

Financial assets within the scope of IAS 39 are classified into the following specific categories: financial assets at fair value through profit or loss ("FVTPL"), held-to-maturity investments, loans and receivables and AFS financial assets. The Group determines the classification of its financial assets at initial recognition based on their nature and purpose. All regular way purchases or sales of financial assets are recognised and derecognised on a trade date basis. Regular way purchases or sales are purchases or sales of financial assets that require delivery of assets within the time frame established by regulation or convention in the marketplace.

The Group's financial assets include financial assets at FVTPL, held-to-maturity investments, loans and receivables and AFS financial assets. The subsequent measurement of financial assets depends on their classification as follows:

#### Financial assets at FVTPL

Financial assets are classified as at FVTPL when the financial asset is either held for trading or it is designated as at FVTPL. They are stated at fair values, with any gains or losses arising on remeasurement, net of interest earned, recognised in profit or loss and are included in other gains and losses line item.

A financial asset is classified as held for trading if:

- it has been acquired principally for the purpose of selling it in the near term; or
- on initial recognition it is part of a portfolio of identified financial instruments that the Group manages together and has a recent actual pattern of short-term profit-taking; or
- it is a derivative that is not designated and effective as a hedging instrument.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Financial instruments (Continued)

##### *Financial assets (Continued)*

##### *Held-to-maturity investments*

Held-to-maturity investments are non-derivative financial assets with fixed or determinable payments and fixed maturity dates that are quoted in an active market and that the Group has the positive intention and ability to hold to maturity.

Subsequent to initial recognition, held-to-maturity investments are measured at amortised cost using the effective interest method, less any impairment.

##### *Loans and receivables*

Loans and receivables are non-derivative financial assets with fixed or determinable payments that are not quoted in an active market. Subsequent to initial recognition, loans and receivables (including accounts and bills receivables, other receivables, loans and advances to China Energy Group and fellow subsidiaries, entrusted loans, restricted bank deposits, time deposits with original maturity over three months and cash and cash equivalents) are measured at amortised cost using the effective interest method, less any identified impairment.

Interest income is recognised by applying the effective interest rate, except for short-term receivables where the recognition of interest would be immaterial.

##### *AFS financial assets*

AFS financial assets are non-derivatives that are either designated as available-for-sale or are not classified as other categories of financial assets. AFS financial assets are measured at fair value at the end of each reporting period except for unquoted equity investments whose fair value cannot be reliably measured. Changes in the carrying amount of AFS debt instruments relating to interest income calculated using the effective interest method, are recognised in profit or loss. Dividends on AFS equity instruments are recognised in profit or loss when the Group's right to receive the dividends is established. Other changes in the carrying amount of AFS financial assets are recognised in other comprehensive income and accumulated under the heading of fair value changes on AFS investment. When the investment is disposed of or is determined to be impaired, the cumulative gain or loss previously accumulated in the fair value changes on AFS investment is reclassified to profit or loss.

As the unlisted equity investments do not have a quoted market price in an active market and whose fair value cannot be reliably measured, they are measured at cost less any identified impairment losses at end of each reporting period. Dividends on the unlisted equity investment are recognised in profit or loss when the Group's right to receive the dividends is established in accordance with the policies set out for "Revenue recognition".

##### *Derecognition of financial assets*

The Group derecognises a financial asset only when the contractual rights to the cash flows from the asset expire, or when it transfers the financial asset and substantially all the risks and rewards of ownership of the asset to another entity. If the Group retains substantially all the risks and rewards of ownership of a transferred financial asset, the Group continues to recognise the financial asset and also recognises a collateralised borrowing for the proceeds received.

On derecognition of a financial asset, the difference between the asset's carrying amount and the sum of the consideration received and receivable and the cumulative gain or loss that had been recognised in other comprehensive income and accumulated in equity is recognised in profit or loss.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Financial instruments (Continued)

##### *Financial assets (Continued)*

##### *Impairment of financial assets*

Financial assets, other than those at FVTPL, are assessed for indicators of impairment at the end of each reporting period. Financial assets are considered to be impaired when there is objective evidence that, as a result of one or more events that occurred after the initial recognition of the financial asset, the estimated future cash flows of the financial assets have been affected. The objective evidence of impairment could include:

- significant financial difficulty of the issuer or counterparty; or
- breach of contract, such as default or delinquency in interest and principal payments; or
- it becoming probable that the borrower will enter bankruptcy or financial re-organisation.

For financial assets carried at cost, the amount of the impairment loss is measured as the difference between the asset's carrying amount and the present value of the estimated future cash flows discounted at the current market rate of return for a similar financial asset. Such impairment loss will not be reversed in subsequent periods.

For financial assets carried at amortised cost, the amount of the impairment loss recognised is the difference between the asset's carrying amount and the present value of the estimated future cash flows discounted at the financial asset's original effective interest rate.

The carrying amount of the financial asset is reduced by the impairment loss directly for all financial assets with the exception of accounts receivables, other receivables, loans and advances to China Energy Group and fellow subsidiaries and entrusted loans, where the carrying amount is reduced through the use of an allowance account. When accounts receivables, other receivables, loans and advances to China Energy Group and fellow subsidiaries and entrusted loans are considered uncollectible, it is written off against the allowance account. Subsequent recoveries of amounts previously written off are credited to profit or loss.

For financial assets measured at amortised cost, if, in a subsequent period, the amount of the impairment loss decreases and the decrease can be related objectively to an event occurring after the impairment was recognised, the previously recognised impairment loss is reversed through profit or loss to the extent that the carrying amount of the investment at the date the impairment is reversed does not exceed what the amortised cost would have been had the impairment not been recognised.

In respect of AFS equity investments, impairment losses previously recognised in profit or loss are not reversed through profit or loss. Any increase in fair value subsequent to an impairment loss is recognised in other comprehensive income and accumulated under the heading of fair value changes on AFS investment. In respect of debt securities, impairment losses are subsequently reversed through profit or loss if an increase in the fair value of the investment can be objectively related to an event occurring after the recognition of the impairment loss.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 3. SIGNIFICANT ACCOUNTING POLICIES (CONTINUED)

#### Financial instruments (Continued)

##### *Financial liabilities and equity instruments*

##### *Equity instruments*

An equity instrument is any contract that evidences a residual interest in the assets of an entity after deducting all of its liabilities. Equity instruments issued by the Group are recognised at the proceeds received, net of direct issue costs.

##### *Financial liabilities*

Financial liabilities within the scope of IAS 39 are classified as financial liabilities at FVTPL and financial liabilities at amortised cost.

After initial recognition, the Group's financial liabilities including borrowings, accounts and bills payables, other payables, long-term liabilities, medium-term notes and bonds, are subsequently measured at amortised cost, using the effective interest rate method unless the effect of discounting would be immaterial, in which case they are stated at cost. Gains and losses are recognised in profit or loss when the liabilities are derecognised. The effective interest rate amortisation is included in finance costs in profit or loss.

##### *Derecognition of financial liabilities*

The Group derecognises financial liabilities when, and only when, the Group's obligations are discharged, cancelled or have expired. The difference between the carrying amount of the financial liability derecognised and the consideration paid and payable is recognised in profit or loss.

##### *Derivative financial instruments*

The Group's derivative financial instruments represent cross-currency exchange rate swaps, and are initially recognised at fair value at the date when the derivative contracts are entered into, and remeasured at fair value at the end of the reporting period, with any gains or losses recognised in profit or loss.

### 4. CRITICAL ACCOUNTING JUDGEMENTS AND KEY SOURCES OF ESTIMATION UNCERTAINTY

In the application of the Group's accounting policies, which are described in Note 3, the Directors are required to make judgements, estimates and assumptions about the carrying amounts of assets and liabilities that are not readily apparent from other sources. The estimates and associated assumptions are based on historical experience and other factors that are considered to be relevant. Actual results may differ from these estimates.

The estimates and underlying assumptions are reviewed on an on-going basis. Revisions to accounting estimates are recognised in the period in which the estimate is revised if the revision affects only that period or in the period of the revision and future periods if the revision affects both current and future periods.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 4. CRITICAL ACCOUNTING JUDGEMENTS AND KEY SOURCES OF ESTIMATION UNCERTAINTY (CONTINUED)

#### 4.1 Critical judgements in applying accounting policies

The following are critical judgements, apart from those involving estimation (see Note 4.2 below), that the Directors have made in the process of applying the Group's accounting policies and that have the most significant effect on the amounts recognised in the consolidated financial statements.

##### ***Control over Hebei Guohua Dingzhou Power Co., Ltd. ("Dingzhou Power")***

Note 43 describes that Dingzhou Power is a subsidiary of the Company although the Company has only 41% ownership interest and voting rights in Dingzhou Power. The remaining 59% of ownership interest and voting rights are owned by two shareholders that are unrelated to the Group as to 19% and 40%, respectively. Details of Dingzhou Power are set out in Note 43.

In making their judgement, the Directors considered that the other shareholders of Dingzhou Power offered the Company, for the right on appointment of the majority members of the board of directors which is the governing body of most of the relevant activities of Dingzhou Power. The Directors consider that the Company has the practical ability to direct the relevant activities that most significantly affect Dingzhou Power's returns unilaterally. After assessment, the Directors concluded that the Company has sufficiently dominant power over the board of directors of Dingzhou Power and therefore the Company has control over Dingzhou Power.

#### 4.2 Key sources of estimation uncertainty

The following are the key assumptions concerning the future, and other key sources of estimation uncertainty at the end of the reporting period that have a significant risk of causing a material adjustment to the carrying amounts of assets and liabilities within the next financial year.

##### ***Coal reserves***

Engineering estimates of the Group's coal reserves are inherently imprecise and represent only approximate amounts because of the subjective judgements involved in developing such information. There are authoritative guidelines regarding the engineering criteria that have to be met before estimated coal reserves can be designated as "proved" and "probable". Proved and probable coal reserve estimates are updated at regular basis and have taken into account recent production and technical information of each mine. In addition, as prices and cost levels change from year to year, the estimate of proved and probable coal reserves also changes. This change is considered as a change in estimate for accounting purposes and is reflected on a prospective basis in related depreciation rates.

Despite the inherent imprecision in these engineering estimates, these estimates are used in determining depreciation expenses and impairment loss. Depreciation rates are determined based on estimated proved and probable coal reserve quantity (the denominator) and capitalised costs of mining structures and mining rights (the numerator). The capitalised cost of mining structures and mining rights are amortised based on the units of coal produced.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 4. CRITICAL ACCOUNTING JUDGEMENTS AND KEY SOURCES OF ESTIMATION UNCERTAINTY (CONTINUED)

#### 4.2 Key sources of estimation uncertainty (Continued)

##### *Impairment losses*

In considering the impairment losses that may be required for certain of the Group's assets which include property, plant and equipment, construction in progress and interest in associates, the recoverable amount of the asset needs to be determined. The recoverable amount is the higher of its fair value less costs of disposal and value in use. It is difficult to precisely estimate fair value because quoted market prices for these assets may not be readily available. In determining the value in use, the Group uses all readily available information in determining expected cash flows generated by the cash-generating unit to which the asset belongs and they are discounted to their present value, which requires significant judgement relating to cash flow items such as level of sale volume, selling price, amount of operating costs and future returns.

In considering the impairment losses that may be required for current receivables and other financial assets, future cash flows need to be determined. One of the key assumptions that has to be applied is about the ability of the debtors to settle the receivables.

Notwithstanding that the Group has used all available information to make this estimation, inherent uncertainty exists and actual write-offs may be higher or lower than the amount estimated. The carrying amounts of the property, plant and equipment, construction in progress and interests in associates are disclosed in Note 15, 16 and 19, respectively.

##### *Depreciation*

Other than the freehold land and mining structures and mining rights, property, plant and equipment are depreciated on a straight-line basis over the estimated useful lives of the assets, after taking into account the estimated residual value. The Group reviews the estimated useful lives and residual value of the assets regularly based on the Group's historical experience with similar assets and taking into account anticipated technological changes. The depreciation expense for future periods is adjusted if there are significant changes from previous estimates. The carrying amounts of the property, plant and equipment is disclosed in Note 15.

##### *Deferred tax assets*

As at 31 December 2017, deferred tax assets of RMB3,798 million (2016: RMB3,849 million) have been recognised in the Group's consolidated statement of financial position. No deferred tax asset has been recognised on the tax losses of RMB7,268 million (2016: RMB6,869 million) and deductible temporary differences of RMB6,555 million (2016: RMB5,804 million) due to the unpredictability of future profit streams. The realisation of the deferred tax assets mainly depends on whether sufficient future profits or taxable temporary differences will be available in the future. In cases where the actual future profits generated are less or more than expected, a material reversal or further provision of deferred tax assets may arise, which will be recognised in profit or loss in the period in which such a reversal or further provision takes place.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 4. CRITICAL ACCOUNTING JUDGEMENTS AND KEY SOURCES OF ESTIMATION UNCERTAINTY (CONTINUED)

#### 4.2 Key sources of estimation uncertainty (Continued)

##### *Obligations for land reclamation*

The estimation of the liabilities for final reclamation and mine closure involves the estimates of the amount and timing for the future cash spending as well as the discount rate used for reflecting current market assessments of the time value of money and the risks specific to the liability. The Group considers the factors including development plan of the mines, the geological structure of the mining regions and reserve volume to determine the scope, amount and timing of reclamation and mine closure works to be performed. Determination of the effect of these factors involves judgements from the Group and the estimated liabilities may turn out to be different from the actual expenditure to be incurred. The discount rate used by the Group may also be altered to reflect the changes in the market assessments of the time value of money and the risks specific to the liability, such as change of the borrowing rate and inflation rate in the market. As changes in estimates occur (such as mine plan revisions, changes in estimated costs, or changes in timing of the performance of reclamation activities), the revisions to the obligation will be recognised at the appropriate discount rate. The carrying amounts of the obligations are disclosed in Note 34.

### 5. REVENUE

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
Coal revenue	150,740	98,126
Power revenue	78,246	68,935
Transportation revenue	6,076	4,610
Coal chemical revenue	5,085	4,293
	240,147	175,964
Other revenue	8,599	7,163
	248,746	183,127



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 6. SEGMENT AND OTHER INFORMATION

The Group manages its businesses by divisions, which are organised by business lines (products and services). In a manner consistent with the way in which information is reported internally to the Group's chief operating decision maker ("CODM"), including president, senior vice president and chief financial officer, for the purposes of resource allocation and performance assessment, the Group has presented the following six (2016: six) reportable segments. No operating segments have been aggregated to form the following reportable segments.

- (1) Coal operations – which produce coal from surface and underground mines, and the sale of coal to external customers, the power operations segment and the coal chemical operations segment. The Group sells its coal under long-term supply contracts, which allow periodical price adjustments, and at spot market.
- (2) Power operations – which use coal from the coal operations segment and external suppliers, thermal power, wind power, water power and gas power to generate electric power for the sale to coal operations segment and external customers. Electric power is sold to the power grid companies in accordance with planned power output at the tariff rates as approved by the relevant government authorities. Electric power produced in excess of the planned power output is sold at the tariff rate as agreed upon with the respective power grid companies which are generally lower than the tariff rates for planned power output.
- (3) Railway operations – which provide railway transportation services to the coal operations segment, the power operations segment, the coal chemical operations segment and external customers. The rates of freight charges billed to the coal operations segment, the power operations segment, the coal chemical operations segment and external customers are consistent and do not exceed the maximum amounts approved by the relevant government authorities.
- (4) Port operations – which provide loading, transportation and storage services to the coal operations segment and external customers. The Group charges service fees and other expenses, which are reviewed and approved by the relevant government authorities.
- (5) Shipping operations – which provide shipment transportation services to the power operations segment, the coal operations segment and external customers. The rates of freight charges billed to the power operations segment, the coal operations segment and external customers are consistent.
- (6) Coal chemical operations – which use coal from the coal operations segment to first produce methanol and further process into polyethylene and polypropylene, together with other by-products, for sale to external customers. The Group sells its polyethylene at spot market.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 6. SEGMENT AND OTHER INFORMATION (CONTINUED)

## 6.1 Segment results

For the purposes of assessing segment performance and allocating resources between segments, the Group's CODM monitors the results attributable to each reportable segment based on profit before income tax ("reportable segment profit"). Segment profit represents the profit earned by each segment without allocation of head office and corporate items. Inter-segment sales are primarily charged at prevailing market rate which are the same as those charged to external customers.

Information regarding the Group's reportable segments as provided to the Group's CODM for the purposes of resource allocation and assessment of segment performance for the years ended 31 December 2017 and 2016 is set out below :

	Coal		Power		Railway		Port		Shipping		Coalchemical		Segment total	
	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016
	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB
	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million
Revenue from external customers	155,370	102,283	79,246	69,613	5,615	4,174	788	575	698	300	5,681	4,831	247,388	181,856
Inter-segment revenue	40,548	29,074	265	237	31,971	29,356	4,929	4,465	2,549	1,732	-	-	80,262	64,864
Reportable segment revenue	195,918	131,357	79,511	69,850	37,586	33,530	5,717	5,040	3,247	2,112	5,681	4,831	327,650	246,720
Reportable segment profit	46,062	16,084	5,585	10,001	16,480	13,283	2,580	2,049	620	192	481	5	71,808	41,614
Including:														
Interest expenses	1,452	1,517	2,284	1,882	1,028	1,189	397	433	59	86	120	197	5,340	5,304
Depreciation and amortisation	7,703	7,936	10,059	9,550	4,858	4,635	1,266	1,037	293	292	913	938	25,082	24,388
Share of results of associates	266	50	213	153	-	-	17	8	-	-	-	-	496	211
Impairment loss	1,540	823	1,141	1,855	27	2	9	-	-	31	24	60	2,741	2,771

6.2 Reconciliations of reportable segment revenue, segment profit and other items of profit or loss for the years ended 31 December 2017 and 2016 are set out below:

	Reportable segment amounts		Unallocated head office and corporate items		Elimination of inter-segment amounts		Consolidated	
	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
Revenue	327,660	246,720	2,388	2,237	(81,302)	(65,830)	248,746	183,127
Profit before income tax	71,808	41,614	1,463	154	22	(515)	73,293	41,253
Interest expenses	5,340	5,304	1,660	1,920	(2,090)	(2,162)	4,910	5,062
Depreciation and amortisation	25,092	24,388	248	333	-	-	25,340	24,721
Share of results of associates	496	211	38	26	-	-	534	237
Impairment loss	2,741	2,771	(22)	44	-	(8)	2,719	2,807

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 6. SEGMENT AND OTHER INFORMATION (CONTINUED)

## 6.3 Geographical information

The following table sets out information about geographical location of (i) the Group's revenue from external customers and (ii) the Group's property, plant and equipment, construction in progress, exploration and evaluation assets, intangible assets, interests in associates, other non-current assets and lease prepayments ("specified non-current assets"). The geographical location of customers is based on the location at which the services were provided or the goods delivered. The geographical location of the specified non-current assets is based on the physical location of the asset, in the case of property, plant and equipment, construction in progress and lease prepayments, and the location of operations, in the case of exploration and evaluation assets, intangible assets, other non-current assets and interests in associates.

	Revenue from external customers		Specified non-current assets	
	Year ended 31 December 2017 RMB million	Year ended 31 December 2016 RMB million	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Domestic markets	245,230	179,859	406,565	412,502
Overseas markets	3,516	3,268	17,204	9,113
	<b>248,746</b>	<b>183,127</b>	<b>423,769</b>	<b>421,615</b>

## 6.4 Major customers

Revenue from any individual customer of the Group does not exceed 10% of the Group's revenue. Certain of the Group's customers are entities, which controlled, jointly controlled or significantly influenced by the PRC government ("government-related entities") and collectively considered as the Group's major customer. Revenue from major customer of the Group's coal and power segments amounted to RMB174,515 million (2016: RMB137,294 million).



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 6. SEGMENT AND OTHER INFORMATION (CONTINUED)

## 6.5 Other information

Certain other information of the Group's segments for the years ended 31 December 2017 and 2016 is set out below:

	Coal		Power		Railway		Port		Shipping		Coalchemical		Unallocated items		Eliminations		Total	
	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016
	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB	RMB
	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million	million
Coal purchased	49,950	26,286	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49,950	26,286
Cost of coal production	40,205	36,584	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(7,352)	(7,694)	32,853	28,890
Cost of coal transportation	49,724	42,221	-	-	15,153	14,708	2,845	2,271	1,130	949	-	-	-	-	(35,448)	(44,903)	23,125	15,088
Power cost	-	-	17,751	52,456	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(32,246)	(12,352)	35,511	41,104
Cost of coal chemical production	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,274	3,797	-	-	(1,244)	(807)	3,032	3,396
Others	3,460	4,213	132	483	3,479	2,642	315	252	1,342	759	532	533	48	47	-	-	9,889	9,049
Total cost of sales	143,411	109,804	18,384	53,939	18,332	17,350	2,880	2,523	2,472	1,707	4,806	4,330	48	47	(10,290)	(54,477)	110,440	124,943
Profit from operations (Note 6)	44,051	17,017	7,289	11,089	17,375	15,000	1,528	2,332	141	295	590	254	1,521	1,261	(912)	(1,349)	75,468	40,444
Additions to non-current assets (Note 6)	4,511	5,825	15,224	17,829	5,384	3,819	722	1,740	8	7	101	95	188	47	-	-	21,200	29,278
Total assets (Note 6)	225,172	190,140	215,910	207,879	129,829	125,152	24,211	22,489	7,185	8,038	10,942	11,521	381,051	377,853	(423,923)	(374,443)	571,802	576,729
Total liabilities (Note 6)	(114,713)	(116,711)	(152,157)	(134,508)	(95,772)	(85,393)	(10,807)	(10,135)	(1,527)	(2,062)	(3,158)	(4,893)	(165,762)	(137,178)	325,680	278,529	(152,487)	(191,293)

Notes:

- (i) Profit from operations is calculated as revenue minus cost of sales, selling expenses, general and administrative expenses and impairment losses.
- (ii) Non-current assets exclude financial instruments and deferred tax assets.
- (iii) Unallocated items of total assets include deferred tax assets and other unallocated corporate assets. Unallocated items of total liabilities include deferred tax liabilities and other unallocated corporate liabilities.

## 7. COST OF SALES

	Year ended 31 December	
	2017	2016
	RMB million	RMB million
Coal purchased	49,950	26,286
Materials, fuel and power	19,523	16,405
Personnel expenses	13,842	12,661
Depreciation and amortisation	21,576	21,744
Repairs and maintenance	9,938	9,509
Transportation charges	14,326	10,172
Taxes and surcharges	9,640	6,922
Other operating costs	21,665	21,144
	160,460	124,843

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 8. INTEREST INCOME/FINANCE COSTS

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
Interest income from:		
– bank deposits	959	691
– other loans and receivables	246	32
Total interest income	1,205	723
Interest on:		
– borrowings	4,264	3,896
– short-term debentures	–	18
– medium-term notes	954	1,289
– bonds	311	329
Total finance costs on financial liabilities not at FVTPL	5,529	5,532
Less: amount capitalised	799	643
	4,730	4,889
Unwinding of discount	180	173
Exchange (gain) loss, net	(494)	688
Fair value changes on financial instruments	–	(2)
Total finance costs	4,416	5,748
Net finance costs	3,211	5,025

Borrowing costs capitalised during the year arose on the general borrowing pools and were calculated by applying a capitalisation rate from 2.48% to 4.81% (2016: from 2.48% to 4.63%) per annum to expenditure on qualifying assets.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 9. INCOME TAX EXPENSE

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
Current tax, mainly the PRC enterprise income tax ("EIT")	14,172	10,378
Under provision in respect of prior years	1,981	161
Deferred tax	2	(1,256)
	<b>16,155</b>	<b>9,283</b>

The tax charge for the year can be reconciled to the profit before income tax per consolidated statement of profit or loss and other comprehensive income as follows:

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
Profit before income tax	73,293	41,253
Tax at the PRC income tax rate of 25% (2016: 25%)	18,323	10,313
Tax effects of:		
– different tax rates of branches and subsidiaries	(4,802)	(2,209)
– non-deductible expenses	572	636
– income not taxable	(175)	(65)
– share of results of associates	(128)	(59)
– utilisation of tax losses and deductible temporary difference previously not recognised	(518)	(190)
– tax losses and deductible temporary difference not recognised	905	704
– additional tax in respect of prior years	1,981	161
– others	(3)	(8)
Income tax expense	<b>16,155</b>	<b>9,283</b>

Under the Law of the PRC on Enterprise Income Tax (the "EIT Law") and Implementation Regulation of the EIT Law, the tax rate applicable for the PRC group entities is 25% (2016: 25%) except for Group's overseas subsidiaries and branches as well as subsidiaries operating in the western developing region of the PRC which are entitled to a preferential tax rate of 15% from 2011 to 2020.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 9. INCOME TAX EXPENSE (CONTINUED)

The applicable tax rates of the Group's overseas subsidiaries are as follows:

	Year ended 31 December	
	2017 %	2016 %
Australia	30.0	30.0
Indonesia	25.0	25.0
Russia	20.0	20.0
Hong Kong	16.5	16.5

During the year ended 31 December 2017 and 2016, there was no significant assessable profit and provision for income tax for the overseas subsidiaries.

## 10. PROFIT FOR THE YEAR

Profit for the year has been arrived at after charging (crediting):

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
Personnel expenses, including	25,693	20,844
– contributions to defined contribution plans of RMB2,886 million (2016: RMB2,728 million)		
Depreciation of property, plant and equipment	23,521	22,813
Amortisation of intangible assets, included in cost of sales	449	414
Amortisation of lease prepayments, included in cost of sales	498	429
Amortisation of other non-current assets	872	1,065
Depreciation and amortisation	25,340	24,721
Other gains and losses, represent		
– (gains) losses on disposal of property, plant and equipment, exploration and evaluation assets, intangible assets and non-current assets	(317)	304
– gains on disposal of associates	–	(17)
– losses (gains) on disposal of subsidiaries	1	(5)
– gains on disposal of available-for-sale investments	(535)	–
– gains on disposal of derivative financial instruments	(7)	(11)
– losses on changes in fair value of derivative financial instruments	19	–
– impairment of an available-for-sale investment	65	–
– impairment of interest in an associate	1	1
– impairment in respect of property, plant and equipment	1,511	1,725
– impairment in respect of construction in progress	175	22
– impairment in respect of lease prepayments	22	–
– (reversal) impairment of loans receivable	(8)	22
– allowance for doubtful debts	847	388
– write down of inventories	106	551
– impairment in respect of goodwill	–	98
	1,880	3,078
Carrying amount of inventories sold	116,464	86,149
Operating lease in respect of properties and equipments	345	301
Auditors' remuneration		
– audit service	30	32



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

**11. DIRECTORS', SUPERVISORS' AND CHIEF EXECUTIVE'S EMOLUMENTS**

Directors' and chief executive's remuneration for the year, disclosed pursuant to the applicable Listing Rules and CO, is as follows:

	Year ended 31 December 2017				
	Fees RMB million	Basic salaries, housing and other allowance and benefits in kind RMB million	Discretionary bonuses RMB million	Retirement scheme contributions RMB million	Total RMB million
Chief executive Zhang Yuzhuo (Note (i) and Note (iii))	-	-	-	-	-
Sub-total	-	-	-	-	-
Executive directors Ling Wen (Note (i))	-	-	-	-	-
Han Janguo (Note (i))	-	-	-	-	-
Li Dong (Note (i))	-	-	-	-	-
Sub-total	-	-	-	-	-
Non-executive directors Chen Hongsheng (Note (i) and Note (iii))	-	-	-	-	-
Zhao Jibin (Note (i))	-	-	-	-	-
Sub-total	-	-	-	-	-
Independent non-executive directors Fan Hsulai (Note (iii))	0.26	-	-	-	0.26
Gong Huazhang (Note (iii))	0.26	-	-	-	0.26
Guo Peizhang (Note (iii))	0.26	-	-	-	0.26
Tam Wai Chu (Note (ii))	0.19	-	-	-	0.19
Jiang Bo (Note (ii))	0.19	-	-	-	0.19
Zhong Yingjie (Note (ii))	0.19	-	-	-	0.19
Sub-total	1.35	-	-	-	1.35
Supervisors Zhai Richeng	-	0.46	0.40	0.08	0.94
Zhou Dayu	-	0.48	0.38	0.08	0.94
Shen Lin	-	0.48	0.37	0.08	0.93
Sub-total	-	1.42	1.15	0.24	2.81
Total					4.16



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

**11. DIRECTORS', SUPERVISORS' AND CHIEF EXECUTIVE'S EMOLUMENTS (CONTINUED)**

	Year ended 31 December 2016				
	Fees RMB million	Basic salaries, housing and other allowance and benefits in kind RMB million	Discretionary bonuses RMB million	Retirement scheme contributions RMB million	Total RMB million
Chief executive Zhang Yuzhuo (Note (i) and Note (iii))	-	-	-	-	-
Sub-total	-	-	-	-	-
Executive directors Ling Wen (Note (i))	-	-	-	-	-
Han Janguo (Note (i))	-	-	-	-	-
Li Dong (Note (i))	-	-	-	-	-
Sub-total	-	-	-	-	-
Non-executive directors Chen Hongsheng (Note (i) and Note (iii))	-	-	-	-	-
Zhao Jibin (Note (i))	-	-	-	-	-
Sub-total	-	-	-	-	-
Independent non-executive directors Fan Hsularitai (Note (iii))	0.45	-	-	-	0.45
Gong Huazhang (Note (iii))	0.45	-	-	-	0.45
Guo Peizhang (Note (iii))	0.45	-	-	-	0.45
Sub-total	1.35	-	-	-	1.35
Supervisors Zhai Richeng	-	0.45	0.40	0.08	0.93
Zhou Dayu	-	0.25	0.15	0.04	0.44
Shen Lin	-	0.46	0.38	0.08	0.92
Tang Ning (Note (iv))	-	-	0.05	-	0.05
Sub-total	-	1.16	0.98	0.20	2.34
Total					3.69

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 11. DIRECTORS', SUPERVISORS' AND CHIEF EXECUTIVE'S EMOLUMENTS (CONTINUED)

Discretionary bonuses were determined by the remuneration committee in accordance with the relevant human resources policies.

*Notes:*

- (i) The emoluments of these directors were borne by China Energy Group during the years ended 31 December 2017 and 2016.
- (ii) Ms. Tam Wai Chu was appointed as independent non-executive director on 23 June 2017.  
Ms. Jiang Bo was appointed as independent non-executive director on 23 June 2017.  
Ms. Zhong Yingjie was appointed as independent non-executive director on 23 June 2017.
- (iii) Mr. Zhang Yuzhuo resigned as chief executive on 27 March 2017.  
Mr. Chen Hongsheng resigned as non-executive director on 23 June 2017.  
Ms. Fan Hsulaitai resigned as independent non-executive director on 23 June 2017.  
Mr. Gong Huazhang resigned as independent non-executive director on 23 June 2017.  
Mr. Guo Peizhang resigned as independent non-executive director on 23 June 2017.
- (iv) Mr. Tang Ning resigned as supervisor on 17 June 2016. He retired in the year ended 31 December 2015 and no more emolument achieved after his retirement. The discretionary bonuses he got during the year ended 31 December 2016 is for his prior years' performance.

Except for those emoluments of directors or supervisors whose emoluments were borne by China Energy Group, the executive directors' and supervisors' emoluments shown above were mainly for their services in connection with the management of the affairs of the Company and the Group.

The independent non-executive directors' emoluments shown above were mainly for their services as directors of the Company.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 12. EMPLOYEES' EMOLUMENTS

Of the five individuals with the highest emoluments within the Group, Nil (2016: nil) was director of the Company. The emoluments of the five (2016: five) individuals were as follows:

	Year ended 31 December	
	2017	2016
	RMB million	RMB million
Basic salaries, housing and other allowances and benefits in kind	2.31	2.23
Discretionary bonuses	2.12	2.13
Retirement scheme contributions	0.41	0.40
	4.84	4.76

Their emoluments were within the following band:

	Year ended 31 December	
	2017	2016
HKD1,000,001 to HKD1,500,000	5	5

## 13. DIVIDENDS

	Year ended 31 December	
	2017	2016
	RMB million	RMB million
Dividend approved and paid during the year:		
2016 final – RMB0.46 (2016: 2015 final of RMB0.32) per ordinary share	9,149	6,365
2016 special – RMB2.51 per ordinary share	49,923	–
	59,072	6,365

Subsequent to the end of the reporting period, a final dividend in respect of the year ended 31 December 2017 of RMB0.91 (in respect of the year ended 31 December 2016: final dividend RMB0.46, special dividend RMB2.51) per ordinary share has been proposed by the Directors and is subject to approval by the shareholders in the following general meeting.

## 14. EARNINGS PER SHARE

The calculation of basic earnings per share is based on the profit attributable to ordinary equity holders of the Company of RMB47,795 million (2016: RMB24,910 million) and the number of shares in issue during the year of 19,890 million shares (2016: 19,890 million shares).

No diluted earnings per share for both 2017 and 2016 were presented as there were no potential ordinary shares in existence during both years.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 15. PROPERTY, PLANT AND EQUIPMENT

	Land and buildings	Mining structures and mining rights	Mining related machinery and equipment	Generators, related machinery and equipment	Railway and port	Vessels	Coal chemical related machinery and equipment	Furniture, fixtures, motor vehicles and other equipment	Total
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
<b>COST</b>									
At 1 January 2016	76,977	30,876	66,940	167,802	121,234	6,853	13,120	17,716	500,618
Exchange adjustment	114	8	-	183	-	-	-	-	225
Additions	28	2,609	689	153	685	-	8	16	4,188
Transferred from construction in progress	5,232	246	1,045	10,403	2,476	27	134	67	19,630
Disposals or write-off	(242)	(115)	(756)	(1,275)	(946)	-	(44)	(34)	(3,412)
Transferred to construction in progress, for overall technical enhancement	-	-	-	-	(152)	-	-	-	(152)
At 31 December 2016	82,109	33,624	67,818	177,186	123,297	6,880	13,218	17,765	521,897
Additions	210	1,173	157	436	2,450	11	4	13	4,454
Transferred from construction in progress	4,195	268	1,256	5,972	2,063	6	15	44	13,819
Adjustment	(326)	1,245	(590)	(343)	42	-	(58)	2	(28)
Disposals or write-off	(237)	(70)	(1,496)	(3,377)	(502)	-	(2)	(4)	(5,688)
Exchange adjustment	(7)	-	-	(31)	-	-	-	-	(38)
At 31 December 2017	<b>85,944</b>	<b>36,240</b>	<b>66,345</b>	<b>179,843</b>	<b>127,350</b>	<b>6,897</b>	<b>13,177</b>	<b>17,820</b>	<b>533,616</b>
<b>DEPRECIATION AND IMPAIRMENT</b>									
At 1 January 2016	17,151	9,906	36,019	53,096	31,129	157	3,900	9,934	161,292
Exchange adjustment	11	-	-	25	-	-	-	-	36
Charge for the year	1,963	1,048	4,700	8,327	4,679	298	732	1,066	22,813
Impairment losses (Note 4)	149	-	10	1,551	-	-	13	2	1,725
Transferred from construction in progress	19	-	18	-	-	-	3	-	40
Disposals or write-off	(43)	(84)	(655)	(1,022)	(840)	-	(5)	(23)	(2,472)
Transferred to construction in progress, for overall technical enhancement	-	-	-	-	(122)	-	-	-	(122)
At 31 December 2016	19,250	10,870	40,892	61,977	35,046	455	4,643	10,979	183,312
Charge for the year	1,892	1,294	4,373	8,954	4,860	302	752	1,094	23,521
Adjustment	88	22	(58)	362	8	-	(11)	2	413
Impairment losses (Note 4)	584	34	118	746	6	-	21	2	1,511
Disposals or write-off	(180)	-	(1,405)	(3,175)	(400)	-	(2)	(4)	(5,086)
Exchange adjustment	(7)	-	-	(18)	-	-	-	-	(25)



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 15. PROPERTY, PLANT AND EQUIPMENT (CONTINUED)

	Land and buildings	Mining structures and mining rights	Mining related machinery and equipment	Generators, related machinery and equipment	Railway and port	Vessels	Coal chemical related machinery and equipment	Furniture, fixtures, motor vehicles and other equipment	Total
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
At 31 December 2017	21,707	12,220	43,120	68,846	39,520	757	5,403	12,073	203,646
<b>CARRYING VALUES</b>									
At 31 December 2017	64,237	24,020	23,225	110,997	87,890	6,140	7,774	5,747	329,970
At 31 December 2016	62,859	22,754	26,926	115,209	88,251	6,425	8,575	6,786	337,785
At 1 January 2016	59,826	20,970	30,021	114,706	90,105	6,696	9,220	7,782	339,326

Notes:

(i) Impairment loss

*Impairment loss for cash-generating units*

In 2017, owing to the unsatisfactory financial performance of certain Group's mines, the management identified certain non-current assets relating to coal mines having impairment indications. The Group tested the said mines, each of which is a separate cash-generating unit, for impairment by measuring the recoverable amount of every mine. The recoverable amount is determined based on discounted cash flow model covering the shorter of economic and legal useful life, and pre-tax discount rate ranging from 8.12% to 11.87%. Cash flows beyond the five-year approved management's budgets are prepared based on zero growth rate.

As a result of the impairment assessment, the Directors recognised no impairment loss in current year against the non-current assets in coal segments (2016: Nil).

*Impairment loss for individual assets*

In 2017, pursuant to the Regulatory Decision that the Non-licensed Power Generators shall not engage in Power Generation Business in the Western part of Inner Mongolia (Hua Bei Jian Neng Jue [2017] No. 3) issued by North China Energy Regulatory Bureau of National Energy Administration of the PRC, the Company's subsidiary in power segment, Inner Mongolia Zhunneng Coal Gangue Power Co., Ltd. will discontinue power generation soon. The management assessed the recoverable amounts of the affected non-current assets, including machineries and generators, and as a result the carrying amount of the machineries and the generators was written down by RMB605 million to their recoverable amount as at 31 December 2017.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 15. PROPERTY, PLANT AND EQUIPMENT (CONTINUED)

*Notes: (Continued)*

#### (i) Impairment loss (Continued)

*Impairment loss for individual assets (Continued)*

Pursuant to the Several Opinions on Accelerating Shutting Down Small Thermal Power Units (Guo Fa [2007] No. 2) issued by the State Council of the PRC and the Notice on the Plan of Energy Conservation and Pollution Emissions Reduction Upgrading for the year 2014 to 2020 (Fa Gai Neng Yuan [2014] No. 2093) issued by National Development and Reform Commission of PRC, the Group is expected to close down soon the power plant operated by its subsidiary in power segment, Zhong Dian Guohua Shenmu Power Generation Co. Ltd. The Group assessed the recoverable amounts of those non-current assets, including machineries and generators, and as a result the carrying amount of the machineries and the generators was written down by RMB200 million to their recoverable amount as at 31 December 2017.

The Group has been upgrading its power plants for energy conservation and environment protection which rendered certain non-current assets obsolete. The Group assessed the recoverable amounts of those non-current assets in power segment, including machineries and generators, and as a result the carrying amount of the machineries and the generators was written down by RMB164 million to their recoverable amount as at 31 December 2017 (2016: RMB584 million).

The estimates of recoverable amount of above assets were based on the machines' and generators' fair values less costs of disposal, using market comparison approach by reference to recent sales price of similar assets within the same industry, adjusted for differences such as remaining useful lives, if the assets were classified as utilisable. Otherwise, the fair value was determined by using market comparison approach by reference to the weight and price of similar material, adjusted for differences such as geographical location of market. The fair value on which the recoverable amount is based on is categorised as a Level 3 measurement.

The Group had recognised an impairment loss of Australian Dollars ("AUD") 46 million (equivalent to RMB239 million) in June 2017 in relation to certain portion of freehold land located in Australia the use of which was changed during the year.

The fair value was determined by the management based on market prices of similar land. The land belongs to coal segment, and the fair value on which the recoverable amount is based on is categorised as a Level 2 measurement.

Further details of the circumstance leading to the change in the use of land are set out in Note 17.

- (ii) The Group's freehold land with a carrying amount of RMB950 million (2016: RMB1,141 million) are located in Australia.
- (iii) The Group was in the process of applying for the title certificates of certain of its properties with an aggregate carrying amount of RMB8,771 million as at 31 December 2017 (2016: RMB11,170 million). The Directors are of the opinion that the Group is entitled to lawfully and validly occupy or use the above mentioned properties.
- (iv) As at 31 December 2017, the Group has bank loans secured by the Group's property, plant and equipment with carrying amount of RMB644 million (2016: RMB707 million).

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 16. CONSTRUCTION IN PROGRESS

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
At the beginning of the year	35,220	33,610
Additions	19,273	22,123
Transferred from property, plant and equipment for overall technical enhancement	–	30
Transferred to property, plant and equipment	(13,819)	(19,630)
Transferred to intangible assets	(49)	(106)
Transferred to lease prepayments	(596)	(459)
Transferred to other non-current assets	(281)	–
Net income from mine trial run	(356)	(319)
Disposal	(163)	(47)
Impairment losses	(175)	(22)
Impairment transferred to property, plant and equipment	–	40
At the end of the year	39,054	35,220

Note:

As at 31 December 2017, the Group is in the process of obtaining requisite permits of certain of its construction in progress from the relevant government authorities. The Directors are of the opinion that the Group will be able to obtain the requisite permits in due course.

## 17. EXPLORATION AND EVALUATION ASSETS

The movement of the exploration and evaluation assets is as follows:

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
At the beginning of the year	2,344	2,176
Exchange adjustments	32	119
Additions	–	49
Disposals (Note)	(1,378)	–
At the end of the year	998	2,344

Note:

On 29 June 2017, Shenhua Watermark Coal Pty Limited ("Watermark") reached an agreement with the state government of New South Wales, Australia ("the NSW Government") in relation to the partial extension of the exploration license covering total area of 195 square kilometres. Pursuant to the established policies of protection of agricultural activities on the black soil plains, the NSW Government withdrew the exploration license of approximately 100 square kilometres ("the withdrawn area") with a carrying amount of AUD214 million (equivalent to RMB1,120 million) and provided Watermark with compensation amounting to AUD262 million (equivalent to RMB1,364 million) and accepted the application for the extension of the exploration license for the area other than the withdrawn area under the said agreement.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 18. INTANGIBLE ASSETS

The movement of intangible assets, mainly licenses, software and franchises, is as follows:

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
At the beginning of the year	3,018	2,964
Exchange adjustment	(3)	9
Additions	915	356
Transferred from construction in progress	49	106
Amortisation	(449)	(414)
Disposal	(83)	(3)
At the end of the year	3,447	3,018

### 19. INTERESTS IN ASSOCIATES

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Unlisted shares, at cost	7,557	3,274
Share of post-acquisition profits and other comprehensive income, net of dividend received	1,956	1,868
	9,513	5,142

The Group's interests in associates are individually and in aggregate not material to the Group's financial position or results of operations for both years. The Group's associates are unlisted and established in the PRC. The following list contains only the particulars of associates, which principally affect the results or assets of the Group:



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 19. INTERESTS IN ASSOCIATES (CONTINUED)

Name of associate	Type of legal entity	Proportion of ownership interest and voting power held by the Group		Principal activities
		31 December 2017	31 December 2016	
		%	%	
Mengqi – Huazhong Railway Co., Ltd.	Limited company	10 <i>(Note)</i>	10	Provision of transportation service
Shandong Tiankong Group Co., Ltd.	Limited company	20	20	Coal production and sale
Zhejiang Zheneng Jiahua Power Co., Ltd.	Limited company	20	20	Generation and sale of electricity
Sichuan Guangan Power Co., Ltd.	Limited company	20	20	Generation and sale of electricity
Guohua (Hebei) Renewables Co., Ltd.	Limited company	25	25	Generation and sale of electricity
Tianjin Yuanhua Shipping Co., Ltd.	Limited company	44	44	Provision of transportation service
Inner Mongolia Yili Chemical Industry Co., Ltd.	Limited company	25	25	Production and sale of chemicals

Note:

The Group is able to exercise significant influence over Mengqi – Huazhong Railway Co., Ltd. because it has the power to appoint one out of eleven directors of that company under the Article of Association of that company.

## 20. AVAILABLE-FOR-SALE INVESTMENTS

	Year ended 31 December	
	2017	2016
	RMB million	RMB million
Unlisted investments:		
– equity securities	749	1,800
– investments in wealth management products	105	–
Total	854	1,800
Analysed for reporting purposes as:		
Non-current assets	854	1,800
	854	1,800

The above unlisted equity investments represent investments in unlisted equity securities issued by private entities incorporated in the PRC. They are measured at cost less impairment at the end of the reporting period because the range of reasonable fair value estimates is so significant that the Directors are of the opinion that their fair values cannot be measured reliably.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 21. OTHER NON-CURRENT ASSETS

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Prepayments in connection with construction work, equipment purchases and others (Note (i))	8,189	7,713
Prepayment for mining projects	8,000	8,000
Deductible VAT and other tax	1,834	1,452
Long-term receivable	318	2,500
Loans to China Energy Group and fellow subsidiaries (Note (ii))	9,699	13,502
Long-term entrusted loans (Note (iii))	420	—
Goodwill	889	889
Others	4,117	2,693
	<b>33,466</b>	<b>36,749</b>

Notes:

- (i) At 31 December 2017, the Group had prepayments to fellow subsidiaries amounting to RMB20 million (2016: RMB5 million).
- (ii) The loans to China Energy Group and fellow subsidiaries bear interest at rates ranging from 4.28% to 4.41% per annum (2016: 4.28% to 4.41% per annum) and are receivables within two to eight years.
- (iii) The Group has long-term entrusted loan of RMB420 million to an associate through a PRC state-owned bank, bearing interest at rate 4.75% per annum and variable by reference to the interest rate promulgated by People's Bank of China (the "PBOC").

## 22. LEASE PREPAYMENTS

Lease prepayments represent land use rights paid to the PRC's government authorities. The Group is in the process of applying for the title certificates of certain land use rights with an aggregate carrying amount of RMB2,097 million as at 31 December 2017 (2016: RMB2,526 million). The Directors are of the opinion that the Group is entitled to lawfully and validly occupy or use the above mentioned lands.

As at 31 December 2017, the Group has bank loans secured by the Group's lease prepayments with carrying amount of RMB892 million (31 December 2016: Nil).

## 23. INVENTORIES

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Coal	4,579	5,563
Materials and supplies	5,882	6,424
Others (Note)	1,186	1,354
	<b>11,647</b>	<b>13,341</b>

Note: Others mainly represent properties held for sale and properties under development.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 24. ACCOUNTS AND BILLS RECEIVABLES

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Accounts receivables		
– China Energy Group and fellow subsidiaries	2,377	3,177
– Associates	179	284
– Third parties	11,802	13,138
	14,358	16,599
Less: allowance for doubtful debts	(1,039)	(420)
	13,319	16,179
Bills receivables		
– China Energy Group and fellow subsidiaries	57	18
– Associates	54	42
– Third parties	6,025	4,334
	6,136	4,394
	19,455	20,573

Bills receivables were mainly issued by PRC banks and are expiring within one year. As at 31 December 2017, the bills receivables with the carrying amount of RMB388 million (2016: RMB85 million) were pledged to secure bills payables.

The following is an analysis of accounts receivables by age, net of allowance for doubtful debts, presented based on the date of delivery of goods or services which approximated the revenue recognition date.

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Less than one year	10,411	13,035
One to two years	1,648	1,996
Two to three years	1,027	1,010
More than three years	233	138
	13,319	16,179

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

**24. ACCOUNTS AND BILLS RECEIVABLES (CONTINUED)**

The movement of allowance for doubtful debts was as follows:

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
At the beginning of the year	420	194
Impairment loss		
– recognised	760	245
– amounts recovered	(140)	(10)
Written off	(1)	(9)
At the end of the year	1,039	420

The aging analysis of accounts receivables that are past due but not impaired are as follows:

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Less than one year	1,335	2,115
One to two years	1,399	1,408
Two to three years	377	178
More than three years	38	52
	3,149	3,753

Receivables that were not overdue or unimpaired relate to a wide range of customers for whom there was no recent history of default.

Receivables that were past due but not impaired relate to a number of independent customers that have a good track record with the Group, which the Group does not hold any collateral over these balances. Based on past experience, the management believes that no impairment is necessary in respect of these balances as there has not been a significant change in credit quality and the balances are still considered fully recoverable.

Included in accounts receivables are the following amounts denominated in foreign currencies are set out below:

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
United States Dollars ("USD")	105	486
European Dollars ("EUR")	–	140
	105	626



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 24. ACCOUNTS AND BILLS RECEIVABLES (CONTINUED)

## Transfers of financial assets

As at 31 December 2017, the Group endorsed bills receivables amounting to RMB1,859 million (2016: RMB2,075 million) to suppliers to settle the accounts payables of same amounts and discounted bills receivables amounting to RMB137 million (2016: RMB446 million) to banks. In accordance to the relevant laws in the PRC, the holders of the bills receivables have a right of recourse against the Group if the issuing banks default payment (the "Continuing Involvement"). In the opinion of the Directors, the fair values of the Continuing Involvement are insignificant, and the Group has transferred substantially all the risks and rewards of ownership relating to these bills receivables, and accordingly derecognised the full carrying amounts of the bills receivables, in case of bills receivables endorsed to suppliers, derecognised the associated accounts payables.

## 25. PREPAID EXPENSES AND OTHER CURRENT ASSETS

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Financial assets at FVTPL		
– Derivative financial instruments	56	4
– Tradable wealth management products	52	50
	108	54
Available-for-sale investments		
– Wealth management products (Note (i))	–	33,350
	108	33,404
Prepaid expenses and deposits	8,115	7,029
Loans and advances to China Energy Group and fellow subsidiaries (Note (ii))	5,262	2,209
Amounts due from associates	535	973
Deductible VAT and other tax	3,075	3,396
Other receivables	3,357	1,781
	20,452	48,792

## Notes:

- (i) As at 31 December 2016, the Group invested in principal-guaranteed floating income wealth management products amounting to RMB31,000 million with term of 90 days and expected annual rates of return ranging from 3.20% to 3.35%, and non-principal-guaranteed floating income wealth management products amounting to RMB2,350 million with term ranging from 32 days to 365 days and expected annual rates of return ranging from 4.10% to 4.55%. The wealth management products held by the Group are valued by discounting cash flow method, the detailed fair value measurements are disclosed in Note 37.3.
- (ii) As at 31 December 2017, the Group had loans to China Energy Group and fellow subsidiaries amounting to RMB5,059 million (2016: RMB2,087 million), which bear interest at rates ranging from 3.92% to 4.28% per annum (2016: 3.92% to 5.04% per annum). The remaining balances are unsecured, interest-free and have no fixed terms of repayment.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 26. RESTRICTED BANK DEPOSITS

Restricted bank deposits as at 31 December 2017 represent statutory deposit reserves at the PBOC, collaterals for bills payables and collaterals related to the operating of mines and ports.

### 27. CASH AND CASH EQUIVALENTS

Cash and cash equivalents in the consolidated statement of financial position and the consolidated statement of cash flows comprise cash at bank and in hand, and time deposits with original maturity within three months.

Included in cash and cash equivalents are the following amounts denominated in foreign currencies are set out below:

	<b>31 December 2017</b>	31 December 2016
	<b>RMB million</b>	<b>RMB million</b>
USD	776	111
HKD	2	2
EUR	40	28
	<b>818</b>	<b>141</b>

### 28. DEFERRED TAXATION

For the purpose of the presentation in the consolidated statement of financial position, certain deferred tax assets and liabilities have been offset. The following is the analysis of the deferred tax balances for financial reporting purpose.

	<b>31 December 2017</b>	31 December 2016
	<b>RMB million</b>	<b>RMB million</b>
Deferred tax assets	3,798	3,849
Deferred tax liabilities	(749)	(797)
	<b>3,049</b>	<b>3,052</b>

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

**28. DEFERRED TAXATION (CONTINUED)**

The following are the major deferred tax assets and liabilities recognised and movements thereon during the current and prior year.

	At 1 January 2017 RMB million	Credited (charged) in profit or loss/ other comprehensive income RMB million	At 31 December 2017 RMB million
Allowances, primarily for receivables and inventories	503	23	526
Property, plant and equipment	769	(7)	762
Lease prepayments	(169)	2	(167)
Tax losses utilised	461	(137)	324
Tax allowable expenses not yet incurred	1	-	1
Unrealised profits from sales within the Group	1,187	(84)	1,103
Accrued salaries and other expenses not yet paid	188	22	210
Others	112	178	290
<b>Net deferred tax assets</b>	<b>3,052</b>	<b>(3)</b>	<b>3,049</b>

	At 1 January 2016 RMB million	Credited in profit or loss RMB million	At 31 December 2016 RMB million
Allowances, primarily for receivables and inventories	417	86	503
Property, plant and equipment	427	342	769
Lease prepayments	(171)	2	(169)
Tax losses utilised	384	77	461
Tax allowable expenses not yet incurred	(62)	63	1
Unrealised profits from sales within the Group	558	629	1,187
Accrued salaries and other expenses not yet paid	170	18	188
Others	73	39	112
<b>Net deferred tax assets</b>	<b>1,796</b>	<b>1,256</b>	<b>3,052</b>

At the end of the reporting period, the Group have unused tax losses of RMB8,564 million (31 December 2016: RMB8,714 million) and unrecognised deductible temporary differences of RMB6,555 million (2016: RMB5,804 million) available for offset against future profits. A deferred tax assets has been recognised in respect of RMB1,296 million (31 December 2016: RMB1,845 million) of such losses. No deferred tax assets has been recognised in respect of the remaining RMB7,268 million (31 December 2016: RMB6,869 million) due to the unpredictability of future profit streams. Included in unrecognised tax losses are losses of RMB683 million (31 December 2016: RMB398 million) that will expire in 2018.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 29. BORROWINGS

An analysis of the Group's borrowings is as follows:

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Current borrowings:		
Short-term bank and other borrowings	9,493	4,384
Current portion of long-term borrowings	6,292	7,427
	<b>15,785</b>	11,811
Non-current borrowings:		
Long-term borrowings, less current portion	64,321	58,462
	<b>80,106</b>	70,273
Secured	9,381	9,114
Unsecured	70,725	61,159
	<b>80,106</b>	70,273

The Group's short-term borrowings are unsecured and bear interest at rates ranging from 3.85% to 4.79% per annum (2016: 3.70% to 5.04% per annum), and long-term borrowings bear interest at rates ranging from 1.08% to 6.55% per annum (2016: 1.08% to 6.55% per annum).

The exposure of the long-term borrowings and the contractual maturity dates:

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Within one year	6,292	7,427
More than one year, but not exceeding two years	6,141	5,657
More than two years, but not exceeding five years	17,089	13,040
More than five years	41,091	39,765
	<b>70,613</b>	65,889



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 29. BORROWINGS (CONTINUED)

The Group's long-term borrowings comprise:

		31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Loans from banks and other institutions			
RMB denominated	Interest rates ranging from 1.08% to 6.55% per annum with maturities through 22 January 2036	66,357	61,677
USD denominated	Interest rates ranging from Libor+0.7% to Libor+2.85% per annum with maturities through 26 December 2034	2,111	1,722
Japanese Yen ("JPY") denominated	Interest rates ranging from 1.80% to 2.60% per annum with maturities through 20 March 2031	2,119	2,445
EUR denominated	Interest rate at 2.85% per annum with maturities through 22 June 2022	26	45
		70,613	65,889
Less: current portion of long-term borrowings		6,292	7,427
		64,321	58,462

As at 31 December 2017, included in the above outstanding borrowings, were entrusted loans from China Energy Group and fellow subsidiaries amounting to RMB1,374 million (2016: RMB4,824 million).

Certain borrowings are secured over certain property, plant and equipment with a carrying amount of RMB644 million (2016: RMB707 million) (see Note 15), certain lease prepayments with a carrying amount of RMB892 million (2016: Nil) (see Note 22), certain future power revenue to be generated by the Group, the investment in a subsidiary of the Company and a guarantee by a non-controlling shareholder of a subsidiary.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 30. MEDIUM-TERM NOTES AND BONDS

On 7 November 2013, the Company issued medium-term notes with proceeds of approximately RMB5,000 million and are repayable on 11 November 2018. The notes bear interest rate of 5.49% per annum, repayable annually. The effective interest rate is 5.69% per annum.

On 19 August 2014, the Company issued medium-term notes with proceeds of approximately RMB10,000 million and were repaid on 21 August 2017. The notes bear interest rate of 5.10% per annum, repayable annually. The effective interest rate is 5.17% per annum.

On 16 September 2014, the Company issued medium-term notes with proceeds of approximately RMB10,000 million and were repaid on 18 September 2017. The notes bear interest rate of 5.04% per annum, repayable annually. Its effective interest rate is 5.11% per annum.

On 20 January 2015, China Shenhua Overseas Capital Company Limited ("Shenhua Overseas Capital") issued Dollar bonds with proceeds of USD500 million, approximately RMB3,061 million and are payable on 19 January 2018. The bonds bear interest rate of 2.50% per annum, repayable semi-annually. Its effective interest rate is 2.84% per annum.

On 20 January 2015, Shenhua Overseas Capital issued Dollar bonds with proceeds of USD500 million, approximately RMB3,061 million and are payable on 19 January 2020. The bonds bear interest rate of 3.13% per annum, repayable semi-annually. Its effective interest rate is 3.35% per annum.

On 20 January 2015, Shenhua Overseas Capital issued Dollar bonds with proceeds of USD500 million, approximately RMB3,061 million and are payable on 19 January 2025. The bonds bear interest rate of 3.88% per annum, repayable semi-annually. Its effective interest rate is 4.10% per annum.

The net proceeds of the Dollar bonds issued were mainly used for the repayment of loans of subsidiaries.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 31. ACCOUNTS AND BILLS PAYABLES

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Accounts payables:		
– China Energy Group, an associate of China Energy Group and fellow subsidiaries	1,874	2,140
– Associates	283	218
– Third parties	29,431	29,624
	31,588	31,982
Bills payables	2,326	3,174
	33,914	35,156

As at 31 December 2017, certain bills payables were secured by bills receivables held by the Group (see Note 24).

The following is an aging analysis of accounts and bills payables, presented based on invoice date

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Less than one year	25,241	26,296
One to two years	2,576	4,184
Two to three years	2,431	2,320
More than three years	3,666	2,356
	33,914	35,156

Included in accounts and bills payables are the following amounts denominated in foreign currencies are set out below:

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
USD	1,398	486
EUR	7	154
Great British Pounds	2	19
	1,407	659

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 32. ACCRUED EXPENSES AND OTHER PAYABLES

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Accrued staff wages and welfare benefits	4,042	3,727
Accrued interest payable	472	705
Taxes payable other than income tax	7,408	6,911
Dividends payable	4,149	2,665
Cross-currency exchange rate swaps	12	–
Receipts in advances	5,530	4,196
Deposits from China Energy Group and fellow subsidiaries (Note (i))	20,075	13,492
Other accrued expenses and payables (Note (ii))	10,307	9,665
	<b>51,995</b>	<b>41,361</b>

## Notes:

- (i) As at 31 December 2017, deposits from China Energy Group and fellow subsidiaries bore interest at 0.42% to 1.62% per annum (2016: 0.42% to 1.62% per annum).
- (ii) Other accrued expenses and payables of the Group included:

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Amounts due to China Energy Group and fellow subsidiaries	1,238	1,945
Amounts due to associates	28	54
	<b>1,266</b>	<b>1,999</b>

The above balances are unsecured, interest-free and payable on demand.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 33. LONG-TERM LIABILITIES

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Payables for acquisition of mining rights (Note (i))	852	1,093
Deferred income (Note (ii))	1,367	1,328
Defined benefit plans	128	147
Others	290	286
	<b>2,637</b>	<b>2,854</b>
Analysed for reporting purpose as:		
Current liabilities	345	403
Non-current liabilities	2,292	2,451
	<b>2,637</b>	<b>2,854</b>

Notes:

- (i) The balances mainly represent payables for acquisition of mining rights which are to be settled over the period of production set out in the contracts on an annual basis. The annual payment is determined by fixed rates on a per tonne basis with reference to the annual production volume of the acquired mines in the acquisition agreements.
- (ii) Deferred income mainly represents grants provided by several local governments in the PRC to encourage the construction of non-current assets.

## 34. ACCRUED RECLAMATION OBLIGATIONS

	Year ended 31 December	
	2017 RMB million	2016 RMB million
At the beginning of the year	2,549	2,197
Addition for the year	58	220
Accretion expense	138	132
At the end of the year	<b>2,745</b>	<b>2,549</b>



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 35. SHARE CAPITAL

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Registered, issued and fully paid:		
16,491,037,955 domestic listed A shares of RMB1.00 each	16,491	16,491
3,398,582,500 H shares of RMB1.00 each	3,399	3,399
	<b>19,890</b>	19,890

All A shares and H shares rank pari passu in all material aspects.

### 36. CAPITAL RISK MANAGEMENT

The Group's policy is to maintain a strong capital base so as to maintain investor, creditor and market confidence and to sustain future development of the business.

The Group manages the capital structure and makes adjustments to it in the light of changes in economic conditions and the risk characteristics of the underlying assets. In order to maintain or adjust the capital structure, the Group may adjust the amount of dividends paid to shareholders, return capital to shareholders or issue new shares to reduce debts.

The Group monitors capital using a gearing ratio which is total liabilities divided by total assets. The Group aims to maintain the gearing ratio at a reasonable level. The Group's gearing ratio as at 31 December 2017 was 34% (2016: 33%).

There were no changes in the Group's approach to capital management compared with previous years.

### 37. FINANCIAL INSTRUMENTS

#### 37.1 Categories of financial instruments

The carrying amounts of each of the following categories of financial assets and financial liabilities at the end of the reporting period are set out as follows:

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
<b>Financial assets</b>		
Available-for-sale investments	854	1,800
Loans and receivables (including cash and cash equivalents)	125,517	95,651
Derivative financial instruments	56	54
Tradable wealth management products	52	33,350
<b>Financial liabilities</b>		
Amortised cost	164,633	172,081

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 37. FINANCIAL INSTRUMENTS (CONTINUED)

## 37.2 Financial risk management objectives and policies

The Group's major financial instruments include accounts and bills receivables, loans and advances to/deposits from/amounts due to China Energy Group and fellow subsidiaries, amounts due from/to associates, other receivables, accounts and bills payables, borrowings, other payables, long-term liabilities, medium-term notes and bonds. Details of the financial instruments are disclosed in the respective notes. The risks associated with these financial instruments include market risk (interest rate and currency risks), credit risk and liquidity risk. The policies on how to mitigate these risks are set out below. The management manages and monitors these exposures to ensure appropriate measures are implemented on a timely and effective manner.

**Market risk**(i) *Currency risk*

The functional currency of most of the group entities is RMB in which most of the transactions are denominated. However, certain of the Group's borrowings, receivables, bank balances and payables are denominated in foreign currencies. The Group entered into cross-currency exchange rate swaps with bank with good reputation in respect of its certain interest payments of borrowings denominated in USD in order to mitigate the risk from the fluctuation of USD against RMB, and the carrying amounts are set out in Note 29.

The carrying amounts of the Group's foreign currency denominated monetary assets and monetary liabilities at the end of the reporting period are as follows:

	Liabilities		Assets	
	31 December		31 December	
	2017	2016	2017	2016
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
USD	3,286	2,208	870	597
JPY	2,119	2,445	-	-
Other currencies	35	218	42	170

*Sensitivity analysis*

The following table details the Group's sensitivity to a 10% increase or decrease in exchange rate of each foreign currency against RMB, while all other variables are held constant. The sensitivity analysis includes only outstanding foreign currency denominated monetary items at the end of the reporting period.

	USD		JPY		Other currencies	
	Year ended 31 December		Year ended 31 December		Year ended 31 December	
	2017	2016	2017	2016	2017	2016
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
(Decrease) increase in profit after tax for the year						
- if RMB weakens against foreign currencies	(198)	(121)	(159)	(183)	-	(4)
- if RMB strengthens against foreign currencies	198	121	159	183	-	4

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 37. FINANCIAL INSTRUMENTS (CONTINUED)

#### 37.2 Financial risk management objectives and policies (Continued)

##### *Market risk (Continued)*

##### *(iii) Interest rate risk*

The Group is exposed to fair value interest rate risk in relation to fixed-rate loan and receivables, borrowings, medium-term notes and bonds (see Notes 25, 29 and 30). The Group has entered into interest rate swaps to hedge against its exposures to changes in fair values of its certain interest payments of borrowings (see Note 29).

The Group is also exposed to cash flow interest rate risk in relation to variable-rate borrowings and variable-rate loans and receivables (see Notes 29 and 21). Other than the concentration of interest rate risk related to the movements in London Interbank Offered Rate and the loan interest published by the PBOC, the Group has no significant concentration of interest rate risk.

The Group's exposures to interest rates on financial liabilities are detailed in the liquidity risk management section of this note.

##### *Sensitivity analysis*

The sensitivity analysis below has been determined based on the exposure to interest rates for variable-rate borrowings and variable-rate loans and receivables at the end of the reporting period. No sensitivity analysis has been presented for the exposure to interest rates for bank balances as the management of the Group considers that, taking into account that the fluctuation in interest rates on bank balances is minimal, the impact of profit or loss for the year is insignificant.

The analysis is prepared assuming variable-rate borrowings and variable-rate loans and receivables outstanding at the end of the reporting period were outstanding for the whole year.

If interest rates had been 100 basis points (2016: 100 basis points) higher/lower and all other variables were held constant, the Group's profit for the year ended 31 December 2017 would decrease/increase by RMB324 million (2016: decrease/increase by RMB259 million).



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 37. FINANCIAL INSTRUMENTS (CONTINUED)

#### 37.2 Financial risk management objectives and policies (Continued)

##### *Credit risk*

As at 31 December 2017, the Group's maximum exposure to credit risk which will cause a financial loss to the Group due to failure to discharge an obligation by the counterparties and financial guarantees provided by the Group is arising from:

- the carrying amount of the respective recognised financial assets as stated in the consolidated statement of financial position; and
- the amount of contingent liability in relation to the financial guarantees provided by the Group as disclosed in Note 39.3.

In order to minimise the credit risk, the management of the Group has delegated a team responsible for determination of credit limits, credit approvals and other monitoring procedures to ensure that follow-up action is taken to recover overdue debts. In addition, the Group reviews the recoverable amount of each individual trade debt on regular basis and at the end of the reporting period to ensure that adequate impairment losses are made for irrecoverable amounts. In respect of the risk arising from the provision of financial guarantees, the management of the Group continuously monitors the credit quality and financial conditions of the guaranteed parties that the Group issued financial guarantee contracts in favor of to ensure that the Group will not suffer significant credit losses as a result of the failure of the guaranteed parties on the repayment of the relevant loans. In this regard, the Directors consider that the Group's credit risk is significantly reduced.

The credit risk on liquid funds is limited because the counterparties are banks with good reputation.

Other than concentration of credit risk on liquid funds which are deposited with several banks with good reputation, the Group does not have any other significant concentration of credit risk. Accounts receivables consist of a large number of customers, which spread across diverse industries and located in the PRC.

##### *Liquidity risk*

Liquidity risk is the risk that the Group will not be able to meet its financial obligation as they fall due. The approach to managing liquidity is to ensure, as far as possible, that it will always have sufficient liquidity to meet its liabilities when due, under both normal and stressed conditions, without incurring unacceptable losses or risk damage to the Group's reputation.

The Group closely monitors cash flow requirements and optimising its cash return. The Group prepares cash flow forecasts and ensures it has sufficient cash for the servicing of operation, financial, and capital obligations; this excludes the potential impact of extreme circumstances that cannot reasonably be predicted, such as natural disasters.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 37. FINANCIAL INSTRUMENTS (CONTINUED)

## 37.2 Financial risk management objectives and policies (Continued)

*Liquidity risk (Continued)*

The following table details the remaining contractual maturity of the Group's financial liabilities at the end of the reporting period, which are based on contractual undiscounted cash flows (including interest payments computed using contractual rates or, if floating, based on rates current at the end of the reporting period) and the earliest date the Group can be required to pay:

	31 December 2017						
	Weighted average interest rate	On demand or less than 1 year	1-2 years	2-5 years	More than 5 years	Total undiscounted cash flows	Total carrying amount
	%	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
<b>Financial liabilities:</b>							
Accounts and bills payables, other payables and long-term liabilities		69,148	120	236	505	70,009	69,790
Borrowings variable interest rate	4.54	18,785	9,530	20,012	49,278	97,605	72,998
Borrowings fixed interest rate	3.17	1,073	1,143	3,746	2,254	8,216	7,108
Medium-term notes and bonds	4.45	8,736	229	3,652	3,527	16,144	14,747
		97,742	11,022	27,646	55,564	191,974	164,633

	31 December 2016						
	Weighted average interest rate	On demand or less than 1 year	1-2 years	2-5 years	More than 5 years	Total undiscounted cash flows	Total carrying amount
	%	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
<b>Financial liabilities:</b>							
Accounts and bills payables, other payables and long-term liabilities		65,695	206	436	425	66,762	66,503
Borrowings variable interest rate	4.60	10,676	7,727	18,064	46,839	83,306	60,386
Borrowings fixed interest rate	3.94	4,931	543	2,583	2,653	10,710	9,287
Medium-term notes and bonds	4.58	21,287	8,952	3,986	3,879	38,104	35,305
		102,589	17,428	25,069	53,796	198,882	172,081

Saved as discussed above, the Group also makes use of banks and financial institutions facilities as one of the effective sources of liquidity.

The maximum liability of financial guarantees issued by the Group is disclosed in Note 39.3.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 37. FINANCIAL INSTRUMENTS (CONTINUED)

## 37.3 Fair value measurements

**Fair value of the Group's financial assets and financial liabilities that are measured at fair value on a recurring basis**

As of 31 December 2017, the Group has financial assets investments in derivative financial instruments, tradable wealth management products, and wealth management products which are measured at fair value of RMB56 million (2016: RMB4 million), RMB52 million (2016: RMB50 million), and RMB105 million (2016: RMB33,350 million), respectively. The Group has financial liabilities in derivative financial instruments which are measured at fair value of RMB12 million (2016: Nil).

	At 31 December 2017 RMB million	At 31 December 2016 RMB million	Fair value hierarchy	Valuation technique(s) and key input(s)
<b>Financial assets:</b>				
Derivative financial instruments	56	4	Level 1	Quoted price in an active market.
Tradable wealth management products	52	50	Level 2	Discounted cash flow. Future cash flows are estimated based on expected rate of return of comparable products.
AFS-wealth management products	105	33,350	Level 2	Discounted cash flow. Future cash flows are estimated based on expected rate of return of comparable products.
<b>Financial liabilities:</b>				
Derivative financial instruments	12	-	Level 2	Quoted market prices or dealer prices for similar instruments.

There were no transfer between Level 1 and Level 2 during the year ended 31 December 2017 and 2016.

**Fair value of financial assets and financial liabilities that are not measured at fair value on a recurring basis**

Except as detailed in the following table, the Directors consider that the carrying amounts of financial assets and financial liabilities recorded at amortised cost in the consolidated financial statements approximate their fair values:

	At 31 December 2017		At 31 December 2016	
	Carrying amount RMB million	Fair value RMB million	Carrying amount RMB million	Fair value RMB million
<b>Financial liabilities:</b>				
Fixed rate bank borrowings	6,658	6,670	8,507	8,567
Fixed rate medium-term notes	4,995	5,009	24,974	25,282
Fixed rate bonds	9,752	9,903	10,331	10,436



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 37. FINANCIAL INSTRUMENTS (CONTINUED)

#### 37.3 Fair value measurements (Continued)

##### Fair value of financial assets and financial liabilities that are not measured at fair value on a recurring basis (Continued)

The fair value of fixed rate bank borrowings above in the Level 2 category is measured using discounted cash flow method where the future cash flows are estimated based on the contract and discounted at a rate that reflects the credit risk of the issuers.

The fair values of medium-term notes and bonds are included in the Level 1 category, which have been derived from the quoted prices (unadjusted) in an active market.

### 38. RECONCILIATION OF LIABILITIES ARISING FROM FINANCING ACTIVITIES

The table below shows the detailed changes in the Group's liabilities arising from financing activities, including both cash and non-cash changes. Liabilities arising from financing activities are those for which cash flows were, or future cash flows will be, classified in the Group's consolidated statement of cash flows as cash flows from financing activities.

	Borrowings RMB million Note 29	Medium-term notes RMB million Note 30	Bonds RMB million Note 30	Accrued interest payable RMB million Note 32	Total RMB million
At 1 January 2017	70,273	24,974	10,331	705	106,283
Financing cash flows	10,161	(20,000)	-	(5,762)	(15,601)
Foreign exchange	(328)	-	(599)	-	(927)
Amortisation of discount on notes and bonds	-	21	20	-	41
Interest expenses	-	-	-	5,529	5,529
At 31 December 2017	80,106	4,995	9,752	472	95,325

### 39. COMMITMENTS AND CONTINGENT LIABILITIES

#### 39.1 Capital commitments

As at 31 December, the Group had capital commitments for land and buildings and equipment as follows:

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Contracted for but not provided		
- Land and buildings	19,485	23,604
- Equipment	14,425	17,200
	33,910	40,804

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

**39. COMMITMENTS AND CONTINGENT LIABILITIES (CONTINUED)****39.2 Operating lease commitments**

Operating lease commitments mainly represent business premises, mining related machineries and equipments leased through non-cancellable operating leases. These operating leases do not contain provisions for contingent lease rentals. As at 31 December, future minimum lease payments under non-cancellable operating leases on business premises, mining related machineries and equipments having initial or remaining lease terms of more than one year are payable as follows:

	<b>31 December 2017</b>	31 December 2016
	<b>RMB million</b>	RMB million
Within one year	<b>373</b>	45
After one year but within five years	<b>1,144</b>	23
After five years	<b>606</b>	—
	<b>2,123</b>	68

**39.3 Financial guarantees issued**

As at 31 December 2017, the Group had issued certain guarantees in respect of certain banking facilities granted to an entity which the Group held less than 20% equity interest. The maximum amount guaranteed is RMB182 million (2016: RMB191 million).

As at 31 December 2017, the Group had issued certain guarantees in respect of certain banking facilities granted to an associate of the Group. The maximum amount guaranteed is RMB40 million (31 December 2016: Nil).

**39.4 Legal contingencies**

The Group is the defendant in certain lawsuits as well as the plaintiff in other proceedings arising in the ordinary course of business. While the outcomes of such contingencies, lawsuits or other proceedings cannot be determined at present, management believes that any resulting liabilities will not have a material adverse effect on the financial position or operating results of the Group.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 39. COMMITMENTS AND CONTINGENT LIABILITIES (CONTINUED)

#### 39.5 Environmental contingencies

To date, the Group has not incurred any significant expenditure for environmental remediation, is currently not involved in any environmental remediation, and apart from the provision for land reclamation costs, has not accrued any further amounts for environmental remediation relating to its operations. Under the existing legislation, management believes that there are no probable liabilities that will have a material adverse effect on the financial position or operating results of the Group. The regulatory bodies, however, have moved, and may move further towards the adoption of more stringent environmental standards. Environmental liabilities are subject to considerable uncertainties which affect the Group's ability to estimate the ultimate cost of remediation efforts. These uncertainties include (i) the exact nature and extent of the contamination at various sites including, but not limited to coal mines and land development areas, whether operating, closed or sold; (ii) the extent of required cleanup efforts; (iii) varying costs of alternative remediation strategies; (iv) changes in environmental remediation requirements; and (v) the identification of new remediation sites. The amount of such future cost is indeterminable due to such factors as the unknown magnitude of possible contamination and the unknown timing and extent of the corrective actions that may be required. Accordingly, the outcome of environmental liabilities under future environmental legislation cannot reasonably be estimated at present, and could be material.

### 40. EMPLOYEE BENEFITS PLAN

In addition to a minimal defined benefit plan operated by its subsidiary, the Group participates, in line with the regulations of the PRC, mainly in various defined contribution retirement plans organised by municipal and provincial governments for its employees. The Group is required to make contributions to the retirement plans at 20% of the salaries, bonuses and certain allowances of the employees. In addition, as approved by the government, the Group makes contribution to a supplemental defined contribution pension plan for its employees. The fund is managed by a qualified fund manager. The Group has no other material obligation for the payment of pension benefits associated with these plans beyond the annual contributions described above. The Group's contributions for the year ended 31 December 2017 were RMB2,886 million (2016: RMB2,728 million).



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 41. RELATED PARTY TRANSACTIONS

## 41.1 Transactions with China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries, and associates of the Group

The Group is controlled by China Energy Group and has significant transactions and relationships with China Energy Group, an associate of China Energy Group and subsidiaries of China Energy Group ("fellow subsidiaries"). Related parties refer to enterprises over which China Energy Group is able to exercise significant influence or control. The Group also has entered into transactions with its associates, over which the Group can exercise significant influence.

The Group had the following transactions with China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries, and associates of the Group that were carried out in the normal course of business during both years:

		2017 RMB million	2016 RMB million
Interest income	(i)	652	634
Income from entrusted loans	(ii)	31	33
Interest expense	(iii)	248	242
Purchases of ancillary materials and spare parts	(iv)	776	1,347
Mining service income	(v)	90	—
Ancillary and social services	(vi)	385	688
Transportation service income	(vii)	193	195
Transportation service expense	(viii)	—	—
Sale of coal	(ix)	6,257	4,724
Purchase of coal	(x)	9,139	6,227
Property leasing	(xi)	88	48
Repairs and maintenance services expense	(xii)	47	44
Coal export agency expense	(xiii)	11	9
Purchase of equipment and construction work	(xiv)	1,119	1,021
Sale of coal chemical product	(xv)	4,382	3,804
Other income	(xvi)	2,084	2,123
Granting of loans from Shenhua Finance	(xvii)	2,281	4,768
Repayment of loans from Shenhua Finance	(xviii)	3,067	3,900
Granting of entrusted loan	(xix)	420	—
Repayment of entrusted loan	(xx)	627	—
Net deposits received (paid) by Shenhua Finance	(xxi)	6,583	(11,008)
Loans from China Energy Group	(xxii)	—	—
Repayment of loans from China Energy Group	(xxiii)	3,450	2,600

(i) Interest income represents interest earned from loans to China Energy Group and fellow subsidiaries. The applicable interest rate is determined in accordance with the prevailing interest rates published by the PBOC.

(ii) Income from entrusted loans represents interest earned from entrusted loans to an associate of the Group. The applicable interest rate is determined in accordance with the prevailing interest rates published by the PBOC.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 41. RELATED PARTY TRANSACTIONS (CONTINUED)

#### 41.1 Transactions with China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries, and associates of the Group (Continued)

- (iii) Interest expense represents interest incurred from deposits placed and loans from China Energy Group and fellow subsidiaries. The applicable interest rate is determined in accordance with the prevailing interest rates published by the PBOC.
- (iv) Purchases of ancillary materials and spare parts represent purchase of materials and utility supplies related to the Group's operations from fellow subsidiaries and an associate of China Energy Group.
- (v) Mining service income represents income earned from coal mining services to a fellow subsidiary.
- (vi) Ancillary and social services represent expenditures for social welfare and support services such as property management, water and electricity supply, and canteen expense paid to China Energy Group, fellow subsidiaries and an associate of China Energy Group.
- (vii) Transportation service income represents income earned from fellow subsidiaries in respect of coal transportation services.
- (viii) Transportation service expense represents expense related to coal transportation service.
- (ix) Sale of coal represents income from sale of coal to fellow subsidiaries.
- (x) Purchase of coal represents coal purchased from associates of the Group, an associate of China Energy Group and fellow subsidiaries.
- (xi) Property leasing represents rental paid or payable in respect of properties leased from fellow subsidiaries.
- (xii) Repairs and maintenance services expense represents expense related to machinery repairs and maintenance services provided by fellow subsidiaries.
- (xiii) Coal export agency expense represents expense related to coal export agency services provided by a fellow subsidiary.
- (xiv) Purchase of equipment and construction work represents expenditure related to equipment and construction service provided by fellow subsidiaries.
- (xv) Sale of coal chemical product represents income from sale of coal chemical product to fellow subsidiaries.
- (xvi) Other income includes agency income, repairs and maintenance service income, sales of ancillary materials and spare parts, management fee income, sales of water and electricity, financial service income, etc. earned from China Energy Group and fellow subsidiaries.
- (xvii) Granting of loans from Shenhua Finance represents loans granted by Shenhua Finance to China Energy Group and fellow subsidiaries.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 41. RELATED PARTY TRANSACTIONS (CONTINUED)

#### 41.1 Transactions with China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries, and associates of the Group (Continued)

- (xviii) Repayment of loans from Shenhua Finance represents loans repaid by China Energy Group and fellow subsidiaries to Shenhua Finance.
- (xix) Granting of entrusted loan represents an entrusted loan granted to an associate of the Group.
- (xx) Repayment of entrusted loan represents an entrusted loan repaid by an associate of the Group.
- (xxi) Receipt of deposits by Shenhua Finance represents net deposits received by Shenhua Finance from China Energy Group and fellow subsidiaries.
- (xxii) Loans obtained by the Group.
- (xxiii) Repayment of loans from a fellow subsidiary by the Group.

The Directors are of the opinion that the above transactions with related parties were conducted in the ordinary course of business and in accordance with the agreements governing such transactions.

The Group entered into a number of agreements with China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries, and associates of the Group. The terms of the principal agreements are summarised as follows:

- (i) The Group has entered into a mutual supply agreement for the mutual provision of production supplies and ancillary services with an associate of China Energy Group and fellow subsidiaries. Pursuant to the agreement, an associate of China Energy Group and fellow subsidiaries provide the Group with the production supplies and services, ancillary production services including the use of the information network system and ancillary administrative services. On the other hand, the Group provides fellow subsidiaries with water supplies, rolling stock management, railway management, railway transportation and other related or similar production supplies or services and use of the information network system.

The products and services provided under the agreement, other than the sharing of use of the information network system which is free of charge, are provided in accordance with the following pricing policy:

- price prescribed by the state (including any price prescribed by any relevant local government), if applicable,
- where there is no state-prescribed price but where there is a state-guidance price, then the state-guidance price,
- where there is neither a state-prescribed price nor a state-guidance price, the market price; or
- where none of the above is applicable or where it is not practical to apply the above pricing policies in reality, the price to be agreed between the relevant parties shall be based on reasonable costs incurred in providing the goods or services plus a profit margin of 5% of such costs.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 41. RELATED PARTY TRANSACTIONS (CONTINUED)

#### 41.1 Transactions with China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries, and associates of the Group (Continued)

- (ii) The Group has entered into coal supply agreements with fellow subsidiaries and associates of the Group. The coal supplied is charged at the prevailing market price.
- (iii) The Group, through Shenhua Finance, has entered into a financial services agreement with China Energy Group and fellow subsidiaries. Pursuant to the agreement, Shenhua Finance provides financial services to China Energy Group and fellow subsidiaries. The interest rate for the deposits with Shenhua Finance from China Energy Group and fellow subsidiaries should not be lower than the lowest limit published by the PBOC for the same type of deposit. The interest rate for loans made by Shenhua Finance to China Energy Group and fellow subsidiaries should not be higher than the highest limit published by the PBOC for the same type of loan. The above interest rates should be determined by reference to the rate charged by normal commercial banks in the PRC for comparable deposits and loans on normal commercial terms. The fees charged by Shenhua Finance for the provision of other financial services shall be determined according to the rates chargeable by the PBOC or the China Banking Regulatory Commission.
- (iv) The Group has entered into a property leasing agreement with fellow subsidiaries for leasing of certain properties to each other. No rent is payable by the Group before fellow subsidiaries obtains the relevant property ownership certificate. The rental charges are based on comparable market rates. If fellow subsidiaries negotiate to sell a leased property to a third party, the Company has a pre-emptive right to purchase such property under terms no less favorable than other third party.
- (v) The Group has entered into a land leasing agreement with fellow subsidiaries. The annual rent is determined based on the local market rate. The Group is not allowed to sub-let the leased land.
- (vi) The Group has entered into an agency agreement for the export of coal with a fellow subsidiary. The fellow subsidiary is appointed as a non-exclusive export agent of the Group and is entitled to receive an agency fee based on the relevant market rates or lower rates. Currently, the rate is 0.7% of the free on board sales price of coal exported.
- (vii) The Group entered into an agency agreement for the sale of coal with fellow subsidiaries. The Group is appointed as the exclusive sales agent of fellow subsidiaries for thermal coal and non-exclusive sales agent for coking coal. The Group is entitled to receive an agency fee, which is based on its related costs incurred plus a profit margin of 5% for sales of coal outside the Inner Mongolia Autonomous Region. No agency fee is charged for sales of coal within the Inner Mongolia Autonomous Region.
- (viii) The Group has entered into agreements with fellow subsidiaries under which the Group has been granted the right to use certain trademarks. Fellow subsidiaries bear its own cost for the registration of such trademarks during the term of the trademarks license agreement and expenses for enforcement against any infringement of the licensed trademarks by third parties.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 41. RELATED PARTY TRANSACTIONS (CONTINUED)

## 41.1 Transactions with China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries, and associates of the Group (Continued)

Amounts due from/to China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries, and associates of the Group:

	Notes	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Accounts and bills receivables	24	2,594	3,458
Prepaid expenses and other current assets	25	5,797	3,182
Other non-current assets	21	10,139	13,507
Total amounts due from China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries and associates of the Group		18,530	20,147
Borrowings	29	1,374	4,824
Accounts payables	31	2,157	2,358
Accrued expenses and other payables	32	21,341	15,491
Total amounts due to China Energy Group, an associate of China Energy Group and fellow subsidiaries, and associates of the Group		24,872	22,673

Other than those disclosed in Notes 21, 25, 29 and 32, amounts due from/to China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries, and associates of the Group bear no interest, are unsecured and are repayable in accordance with normal commercial terms.

## 41.2 Key management personnel emoluments

Key management personnel receive compensation in the form of fees, basic salaries, housing and other allowances, benefits in kind, discretionary bonuses and retirement scheme contributions.

Key management personnel compensation of the Group is summarised as follows:

	2017 RMB million	2016 RMB million
Short-term employee benefits	10	8
Post-employment benefits	1	1
	11	9

Total remuneration is included in "personnel expenses" as disclosed in Note 10.



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 41. RELATED PARTY TRANSACTIONS (CONTINUED)

#### 41.3 Contributions to post-employment benefit plans

The Group participates in various defined contribution post-employment benefit plans organised by municipal and provincial governments and a supplemental defined contribution pension plan approved by the government for its employees. Further details of the Group's post-employment benefit plans are disclosed in Note 40.

#### 41.4 Transactions with other government-related entities in the PRC

The Company is ultimately controlled by the PRC government and the Group operates in an economic environment currently predominated by government-related entities.

Other than those transactions with China Energy Group, an associate of China Energy Group, fellow subsidiaries and associates of the Group as disclosed above, the Group conducts business with other government-related entities which include but are not limited to the following:

- Power sales;
- Sales and purchases of coal;
- Transportation services;
- Construction work;
- Purchases of ancillary materials and spare parts;
- Ancillary and social services; and
- Financial services arrangements.

These transactions are conducted in the ordinary course of the Group's business on terms comparable to those with other entities that are not government-related. The Group has established its pricing policies in respect of sale of goods and provision of services, and approval process for purchases of products and services. Such policies and approval process apply to all counterparties regardless of whether the counterparty is government-related or not.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 41. RELATED PARTY TRANSACTIONS (CONTINUED)

## 41.4 Transactions with other government-related entities in the PRC (Continued)

Having considered the potential for transactions to be impacted by related party relationships, the Group's buying, pricing strategy and approval processes, and what information would be necessary for an understanding of the potential effect of the relationship on the financial statements, the Directors are of the opinion that the following transactions with other government-related entities require disclosure:

***Transactions with other government-related entities, including state-controlled banks in the PRC***

	2017 RMB million	2016 RMB million
Coal revenue	97,212	69,822
Power revenue	77,303	67,472
Transportation costs	11,501	7,618
Interest income	959	691
Interest expenses (including amount capitalised)	5,461	5,463

***Balances with other government-related entities, including state-controlled banks in the PRC***

	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
Accounts and bills receivables	7,954	12,354
Prepaid expenses and other current assets	683	1,289
Cash and time deposits at banks	73,728	44,602
Restricted bank deposits	7,348	6,141
Borrowings	78,326	64,578
Accrued expenses and other payables	2,915	3,669

## 42. EVENTS AFTER THE REPORTING PERIOD

On 1 March 2018, the Company and GD Power Development Co., Ltd. (the "GD Power") entered into a joint venture agreement. Pursuant to the agreement, GD Power and the Company proposed to contribute the equities and assets of relevant coal-fired power generation companies into the joint venture. Based on the agreement, GD Power will hold 57.47% of equity interests in the joint venture, and the Company will hold 42.53% of equity interests in the joint venture. The joint venture agreement will become effective upon approvals from general meetings of GD Power and the Company, and relevant authorities, in which uncertainties remain.

On 23 March 2018, the Directors proposed a final dividend of RMB0.91 per ordinary share totaling RMB18,100 million to the equity holders of the Company. Further details are disclosed in Note 13.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

### 43. SUBSIDIARIES

#### Details of the Company's material subsidiaries

The Company's subsidiaries are unlisted. Details of the Company's material subsidiaries at the end of the reporting period are set out below:

Name of the subsidiary	Place of incorporation and operation	Type of legal entity	Particulars of registered capital	Proportion of ownership interest and voting rights held by the Group		Principal activities
				31 December 2017 %	31 December 2016 %	
Shenhua Sales Group Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB1,889 million	100	100	Trading of coal
Shenwan Energy Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB4,696 million	51	51	Trading of coal
Shenhua Shendong Group Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB4,989 million	100	100	Trading of coal; Coal provision of integrated services
Shenhua Zhunge'er Energy Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB7,102 million	58	58	Coal mining and development; generation and sale of electricity
Shenhua Baotou Energy Industrial Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB1,169 million	57	57	Coal mining; provision of loading and transportation services
Shenhua Beidian Shengli Energy Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB2,720 million	63	63	Coal mining; provision of loading and transportation services
Shaanxi Guohua Jinpe Energy Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB2,278 million	70	70	Generation and sale of electricity; coal mining and development
Shenhua Guohua International Power Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB4,010 million	70	70	Generation and sale of electricity
Shenhua Shendong Power Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB3,024 million	100	100	Generation and sale of electricity
Guangdong Guohua Yuedian Taishan Power Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB4,670 million	80	80	Generation and sale of electricity
Zhejiang Guohua Zheneng Power Generation Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB3,255 million	60	60	Generation and sale of electricity
Suizhong Power Co., Ltd. (Note 40)	PRC	Limited company	RMB4,029 million	65	65	Generation and sale of electricity

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 43. SUBSIDIARIES (CONTINUED)

## Details of the Company's material subsidiaries (Continued)

Name of the subsidiary	Place of incorporation and operation	Type of legal entity	Particulars of registered capital	Proportion of ownership interest and voting rights held by the Group		Principal activities
				31 December 2017 %	31 December 2016 %	
Hebei Guohua Cangdong Power Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB1,834 million	51	51	Generation and sale of electricity
Dingzhou Power (Note 6ii)	PRC	Limited company	RMB1,561 million	41	41	Generation and sale of electricity
Guohua Taicang Power Co., Ltd. (Note 6ii)	PRC	Limited company	RMB2,000 million	50	50	Generation and sale of electricity
Shenhua Sichuan Energy Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB2,152 million	51	51	Generation and sale of electricity; trading of coal
Shenhua Fujian Energy Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB2,551 million	100	100	Generation and sale of electricity
Shouhuang Railway Development Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB5,880 million	53	53	Provision of transportation services
Shenhua Zhunchi Railway Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB4,710 million	85	85	Provision of transportation services
Shenhua Huanghua Harbour Administration Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB6,790 million	70	70	Provision of harbour and port services
Shenhua Zhonghai Shipping Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB5,180 million	51	51	Provision of Transportation services
Shenhua Baotou Coal Chemical Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB5,132 million	100	100	Coal chemical
Shenhua Railway Transportation Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB4,803 million	100	100	Provision of transportation
Shenhua Finance	PRC	Limited company	RMB5,600 million	100	100	Provision of financial services
China Shenhua Overseas Development & Investment Co., Ltd.	Hong Kong	Limited company	HKD5,252 million	100	100	Investment holding



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 43. SUBSIDIARIES (CONTINUED)

## Details of the Company's material subsidiaries (Continued)

Name of the subsidiary	Place of incorporation and operation	Type of legal entity	Particulars of registered capital	Proportion of ownership interest and voting rights held by the Group		Principal activities
				31 December 2017 %	31 December 2016 %	
Shenhua Australia Holding Pty Ltd	Australia	Limited company	AUD400 million	100	100	Coal mining and development, generation and sale of electricity
Shenhua Watermark Coal Pty Ltd	Australia	Limited company	AUD350 million	100	100	Coal mining and development, generation and sale of electricity
PT GH EMM Indonesia	Indonesia	Limited company	USD63 million	70	70	Coal mining and development, generation and sale of electricity
Shenhua Baoshen Railway Group Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB10,000 million	100	100	Provision of transportation services
(Tianjin) Finance Lease Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB1,765 million	100	100	Provision of financial lease services
Shenhua Zhuneng Resources Development & Utilisation Co., Ltd.	PRC	Limited company	RMB1,200 million	100	100	Comprehensive utilisation of interior coal resources
Xuzhou Power	PRC	Limited company	RMB1,790 million	100	100	Generation and sale of electricity
Zhoushan Power	PRC	Limited company	RMB804 million	51	51	Generation and sale of electricity

The above table lists subsidiaries of the Group which, in the opinion of the Directors, principally affected the results or assets of the Group. To give details of other subsidiaries would, in the opinion of the Directors, result in particulars of excessive length.

None of the subsidiaries had issued any debt securities at the end of the year except for Shenhua Overseas Capital which has issued USD1,500 million (equivalent to RMB9,183 million) of bonds, which are set out in Note 30, in which the Group has no interest.

## Notes:

- (i) In addition to 15% equity interest held by the Company, the Company's subsidiary owned 50% equity interest in Suizhong Power Co., Ltd.
- (ii) The Company obtained the control over Dingzhou Power through its right to appoint majority members of the board of directors, details of which are set out in Note 4.1.
- (iii) The Company has the control over Guohua Taicang Power Co. through its voting rights over 50%.

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 43. SUBSIDIARIES (CONTINUED)

## Details of non-wholly owned subsidiaries that have material non-controlling interests

Summarised financial information in respect of each of the Group's subsidiaries that has material non-controlling interests is set out below. The summarised financial information below represents amounts before intragroup eliminations.

Name of the subsidiary	Place of incorporation and operation	Proportion of ownership interest and voting rights held by non-controlling interests		Profit allocated to non-controlling interests		Accumulated non-controlling interests	
		31 December 2017	31 December 2016	Year ended 31 December		31 December 2017	31 December 2016
		%	%	2017	2016	2017	2016
				RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
Shenwan Energy Co., Ltd.	PRC	49	49	205	434	4,076	3,976
Shenhua Zhong'er Energy Co., Ltd.	PRC	42	42	1,415	576	12,075	10,636
Shenhua Baotou Energy Industrial Co., Ltd.	PRC	43	43	457	206	2,231	1,885
Hebei Guohua Cangdong Power Co., Ltd.	PRC	49	49	175	329	1,328	1,449
Dingzhou Power	PRC	59	59	331	503	1,796	1,928
Shenhua Sichuan Energy Co., Ltd.	PRC	49	49	(125)	(36)	1,424	1,550
Shouhuang Railway Development Co., Ltd.	PRC	47	47	3,587	3,062	15,021	14,112
Shenhua Zhonghai Shipping Co., Ltd.	PRC	49	49	227	70	3,105	2,940
Guangdong Guohua Yuedian Taishan Power Co., Ltd.	PRC	20	20	114	206	1,544	1,525
Shenhua Huanghua Harbour Administration Co., Ltd.	PRC	30	30	506	367	3,085	2,866
Shenhua Guohua International Power Co., Ltd.	PRC	30	30	302	302	2,989	3,010
Zhejiang Guohua Zheneng Power Generation Co., Ltd.	PRC	40	40	298	414	2,138	2,212
Individually immaterial subsidiaries with non-controlling interests						22,753	48,089
						73,564	67,994

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 43. SUBSIDIARIES (CONTINUED)

## Details of non-wholly owned subsidiaries that have material non-controlling interests (Continued)

	Shenwan Energy Co., Ltd.		Shenhua Zhunge'er Energy Co., Ltd.		Shenhua Baorixile Energy Industrial Co., Ltd.		Hebei Guohua Cangdong Power Co., Ltd.	
	31 December 2017	31 December 2016	31 December 2017	31 December 2016	31 December 2017	31 December 2016	31 December 2017	31 December 2016
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
Current assets	1,302	1,145	18,119	13,580	2,774	1,967	1,029	1,233
Non-current assets	12,432	12,292	18,012	18,506	5,125	5,218	5,557	5,965
Current liabilities	3,050	2,978	7,075	6,458	2,589	2,680	2,786	3,210
Non-current liabilities	2,425	2,345	470	448	168	160	1,089	1,030
Total equity	8,319	8,114	28,586	25,180	5,142	4,345	2,711	2,958
	Year ended 31 December		Year ended 31 December		Year ended 31 December		Year ended 31 December	
	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
Revenue	6,894	6,324	14,316	9,677	3,567	2,697	4,146	4,019
Expenses	6,339	5,249	10,585	8,114	2,227	2,146	3,679	3,120
Profit and total comprehensive income for the year	419	886	3,349	1,364	1,054	475	358	672
Dividend paid to non-controlling interests	105	245	-	-	142	193	296	365
Net cash inflow from operating activities	517	1,444	3,008	4,199	1,399	650	901	958
Net cash (outflow) inflow from investing activities	(959)	1,401	(2,832)	(4,045)	(95)	(184)	197	(348)
Net cash inflow (outflow) from financing activities	436	(47)	(20)	(42)	(532)	(363)	(1,088)	(610)
Net cash (outflow) inflow	(6)	2,798	156	112	1,312	103	-	-

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 43. SUBSIDIARIES (CONTINUED)

## Details of non-wholly owned subsidiaries that have material non-controlling interests (Continued)

	Dingzhou Power		Shenhua Sichuan Energy Co., Ltd.		Shuohuang Railway Development Co., Ltd.		Shenhua Zhonghai Shipping Co., Ltd.	
	31 December 2017	31 December 2016	31 December 2017	31 December 2016	31 December 2017	31 December 2016	31 December 2017	31 December 2016
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
Current assets	1,240	1,060	774	1,031	10,283	8,210	1,288	969
Non-current assets	5,048	5,429	6,111	5,349	30,819	29,387	6,634	7,125
Current liabilities	2,503	2,276	1,827	1,130	7,439	5,507	1,538	1,376
Non-current liabilities	769	973	2,151	2,087	1,832	2,242	48	718
Total equity	3,016	3,240	2,907	3,163	31,771	29,848	6,336	6,000
	Year ended 31 December 2017		Year ended 31 December 2017		Year ended 31 December 2017		Year ended 31 December 2017	
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
Revenue	4,104	3,873	1,055	1,106	19,070	17,250	3,247	2,112
Expenses	3,352	2,741	1,281	1,162	8,940	8,737	2,641	1,928
Profit (loss) and total comprehensive income for the year	557	845	(255)	(74)	7,587	6,477	463	143
Dividend paid to non-controlling interests	465	529	-	2	2,759	1,435	62	-
Net cash inflow (outflow) from operating activities	766	1,438	(256)	127	7,481	8,419	752	372
Net cash inflow (outflow) from investing activities	65	(610)	(658)	(656)	(2,665)	(1,935)	(26)	(85)
Net cash (outflow) inflow from financing activities	(831)	(828)	431	531	(4,588)	(6,460)	(757)	(273)
Net cash (outflow) inflow	-	-	(483)	2	228	24	(31)	14



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 43. SUBSIDIARIES (CONTINUED)

## Details of non-wholly owned subsidiaries that have material non-controlling interests (Continued)

	Guangdong Guohua Yuedian Taishan Power Co., Ltd.		Shenhua Huanghua Harbour Administration Co., Ltd.		Shenhua Guohua International Power Co., Ltd.		Zhejiang Guohua Zheneng Power Generation Co., Ltd.	
	31 December 2017	31 December 2016	31 December 2017	31 December 2016	31 December 2017	31 December 2016	31 December 2017	31 December 2016
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
Current assets	936	1,439	2,013	1,419	2,545	3,260	1,826	1,340
Non-current assets	10,972	11,332	13,722	14,538	15,909	16,974	9,687	10,276
Current liabilities	2,889	5,147	2,621	1,304	5,647	7,932	3,223	3,585
Non-current liabilities	1,301	-	2,830	5,099	2,844	1,841	2,945	2,501
Total equity	7,718	7,624	10,284	9,554	9,963	10,461	5,345	5,530
	Year ended 31 December 2017		Year ended 31 December 2017		Year ended 31 December 2017		Year ended 31 December 2017	
	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million	RMB million
Revenue	6,849	6,310	4,519	3,964	10,758	9,794	7,310	6,476
Expenses	6,068	4,963	2,604	2,015	10,566	9,045	6,292	5,135
Profit and total comprehensive income for the year	571	1,031	1,685	1,223	84	490	746	1,034
Dividend paid to non-controlling interests	-	306	288	118	137	460	372	583
Net cash inflow from operating activities	1,947	1,646	1,968	1,962	2,390	2,546	1,736	1,312
Net cash (outflow) inflow from investing activities	(124)	(155)	156	(424)	(523)	(312)	(642)	(130)
Net cash outflow from financing activities	(1,822)	(1,488)	(2,011)	(1,416)	(2,221)	(1,890)	(1,096)	(2,712)
Net cash inflow (outflow)	1	3	113	122	(354)	344	(2)	(1,530)

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

## 44. INFORMATION ABOUT THE FINANCIAL POSITION AND RESERVES OF THE COMPANY

	NOTE	31 December 2017 RMB million	31 December 2016 RMB million
<b>Non-current assets</b>			
Property, plant and equipment		48,713	52,469
Construction in progress		3,067	3,446
Intangible assets		572	1,712
Investments in subsidiaries		139,138	132,569
Investments in associates		5,283	1,065
Available-for-sale investments		569	1,647
Other non-current assets		33,829	36,853
Lease prepayments		3,074	3,167
Deferred tax assets		240	152
<b>Total non-current assets</b>		<b>234,485</b>	<b>233,080</b>
<b>Current assets</b>			
Inventories		3,167	3,591
Accounts and bills receivables		11,977	22,559
Prepaid expenses and other current assets		44,481	84,782
Restricted bank deposits		938	335
Time deposits with original maturity over three months		4,650	27,750
Cash and cash equivalents		59,154	19,276
<b>Total current assets</b>		<b>124,367</b>	<b>158,293</b>
<b>Current liabilities</b>			
Borrowings		7,271	5,263
Accounts and bills payable		6,476	6,251
Accrued expenses and other payables		73,778	63,875
Current portion of long-term liabilities		5,196	20,227
Income tax payable		2,867	1,570
<b>Total current liabilities</b>		<b>95,588</b>	<b>97,186</b>
<b>Net current assets</b>		<b>28,779</b>	<b>61,107</b>
<b>Total assets less current liabilities</b>		<b>263,264</b>	<b>294,187</b>

## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

**44. INFORMATION ABOUT THE FINANCIAL POSITION AND RESERVES OF THE COMPANY (CONTINUED)**

		<b>31 December 2017</b>	31 December 2016
	<i>NOTE</i>	<i>RMB million</i>	<i>RMB million</i>
<b>Non-current liabilities</b>			
Borrowings		<b>4,744</b>	3,460
Medium-term notes		–	4,985
Long-term liabilities		<b>720</b>	872
Accrued reclamation obligations		<b>1,285</b>	1,224
<b>Total non-current liabilities</b>		<b>6,749</b>	10,541
<b>Net assets</b>		<b>256,515</b>	283,646
<b>Equity</b>			
Share capital	35	<b>19,890</b>	19,890
Reserves		<b>236,625</b>	263,756
<b>Total equity</b>		<b>256,515</b>	283,646



## Notes to the Consolidated Financial Statements (Continued)

For the year ended 31 December 2017

**44. INFORMATION ABOUT THE FINANCIAL POSITION AND RESERVES OF THE COMPANY (CONTINUED)**

	Share premium RMB million	Statutory reserves RMB million	Other comprehensive income RMB million	Capital and other reserves RMB million	Retained earnings RMB million	Total RMB million
At 1 January 2016	85,001	15,987	-	1,681	110,455	213,124
Profit for the year	-	-	-	-	56,967	56,967
Other comprehensive income	-	-	30	-	-	30
Total comprehensive income for the year	-	-	30	-	56,967	56,997
Dividend declared (Note 13)	-	-	-	-	(6,365)	(6,365)
Appropriation of maintenance and production funds	-	2,699	-	-	(2,699)	-
Utilisation of maintenance and production funds	-	(398)	-	-	398	-
At 31 December 2016	85,001	18,288	30	1,681	158,756	263,756
Profit for the year	-	-	-	-	31,966	31,966
Other comprehensive expense	-	-	(25)	-	-	(25)
Total comprehensive (expense) income for the year	-	-	(25)	-	31,966	31,941
Dividend declared (Note 13)	-	-	-	-	(59,072)	(59,072)
Appropriation of maintenance and production funds	-	3,891	-	-	(3,891)	-
Utilisation of maintenance and production funds	-	(1,183)	-	-	1,183	-
At 31 December 2017	85,001	20,996	5	1,681	128,942	236,625

According to the Company's Articles of Association, the amount of retained earnings available for distribution to equity holders of the Company is the lower of the amount determined in accordance with the China Accounting Standards and the amount determined in accordance with IFRSs after the appropriation to reserves as detailed in Note (iii) to the consolidated statement of changes in equity.

At 31 December 2017, the aggregate amount of retained earnings determined in accordance with the China Accounting Standards available for distribution to equity holders of the Company was RMB124,576 million (2016: RMB153,846 million).

## 2【主な資産・負債及び収支の内容】

「第一部-第6-1財務書類」を参照のこと。

## 3【その他】

### (1) 後発事象

該当なし。

### (2) 訴訟

「第一部-第6-1財務書類-連結財務諸表注記-39.4法的偶発事象」を参照のこと。

## 4【国際財務報告基準と日本における会計原則及び会計慣行の主要な相違】

本書記載の財務書類は、国際財務報告基準（以下「IFRS」という。）に準拠して作成されている。IFRSは、日本において一般に公正妥当と認められる会計原則とはいくつかの点で相違しており、その主な相違は以下に要約されている。

### (1) 連結手続

#### (a) 連結会社間の会計方針の統一

IFRSでは、IFRS第10号「連結財務諸表」に基づき、親会社は、類似の状況における同様の取引及び他の事象に関し、統一された会計方針を用いて、連結財務諸表を作成しなければならない。在外子会社の財務諸表は、それぞれの国で認められている会計原則を使用して作成されている場合でも、連結に先立ち、親会社が使用するIFRSに準拠した会計方針に一致させるよう必要なすべての修正及び組替が行われる。また、国際会計基準（以下「IAS」という。）第28号「関連会社及び共同支配企業に対する投資」に基づき、関連会社又は共同支配企業が類似の状況における同様の取引及び事象に関して、企業とは異なる会計方針を用いている場合には、企業が持分法を適用するために関連会社又は共同支配企業の財務諸表を用いる際に、関連会社又は共同支配企業の会計方針を企業の会計方針に合わせるための修正を行わなければならない。

日本では、企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」に基づき、連結財務諸表を作成する場合、同一環境下で行われた同一の性質の取引等について、親会社及び子会社が採用する会計処理の原則及び手続は、原則として統一しなければならない。但し、実務対応報告第18号「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（以下、「実務対応報告第18号」という。）により、在外子会社の財務諸表がIFRS又は米国会計基準に準拠して作成されている場合には、一定の項目（のれんの償却、退職給付会計における数理計算上の差異の費用処理、研究開発費の支出時費用処理など）の修正を条件に、これを連結決算手続上利用することができる。

関連会社についても、企業会計基準第16号「持分法に関する会計基準」に従い、同一環境下で行われた同一の性質の取引等について、投資会社（その子会社を含む。）及び持分法を適用する被投資会社が採用する会計処理の原

則及び手続は、原則として統一することとされた。但し、実務対応報告第24号「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」により、在外関連会社については、当面の間、実務対応報告第18号で規定される在外子会社に対する当面の取扱いに準じて行うことができる。

#### (b) 報告日の統一

IFRSでは、IFRS第10号「連結財務諸表」に基づき、連結財務諸表作成に用いる親会社及びその子会社の財務諸表は、同じ報告日としなければならない。親会社の報告期間の期末日が子会社と異なる場合、子会社は、実務上不可能な場合を除いて、連結のために親会社の財務諸表と同日現在の追加的な財務諸表を作成して、親会社が子会社の財務情報を連結できるようにする。実務上不可能な場合には、親会社は子会社の直近の財務諸表を用いて子会社の財務情報を連結しなければならないが、当該財務諸表の日付と連結財務諸表の日付との間に生じた重要な取引又は事象の影響について調整する。いかなる場合でも、子会社の財務諸表と連結財務諸表の日付の差異は3か月を超えてはならず、報告期間の長さ及び財務諸表の日付の差異は每期同一でなければならない。

また、関連会社及び共同支配企業については、IAS第28号「関連会社及び共同支配企業に対する投資」に基づき、企業が持分法を適用する際には、関連会社又は共同支配企業の直近の利用可能な財務諸表を使用する。企業の報告期間の末日が関連会社又は共同支配企業と異なる場合には、関連会社又は共同支配企業は、実務上不可能な場合を除いて、企業の使用のために、企業の財務諸表と同じ日付で財務諸表を作成する。子会社と同様に、持分法を適用する際に用いる関連会社又は共同支配企業の財務諸表を企業と異なる日付で作成する場合には、その日付と企業の財務諸表の日付との間に生じた重要な取引又は事象の影響について調整を行わなければならない。いかなる場合にも、関連会社又は共同支配企業の報告期間の末日と企業の報告期間の末日との差異は3か月以内でなければならない。報告期間の長さとその末日の差異は每期同じでなければならない。

日本では、企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」に基づき、子会社の決算日と連結決算日の差異が3か月を超えない場合には、子会社の正規の決算を基礎として連結決算を行うことができる。但し、この場合には、子会社の決算日と連結決算日が異なることから生じる連結会社間の取引に係る会計記録の重要な不一致について、必要な整理を行う。

関連会社についても、企業会計基準第16号「持分法に関する会計基準」に従い、投資会社は、関連会社の直近の財務諸表を使用する。投資会社と関連会社の決算日に差異があり、その差異の期間内に重要な取引又は事象が発生しているときには、必要な修正又は注記を行う。

#### (2) 連結の範囲及び持分法の適用範囲

IFRSでは、IFRS第10号「連結財務諸表」に基づき、支配を有する会社（子会社）に対しては連結、IAS第28号「関連会社及び共同支配企業に対する投資」に基づき、投資先に対して共同支配又は重要な影響力を有する企業は、関連会社又は共同支配企業に対する投資を持分法で会計処理しなければならない。IFRS第10号では、投資者が、投資先に対するパワー、投資先への関与により生じる変動リターンに対するエクスポージャー又は権利を有し、かつ、投資者のリターンの額に影響を及ぼすように投資先に対するパワーを用いる能力を有している場合には、投資先を支配していると判定される。IAS第28号では、重要な影響力とは、投資先の財務及び営業の方針決定に参加するパワーであるが、当該方針に対する支配又は共同支配ではないものと定めている。

日本では、企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」に基づき、実質支配力基準により連結の範囲が決定され、支配の及ぶ会社（子会社）は連結の範囲に含まれる。但し、子会社のうち支配が一時的であると認められる企業、又は連結することにより利害関係者の判断を著しく誤らせるおそれのある企業については、連結の範囲に含めないこととされている。また、非連結子会社及び重要な影響力を与えることができる会社（関連会社）については、持分法の適用範囲に含める。尚、日本でも、IFRSの共同支配企業に該当するものには持分法が適用される。

### (3) 非支配持分

IFRSでは、IFRS第3号「企業結合」に基づき、企業結合ごとに、取得企業は、取得日現在で、被取得企業に対する非支配持分のうち、現在の所有持分であり、清算時に企業の純資産に対する比例的な取り分を保有者に与えているものを、以下のいずれかで測定しなければならない。

(a) 非支配持分の公正価値

(b) 被取得企業の識別可能純資産の認識金額に対する現在の所有権金融商品の比例的な取り分

非支配持分の他のすべての内訳項目は、他の測定基礎がIFRSで要求されている場合を除き、取得日の公正価値で測定しなければならない。

また、子会社に対する親会社の所有持分の変動（非支配持分との取引）で支配の喪失とならない場合には資本取引として会計処理される。

日本では、2013年9月に企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」が改正され、2015年4月1日以後開始事業年度からは日本でも、「少数株主持分」の呼称は「非支配株主持分」に変更され、また支配を喪失しない子会社に対する親会社持分の変動額と投資の増減額との差額は資本剰余金に計上されている。

但し、IFRSのように非支配株主持分を公正価値で測定する方法は引き続き認められておらず、非支配株主持分は取得日における被取得企業の識別可能純資産に対する現在の持分で測定される。

### (4) 他の企業への関与の開示

IFRSでは、IFRS第12号「他の企業への関与の開示」に従い、次の事項に関する開示が要求されている。

- (a) 重大な判断及び仮定（支配、共同支配及び重要な影響力等を決定する際に行った重大な判断及び仮定）
- (b) 子会社への関与（企業集団の構成、非支配持分が企業集団の活動及びキャッシュ・フローに対して有している関与、企業集団の資産へのアクセス等に対する重大な制限の内容及び程度、連結した組成された企業への関与に関連したリスクの内容、所有持分の変動）
- (c) 共同支配の取決め及び関連会社への関与（共同支配の取決め及び関連会社への関与の内容、程度及び財務上の影響、並びに当該関与に関連したリスク）
- (d) 非連結の組成された企業への関与（非連結の組成された企業への関与の内容及び程度、並びに当該関与に関連したリスクの内容及び変動）

日本では、上記に関して包括的に規定する会計基準はないが、連結の範囲に含まれない特別目的会社に関する開示や、企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」に基づき、連結の範囲に含めた子会社、非連結子会社に関する事項その他連結の方針に関する重要な事項及びこれらに重要な変更があったときは、その旨及びその理由について開示することが要求されている。

## (5) 企業結合

IFRSでは、IFRS第3号「企業結合」に基づき、すべての企業結合に取得法が適用されている（共同支配の取決め自体の財務諸表における共同支配の取決めの形成の会計処理、共通支配下の企業又は事業の結合、及び事業を構成しない資産又は資産グループの取得を除く。）。取得法では、取得日において、取得企業は識別可能な取得した資産及び引き受けた負債を、原則として、取得日公正価値で認識する。

日本でも、企業会計基準第21号「企業結合に関する会計基準」に基づき、すべての企業結合（共同支配企業の形成及び共通支配下の取引を除く。）はパーチェス法（取得法に類似する方法）で会計処理されている。

日本基準とIFRSの間には、主に以下の差異が存在する。

### (a) 取得関連コストの処理

IFRSでは、IAS第32号及びIAS第39号にそれぞれ準拠して認識される負債性証券又は持分証券の発行コストを除き、移転した対価に含めず、サービスの提供を受けた期間の費用として処理する。

日本でも、2013年9月に企業会計基準第21号「企業結合に関する会計基準」が改正され、2015年4月1日以後開始事業年度からは、取得関連費用は発生した事業年度の費用として処理する。

### (b) 条件付対価の処理

IFRSでは、取得企業は条件付対価を、被取得企業との交換で移転した対価に含め、取得日公正価値で認識しなければならない。また、条件付対価の公正価値に事後的な変動があった場合でも、一定の場合を除き、のれんの修正は行わない。

日本では、条件付取得対価の交付又は引渡しが確実となり、その時価が合理的に決定可能となった時点で、支払対価を取得原価として追加的に認識するとともに、のれんの修正を行う。

### (c) のれんの当初認識及び非支配持分の測定

IFRSでは、企業結合ごとに以下のいずれかの方法を選択できる。

- ・ 非支配持分も含めた被取得企業全体を公正価値で測定し、のれんは非支配持分に帰属する部分も含めて測定する方法（全部のれん方式）
- ・ 非支配持分のうち、現在の所有持分であり、清算時に企業の純資産に対する比例的な取り分を保有者に与えているものは、被取得企業の識別可能純資産の認識金額に対する比例持分相当額として測定し、のれんは取得企業の持分相当額についてのみ認識する方法（購入のれん方式）

日本では、IFRSのように非支配株主持分自体を時価評価する処理（全部のれん方式）は認められておらず、のれんは、取得原価が、取得した資産及び引き受けた負債に配分された純額を超過する額として算定される（購入のれん方式）。

(d) のれんの償却

IFRSでは、のれんの償却は行わず、のれんは、IAS第36号「資産の減損」に従い、每期及び減損の兆候がある場合はその都度、減損テストの対象になる。

日本では、原則として、のれんの計上後20年以内に、定額法その他の合理的な方法により定期的に償却する。但し、金額に重要性が乏しい場合には、当該のれんが生じた事業年度の費用として処理することができる。

(6) 金融商品の分類及び測定

IFRSでは、IAS第39号「金融商品：認識及び測定」が金融資産及び金融負債を以下のように分類し、測定することを企業に要求している。

- ・ 純損益を通じて公正価値で測定する金融資産(公正価値オプション及び資産であるデリバティブを含む)は公正価値で測定され、公正価値の変動は純損益に認識される。
- ・ 売却可能金融資産は公正価値で測定される。売却可能金融資産の公正価値の変動はその他の包括利益に認識される。
- ・ 貸付金及び債権は実効金利法により償却原価で測定される。
- ・ 満期保有投資は実効金利法により償却原価で測定される。
- ・ 金融負債（公正価値オプション及び負債であるデリバティブを除く）は実効金利法により償却原価で測定される。
- ・ 非上場の株式投資は、取得原価で測定されることがある。

またIAS第39号では、一定の要件を満たす場合、当初認識時に金融資産及び金融負債を純損益を通じて公正価値で測定する金融資産及び金融負債に指定することで、公正価値で測定し、公正価値の変動額を純損益に認識することが認められている（公正価値オプション）。

日本では、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」に従い、金融資産及び金融負債は以下のように測定される。

- ・ 売買目的有価証券は、時価で測定し、時価の変動は純損益に認識される。
- ・ 個別財務諸表においては、子会社株式及び関連会社株式は、取得原価で計上される。
- ・ 満期保有目的の債券は、取得原価又は償却原価で測定される。
- ・ 売買目的有価証券、満期保有目的の債券、子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券（「その他有価証券」）は、時価で測定し、時価の変動額は
  - a) 純資産に計上され、売却、減損あるいは回収時に損益計算書に計上されるか、又は
  - b) 個々の証券について、時価が原価を上回る場合には純資産に計上し、下回る場合には損益計算書に計上する。

- ・ 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券については、それぞれ次の方法による。
  - a) 社債その他の債券の貸借対照表価額は、債権の貸借対照表価額に準ずる（即ち、取得原価又は償却原価で測定される）。
  - b) 社債その他の債券以外の有価証券は、取得原価をもって貸借対照表価額とする。
- ・ 貸付金及び債権は、取得原価又は償却原価で測定される。
- ・ 金融負債は債務額で測定される。但し、社債については、社債金額よりも低い価格又は高い価格で発行した場合など、収入に基づく金額と債務額とが異なる場合には、償却原価法に基づいて算定された価額で評価しなければならない。

IFRSで認められている公正価値オプションに関する規定はない。

#### (7) 金融資産の認識の中止

IFRSでは、IAS第39号「金融商品：認識及び測定」に従い、企業が金融資産の所有に係るリスクと経済価値のほとんどすべてを移転した場合、当該金融資産の認識を中止する。企業が譲渡資産に対する支配を保持していない場合には、当該譲渡資産につき認識を中止する。

日本では、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」に従い、譲渡金融資産の財務構成要素ごとに、支配が第三者に移転しているかどうかの判断に基づいて、当該金融資産の認識の中止がなされる。

#### (8) 金融商品の分類変更

IFRSでは、IAS第39号「金融商品：認識及び測定」に従い、一定の条件を充足する場合には、「純損益を通じて公正価値で測定」の区分から他の区分へ、「売却可能」の区分から「満期保有投資」又は「貸付金及び債権」の区分へ分類変更することができる。

日本では、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」に従い、売買目的又は売却可能（その他有価証券）から満期保有目的への分類変更は認められず、売買目的から売却可能（その他有価証券）への分類変更については、正当な理由がある限られた状況（トレーディング業務の廃止を決定した場合に、売買目的として分類していた有価証券をすべて売却可能（その他有価証券）に分類変更することができる。）においてのみ認められている。

#### (9) 金融商品の公正価値の開示

IFRSでは、IFRS第7号「金融商品：開示」に基づき、当該基準の対象となるすべての金融資産及び金融負債について以下の開示を行うことが要求されている。

- (a) 企業の財政状態及び業績に対する金融商品の重要性
- (b) 企業が当期中及び報告期間の末日現在で晒されている金融商品から生じるリスクの内容及び程度、並びに企業の当該リスクの管理方法

日本では、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第19号「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」に基づき、時価等の開示がすべての金融商品に求められ、かつ金融商品から生じる



リスクについての開示も求められている。但し、金融商品から生じるリスクのうち市場リスクに関する定量的開示が求められているのは、金融商品から生じるリスクが重要な企業（銀行・証券会社等）が想定されている。また、市場リスク以外のリスク（流動性リスク・信用リスク）に関する定量的開示については明確な規定がない。

#### (10) 公正価値測定

IFRSでは、IFRS第13号「公正価値測定」は、一定の場合を除き、他のIFRSが公正価値測定又は公正価値測定に関する開示（及び、売却コスト控除後の公正価値のような、公正価値を基礎とする測定又は当該測定に関する開示）を要求又は許容している場合に適用される。IFRS第13号では、公正価値を「測定日時点で、市場参加者間の秩序ある取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格又は負債を移転するために支払うであろう価格」と定義している。また、IFRS第13号は、公正価値の測定に用いたインプットの性質に基づき3つの階層に分類し、公正価値測定を当該階層別に開示することを求めている。

日本では、すべての金融資産・負債並びに非金融資産・負債を対象とする公正価値測定を包括的に規定する会計基準はなく、各会計基準において時価の算定方法が個別に定められている。金融商品の時価については、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」において、時価とは公正な評価額をいい、市場価格に基づく価額、市場価格がない場合には合理的に算定された価額と定義されている。また、公正価値の階層に関する会計基準は、現時点では基準化されていない。

#### (11) 資産の減損

##### (a) 固定資産の減損

IFRSでは、IAS第36号「資産の減損」に従い、資産又は資金生成単位に減損の兆候が認められ、その資産又は資金生成単位の回収可能価額（処分コスト控除後の公正価値と使用価値（資産又は資金生成単位から生じると見込まれる見積将来キャッシュ・フローの現在価値）のいずれか高い金額）が帳簿価額を下回ると見積られる場合に、その差額を減損損失として認識する。減損損失計上後、一定の条件が満たされた場合、のれんに対して認識された減損を除き、減損損失の戻入が要求される。尚、耐用年数を確定できない無形資産やのれんについては、減損の兆候の有無にかかわらず、毎年減損テストを実施しなければならない。

日本では、企業会計審議会公表の「固定資産の減損に係る会計基準」に従い、資産又は資産グループの減損の兆候が認められ、かつ割引前将来キャッシュ・フローの総額（20年以内の合理的な期間に基づく）が帳簿価額を下回ると見積られた場合に、その資産又は資産グループの回収可能価額（正味売却価額と使用価値（資産又は資産グループの継続的使用と使用後の処分によって生じると見込まれる将来キャッシュ・フローの現在価値）のいずれか高い方の金額）と帳簿価額の差額につき減損損失を認識する。減損損失の戻入は認められない。

##### (b) 金融資産の減損

IFRSでは、IAS第39号「金融商品：認識及び測定」に従い、金融資産が減損しているという客観的証拠が存在する場合には、以下の測定区分ごとの方法に従い減損損失を認識する。

- ・ 償却原価で計上されている金融資産（貸付金及び債権又は満期保有投資）：減損損失の額は、当該金融資産の帳簿価額と、その見積将来キャッシュ・フローを当該金融資産の当初の実効金利で割り引いた現在価値との差額として測定される。
- ・ 取得原価で計上されている金融資産（非上場の株式投資等）：減損損失の額は、当該金融資産の帳簿価額と見積将来キャッシュ・フローを類似の金融資産の現在の市場利回りで割り引いた現在価値との間の差額で測定される。
- ・ 売却可能金融資産：売却可能持分投資の場合、有価証券の取得価額を下回る公正価値の著しい下落又は長期にわたる下落が減損の客観的証拠となる。売却可能金融資産に関する客観的証拠が存在する場合、累積損失を資本から振り替え、純損益に認識する。

減損損失の戻入は、一定の条件が満たされた場合に要求される。但し、公正価値を信頼性をもって測定できないため取得原価で計上されている資本性金融商品、及び売却可能に分類されている資本性金融商品に係る減損損失についての戻入は、禁じられている。

日本では、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」に従い、満期保有目的の債券、子会社株式及び関連会社株式並びにその他有価証券のうち、時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品以外のものについて時価が著しく下落したときは、回復する見込があると認められる場合を除き、時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額は当期の損失として処理しなければならない。時価を把握することが極めて困難と認められる株式については、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下した場合には、相当の減額をし、評価差額は当期の損失として処理する。また、営業債権・貸付金等の債権については、債務者の財政状態及び経営成績等に応じて債権を3つ（一般債権、貸倒懸念債権及び破産更生債権等）（金融機関では5つ）に区分し、区分ごとに定められた方法に従い貸倒見積高を算定する。

また日本では、減損の戻入は、株式について禁止されているだけでなく、満期目的保有の債券及びその他の有価証券に分類されている債券についても原則として認められていない。貸付金及び債権についても、直接減額を行った場合には、減損の戻入益の計上は認められていない。

## (12) 株式交付費

IFRSでは、IAS第32号「金融商品：表示」に基づき、株式交付費は、資本からの控除として会計処理される。

日本では、実務対応報告第19号「繰延資産の会計処理に関する当面の取扱い」に従い、株式交付費は、原則として支出時に費用として処理する。但し、企業規模の拡大のために行う資金調達などの財務活動（組織再編の対価として株式を交付する場合を含む。）に係る株式交付費については、繰延資産に計上することができる。この場合には、株式交付のときから3年以内のその効果の及ぶ期間にわたって、定額法により償却をしなければならない。

## (13) 株式に基づく報酬

IFRSでは、IFRS第2号「株式に基づく報酬」がすべての株式に基づく報酬取引に適用され、持分決済型、現金決済型及び現金選択権付きの株式に基づく報酬取引の3つが規定されている。

- (a) 持分決済型の株式に基づく報酬取引：受け取った財又はサービス及びそれに対応する資本の増加を、原則として受け取った財又はサービスの公正価値で測定する。従業員及び他の類似サービス提供者との取引において受け取ったサービスについては、付与した資本性金融商品の付与日現在の公正価値で測定する。
- (b) 現金決済型の株式に基づく報酬取引：受け取った財又はサービス及び発生した負債を、当該負債の公正価値で測定する。
- (c) 現金選択権付きの株式に基づく報酬取引：株式に基づく報酬取引又は当該取引の構成要素を、現金（又は他の資産）で決済する負債が発生している場合にはその範囲で現金決済型の株式に基づく報酬取引として、そのような負債が発生していない場合にはその範囲で持分決済型の株式に基づく報酬取引として、会計処理される。

また持分決済型取引に関して、ストック・オプション等の公正価値と予想される権利確定数に基づいて費用計上額を認識した後は、権利確定後に失効した場合でも費用の戻入等の処理は行われず、認識される株式に基づく報酬費用の総額に影響は生じない。

日本でも、企業会計基準第8号「ストック・オプション等に関する会計基準」に基づき、ストック・オプションの付与日から権利確定日までの期間にわたり、付与日現在のストック・オプションの公正な評価額に基づいて報酬費用が認識され、対応する金額は資本（純資産の部の新株予約権）に計上される。

但し、同基準の適用範囲は持分決済型株式報酬に限定されており、現金決済型取引等については特段規定がなく、実務上は発生時に費用（引当）処理される。また持分決済型取引について、日本では、権利確定後に失効した場合には失効に対応する新株予約権につき利益計上（戻入）を行う等、IFRSと異なる処理が行われている。

#### (14) 研究開発費

IFRSでは、IAS第38号「無形資産」に基づき、研究費は発生時に費用計上される。開発費は、一定の基準を満たす場合に、資産に計上され耐用年数にわたり償却される。

日本では、すべての研究開発支出は発生時に費用計上しなければならない。

#### (15) 有形固定資産

##### (a) 減価償却方法

IFRSでは、IAS第16号「有形固定資産」に従い、資産の将来の経済的便益が企業によって消費されると予測されるパターンを反映する減価償却方法を使用しなければならない。減価償却方法は、少なくとも各事業年度末に再検討を行わなければならない。資産の将来の経済的便益の予測消費パターンに大きな変更があり、減価償却方法の変更を行った場合には、会計上の見積りの変更として会計処理する。

日本では、日本公認会計士協会（以下、「JICPA」という。）監査・保証実務委員会実務指針第81号「減価償却に関する当面の監査上の取扱い」及び企業会計基準第24号「会計上の変更及び誤謬に関する会計基準」に基づき、減価償却方法は会計方針に該当するが、その変更については、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」として、会計上の見積りの変更と同様に取り扱う（遡及適用は行わない。）。

(b) コンポーネント・アカウンティング

IFRSでは、IAS第16号「有形固定資産」に従い、有形固定資産項目の取得原価の合計額に対して重要性のある各構成部分に当初認識された金額を配分し、個別に減価償却を行わなければならない。

日本では、有形固定資産の減価償却の単位に関して、特段の規定はない。

(16) 資産に関する政府補助金

IFRSでは、IAS第20号「政府補助金の会計処理及び政府援助の開示」に従い、資産に関する政府補助金は、以下のいずれかにより処理される。

- (a) 補助金を繰延収益に認識し、資産の耐用年数にわたり規則的に純損益に認識する方法
- (b) 取得原価から補助金を控除し、資産の帳簿価額を算定する方法

日本では、固定資産に関して受け取った国庫補助金及び交付金は、受入時に利益として認識される。但し、対応する資産の取得原価から当該補助金及び交付金を直接控除するか、又は剰余金処分により積立金に計上し処理することも認められている。

(17) 金融保証契約

IFRSでは、IAS第39号「金融商品：認識及び測定」に従い、金融保証契約については、当初は公正価値で計上し、当初認識後はIAS第37号「引当金、偶発負債及び偶発資産」に基づき決定される金額と、当初認識額からIAS第18号「収益」に基づき認識された償却累計額を控除した金額とのいずれか高い方の金額で測定することが要求されている。

日本では、金融資産又は金融負債の消滅の認識の結果生じる債務保証を除いて、保証を当初より公正価値で貸借対照表に計上することは求められていない。銀行の場合には、第三者に負う保証債務は偶発債務として額面金額を支払承諾勘定に計上し、同時に銀行が顧客から得る求償権を偶発債権として支払承諾見返勘定に計上する。保証に起因して、将来の損失が発生する可能性が高く、かつその金額を合理的に見積ることができる場合には、債務保証損失引当金を計上する。

(18) 収益認識

IFRSでは、IAS第18号「収益」に従い、将来の経済的便益が企業に流入する可能性が高く、これらの便益が信頼性をもって測定されうる時に収益が認識される。収益は受領する対価の公正価値により測定しなければならない。取引から生ずる収益の額は、通常、当該取引当事者間の契約により決定され、企業が許容した値引きや割戻しの額を考慮した後の公正価値により測定される。物品販売、サービスの提供、利息、ロイヤルティ及び配当についてそれぞれ認識基準を規定している。

日本では、収益認識について特に規定がないが、企業会計原則の実現主義の原則に基づいている。物品販売については実務上、出荷基準が広く採用されている。割賦販売について、販売基準以外にも入金基準・回収期限到来基準も容認されている。

## (19) 繰延税金

### (a) 繰延税金資産の回収可能性

IFRSでは、IAS第12号「法人所得税」に基づき、将来減算一時差異を利用できる課税所得が生じる可能性が高い範囲内で、すべての将来減算一時差異について繰延税金資産を認識しなければならない。近年に損失が発生した経歴があるときは、企業は、税務上の繰越欠損金又は繰越税額控除より発生する繰延税金資産を、十分な将来加算一時差異を有する範囲内でのみ、又は税務上の繰越欠損金若しくは繰越税額控除の使用対象となる十分な課税所得が稼得されるという他の信頼すべき根拠がある範囲内でのみ認識する。

日本では、企業会計基準適用指針第26号「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」に詳細な規定があり、会社を収益力に基づく課税所得の充分性に応じて分類し、当該分類ごとに繰延税金資産の回収可能性を判断するための具体的な指針（数値基準含む。）が例示されている。

### (b) 繰延税金資産・負債の表示

IFRSでは、IAS第1号「財務諸表の表示」に従い、企業が財務諸表上、資産及び負債を流動・非流動に区分している場合でも、繰延税金資産及び繰延税金負債を非流動資産及び非流動負債として分類することを要求しており、流動資産及び流動負債に分類することを禁止している。

日本では、繰延税金資産及び繰延税金負債は、関連する資産又は負債の分類に基づき流動又は固定に区分することが要求されている。

### (c) 内部取引の未実現利益の消去に係る税効果

IFRSでは、IAS第12号「法人所得税」に基づき、内部取引の未実現利益の消去に係る税効果は、資産負債法に基づき、一時差異が発生している資産を保有する買手の税率により繰延税金資産を測定する。買手では、未実現利益の消去により発生する将来減算一時差異も含め、すべての将来減算一時差異についての繰延税金資産の回収可能性を判断する。

日本では、JICPA会計制度委員会報告第6号「連結財務諸表における税効果会計に関する実務指針」に基づき、内部取引の未実現利益の消去に係る一時差異に対しては、例外的に繰延法に基づき売却元の税率を使用する。また、未実現利益の消去に係る一時差異は、売却元の売却年度の課税所得の額を上限とする。

## (20) リース取引

IFRSでは、IAS第17号「リース」に基づき、資産の所有権に係るほとんどすべてのリスク及び経済価値が借手に実質的に移転するリースは、借手の財務諸表にファイナンス・リースとして資産計上され、対応するリース債務が負債計上される。

日本では、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に従い、ファイナンス・リース取引とは、解約不能かつフルペイアウトの要件を満たすものをいい、ファイナンス・リース取引に該当するかどうかについてはその経済的実質に基づいて判断すべきものであるとしている。但し、解約不能リース期間がリース物件の経済的耐用年数の概ね75%以上、又は解約不能のリース期間中のリース料総額の現在価値がリース物件を借手が現金で購入す

るものと仮定した場合の合理的見積金額の概ね90%以上のいずれかに該当する場合は、ファイナンス・リースと判定され、借手の財務諸表に資産計上し、対応するリース債務を負債に計上する。尚、少額（リース契約1件当たりのリース料総額が300万円以下の所有権移転外ファイナンス・リース）又は短期（1年以内）のファイナンス・リースについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行うことができる。

#### (21) 売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業

IFRSでは、IFRS第5号「売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業」に基づき、売却目的で保有する非流動資産、処分グループに含まれる資産及び負債、及びこれらに関連してその他の包括利益で認識された収益又は費用の累計額を、財政状態計算書上区分して表示することが求められている。売却目的保有に分類した非流動資産（又は処分グループ）は、帳簿価額と売却コスト控除後の公正価値のいずれか低い価額で測定され、当該資産に係る減価償却は中止される。また、IFRSでは、売却目的保有資産グループや処分された資産グループが非継続事業の条件を満たす場合には、包括利益計算書（又は純損益及びその他の包括利益計算書）上、非継続事業の経営成績を継続事業と区分して報告することも求められている。

日本では、非継続事業に関する会計基準はないが、売却又は廃棄予定の固定資産は企業会計審議会公表の「固定資産の減損に係る会計基準」等に従い会計処理されることになる。

#### (22) 借入コスト

IFRSでは、IAS第23号「借入コスト」に基づき、適格資産の取得、建設又は生産に直接起因する借入コストは、当該資産の取得原価の一部として資産化される。但し、借入コストが将来、企業に経済的便益をもたらすことが確実であり、かつ、原価が信頼性をもって測定可能である場合に限る。資産化の条件を満たさないそれ以外の借入コストはすべて、発生した期間の費用として認識される。

日本では、借入コストは原則として発生した期間に費用処理しなければならない。但し、不動産開発事業を行う場合にはJICPA業種別監査研究部会建設業部会・不動産業部会「不動産開発事業を行う場合の支払利子の監査上の取扱いについて」に基づき、また、固定資産を自家建設する場合には「企業会計原則と関係諸法令との調整に関する連続意見書」第三に基づき、一定の要件を満たす場合には借入金の支払利子の資産化が容認されている。

#### (23) 負債と資本の区分

IFRSでは、IAS第32号「金融商品：表示」に基づき、当初認識時に、契約の実質、並びに金融負債、金融資産及び資本性金融商品の定義に従い、金融負債、金融資産又は資本性金融商品に分類する。

日本では、会社法上の株式として発行された金融商品は、純資産の部に計上される。

#### (24) 損益計算書上の表示

IFRSでは、IAS第1号「財務諸表の表示」に基づき、収益又は費用のいかなる項目も、純損益及びその他の包括利益を表示する計算書又は注記において、異常項目として表示してはならない。尚、IAS第1号では「営業利益」を定義していないため、包括利益計算書に営業利益を表示することは要求されないが、認められる。

日本では、企業会計原則及び企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」に基づき、損益計算書上、売上総利益、営業利益、経常利益、特別利益を含む損益の段階別表示を行わなければならない。



## 第7【外国為替相場の推移】

## 1【最近5年間の事業年度別為替相場の推移】

決算年度	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
最高	17.31	19.78	20.37	18.52	17.32
最低	13.89	16.39	18.55	15.06	15.75
平均	15.79	17.18	19.40	16.33	16.60
期末	17.31	19.47	18.56	16.78	17.28

単位：1人民元の円相当額（円／人民元）

出典：中国外貨取引センターが公表している人民元／100円のデータを基に、円／人民元ベースに換算したものである。

## 2【最近6月間の月別最高・最低為替相場】

月別	2017年12月	2018年1月	2018年2月	2018年3月	2018年4月	2018年5月
最高	17.32	17.45	17.48	16.95	17.29	17.40
最低	16.96	17.09	16.82	16.57	16.84	16.88
平均	17.13	17.26	17.17	16.78	17.06	17.21

単位：1人民元の円相当額（円／人民元）

出典：中国外貨取引センターが公表している人民元／100円のデータを基に、円／人民元ベースに換算したものである。

## 3【最近日の為替相場】

17.18円（2018年6月19日現在）

単位：1人民元の円相当額（円／人民元）

出典：中国外貨取引センターが公表している人民元／100円のデータを基に、円／人民元ベースに換算したものである。

## 第8【本邦における提出会社の株式事務等の概要】

以下は、H株式（以下「本株式」という。）に関する株式事務、権利行使の方法および関連事項の概要である。

### 1【本株式の株式事務】

本株式を取得する者（本第1項において、以下「実質株主」という。）は、その取得窓口となった証券会社（以下「窓口証券会社」という。）から交付される外国証券取引口座に関する約款（以下「外国証券取引口座約款」という。）に基づき、実質株主の名義で外国証券取引口座（以下「取引口座」という。）を開設する。売買の執行、売買代金の決済、証券の保管およびその他本株式の取引に関する事項はすべてこの取引口座を通じて処理される。

以下は、外国証券取引口座約款に従った、本株式に関する事務手続の概要である。

#### (1) 証券の保管

本株式は、窓口証券会社のために香港における保管機関（以下「香港保管機関」という。）またはその名義人の名義で登録され、香港保管機関により保管される。

#### (2) 本株式の譲渡に関する手続

実質株主は、その持株の保管替えまたは売却注文をなすことができる。実質株主と窓口証券会社との間の決済は、円貨または窓口証券会社が応じ得る範囲内で実質株主が指定した外貨による。

#### (3) 実質株主に対する諸通知

当社が株主に対して行い、窓口証券会社が受領したすべての通知および通信は、窓口証券会社が保管し、窓口証券会社の店頭において実質株主の閲覧に供される。実質株主がかかる通知および通信を希望する場合は、窓口証券会社はかかる実質株主にそれらを送付し、実費は当該実質株主に請求される。

#### (4) 実質株主の議決権の行使に関する手続

議決権の行使は、実質株主が窓口証券会社を通じて行う指示に基づき、香港保管機関またはその名義人が行う。実質株主が指示をしない場合、香港保管機関またはその名義人は議決権を行使しない。

#### (5) 現金配当の支払手続

外国証券取引口座約款に従い、現金配当は、窓口証券会社が香港保管機関またはその名義人からかかる配当金を一括受領することを条件として、取引口座を通じて実質株主に支払われる。

#### (6) 株式配当の交付手続

株式配当により割当てられた本株式は、実質株主が特に要請した場合を除き、窓口証券会社を代理する香港保管機関により香港で売却され、その正味手取金は、窓口証券会社が香港保管機関またはその名義人からかかる手取金を一括受領することを条件として、取引口座を通じて実質株主に支払われる。

株式分割の方法により発行される本株式は、一般に、香港保管機関またはその名義人に対して交付される。

#### (7) 新株引受権

本株式について新株引受権が与えられた場合は、新株引受権は、原則として、窓口証券会社を代理する香港保管機関により香港で売却され、その正味手取金は、窓口証券会社が香港保管機関またはその名義人からかかる手取金を一括受領することを条件として、その取引口座を通じて実質株主に支払われる。

## 2【日本における実質株主の権利行使方法】

### (1) 株主名簿管理人および名義書換取扱場所

日本には本株式に関する当社の株式保有の株主名簿管理人または名義書換取扱場所はない。各窓口証券会社は、取引口座を有するすべての実質株主の明細表（以下「実質株主明細表」という。）を維持し、かかる明細表には各実質株主の名前およびそれら実質株主のために保有される本株式の株数が記載される。

### (2) 実質株主明細表の基準日

当社は配当の支払または新株引受権の付与のための基準日を定めることができる。かかる配当または新株引受権を受領する資格を有する実質株主を決定するための実質株主明細表の基準日は、通常当該基準日と同一の暦日となる。

### (3) 事業年度の終了

当社の事業年度は毎年12月31日に終了する。

### (4) 公告

日本において公告を行わない。

### (5) 実質株主に対する株式事務に関する手数料

実質株主は、取引口座を開設するときに窓口証券会社の定めるところにより年間口座管理料を支払う他、必要に応じて実費を支払う。

### (6) 本株式の譲渡制限

本株式に譲渡制限はない。

### (7) 日本における課税

#### (a) 配当

日本において実質株主に対して支払われる配当金は日本の税法上の配当所得となる。本株式が「上場株式等」（租税特別措置法（昭和32年法律第26号、その後の改正を含む。）に定義される。）である限り、本株式について日本の居住者たる個人または日本の法人が日本における支払の取扱者を通じて交付を受ける配当金については、外国において当該配当の支払の際に徴収された源泉徴収税がある場合にはこの額を外国における当該配当の支払額から控除した後の金額に対して、個人の場合は、2013年1月1日から2013年12月31日までは10.147%（所得税7.147%、地方税3%）、2014年1月1日から2037年12月31日までは20.315%（所得税15.315%、地方税5%）、2038年1月1日以降は20%（所得税15%、地方税5%）、法人の場合は、2013年1月1日から2013年12月31日までは7.147%（所得税7.147%）、2014年1月1日から2037年12月31日までは15.315%（所得税15.315%）、2038年1月1日以降は15%（所得税15%）の税率によりそれぞれ源泉徴収（地方税については特別徴収）により課税される。

2009年1月1日以降に当社から株主に支払われる配当については、日本の居住者たる個人は、申告分離課税を選択することが可能である。申告分離課税を選択した場合の確定申告の際の税率は、2013年1月1日から2013年12月31日までに当社から当該個人株主に支払われる配当については10.147%（所得税7.147%、地方税3%）、2014年1月1日から2037年12月31日までに当社から当該個人株主に支払われる配当については20.315%（所得税15.315%、地方税5%）、2038年1月1日以降に当社から当該個人株主に支払われる配当については20%（所得税15%、地方税5%）である。申告分離課税の下での配当所得の計算においては、2009年分以後における上場株式等の売買損を控除することができる。上記にかかわらず、日本の居住者たる個人が2016年1月1日以後に支払いを受ける申告分離課税の下での配当所得の計算においては、上場株式等および一定の公社債等の売買損を控除することができる。なお、配当控除（個人の場合）および受取配当益金不算入（法人の場合）の適用はない。中国において課税された税額は、配当につき確定申告した場合には日本の税法の規定に従い外国税額控除の対象となりうる。

（注）2013年1月1日から2037年12月31日までの期間、「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」により、上記に従って算出された各所得税額に対して2.1%の税率による「復興特別所得税」が上乘せられて課されるため、税率は上記のとおりとなる。

#### (b) 売却損益

日本の居住者たる個人または日本の法人による本株式の日本における売買に基づく損益についての課税は、内国会社の株式の売買損益課税と原則として同様である。2009年分以後における上場株式等の売買損については、当社株式およびその他の上場株式等の配当所得の金額（申告分離課税を選択したものに限る。）から控除することができ、2016年1月1日以後における上場株式等の売買

損については、当社株式およびその他の上場株式等の配当所得の金額ならびに一定の公社債等の利子所得の金額等（申告分離課税を選択したものに限る。）から控除することができる。当社株式の内国法人株主については、株式の売買損益は、課税所得の計算上益金に算入される。

(c) 相続税

本株式を相続または遺贈を受けた日本の実質株主には、日本の相続税法に基づき相続税が課せられるが、外国税額控除が認められる場合がある。

中国および香港における課税上の取扱いについては、「第一部-第1-3 課税上の取扱い」を参照のこと。

## 第9【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社の発行する有価証券は金融商品取引法第24条第1項第1号および第2号に該当しないため、該当事項はない。

### 2【その他の参考情報】

当社は、当事業年度の開始日（2017年1月1日）から報告書提出日までの間において、以下の書類を関東財務局長に提出した。

臨時報告書 2017年5月8日

（提出根拠：企業内容の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号）

有価証券報告書およびその添付書類 2017年6月29日

半期報告書 2017年9月28日

臨時報告書 2018年1月24日

（提出根拠：企業内容の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号）

臨時報告書 2018年5月9日

（提出根拠：企業内容の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号）

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

### 第1【保証会社情報】

該当なし。

### 第2【保証会社以外の会社の情報】

該当なし。

### 第3【指数等の情報】

該当なし。

## 独立監査人の監査報告書

チャイナ・シェンファ・エナジー・カンパニー・リミテッド(中華人民共和国において株式会社として設立)株主各位

### 意見

私たちは、158ページから245ページ(訳注：原文のページ)に記載されたチャイナ・シェンファ・エナジー・カンパニー・リミテッド(以下「会社」という。)及びその子会社(以下総称して「会社グループ」という。)の連結財務諸表、すなわち2016年12月31日現在の連結財政状態計算書、同日をもって終了した事業年度の連結純損益及びその他の包括利益計算書、連結持分変動計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書、並びに連結財務諸表注記(重要な会計方針の要約を含む。)について監査を行った。

私たちの意見では、連結財務諸表は、国際財務報告基準(以下「IFRS」という。)に準拠して、2016年12月31日現在の会社グループの連結財政状態並びに同日をもって終了した事業年度の連結経営成績及び連結キャッシュ・フローの状況について真実かつ公正な概観を示し、香港会社条例の開示規定に準拠して適正に作成されている。

### 意見の根拠

私たちは、国際監査基準(以下「ISA」という。)に準拠して監査を行った。本基準の下での私たちの責任は、本報告書の「連結財務諸表監査に対する監査人の責任」区分に詳述されている。私たちは、国際会計士倫理基準審議会の職業会計士のための倫理規程(以下「規程」という。)に基づき会社グループに対して独立性を保持しており、当該規程で定められるその他の倫理上の責任を果たした。私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査上の主要な事項

監査上の主要な事項とは、当事業年度の連結財務諸表監査において私たちの職業的専門家としての判断によって最も重要であると決定された事項をいう。監査上の主要な事項は、連結財務諸表全体に対する監査の過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、私たちは、当該事項に対して個別の意見を表明するものではない。

### 監査上の主要な事項

### 監査上の主要な事項に対する監査上の対応

#### 炭鉱に関連する非流動資産の減損評価

私たちは、炭鉱に関連する非流動資産の減損評価を監査上の主要な事項として識別した。これは、対応する資金生成単位の回収可能価額の算定には経営者の重要な判断が必要となるためである。

石炭の過剰供給及び会社グループの一部鉱山の業績不振を受け、経営者は、炭鉱に関連する一部の非流動資産に減損の兆候を識別した。減損評価の特定の領域(割引率及び将来の市場の需給状況に基づくキャッシュ・フロー予測等)は、経営者の判断を伴う。経営者の判断の変更は、会社グループに重要な財務上の影響を与える可能性がある。

連結財務諸表注記15に記載されている通り、経営者は、各資金生成単位の回収可能価額は帳簿価額を上回っており、当事業年度に減損引当金の計上は不要と結論付けている。各資金生成単位の回収可能価額は、使用価値で算定されている。

炭鉱に関する非流動資産の減損評価に対する私たちの監査手続には、以下が含まれる。

- 非流動資産の帳簿価額の評価に関するキーコントロールのテスト
- 評価手法の検証
- 事業及び業界に係る私たちの知識に基づく、経営者の減損テストに使用された将来キャッシュ・フローに関する経営者の重要な判断及び見積りの合理性についての分析及び検討
- 経営者が減損テストに使用した特定の割引率の分析及び検討
- 経営者が実施した感応度分析の評価
- 当事業年度実績と過年度における2016年度予想との比較
- インプット・データと承認済み予算等の裏付け証拠との照合、及び当該予算の合理性の検討

### その他の記載内容

会社の取締役は、その他の記載内容に対して責任を有している。その他の記載内容には、年次報告書に記載されている情報が含まれるが、連結財務諸表及び連結財務諸表に対する私たちの監査報告書は含まれない。



連結財務諸表に対する私たちの意見の対象範囲には、その他の記載内容は含まれておらず、私たちは当該その他の記載内容に対していかなる形式の保証の結論も表明しない。

連結財務諸表監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表若しくは私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか、又はその他の記載内容に重要な虚偽表示がないかどうかを検討することにある。私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な虚偽表示があると判断した場合には、当該事実を報告することが求められている。私たちは、その他の記載内容に関して報告すべき事項はない。

### 連結財務諸表に対する取締役及び統治責任者の責任

会社の取締役は、IFRS及び香港会社条例の開示規定に準拠して真実かつ公正な概観を示す連結財務諸表を作成すること、及び不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成するために取締役が必要と判断した内部統制を整備及び運用する責任を有している。

連結財務諸表を作成するに当たり、取締役は、会社グループの継続企業としての存続能力を評価し、必要がある場合には継続企業に関する事項を開示すること、また、取締役が会社グループの清算若しくは事業停止の意図があるか、又はそうする以外に現実的な代替案がない場合を除いて、継続企業を前提として作成することに責任を有している。

統治責任者の責任は、会社グループの財務報告プロセスの監視を行うことにある。

### 連結財務諸表監査に対する監査人の責任

私たちの目的は、全体としての連結財務諸表に、不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかに関する合理的な保証を得て、合意した契約条件に従い、集団としての株主に対して、私たちの意見を含めた監査報告書を発行することにある。他のいかなる目的で行われるものでもない。私たちは、当報告書の記載内容に関して、他のいかなる者に対する責任も義務も負うものではない。合理的な保証は、高い水準の保証であるが、ISAに準拠して行った監査が、存在するすべての重要な虚偽表示を常に発見することを確約するものではない。虚偽表示は、不正又は誤謬から発生する可能性があり、個別に又は集計すると、当該連結財務諸表の利用者の経済的意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

私たちは、ISAに準拠して実施する監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持し、また、以下を行う。

- ・不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、監査意見の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示リスクを発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示リスクを発見できないリスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、意図的な除外、虚偽の陳述、及び内部統制の無効化が伴うためである。
- ・状況に応じて適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を理解する。但し、これは、会社グループの内部統制の有効性に対する意見を表明するためではない。
- ・取締役が採用した会計方針の適切性、取締役によって行われた会計上の見積りの合理性を評価し、関連する開示の妥当性を検討する。
- ・取締役が継続企業を前提とすることが適切性であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、会社グループの継続企業としての存続能力に重要な疑義を生じさせるような事象又は状態に関して重要な不確実性が認められるかどうかを結論付ける。重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の関連する開示に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する開示が適切でない場合は、意見を修正することが求められている。私たちの結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、会社グループは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・開示を含めた全体としての連結財務諸表の表示、構成及び内容を検討し、連結財務諸表が基礎となる取引や事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するため、会社グループ内の企業及び事業活動の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。私たちは、監査の指示、監督及び実施について責任を有する。私たちは、私たちの監査意見に単独で責任を負う。

私たちは、特に、計画した監査の範囲とその実施時期、及び監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項について、統治責任者に対して報告を行っている。

また、私たちは、統治責任者に、独立性についての職業倫理に関する規定を遵守している旨、独立性に影響を与えると合理的に考えられるすべての関係及びその他事項、並びに該当する場合、関連するセーフガードについて報告を行う。

私たちは、統治責任者に報告した事項のうち、当事業年度の連結財務諸表監査で最も重要な事項を、監査上の主要な事項と決定する。私たちは、これらの事項を監査報告書において記載する。但し、法令又は規制により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて稀ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、私たちが報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

本独立監査人の監査報告書による監査に対する責任を有する監査責任者は、ウォン・ティン・チャック・サミュエルである。

デロイト ・ トウシュ・ トーマツ  
公認会計士事務所  
香港

2017年3月17日

[次へ](#)

## INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

TO THE SHAREHOLDERS OF CHINA SHENHUA ENERGY COMPANY LIMITED  
(incorporated in the People's Republic of China with limited liability)

### Opinion

We have audited the consolidated financial statements of China Shenhua Energy Company Limited (the "Company") and its subsidiaries (collectively referred to as the "Group") set out on pages 158 to 245, which comprise the consolidated statement of financial position as at 31 December 2016, and the consolidated statement of profit or loss and other comprehensive income, consolidated statement of changes in equity and consolidated statement of cash flows for the year then ended, and notes to the consolidated financial statements, including a summary of significant accounting policies.

In our opinion, the consolidated financial statements give a true and fair view of the consolidated financial position of the Group as at 31 December 2016, and of its consolidated financial performance and its consolidated cash flows for the year then ended in accordance with International Financial Reporting Standards ("IFRSs") and have been properly prepared in compliance with the disclosure requirements of the Hong Kong Companies Ordinance.

### Basis for Opinion

We conducted our audit in accordance with International Standards on Auditing ("ISAs"). Our responsibilities under those standards are further described in the Auditor's Responsibilities for the Audit of the Consolidated Financial Statements section of our report. We are independent of the Group in accordance with the International Ethics Standards Board for Accountants' Code of Ethics for Professional Accountants ("the Code"), and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with the Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

### Key Audit Matters

Key audit matters are those matters that, in our professional judgment, were of most significance in our audit of the consolidated financial statements of the current period. These matters were addressed in the context of our audit of the consolidated financial statements as a whole, and in forming our opinion thereon, and we do not provide a separate opinion on these matters.

## INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT - continued

## Key Audit Matters - continued

Key audit matter	How our audit addressed the key audit matter
Impairment assessment on coal mines related non-current assets	
<p>We identified non-current assets impairment assessment on coal mines related non-current assets as a key audit matter due to significant judgment made by management in determining the recoverable amounts of the corresponding cash-generating units.</p> <p>Owing to oversupply of coals and the unsatisfactory financial performance of certain Group's mines, the management identified certain non-current assets relating to coal mines having impairment indications. The impairment assessment involves management's judgment in certain areas including the discount rate and the underlying cash flows projection based on the future market supply and demand conditions. Any changes in management's judgement may result in significant financial impact to the Group.</p> <p>As set out in Note 15 to the consolidated financial statements, the management concluded that the recoverable amount of each separate cash-generating unit was higher than their carrying value and no impairment provision was required for the current year. The recoverable amounts of each cash-generating unit were determined by value in use method.</p>	<p>Our procedures in relation to impairment assessment on coal mines related non-current assets included:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>testing the key controls related to the assessment on the carrying value of its non-current assets;</li> <li>assessing the valuation methodology;</li> <li>analysing and challenging the reasonableness of significant judgements and estimates built in the underlying cash flows used in management's impairment tests based on our knowledge of the business and industry;</li> <li>analysing and reviewing the specific discount rates used by management in impairment tests;</li> <li>evaluating the sensitivity analysis performed by management;</li> <li>comparing the current year actual results with the 2016 figures included in the prior years' forecast; and</li> <li>reconciling input data to supporting evidence, such as approved budgets and considering the reasonableness of these budgets.</li> </ul>

**Other Information**

The directors of the Company are responsible for the other information. The other information comprises the information included in the annual report, but does not include the consolidated financial statements and our auditor's report thereon.

Our opinion on the consolidated financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the consolidated financial statements, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the consolidated financial statements or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated. If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

## INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT - continued

### **Responsibilities of Directors and Those Charged with Governance for the Consolidated Financial Statements**

The directors of the Company are responsible for the preparation of the consolidated financial statements that give a true and fair view in accordance with IFRSs and the disclosure requirements of the Hong Kong Companies Ordinance, and for such internal control as the directors determine is necessary to enable the preparation of consolidated financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the consolidated financial statements, the directors are responsible for assessing the Group's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the directors either intend to liquidate the Group or to cease operations, or have no realistic alternative but to do so.

Those charged with governance are responsible for overseeing the Group's financial reporting process.

### **Auditor's Responsibilities for the Audit of the Consolidated Financial Statements**

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the consolidated financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion solely to you, as a body, in accordance with our agreed terms of engagement, and for no other purpose. We do not assume responsibility towards or accept liability to any other person for the contents of this report. Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with ISAs will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these consolidated financial statements.

As part of an audit in accordance with ISAs, we exercise professional judgment and maintain professional skepticism throughout the audit. We also:

Identify and assess the risks of material misstatement of the consolidated financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.

Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Group's internal control.

Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the directors.

## INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT - continued

### Auditor's Responsibilities for the Audit of the Consolidated Financial Statements - continued

Conclude on the appropriateness of the directors' use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Group's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the consolidated financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Group to cease to continue as a going concern.

Evaluate the overall presentation, structure and content of the consolidated financial statements, including the disclosures, and whether the consolidated financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

Obtain sufficient appropriate audit evidence regarding the financial information of the entities or business activities within the Group to express an opinion on the consolidated financial statements. We are responsible for the direction, supervision and performance of the group audit. We remain solely responsible for our audit opinion.

We communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

We also provide those charged with governance with a statement that we have complied with relevant ethical requirements regarding independence, and to communicate with them all relationships and other matters that may reasonably be thought to bear on our independence, and where applicable, related safeguards.

From the matters communicated with those charged with governance, we determine those matters that were of most significance in the audit of the consolidated financial statements of the current period and are therefore the key audit matters. We describe these matters in our auditor's report unless law or regulation precludes public disclosure about the matter or when, in extremely rare circumstances, we determine that a matter should not be communicated in our report because the adverse consequences of doing so would reasonably be expected to outweigh the public interest benefits of such communication.

The engagement partner on the audit resulting in the independent auditor's report is  
Wong Tin Chak, Samuel.

**Deloitte Touche Tohmatsu**  
Certified Public Accountants  
Hong Kong  
17 March 2017

---

( ) 上記は、独立監査人監査報告書の署名付原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。





## 独立監査人の監査報告書

チャイナ・シェンファ・エナジー・カンパニー・リミテッド(中華人民共和国において株式有限会社として設立)株主各位

### 意見

私たちは、170ページから257ページ(訳注：原文のページ)に記載されたチャイナ・シェンファ・エナジー・カンパニー・リミテッド(以下「会社」という。)及びその子会社(以下総称して「会社グループ」という。)の連結財務諸表、すなわち2017年12月31日現在の連結財政状態計算書、同日をもって終了した事業年度の連結純損益及びその他の包括利益計算書、連結持分変動計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書、並びに連結財務諸表注記(重要な会計方針の要約を含む。)について監査を行った。

私たちの意見では、連結財務諸表は、国際会計基準審議会(以下「IASB」という。)公表の国際財務報告基準(以下「IFRS」という。)に準拠して、2017年12月31日現在の会社グループの連結財政状態並びに同日をもって終了した事業年度の連結経営成績及び連結キャッシュ・フローの状況について真実かつ公正な概観を示し、香港会社条例の開示規定に準拠して適正に作成されている。

### 意見の根拠

私たちは、HKICPA(訳者注：香港公認会計士協会)公表の香港監査基準(以下「HKSA」という。)に準拠して監査を行った。本基準の下での私たちの責任は、本報告書の「連結財務諸表監査に対する監査人の責任」区分に詳述されている。私たちは、HKICPAの職業会計士のための倫理規程(以下「規程」という。)に基づき会社グループに対して独立性を保持しており、当該規程で定められるその他の倫理上の責任を果たした。私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査上の主要な事項

監査上の主要な事項とは、当事業年度の連結財務諸表監査において私たちの職業的専門家としての判断によって最も重要であると決定された事項をいう。監査上の主要な事項は、連結財務諸表全体に対する監査の過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、私たちは、当該事項に対して個別の意見を表明するものではない。

### 監査上の主要な事項

### 監査上の主要な事項に対する監査上の対応

#### 炭鉱に関連する非流動資産の減損評価

私たちは、炭鉱に関連する非流動資産の減損評価を監査上の主要な事項として識別した。これは、対応する資金生成単位の回収可能価額の算定には経営者の重要な判断が必要となるためである。

会社グループの一部鉱山の業績不振を受け、経営者は、炭鉱に関連する一部の非流動資産に減損の兆候を識別した。減損評価の特定の領域(割引率及び将来の市場の需給状況に基づくキャッシュ・フロー予測等)は、経営者の判断を伴う。経営者の判断の変更は、会社グループに重要な財務上の影響を与える可能性がある。

連結財務諸表注記15に記載されている通り、経営者は、各資金生成単位の回収可能価額は帳簿価額を上回っており、当事業年度に減損引当金の計上は不要と結論付けている。各資金生成単位の回収可能価額は、使用価値で算定されている。

炭鉱に関する非流動資産の減損評価に対する私たちの監査手続には、以下が含まれる。

- 非流動資産の帳簿価額の評価に関するキーコントロールのテスト
- 評価手法の検証
- 事業及び業界に係る私たちの知識に基づく、経営者の減損テストに使用された将来キャッシュ・フローに関する経営者の重要な判断及び見積りの合理性についての分析及び検討
- 経営者が減損テストに使用した特定の割引率の分析及び検討
- 経営者が実施した感応度分析の評価
- サンプル・ベースでの当事業年度実績との比較による予想将来キャッシュ・フローの正確性の評価、および重要な差額の発生原因の理解
- インプット・データと承認済み予算等の裏付け証拠との照合、及び当該予算の合理性の検討

### その他の記載内容

会社の取締役は、その他の記載内容に対して責任を有している。その他の記載内容には、年次報告書に記載されている情報が含まれるが、連結財務諸表及び連結財務諸表に対する私たちの監査報告書は含まれない。

連結財務諸表に対する私たちの意見の対象範囲には、その他の記載内容は含まれておらず、私たちは当該その他の記載内容に対していかなる形式の保証の結論も表明しない。

連結財務諸表監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表若しくは私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか、又はその他の記載内容に重要な虚偽表示がないかどうかを検討することにある。私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な虚偽表示があると判断した場合には、当該事実を報告することが求められている。私たちは、その他の記載内容に関して報告すべき事項はない。

### 連結財務諸表に対する取締役及び統治責任者の責任

会社の取締役は、IASB公表のIFRS及び香港会社条例の開示規定に準拠して真実かつ公正な概観を示す連結財務諸表を作成すること、及び不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成するために取締役が必要と判断した内部統制を整備及び運用する責任を有している。

連結財務諸表を作成するに当たり、取締役は、会社グループの継続企業としての存続能力を評価し、必要がある場合には継続企業に関する事項を開示すること、また、取締役が会社グループの清算若しくは事業停止の意図があるか、又はそうする以外に現実的な代替案がない場合を除いて、継続企業を前提として作成することに責任を有している。

統治責任者の責任は、会社グループの財務報告プロセスの監視を行うことにある。

### 連結財務諸表監査に対する監査人の責任

私たちの目的は、全体としての連結財務諸表に、不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかに関する合理的な保証を得て、合意した契約条件に従い、集団としての株主に対して、私たちの意見を含めた監査報告書を発行することにある。他のいかなる目的で行われるものでもない。私たちは、当報告書の記載内容に関して、他のいかなる者に対する責任も義務も負うものではない。合理的な保証は、高い水準の保証であるが、HKSAに準拠して行った監査が、存在するすべての重要な虚偽表示を常に発見することを確約するものではない。虚偽表示は、不正又は誤謬から発生する可能性があり、個別に又は集計すると、当該連結財務諸表の利用者の経済的意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

私たちは、HKSAに準拠して実施する監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持し、また、以下を行う。

- ・不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、監査意見の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示リスクを発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示リスクを発見できないリスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、意図的な除外、虚偽の陳述、及び内部統制の無効化が伴うためである。
- ・状況に応じて適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を理解する。但し、これは、会社グループの内部統制の有効性に対する意見を表明するためではない。
- ・取締役が採用した会計方針の適切性、取締役によって行われた会計上の見積りの合理性を評価し、関連する開示の妥当性を検討する。
- ・取締役が継続企業を前提とすることが適切性であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、会社グループの継続企業としての存続能力に重要な疑義を生じさせるような事象又は状態に関して重要な不確実性が認められるかどうかを結論付ける。重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の関連する開示に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する開示が適切でない場合は、意見を修正することが求められている。私たちの結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、会社グループは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・開示を含めた全体としての連結財務諸表の表示、構成及び内容を検討し、連結財務諸表が基礎となる取引や事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するため、会社グループ内の企業及び事業活動の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。私たちは、監査の指示、監督及び実施について責任を有する。私たちは、私たちの監査意見に単独で責任を負う。

私たちは、特に、計画した監査の範囲とその実施時期、及び監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項について、統治責任者に対して報告を行っている。

また、私たちは、統治責任者に、独立性についての職業倫理に関する規定を遵守している旨、独立性に影響を与えると合理的に考えられるすべての関係及びその他事項、並びに該当する場合、関連するセーフガードについて報告を行う。

私たちは、統治責任者に報告した事項のうち、当事業年度の連結財務諸表監査で最も重要な事項を、監査上の主要な事項と決定する。私たちは、これらの事項を監査報告書において記載する。但し、法令又は規制により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて稀ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、私たちが報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

本独立監査人の監査報告書による監査に対する責任を有する監査責任者は、ウォン・ティン・チャック・サミュエルである。

デロイト ・ トウシュ・ トーマツ  
公認会計士事務所  
香港

2018年3月23日

[次へ](#)

## INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

TO THE SHAREHOLDERS OF CHINA SHENHUA ENERGY COMPANY LIMITED  
(incorporated in the People's Republic of China with limited liability)

### **Opinion**

We have audited the consolidated financial statements of China Shenhua Energy Company Limited (the "Company") and its subsidiaries (collectively referred to as the "Group") set out on pages 170 to 257, which comprise the consolidated statement of financial position as at 31 December 2017, and the consolidated statement of profit or loss and other comprehensive income, consolidated statement of changes in equity and consolidated statement of cash flows for the year then ended, and notes to the consolidated financial statements, including a summary of significant accounting policies.

In our opinion, the consolidated financial statements give a true and fair view of the consolidated financial position of the Group as at 31 December 2017, and of its consolidated financial performance and its consolidated cash flows for the year then ended in accordance with International Financial Reporting Standards ("IFRSs") issued by the International Accounting Standard Board ("IASB") and have been properly prepared in compliance with the disclosure requirements of the Hong Kong Companies Ordinance.

### **Basis for Opinion**

We conducted our audit in accordance with Hong Kong Standards on Auditing ("HKSAs") issued by the HKICPA. Our responsibilities under those standards are further described in the Auditor's Responsibilities for the Audit of the Consolidated Financial Statements section of our report. We are independent of the Group in accordance with the HKICPA's Code of Ethics for Professional Accountants ("the Code"), and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with the Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

### **Key Audit Matters**

Key audit matters are those matters that, in our professional judgment, were of most significance in our audit of the consolidated financial statements of the current period. These matters were addressed in the context of our audit of the consolidated financial statements as a whole, and in forming our opinion thereon, and we do not provide a separate opinion on these matters.

## INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT - continued

## Key Audit Matters - continued

Key audit matter	How our audit addressed the key audit matter
Impairment assessment on coal mines related non-current assets	
<p>We identified non-current assets impairment assessment on coal mines related non-current assets as a key audit matter due to significant judgment made by management in determining the recoverable amounts of the corresponding cash-generating units.</p> <p>Owing to the unsatisfactory financial performance of certain Group's mines, the management identified certain non-current assets relating to coal mines having impairment indications. The impairment assessment involves management's judgment in certain areas including the discount rate and the underlying cash flows projection based on the future market supply and demand conditions. Any changes in management's judgement may result in significant financial impact to the Group.</p> <p>As set out in Note 15 to the consolidated financial statements, the management concluded that the recoverable amount of each separate cash-generating unit was higher than their carrying value and no impairment provision was required for the current year. The recoverable amounts of each cash-generating unit were determined by value in use method.</p>	<p>Our procedures in relation to impairment assessment on coal mines related non-current assets included:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>testing the key controls related to the assessment on the carrying value of its non-current assets;</li> <li>assessing the valuation methodology;</li> <li>analysing and challenging the reasonableness of significant judgements and estimates built in the underlying cash flows used in management's impairment tests based on our knowledge of the business and industry;</li> <li>analysing and reviewing the specific discount rates used by management in impairment tests;</li> <li>evaluating the sensitivity analysis performed by management;</li> <li>evaluating the historical accuracy of the forecasted future cash flows by comparing them to the actual results in the current year on a sampled basis and understanding the causes of any significant variances; and</li> <li>reconciling input data to supporting evidence, such as approved budgets and considering the reasonableness of these budgets.</li> </ul>
<b>Other Information</b>	
<p>The directors of the Company are responsible for the other information. The other information comprises the information included in the annual report, but does not include the consolidated financial statements and our auditor's report thereon.</p>	
<p>Our opinion on the consolidated financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.</p>	
<p>In connection with our audit of the consolidated financial statements, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the consolidated financial statements or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated. If, based on the work we have performed, we conclude that there is a</p>	

material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

## INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT - continued

### **Responsibilities of Directors and Those Charged with Governance for the Consolidated Financial Statements**

The directors of the Company are responsible for the preparation of the consolidated financial statements that give a true and fair view in accordance with IFRSs issued by the IASB and the disclosure requirements of the Hong Kong Companies Ordinance, and for such internal control as the directors determine is necessary to enable the preparation of consolidated financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the consolidated financial statements, the directors are responsible for assessing the Group's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the directors either intend to liquidate the Group or to cease operations, or have no realistic alternative but to do so.

Those charged with governance are responsible for overseeing the Group's financial reporting process.

### **Auditor's Responsibilities for the Audit of the Consolidated Financial Statements**

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the consolidated financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion solely to you, as a body, in accordance with our agreed terms of engagement, and for no other purpose. We do not assume responsibility towards or accept liability to any other person for the contents of this report. Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with HKSA's will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these consolidated financial statements.

As part of an audit in accordance with HKSA's, we exercise professional judgment and maintain professional skepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the consolidated financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

- The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.

- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Group's internal control.

- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the directors.



## INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT - continued

### Auditor's Responsibilities for the Audit of the Consolidated Financial Statements - continued

Conclude on the appropriateness of the directors' use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Group's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the consolidated financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Group to cease to continue as a going concern.

Evaluate the overall presentation, structure and content of the consolidated financial statements, including the disclosures, and whether the consolidated financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

Obtain sufficient appropriate audit evidence regarding the financial information of the entities or business activities within the Group to express an opinion on the consolidated financial statements. We are responsible for the direction, supervision and performance of the group audit. We remain solely responsible for our audit opinion.

We communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

We also provide those charged with governance with a statement that we have complied with relevant ethical requirements regarding independence, and to communicate with them all relationships and other matters that may reasonably be thought to bear on our independence, and where applicable, related safeguards.

From the matters communicated with those charged with governance, we determine those matters that were of most significance in the audit of the consolidated financial statements of the current period and are therefore the key audit matters. We describe these matters in our auditor's report unless law or regulation precludes public disclosure about the matter or when, in extremely rare circumstances, we determine that a matter should not be communicated in our report because the adverse consequences of doing so would reasonably be expected to outweigh the public interest benefits of such communication.

The engagement partner on the audit resulting in the independent auditor's report is  
Wong Tin Chak, Samuel.

**Deloitte Touche Tohmatsu**  
Certified Public Accountants  
Hong Kong  
23 March 2018

( ) 上記は、独立監査人監査報告書の署名付原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。